

松山大学構内遺跡Ⅳ

－6次調査地－

2 0 0 7

松山市教育委員会

(財) 松山市生涯學習振興財團

埋蔵文化財センター

松山大学構内遺跡Ⅳ

— 6 次 調 査 地 —



2 0 0 7

松山市教育委員会

(財) 松山市生涯学習振興財団

埋蔵文化財センター



巻頭図版1 調査地実状（北より）

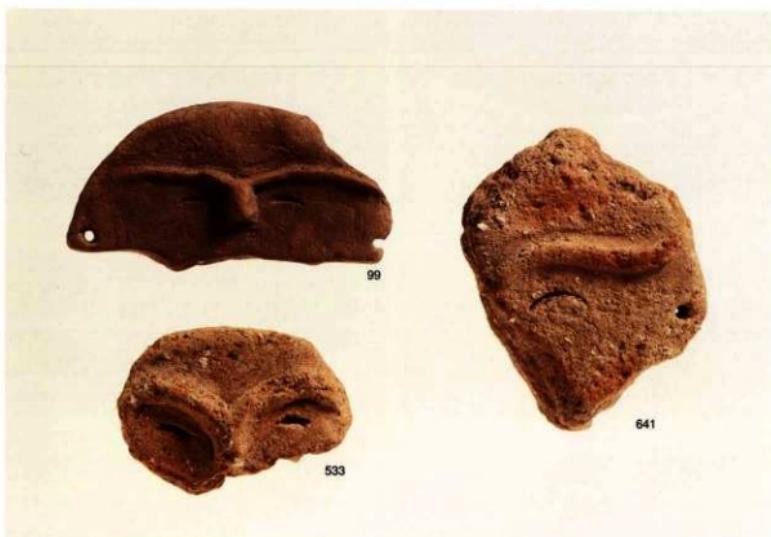


1. SR1完掘状況（北東より）



2. SK55遺物出土状況（北西より）

巻頭図版 2



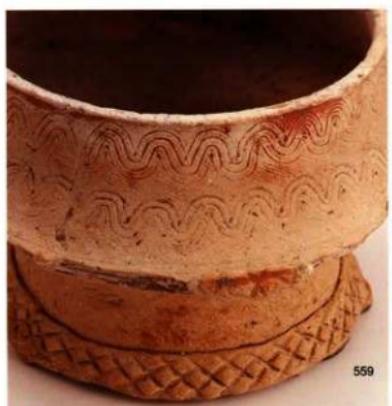
1. 分銅形土製品



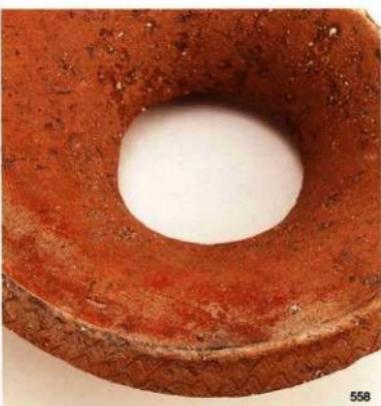
卷頭図版 3

2. 絵画土器「動物？」

3. 炭化米



559



558



561



21



137

卷頭圖版 4

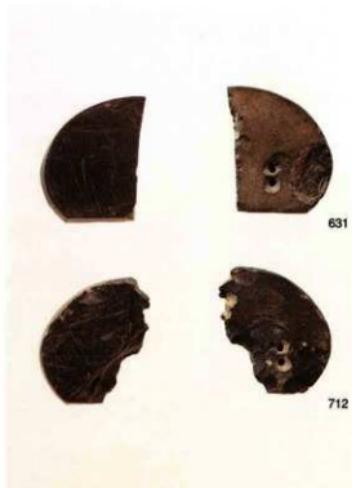
赤色顏料塗彩土器



1. 赤色顔料塗彩土器



3. 皇朝十二錢「富壽神寶」



2. 石帶

卷頭圖版 5

序

本書は、松山大学構内で実施した遺跡の発掘調査報告書です。松山大学構内遺跡は、文京遺跡の西に隣接し、愛媛県を代表する道後城北遺跡群の中央部に位置しています。発掘調査は既に6次を数え、縄文時代晚期から中世までの複合遺跡であることが明らかになっていきます。

今回の6次調査では、弥生時代から中世以降にかけての遺構として自然流路、土坑、溝、掘立柱建物跡などが多数発見されました。弥生時代の自然流路からは、大量の弥生土器をはじめとして分銅形土製品などの祭祀遺物も出土しました。また古代の掘立柱建物跡の柱穴からも大量の植物の種子が出土し、柱穴内において祭祀が行われたのではないかと推定されます。

こうした調査結果は、松山平野北部の弥生時代から中世における集落様相の解明や当時の自然環境を復元するうえで貴重な資料となるものです。

本書の刊行にあたり、ご指導、ご協力を頂きました松山大学関係各位ならびに関係機関に対し厚くお礼を申し上げます。

また本書が埋蔵文化財の調査・研究の一助となり、さらには文化財保護、生涯教育の向上に寄与できることを願っております。

平成19年3月31日

財団法人 松山市生涯学習振興財団
理事長 中村時広

例　言

1. 本書は、松山市教育委員会・（財）松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センターが平成17年3月1日～同年6月30日までに実施した松山大学校舎新築に伴う事前調査報告書である。
2. 松山大学構内では、これまで2次調査、3次調査、4・5次調査の発掘報告を刊行している。本書が4冊目の報告書となることから『松山大学構内遺跡Ⅳ』とした。
3. 遺構は呼称を略号で記述した。自然流路：S R、掘立柱建物跡：掘立、土坑：SK、溝：SD、柱穴：SP、性格不明遺構：SXである。
4. 本書に関わる図面の作成は、相原浩二、山之内志郎、武正良浩、岩木美保、木下奈緒美、村上真由美、仙波千秋、仙波ミリ子、大野裕子、佐伯利枝、東山里美、松友由美が行った。
5. 遺物の接合および復元は青野茂子、西川千秋、松本美代子、渡部英子、岩本、木下、村上が行い、実測・製図は岩本、木下、村上、仙波千秋、仙波ミリ子が担当した。
6. 遺構図・遺物図の縮尺は、縮分値をスケール下に記した。
7. 本書に使用した方位はすべて真北である。
8. 本書にかかわる遺物・記録類は、松山市立埋蔵文化財センターで保管している。
9. 調査及び報告書作成においては、元岡山県古代吉備文化財センター正岡聰夫、広島県教育委員会伊藤実、愛媛大学吉田広の諸先生方には御指導と御教示を賜った。記して感謝申し上げます。
10. 本調査における基準点測量は、（株）国際航業に業務委託した。
11. 本調査における自然科学分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社に業務委託した。
12. 写真図版は、遺構の撮影を担当調査員と大西朋子が行い、遺物の撮影と図版作成は大西が行った。
13. 本書の執筆は相原、山之内が分担執筆した。本書の編集は山之内が行い、宮内慎一、水口あさのの協力を得た。
14. 製版　写真図版－175線
印刷　オフセット印刷
用紙　本　文ユートリロゴロスマット　62.5kg
写真図版－ニューVマット　76.5kg
製本　アジロ綴じ

本文目次

第1章 はじめに——山之内

1. 調査による経緯	1
2. 調査・刊行組織	1

第2章 遺跡の概要——山之内

1. 地理的環境	3
2. 歴史的環境	3

第3章 調査の概要

1. 調査の経緯	山之内	6
2. 層位	山之内	7
3. 遺構と遺物		18
(1) 弥生時代	山之内	18
(2) 古代	相原	87
(3) 中世以降	相原	116
(4) 包含層出土遺物	山之内	125
(5) その他の遺物	山之内	142

第4章 自然科学分析——パリノ・サーヴェイ株式会社 191

第5章 調査の成果と課題——山之内 194

挿 図 目 次

第1図 調査地位置図 (縮尺1/2,400)	2
第2図 調査地周辺の遺跡分布図 (縮尺1/10,000)	4
第3図 調査区北壁土層図 (1) (縮尺1/40)	8
第4図 調査区北壁土層図 (2) (縮尺1/40)	9
第5図 調査区北壁土層図 (3) (縮尺1/40)	10
第6図 調査区東壁土層図 (1) (縮尺1/40)	11
第7図 調査区東壁土層図 (2) (縮尺1/40)	12
第8図 調査区南壁土層図 (1) (縮尺1/40)	13
第9図 調査区南壁土層図 (2) (縮尺1/40)	14
第10図 調査区南壁土層図 (3) (縮尺1/40)	15
第11図 調査区西壁土層図 (1) (縮尺1/40)	16
第12図 調査区西壁土層図 (2) (縮尺1/40)	17
第13図 弥生時代～古代遺構配置図 (縮尺1/200)	19
第14図 弥生時代遺構配置図 (縮尺1/200)	20
第15図 S R 1測量図 (縮尺平面図1/200・土層図1/100)	21
第16図 S R 1⑥層（西半部）遺物分布図 (縮尺平面図1/100・遺物1/8)	22
第17図 S R 1⑥層出土遺物実測図 (1) (縮尺1/4)	24
第18図 S R 1⑥層出土遺物実測図 (2) (縮尺1/4)	25
第19図 S R 1⑥層出土遺物実測図 (3) (縮尺1/4・1/3)	26
第20図 S R 1①層出土遺物実測図 (1) (縮尺1/4)	28
第21図 S R 1①層出土遺物実測図 (2) (縮尺1/4)	29
第22図 S R 1①層出土遺物実測図 (3) (縮尺1/4)	30
第23図 S R 1①層出土遺物実測図 (4) (縮尺1/4)	31
第24図 S R 1①層出土遺物実測図 (5) (縮尺1/4)	32
第25図 S R 1①層出土遺物実測図 (6) (縮尺1/4・1/2)	33
第26図 S R 1①層出土遺物実測図 (7) (縮尺1/4・1/3)	34
第27図 S R 1①層（西半部）遺物分布図 (縮尺平面図1/100・遺物1/8)	35
第28図 S R 1①層出土遺物実測図 (8) (縮尺1/4)	36
第29図 S R 1①層出土遺物実測図 (9) (縮尺1/4)	37
第30図 S R 1①層出土遺物実測図 (10) (縮尺1/4)	38
第31図 S R 1①層出土遺物実測図 (11) (縮尺1/4)	39
第32図 S R 1①層出土遺物実測図 (12) (縮尺1/4)	40
第33図 S R 1①層出土遺物実測図 (13) (縮尺1/3)	42
第34図 S R 1①層出土遺物実測図 (14) (縮尺1/4)	43
第35図 S R 1①層出土遺物実測図 (15) (縮尺1/4)	44
第36図 S R 1④層出土遺物実測図 (1) (縮尺1/4)	45

第37図	S R 1 ①層出土遺物実測図 (2) (縮尺 1/4・1/3)	46
第38図	S R 1 出土遺物実測図 (1) (縮尺 1/4・1/3)	47
第39図	S R 1 出土遺物実測図 (2) (縮尺 1/4)	48
第40図	S R 1 出土遺物実測図 (3) (縮尺 1/4・1/3)	49
第41図	S R 1 出土遺物実測図 (4) (縮尺 1/4)	50
第42図	S K 25 測量図, 出土遺物実測図 (縮尺 1/20・1/4・1/3)	51
第43図	S K 48 測量図, 出土遺物実測図 (縮尺 1/20・1/4)	52
第44図	S K 49 測量図, 出土遺物実測図 (縮尺 1/20・1/4)	53
第45図	S K 50 測量図, 出土遺物実測図 (1) (縮尺 1/40・1/4)	54
第46図	S K 50 出土遺物実測図 (2) (縮尺 1/4)	55
第47図	S K 52 測量図, 出土遺物実測図 (縮尺 1/20・1/4)	56
第48図	S K 53 測量図 (縮尺 1/20)	57
第49図	S K 54 測量図, 出土遺物実測図 (縮尺 1/20・1/4)	57
第50図	S K 55 測量図, 出土遺物実測図 (1) (縮尺 1/20・1/4)	58
第51図	S K 55 出土遺物実測図 (2) (縮尺 1/4)	59
第52図	S K 56 測量図 (縮尺 1/20)	60
第53図	S K 57・58 測量図, S K 57 出土遺物実測図 (縮尺 1/20・1/4)	62
第54図	S K 59 測量図, 出土遺物実測図 (縮尺 1/20・1/4)	63
第55図	S K 60 測量図, 出土遺物実測図 (縮尺 1/20・1/4)	64
第56図	S K 61 測量図 (縮尺 1/20)	64
第57図	S D 4 測量図 (縮尺 平面図 1/80・土層図 1/40)	66
第58図	S D 4 出土遺物実測図 (縮尺 1/4・1/3)	67
第59図	S D 5 測量図 (縮尺 平面図 1/80・上層図 1/40)	68
第60図	S X 1・S X 1-1・S X 1-2 測量図 (1) (縮尺 平面図 1/80・遺物 1/8)	69
第61図	S X 1・S X 1-1・S X 1-2 測量図 (2) (縮尺 1/40)	70
第62図	S X 1 出土遺物実測図 (1) (縮尺 1/4)	72
第63図	S X 1 出土遺物実測図 (2) (縮尺 1/4)	73
第64図	S X 1-1 出土遺物実測図 (1) (縮尺 1/4)	74
第65図	S X 1-1 出土遺物実測図 (2) (縮尺 1/4・1/3)	75
第66図	S X 1-2 出土遺物実測図 (1) (縮尺 1/4)	76
第67図	S X 1-2 出土遺物実測図 (2) (縮尺 1/4)	77
第68図	S X 1-2 出土遺物実測図 (3) (縮尺 1/4・1/3・2/3)	78
第69図	S X 1-2 出土遺物実測図 (4) (縮尺 1/4・1/3)	79
第70図	S X 1-3 出土遺物実測図 (縮尺 1/4)	79
第71図	S X 2 測量図, 出土遺物実測図 (縮尺 1/40・1/4)	80
第72図	S X 3・4 測量図, 出土遺物実測図 (縮尺 1/40・1/4)	81
第73図	S X 5・6・7 測量図, S X 5・6 出土遺物実測図 (縮尺 1/40・1/4)	83
第74図	S X 8 測量図, 出土遺物実測図 (縮尺 1/40・1/4)	84

第75図	S X 9測量図、出土遺物実測図（縮尺1/40・1/4）	85
第76図	S X 10測量図（縮尺1/40）	86
第77図	古代造像配置図（縮尺1/200）	88
第78図	掘立1測量図（縮尺1/80）	89
第79図	掘立1出土遺物実測図（縮尺1/3）	90
第80図	S P 40・46・67測量図（縮尺1/20）	91
第81図	S P 40・46・67出土遺物実測図（縮尺1/3・2/3）	91
第82図	S K 14・15測量図（縮尺1/20）	92
第83図	S K 14出土遺物実測図（縮尺1/4・1/3）	93
第84図	S K 15出土遺物実測図（縮尺1/3・1/1）	93
第85図	S K 16測量図（縮尺1/20）	94
第86図	S K 16出土遺物実測図（縮尺1/3）	94
第87図	S K 17測量図（縮尺1/20）	95
第88図	S K 17出土遺物実測図（縮尺1/3）	96
第89図	S K 18・26測量図（縮尺1/20）	97
第90図	S K 18出土遺物実測図（縮尺1/3・2/3）	98
第91図	S K 26出土遺物実測図（縮尺1/3）	99
第92図	S K 19・20測量図（縮尺1/20）	100
第93図	S K 19出土遺物実測図（縮尺1/3）	100
第94図	S K 20出土遺物実測図（縮尺1/3）	101
第95図	S K 21測量図（縮尺1/20）	101
第96図	S K 21出土遺物実測図（縮尺1/3・2/3）	101
第97図	S K 27測量図（縮尺1/20）	102
第98図	S K 27出土遺物実測図（縮尺1/3）	102
第99図	S K 29測量図（縮尺1/20）	103
第100図	S K 29出土遺物実測図（縮尺1/3・2/3）	103
第101図	S K 30測量図（縮尺1/20）	103
第102図	S K 30出土遺物実測図（縮尺1/3）	104
第103図	S K 32・33測量図（縮尺1/20）	105
第104図	S K 32出土遺物実測図（縮尺1/4）	105
第105図	S K 34・35・37・S P 67測量図（縮尺1/20）	106
第106図	S K 34出土遺物実測図（縮尺1/3）	106
第107図	S K 36・41測量図（縮尺1/20）	107
第108図	S K 36出土遺物実測図（縮尺1/3）	107
第109図	S K 41出土遺物実測図（縮尺1/3）	107
第110図	S K 38・39・43・44・45測量図（縮尺1/20）	108
第111図	S K 38出土遺物実測図（縮尺1/4・1/3）	109
第112図	S K 39出土遺物実測図（縮尺1/3）	109

第113図	S K 43出土遺物実測図（縮尺1／3）	109
第114図	S K 44出土遺物実測図（縮尺1／3）	109
第115図	S K 40・46・47・51測量図（縮尺1／20）	110
第116図	S K 40出土遺物実測図（縮尺1／3）	110
第117図	S K 46出土遺物実測図（縮尺1／3）	111
第118図	S K 47出土遺物実測図（縮尺1／3）	111
第119図	S D 3測量図（縮尺平面図1／100・土層図1／40）	112
第120図	S D 3出土遺物実測図（1）（縮尺1／4）	113
第121図	S D 3出土遺物実測図（2）（縮尺1／3）	114
第122図	中世以降遺構配置図（縮尺1／200）	115
第123図	S P 5測量図（縮尺1／10）	116
第124図	S P 5出土遺物実測図（縮尺2／3）	116
第125図	S P 17測量図（縮尺1／10）	117
第126図	S P 17出土遺物実測図（縮尺2／3）	117
第127図	S P 18測量図（縮尺1／10）	117
第128図	S P 18出土遺物実測図（縮尺2／3）	117
第129図	S P 20測量図（縮尺1／10）	118
第130図	S P 20出土遺物実測図（縮尺2／3）	118
第131図	S K 1測量図（縮尺1／10）	118
第132図	S K 1出土遺物実測図（縮尺1／3）	118
第133図	S K 2測量図（縮尺1／40）	119
第134図	S K 2出土遺物実測図（縮尺1／3・2／3）	119
第135図	S K 3測量図（縮尺1／40）	120
第136図	S K 3出土遺物実測図（縮尺1／3・2／3）	120
第137図	S K 6測量図（縮尺1／20）	121
第138図	S K 6出土遺物実測図（縮尺2／3）	121
第139図	S K 7測量図（縮尺1／20）	121
第140図	S K 7出土遺物実測図（縮尺1／3）	121
第141図	S K 9測量図（縮尺1／20）	122
第142図	S K 9出土遺物実測図（縮尺2／3）	122
第143図	S K 31測量図（縮尺1／20）	123
第144図	S K 31出土遺物実測図（縮尺1／3）	123
第145図	S D 2測量図（縮尺1／100・1／40）	124
第146図	S D 2出土遺物実測図（縮尺1／3）	124
第147図	第Ⅹ層出土遺物実測図（1）（縮尺1／4）	126
第148図	第Ⅹ層出土遺物実測図（2）（縮尺1／4）	127
第149図	第Ⅶ層出土遺物実測図（3）（縮尺1／4）	128
第150図	第Ⅶ層出土遺物実測図（4）（縮尺1／4）	129

第151図	第Ⅶ層出土遺物実測図(5)(縮尺1/4・1/3・1/2・2/3).....	130
第152図	第Ⅶ層出土遺物実測図(6)(縮尺1/3).....	132
第153図	第Ⅶ層出土遺物実測図(7)(縮尺1/4・1/3・2/3).....	133
第154図	第Ⅶ層(西半部)遺物分布図(縮尺平面図1/100・遺物1/8).....	134
第155図	第Ⅶ層出土遺物実測図(8)(縮尺1/4).....	135
第156図	第Ⅶ層出土遺物実測図(9)(縮尺1/4).....	136
第157図	第Ⅶ層出土遺物実測図(10)(縮尺1/4).....	137
第158図	第Ⅶ層出土遺物実測図(11)(縮尺1/4).....	138
第159図	第Ⅶ層出土遺物実測図(12)(縮尺1/4).....	139
第160図	第Ⅶ層出土遺物実測図(13)(縮尺1/4・1/3・1/2).....	141
第161図	第Ⅶ層出土遺物実測図(14)(縮尺1/4).....	142
第162図	第Ⅲ層出土遺物実測図(1)(縮尺1/3).....	143
第163図	第Ⅲ層出土遺物実測図(2)(縮尺1/4・1/2).....	144
第164図	第Ⅲ層出土遺物実測図(3)(縮尺2/3).....	145
第165図	第Ⅲ層出土遺物実測図(縮尺1/3・1/2).....	146
第166図	北壁トレンチ出土遺物実測図(1)(縮尺1/4).....	148
第167図	北壁トレンチ出土遺物実測図(2)(縮尺1/4・1/3).....	149
第168図	北壁トレンチ出土遺物実測図(3)(縮尺1/4・1/3・2/3).....	150
第169図	南壁トレンチ出土遺物実測図(1)(縮尺1/4).....	151
第170図	南壁トレンチ出土遺物実測図(2)(縮尺1/4・1/3).....	152
第171図	西壁トレンチ出土遺物実測図(縮尺1/4・1/3・2/3).....	153
第172図	グリッド出土遺物実測図(縮尺1/4・1/3・2/3).....	154
第173図	表採遺物実測図(1)(縮尺1/4・1/3・1/2).....	155
第174図	表採遺物実測図(2)(縮尺2/3).....	156
第175図	松山大学構内遺跡6次調査の種実遺体.....	193
第176図	2・3・6次調査地主要遺構配図(縮尺1/1,000).....	195

表 目 次

表1	1次～6次調査地一覧.....	2
遺構一覧		
表2	掘立柱建物跡一覧.....	157
表3	自然流路一覧.....	157
表4	土坑一覧.....	157
表5	溝一覧.....	160
表6	性格不明遺構一覧.....	160

出土遺物觀察表（土製品・石製品・鐵製品・青銅製品・錢貨）

表7	S R 1 ⑥層出土遺物觀察表	土製品	161
表8	S R 1 ⑥層出土遺物觀察表	石製品	162
表9	S R 1 ①層出土遺物觀察表	土製品	162
表10	S R 1 ①層出土遺物觀察表	石製品	164
表11	S R 1 ①層出土遺物觀察表	土製品	164
表12	S R 1 ①層出土遺物觀察表	石製品	166
表13	S R 1 ④層出土遺物觀察表	土製品	167
表14	S R 1 ④層出土遺物觀察表	石製品	167
表15	S R 1 出土遺物觀察表	土製品	168
表16	S R 1 出土遺物觀察表	石製品	168
表17	S R 1 出土遺物觀察表	土製品	168
表18	S R 1 出土遺物觀察表	石製品	168
表19	S R 1 出土遺物觀察表	土製品	168
表20	S K 25出土遺物觀察表	土製品	169
表21	S K 25出土遺物觀察表	石製品	169
表22	S K 48出土遺物觀察表	土製品	169
表23	S K 49出土遺物觀察表	土製品	169
表24	S K 50出土遺物觀察表	土製品	169
表25	S K 52出土遺物觀察表	土製品	170
表26	S K 54出土遺物觀察表	土製品	170
表27	S K 55出土遺物觀察表	土製品	170
表28	S K 57出土遺物觀察表	石製品	170
表29	S K 59出土遺物觀察表	土製品	170
表30	S K 59出土遺物觀察表	石製品	170
表31	S K 60出土遺物觀察表	土製品	170
表32	S D 4出土遺物觀察表	土製品	171
表33	S D 4出土遺物觀察表	石製品	171
表34	S X 1出土遺物觀察表	土製品	171
表35	S X 1 - 1出土遺物觀察表	土製品	171
表36	S X 1 - 1出土遺物觀察表	石製品	172
表37	S X 1 - 2出土遺物觀察表	土製品	172
表38	S X 1 - 2出土遺物觀察表	石製品	173
表39	S X 1 - 2出土遺物觀察表	鐵製品	173
表40	S X 1 - 2出土遺物觀察表	土製品	173
表41	S X 1 - 3出土遺物觀察表	土製品	174
表42	S X 2出土遺物觀察表	土製品	174
表43	S X 3出土遺物觀察表	土製品	174

表44	S X 4 出土遺物觀察表	土製品.....	174
表45	S X 5 出土遺物觀察表	土製品.....	174
表46	S X 6 出土遺物觀察表	土製品.....	174
表47	S X 8 出土遺物觀察表	土製品.....	174
表48	S X 9 出土遺物觀察表	土製品.....	174
表49	掘立 1 出土遺物觀察表	土製品.....	175
表50	掘立 1 出土遺物觀察表	石製品.....	175
表51	S P 40 出土遺物觀察表	鐵製品.....	175
表52	S P 45 出土遺物觀察表	鐵製品.....	175
表53	S P 67 出土遺物觀察表	土製品.....	175
表54	S K 14 出土遺物觀察表	土製品.....	175
表55	S K 14 出土遺物觀察表	石製品.....	175
表56	S K 15 出土遺物觀察表	土製品.....	175
表57	S K 15 出土遺物觀察表	石製品.....	176
表58	S K 15 出土遺物觀察表	錢貨.....	176
表59	S K 16 出土遺物觀察表	土製品.....	176
表60	S K 17 出土遺物觀察表	土製品.....	176
表61	S K 18 出土遺物觀察表	土製品.....	176
表62	S K 18 出土遺物觀察表	鐵製品.....	177
表63	S K 26 出土遺物觀察表	土製品.....	177
表64	S K 19 出土遺物觀察表	土製品.....	177
表65	S K 20 出土遺物觀察表	土製品.....	177
表66	S K 21 出土遺物觀察表	土製品.....	177
表67	S K 21 出土遺物觀察表	鐵製品.....	178
表68	S K 27 出土遺物觀察表	土製品.....	178
表69	S K 29 出土遺物觀察表	土製品.....	178
表70	S K 29 出土遺物觀察表	鐵製品.....	178
表71	S K 30 出土遺物觀察表	土製品.....	178
表72	S K 32 出土遺物觀察表	土製品.....	178
表73	S K 34 出土遺物觀察表	土製品.....	178
表74	S K 36 出土遺物觀察表	土製品.....	178
表75	S K 41 出土遺物觀察表	土製品.....	178
表76	S K 38 出土遺物觀察表	土製品.....	178
表77	S K 39 出土遺物觀察表	土製品.....	179
表78	S K 43 出土遺物觀察表	土製品.....	179
表79	S K 44 出土遺物觀察表	土製品.....	179
表80	S K 40 出土遺物觀察表	土製品.....	179
表81	S K 46 出土遺物觀察表	土製品.....	179

表82	S K 47出土遺物観察表	土製品	179
表83	S D 3出土遺物観察表	土製品	179
表84	S P 5出土遺物観察表	鉄製品	180
表85	S P 17出土遺物観察表	鉄製品	180
表86	S P 18出土遺物観察表	鉄製品	180
表87	S P 20出土遺物観察表	銅製品	180
表88	S K 1出土遺物観察表	土製品	180
表89	S K 2出土遺物観察表	土製品	180
表90	S K 2出土遺物観察表	鉄製品	181
表91	S K 3出土遺物観察表	土製品	181
表92	S K 3出土遺物観察表	鉄製品	181
表93	S K 6出土遺物観察表	青銅製品	181
表94	S K 7出土遺物観察表	土製品	181
表95	S K 9出土遺物観察表	銅製品	181
表96	S K 31出土遺物観察表	土製品	181
表97	S D 2出土遺物観察表	石製品	181
表98	第Ⅶ層出土遺物観察表	土製品	181
表99	第Ⅷ層出土遺物観察表	石製品	183
表100	第Ⅸ層出土遺物観察表	銅製品	184
表101	第Ⅹ層出土遺物観察表	土製品	184
表102	第Ⅺ層出土遺物観察表	石製品	186
表103	第Ⅻ層出土遺物観察表	土製品	186
表104	第Ⅼ層出土遺物観察表	石製品	187
表105	第Ⅽ層出土遺物観察表	鉄製品	187
表106	第Ⅾ層出土遺物観察表	土製品	187
表107	第Ⅿ層出土遺物観察表	石製品	187
表108	北壁トレンチ出土遺物観察表	土製品	187
表109	北壁トレンチ出土遺物観察表	石製品	188
表110	北壁トレンチ出土遺物観察表	鉄製品	188
表111	南壁トレンチ出土遺物観察表	土製品	188
表112	西壁トレンチ出土遺物観察表	土製品	189
表113	西壁トレンチ出土遺物観察表	石製品	189
表114	西壁トレンチ出土遺物観察表	銅製品	189
表115	グリッド出土遺物観察表	土製品	189
表116	グリッド出土遺物観察表	石製品	190
表117	グリッド出土遺物観察表	鉄製品	190
表118	表探遺物観察表	土製品	190
表119	表探遺物観察表	石製品	190

表120 表採遺物観察表 鉄製品	190
表121 種実同定結果	191

写 真 図 版 目 次

- 卷頭図版 1 調査地完掘状況（北より）
- 卷頭図版 2 1. S R 1 完掘状況（北東より）
2. S K 55 遺物出土状況（北西より）
- 卷頭図版 3 1. 分銅形土製品
2. 絵画土器「動物？」
3. 炭化米
- 卷頭図版 4 赤色顔料塗彩土器
- 卷頭図版 5 1. 赤色顔料塗彩土器
2. 石帶
3. 皇朝十二銭「富壽神寶」
- 図版 1 1. 調査地遠景（航空写真・南より）
2. 中世以降遺構検出状況（北西より）
- 図版 2 1. 北壁土層（南西より）
2. 西壁土層（南東より）
- 図版 3 1. 弥生時代～古代遺構検出状況（西より）
2. S R 1 完掘状況（北より）
- 図版 4 1. S R 1 遺物出土状況①（南より）
2. S R 1 遺物出土状況②（北より）
- 図版 5 1. S R 1 遺物出土状況③（南より）
2. S R 1 絵画土器（27）出土状況（南より）
- 図版 6 1. S R 1 遺物出土状況④（西より）
2. S R 1 遺物出土状況⑤（北東より）
- 図版 7 1. S R 1 遺物出土状況⑥（北より）
2. S R 1 遺物出土状況⑦（北より）
- 図版 8 1. S K 48 遺物出土状況①（南より）
2. S K 48 遺物出土状況②（南より）
- 図版 9 1. S K 54 遺物出土状況（西より）
2. S K 59 遺物出土状況（西より）
- 図版 10 1. S K 55 遺物出土状況（北西より）
2. S K 55 完掘状況（南より）
- 図版 11 1. S X 1・2 完掘状況（東より）
2. S X 1 遺物出土状況（北西より）
- 図版 12 1. S X 1 検出状況（東より）

2. SX 1 土層① (南より)
 3. SX 1 土層② (東より)
- 図版13 1. SX 2 検出状況 (北より)
2. SX 2 完掘状況 (南より)
- 図版14 1. 掘立 1 完掘状況 (南より)
2. SK 14 上層・遺物出土状況 (西より)
- 図版15 1. SK 15 上層 (西より)
2. SK 15 遺物出土状況 (西より)
- 図版16 1. SK 16 検出状況 (西より)
2. SK 17 遺物出土状況 (南より)
- 図版17 1. SK 19・20 検出状況 (西より)
2. SK 20 遺物出土状況 (西より)
- 図版18 1. SK 21 検出状況 (南より)
2. SK 32・33 検出状況 (南より)
- 図版19 1. SK 34・35 検出状況 (南より)
2. SK 34 遺物出土状況 (南より)
- 図版20 1. SK 38・39・43 検出状況 (南より)
2. SK 40・46・47 完掘状況 (西より)
- 図版21 1. SD 3 完掘状況① (西より)
2. SD 3 完掘状況② (西より)
- 図版22 1. 第Ⅴ層遺物出土状況 (南より)
2. 作業風景 (南東より)
- 図版23 1. SR 1 ⑥層出土遺物
- 図版24 1. SR 1 ①層出土遺物①
- 図版25 1. SR 1 ①層出土遺物②
- 図版26 1. SR 1 ①層出土遺物③
- 図版27 1. SR 1 ①層出土遺物④
- 図版28 1. SR 1 ①層出土遺物⑤
- 図版29 1. SR 1 ①層出土遺物⑥・SR 1 ④層出土遺物
- 図版30 1. SR 1 出土遺物
- 図版31 1. SK 48 出土遺物・SK 50 出土遺物・SK 52 出土遺物・SK 55 出土遺物・SK 59 出土遺物
- 図版32 1. SX 1 出土遺物①
- 図版33 1. SX 1 出土遺物②・SX 1-1 出土遺物・SX 9 出土遺物
- 図版34 1. SX 1-2 出土遺物・SX 3 出土遺物
- 図版35 1. 掘立 1 出土遺物
2. SK 14 出土遺物
3. SK 29 出土遺物
4. SK 15 出土遺物

5. SK 17出土遺物
- 図版36 1. SK 18出土遺物
2. SK 20出土遺物
3. SK 34出土遺物
4. SD 3出土遺物
5. SK 6出土遺物・SD 2出土遺物
- 図版37 1. 第Ⅲ層出土遺物①
- 図版38 1. 第Ⅲ層出土遺物②
- 図版39 1. 第Ⅲ層出土遺物③
- 図版40 1. 第Ⅲ層出土遺物④
- 図版41 1. 第Ⅲ層出土遺物⑤
- 図版42 1. 第Ⅲ層出土遺物⑥
- 図版43 1. 第Ⅲ層出土遺物・第Ⅷ層出土遺物
- 図版44 1. 北壁トレンチ出土遺物
- 図版45 1. 南壁トレンチ出土遺物・西壁トレンチ出土遺物・グリッド出土遺物・表探遺物

第1章 はじめに

1. 調査に至る経緯

2005（平成17）年1月11日、学校法人松山大学（以下、申請者）より大学構内において某学部校舎の新築に伴う埋蔵文化財の確認願いが、松山市教育委員会文化財課（以下、文化財課）に提出された。申請地は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「No.67 桶又（元練兵場）遺物包含地（文京遺跡）」内に所在する。松山大学の構内では、これまでに5次にわたる調査が行われ（第1図・表1）弥生時代～中世の集落に関連する遺構・遺物が検出されている。申請地を含む一帯は道後城北遺跡群と呼ばれ、縄文時代～中世にいたる集落関連遺構が数多く確認されており、松山平野でも有数の遺跡密集地帯（第2図）となっている。

このことから文化財課は、確認願いが提出された地番について埋蔵文化財の有無と、さらにはその範囲や性格を確認するため同年1月21日に試掘調査を行った。

試掘調査では、4本のトレンチを設定し、重機による掘削を行った。その結果、7層の土層を検出した。それらは第1層造成土、第2層旧耕作土、第3層黄灰色粘質土（粗砂混）、第4層鈍い黄褐色粘質土、第5層黄灰色粘質土（粗砂混）及び灰色シルト、第6層灰色粗砂、第7層黒褐色粘質土である。遺物は第5層から土師器、須恵器が、第7層から弥生土器が出土した。遺構は溝2条を検出した。

これらの結果を受け、申請者と文化財課、（財）松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター（以下、埋文センター）は発掘調査についての協議を行い、校舎建設に伴って消失する遺跡に対して記録保存のため本格調査を実施する事となった。調査は弥生時代～中世の集落構造の解明を主目的とし、文化財課の指導のもと、埋文センターが主体となり同年3月1日より実施した（表1）。

2. 調査・刊行組織（平成18年12月31日現在）

松山市教育委員会	教育長	土居 貴美
事務局	局長	行丸 修
企画課	官	江口 通敏
企画課	官	仙波 和典
企画課	官	宮内 健二
文化財課	課長	家久 則雄
文化財課	主査	栗田 正芳
（財）松山市生涯学習振興財團	理事長	中村 時広
埋蔵文化財センター	事務局長	吉岡 一雄
	事務局次長	丹生谷博一
	調査監	杉田 久憲
	所長兼考古館館長	丹生谷博一
	次長兼管理係長	重松 幹雄
	次長兼調査係長	田城 武志
	学芸係長	大北 冬彦
	調査員	相原 浩二 山之内志郎 武正 良浩 大西 朋子



第1図 調査地位置図 (S=1: 2,400)

表1 1次～6次調査地一覧

調査次数	現在地	面積	屋外調査期間	内容
1次調査	7号館	——	1987(昭和62)年11月	確認
2次調査	8号館	2,300m ²	1989(平成元)年11月26日～1990(平成2)年2月28日	本格
3次調査	厚生会館	1,600m ²	1992(平成4)年11月2日～1993(平成5)年5月15日	本格
4次調査	図書館書庫	372m ²	1994(平成6)年6月20日～同年6月30日	確認
5次調査	温山会館	315m ²	1998(平成10)年4月3日～同年6月30日	本格
6次調査	薬学部棟	1,234m ²	2005(平成17)年3月1日～同年6月30日	本格

(面積：小数点以下切り捨て)

第2章 遺跡の概要

1. 地理的環境

松山平野は、高縄半島の南西部に位置し、半島中央部を南北に走る高縄山地と四国山地に源を発した石手川や重信川などの大小の河川により形成された沖積平野である。

松山大学は、平野北部の松山城（勝山）の北側に所在する。この周辺は平野内でも有数の遺跡密集地帯として知られ、総称して「道後城北遺跡群」と呼ばれている。この遺跡群は東方から流れる石手川が造る扇状地上に立地し、東から西へ緩やかに傾斜し低くなっている。地理的条件や遺跡の性格などから道後地区、城北地区、祝谷地区に3区分され、このうち本遺跡は城北地区のやや西よりの標高25mに位置している。

2. 歴史的環境（第2図）

本遺跡を含む道後城北遺跡群には、文京遺跡をはじめとして岩崎遺跡・湯築城址などの多くの遺跡が存在する。ここでは旧石器時代から中世にかけての主要な遺跡について順次概要を列記する。

旧石器時代

この時代の遺跡としては、丸山川左岸の標高120mの丘陵部で細石核や細石刃などが採集された祝谷丸山遺跡（⑧）が知られている。しかし、現在のところ同遺跡群内では明確な遺構は確認されていない。

縄文時代

古くから知られる遺跡として、道後冠山遺跡（④）・土居窪遺跡（⑤）・土居壇遺跡があり、後期から晩期にかけての縄文土器や注口土器などが出土している。文京遺跡8次調査（⑬）・9次調査（⑭）では後・晩期の包含層から土器が出土しているほか、道後橋又（R N B）遺跡（⑦）では縄文後期前葉と晩期後葉の包含層が層位的に確認されている。

遺構では、文京遺跡11次調査（⑫）では初めて明確な後期の野外炉が確認されたほか、持田町3丁目遺跡や道後今市遺跡10次調査では晩期の土坑を検出している。

このように縄文時代後・晩期に人々はこの地域において安定した地盤をもち、定住生活を営んでいたと考えられる。

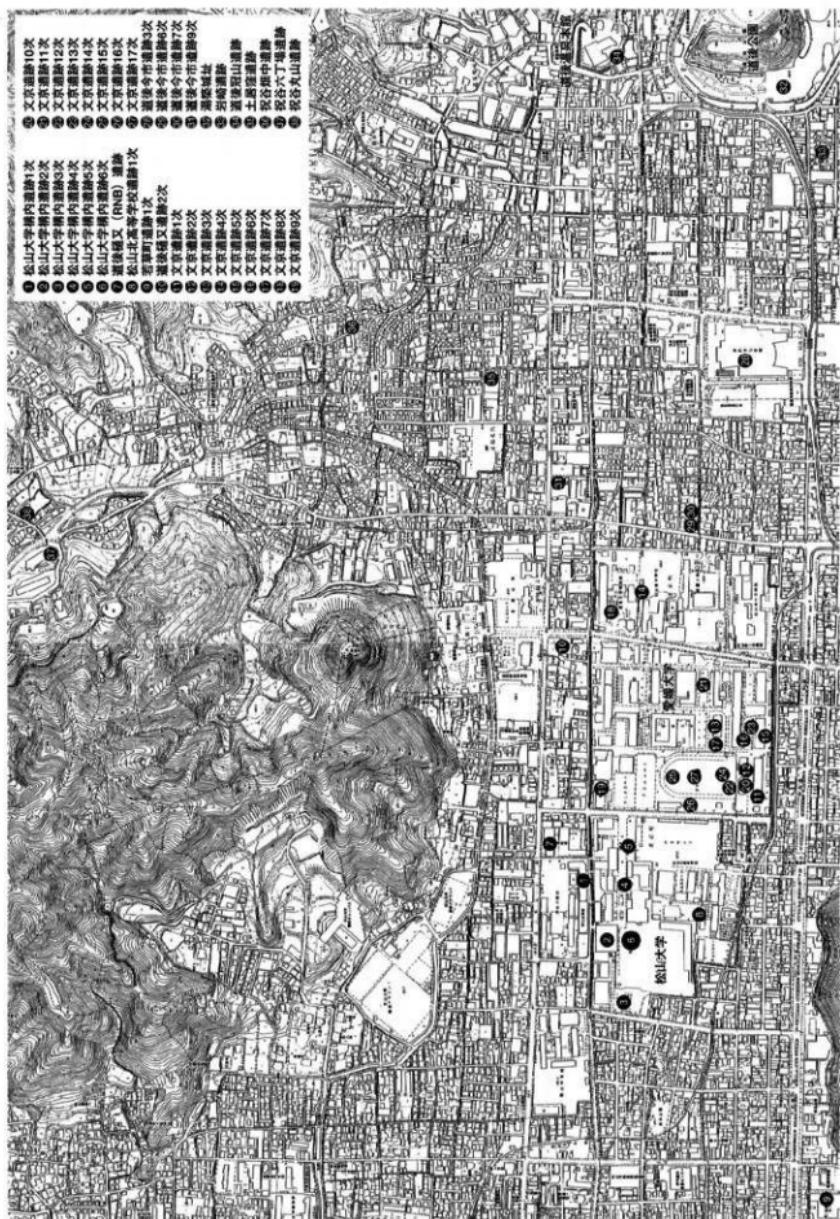
弥生時代

前期前半には、文京遺跡4次調査（⑮）において円形竪穴式住居跡が検出されているほか、前期後半では持田町3丁目遺跡で土坑墓24基と土器棺9基が検出されている。また出土状況不明ながら御幸寺山東麓遺跡で綾杉文が描かれた甕が出土しているほか、持田遺跡では木葉文甕が出土している。

前期末から中期前半には道後姫塚遺跡や道後鷺谷遺跡などの丘陵地上に立地した遺跡が知られているほか、平野部に立地する岩崎遺跡（⑬）は前期末から中期初頭の環濠集落である。また祝谷畠中遺跡（⑯）は前期末から中期中葉の指標となる土器が大量に出土した大溝の検出で知られるほか、竪穴式住居では弥生土偶の頭部が出土している。中期中葉においても、祝谷六丁場遺跡（⑰）や祝谷六丁目遺跡・祝谷大地ヶ田遺跡などのように丘陵地上に遺跡の分布が広がる。中期後半以降は集落の分布が扇状地低部へ移行する。その代表が愛媛大学を中心とした文京遺跡（⑪～⑯）で、弥生時代中期後葉～後期の竪穴式住居200棟前後が発見され、大規模集落が営まれていることが明らかにされている。その西方に位置する松山大学構内遺跡2・3次調査地（②・③）や松山北高等学校遺跡（⑮）では後期末にかけての竪穴式住居が検出されている。若草町遺跡2次調査では円形の大溝内から後期後半の土器が大量に出土している。

一方、平野内での道後城北遺跡群の優位性を表す資料として、平形銅劍と鏡が挙げられる。平形銅劍は、4か所で22振出土しており、そのうち祝谷六丁場遺跡（⑰）1振は埋納状態で検出した。次に

遺跡の概要



第2図 調査地周辺の遺跡分布図 (S=1:10,000)

鏡は、文京遺跡10次調査(⑩)出土船載鏡片が瀬戸内地域における最古の流入例として知られるほか、若草町遺跡1次調査(⑨)で船載の重圓日光鏡が出土している。

古墳時代

古墳時代の集落は、弥生時代に引き継ぎ扇状地内において展開する。松山大学構内遺跡のほか持田町3丁目遺跡、祝谷アイリ遺跡で堅穴式住居址や土坑が確認されている。

古墳は、平野背部の丘陵地に群をなして分布している。祝谷古墳群、御幸寺山古墳群、常信寺古墳群、桜谷古墳群、石手・伊佐爾波古墳群などが知られている。

古代

これまで遺跡群内における古代の遺構検出例は少なく、不明な点が多い。岩崎遺跡では、「L」字状に折れ曲がる溝を検出し、畿内土師器や土馬が出土している。そのほか、9世紀後半から10世紀前半の綠釉陶器や灰釉陶器などが数多く出土している。道後今市遺跡9次調査(⑪)では、包含層中から遺物が出土しているほか、道後掘又遺跡2次調査(⑫)では自然流路が確認されている。

また白鳳期の寺院址である内代庵寺や湯ノ町魔寺が古くから知られているが、詳細な発掘調査はされていない。

中世

湯築城址(⑬)は14世紀に河野氏によって独立丘陵上に築城された半山城である。以後250年間にわたって領国を支配した。この内部からは二重に巡らされた堀、土塁、礎石建物などが確認されている。道後今市遺跡3次調査(⑭)では備前妻を利用して塗精墓が確認されている。同9次調査(⑮)では水田址が検出されている。

〔主要参考文献〕

- 古代学協会四国支部1988『松山道後城北の弥生遺跡をめぐって』(シンポジウム資料)
- 愛媛大学埋蔵文化財調査室1998『文京遺跡シンポジウム』
- 日本考古学協会2006『日本考古学協会2006年度愛媛大会研究発表資料集』
- 多田一:1992「松山平野の石器文化」「祝谷アイリ遺跡」財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
- 西尾幸則1989「道後城北(RNB)遺跡」「松山市埋蔵文化財調査会年報Ⅱ」松山市教育委員会
- 宮崎泰好1991「祝谷六丁場遺跡」松山市教育委員会・松山市立埋蔵文化財センター
- 真鍋町文1995「持田町3丁目遺跡」財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 宮内信一1999「岩崎遺跡」松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
- 梅木謙一1991「松山大学構内遺跡—第2次調査—」松山市教育委員会・松山市立埋蔵文化財センター
- 宮内信一1995「松山大学構内遺跡Ⅱ—第3次調査—」松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
- 梅木謙一1998「松山大学構内遺跡Ⅲ—第4・5次調査—」松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

第3章 調査の概要

1. 調査の経緯

調査地は、大学構内のグラウンドとして使用されていた地点にあたり（第1図）、調査対象面積は1,234.80m²である。遺構の検出は、試掘調査の結果を受け、平成17年3月1日より開始した。はじめに重機による掘削を行って（第1回掘削）中世から近世と考えられる遺構の検出を行い、次に重機による再掘削を行って（第2回掘削）古代の遺構を検出、最後に弥生時代の遺構の検出を行った。なお、後述するように調査期間及び遺物出土の多寡を考慮して第Ⅷ層の一部を重機で掘削を行った。

調査にあたっては、世界測地系の基準点を5mメッシュでグリッドを設置し調査地の区割りを行った。グリッドの名称は東から西へ1、2、3、4、5…とし、北から南へA、B、C、D、E…とした（第14図）。調査は申請地のほぼ全域を掘削し、掘削した土砂は順次場外へと搬出を行った。以下、調査・作業工程を略記する。

3月1日、重機による表土掘削作業（第1回掘削）と平行し、中・近世の遺構検出作業を行う。8日、1回目の遺構検出状況の写真撮影を行う。遺構配置図を作成後、各遺構の掘り下げを行う。28日、重機により下層の掘削作業（第2回掘削）を行う。遺構検出作業を行い順次、遺構の掘り下げを行う。29日、北壁・東壁・南壁の上層の精査を行う。土錐が出土。30日、北壁トレンチを掘削する。31日、SK 14・15を掘削する、SK 14より土師皿が出土する。

4月1日、掘立1検出作業を開始する。4日、SK 14・15測量・写真撮影を行う。SK 15より富壽神寶3点が出土する。5日、西壁・南壁トレンチを掘削し、土層測量作業を行う。8日、掘立1の柱穴掘り下げを行う。11日、古代遺構面の土坑・柱穴などの掘削作業（調査区東側は弥生の遺構も検出）を行う。SX 2を精査する。13日、掘立1の測量・写真撮影を行う。19日、古代遺構面（東部は弥生期のものを含む）の完掘写真撮影を行う。撮影終了後、第Ⅷ層を人力で掘り下げを開始する。25日、第Ⅷ層を重機によって掘り下げを開始しSR 1を検出する。30日、重機による作業を終了する。

5月2日、SR 1①層の掘り下げを開始する。9日、土坑の掘り下げ、SR 1掘削作業を行う。SK 36より骨片が出土する。11日、SD 3の掘り下げを開始する。SR 1④層の掘り下げを行う。16日、SD 3の測量・完掘写真撮影を行う。19日、SR 1北東部と南東部のSR 1⑥層の掘り下げを行う。23日、SR 1西半部の掘り下げを行い、同時に遺物の取り上げ作業を行う。25日、SK 46・47の掘り下げを行う。31日、SR 1⑥層の掘り下げを行う。

6月1日、SR 1の掘削後に下層で検出したSD 4ほかの遺構を掘り下げを開始する。6日、調査区南西隅の未掘部分を重機にて掘削する。8日、各遺構の掘削を行う。16日、調査区のコンタ図を作成する。19日、市民を対象とした考

古学講座「とことん考古学」の見学会を開催する。20日、最終の掘削土搬出作業を行う。22日、全ての遺構を完掘し、完掘写真撮影を行う。23日～30日の間、出土遺物の洗浄と整理を行う。30日、調査用具等を撤去し、野外調査を終了する。

7月1日～翌々年3月31日の間、埋蔵文化財センターにて遺構図の作成、遺物の洗浄・注記・接合等の作業を行う。その後、遺物の実測・証書等報告書作成に関する整理作業を行う。この間、同センターにて資料調査を行う。



写真1 考古学講座「とことん考古学」見学風景

2. 層位

本調査地の基本層位は、第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層青灰色土（旧耕作土）、第Ⅲ層明褐色土、第Ⅳ層黃灰色土、第V層橙灰色土、第VI層橙灰褐色土、第VII層灰褐色土、第VIII層灰色粗砂ほかである。第Ⅸ層以下は地山と呼ばれる層である。なお、整理作業中に一部土層名を振り替えたため既刊の『松山市埋蔵文化財調査年報18』掲載の土色と相違がある。

第Ⅰ層—グランドの造成土で、厚さ12cm～75cmを測る。調査区全域で検出した。第Ⅰ-①層は第Ⅰ層に灰色土が混じる造成土である。東壁・南壁で検出した。

第Ⅱ層—青灰色の旧耕作土である。厚さ4cm～24cmを測る。調査区ほぼ全域で検出したが、西側中央付近は、削平のためか見られない。第Ⅱ-①層は暗青灰色の旧耕作土で、東壁・南壁で検出した。第Ⅱ-②層は明青灰色の旧耕作土で、南壁で検出した。第Ⅱ-③層は暗青灰色の旧耕作土で、北壁・東壁で検出した。

第Ⅲ層—明褐色土で、厚さ4cm～20cmを測る。北壁・東壁・南壁で検出した。中・近世の陶磁器片等を包含する。第Ⅲ-①層は暗褐色土で、北壁・南壁で検出した。第Ⅲ-②層は明褐色土で、第Ⅲ層より明るい。東壁・南壁で検出した。

第Ⅳ層—黄灰色土で、厚さ6cm～36cmを測る。下層は橙色となる。南壁西部と北壁中央部には見られない。第Ⅳ-①層は暗黄灰色土で、南壁で検出した。第Ⅳ-②層は黄灰色砂質土で、南壁で検出した。第Ⅳ-③層は明黄灰色土で、調査区ほぼ全域で検出した。第Ⅳ-④層は黄灰色土で、下層は橙色となる。北壁・東壁・西壁で検出した。

第Ⅴ層—橙灰色土で、厚さ4cm～20cmを測る。調査区北東側に堆積している。

第VI層—橙灰褐色土で、厚さ6cm～40cmを測る。古代の遺物包含層である。調査区の東半部に堆積する。第VI-①層は橙色土で、主に北壁・西壁で検出した。第VI-②層は橙灰色土で、主に北壁・東壁・西壁で検出した。

第VII層—灰褐色土で、厚さ20cm～40cmを測る。遺物包含層である。調査区の中央部に厚く堆積する。調査区西側で多量の弥生時代の遺物を包含する。下層の一部に褐色泥じりの灰色シルト層も存在する。

第VIII層—地山と呼ばれる層である。調査区東半部が灰色粗砂（小礫混じり）と黄灰色砂質土の互層であるのに対し、西半部は黄色微砂質土である。黄灰色砂質土中からは、縄文土器片等が出土している。

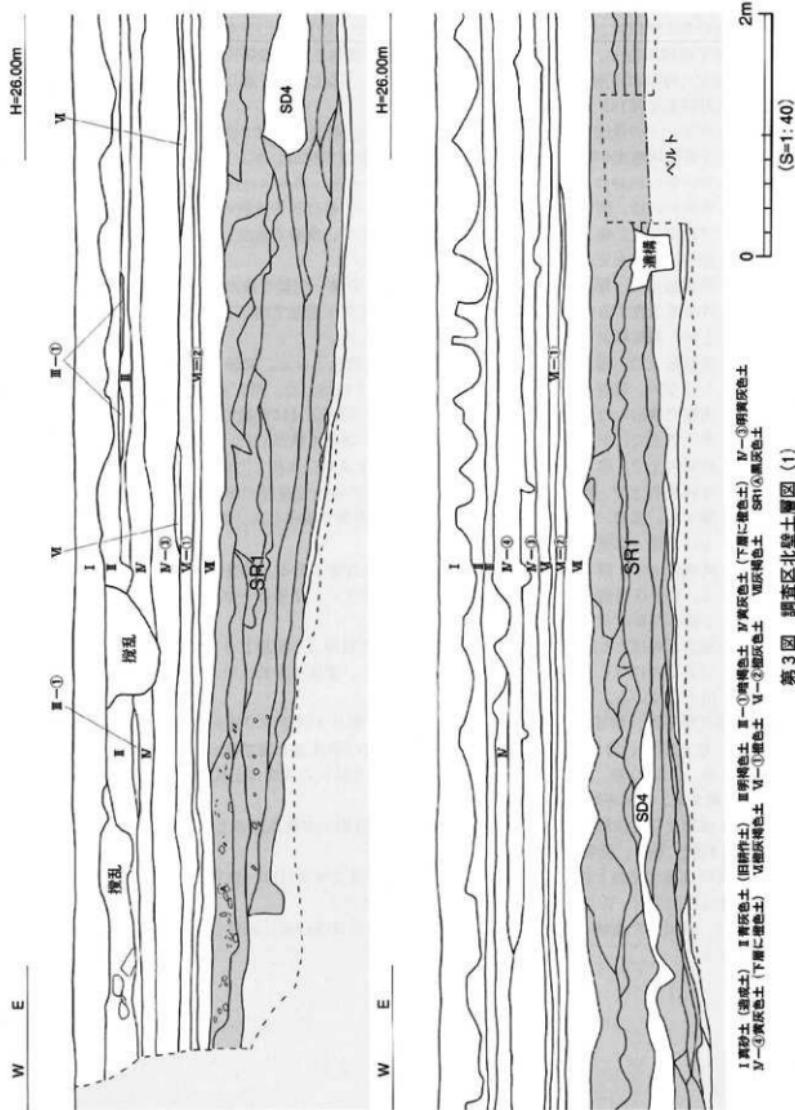
遺構は第Ⅳ層上面、第V層上面、第VIII層上面、S R 1掘り下げ途中で検出した。第IV層上面では土坑18基、柱穴51基、溝2条を検出している。第VII層及び第VIII層上面で検出した古代の遺構は掘立柱建物跡1棟、土坑31基、溝1条、柱穴26基である。弥生時代の遺構は土坑14基、柱穴12基、自然流路1条、溝2条、性格不明遺構10基である。

遺物は、遺構及び包含層からの出土である。縄文時代後期～中世以降の土製品、石製品、鉄製品、青銅製品、錢貨、種子、動物遺存体ほかが出土した。

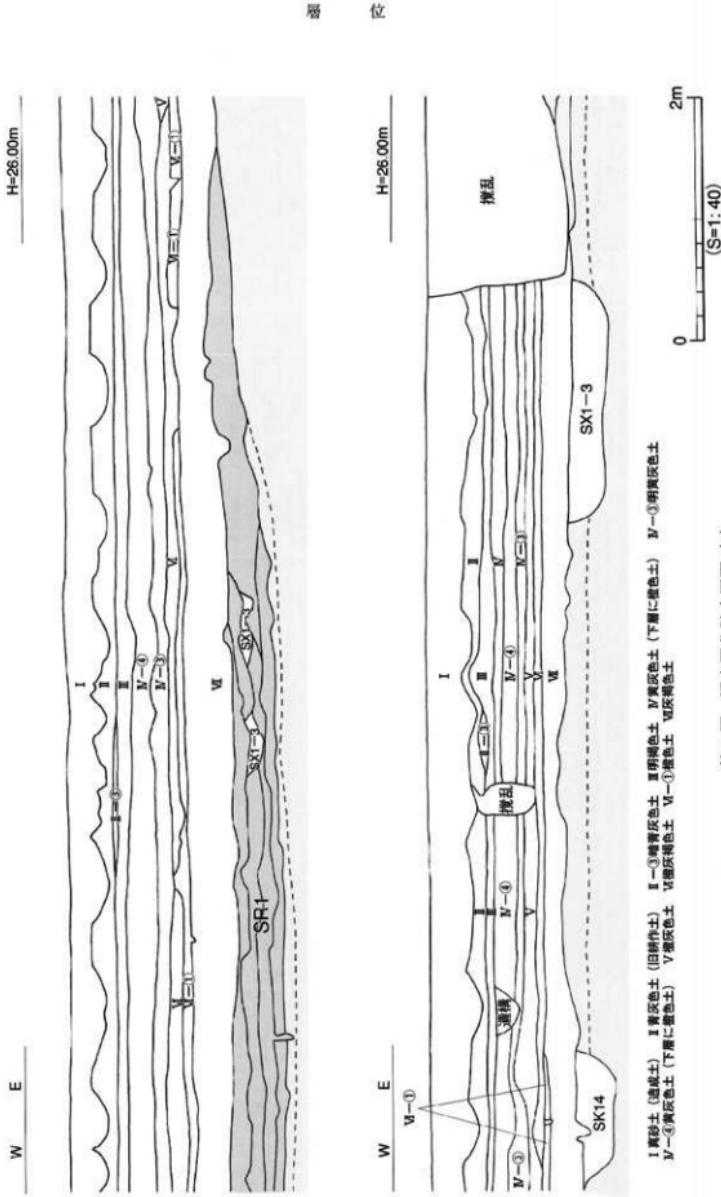
各層の時期は出土遺物と検出遺構から判断すると第IV層は中世以降、第VII層は弥生時代から古代末、第VIII層は縄文時代～弥生時代に堆積したものと判断される。

本稿では、検出した遺構と遺物を弥生時代・古代・中世以降の順に記載した後、包含層出土遺物の報告を行う。

調査の概要

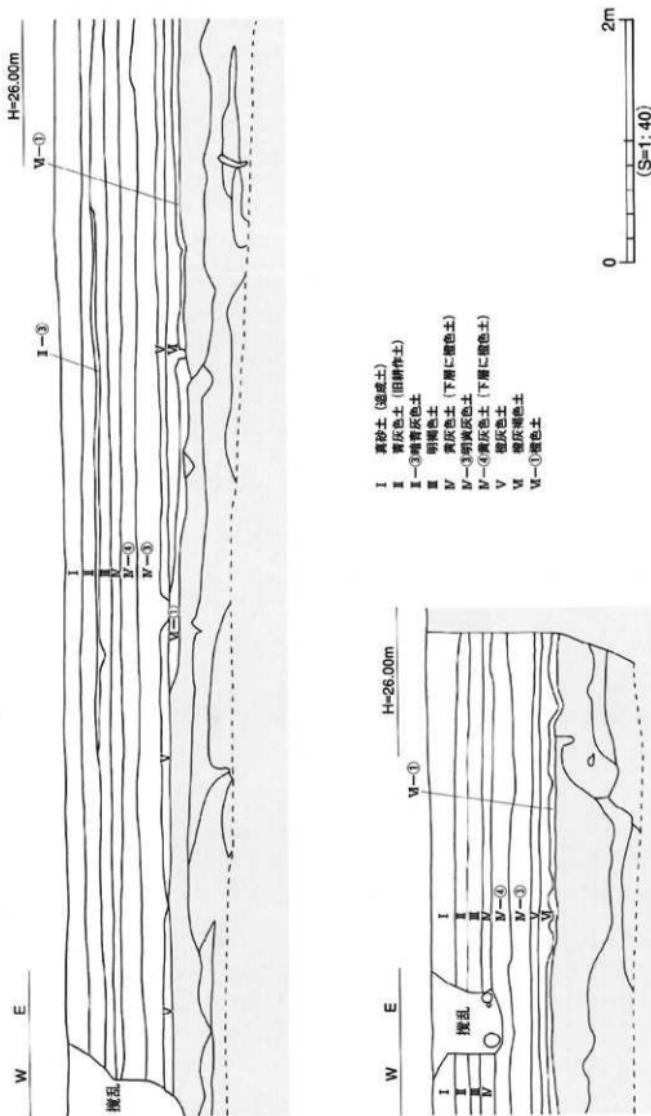


第3図 調査区北壁土層図 (1)

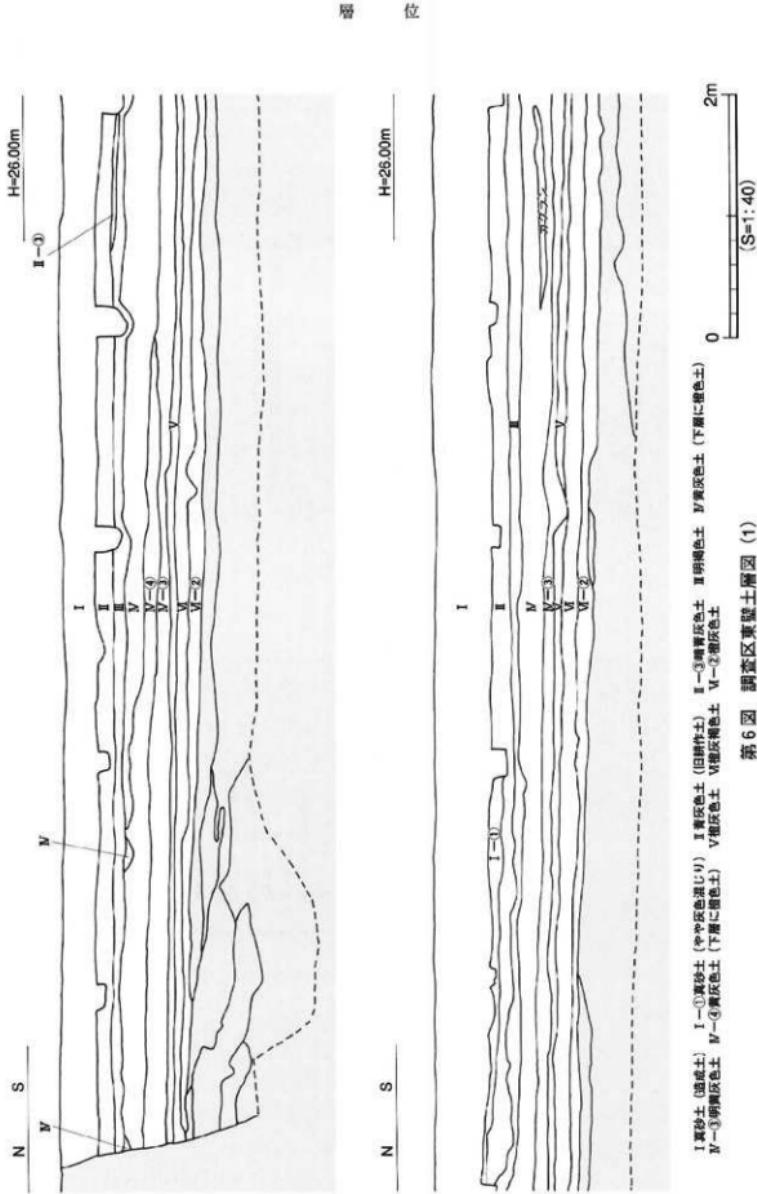


第4図 調査区北壁土層図 (2)

調査の概要

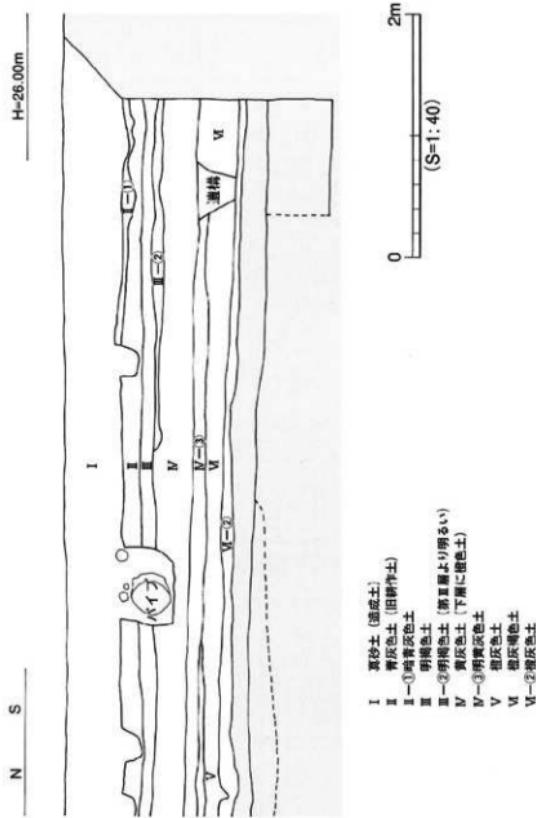


第5図 調査区北壁土層図 (3)

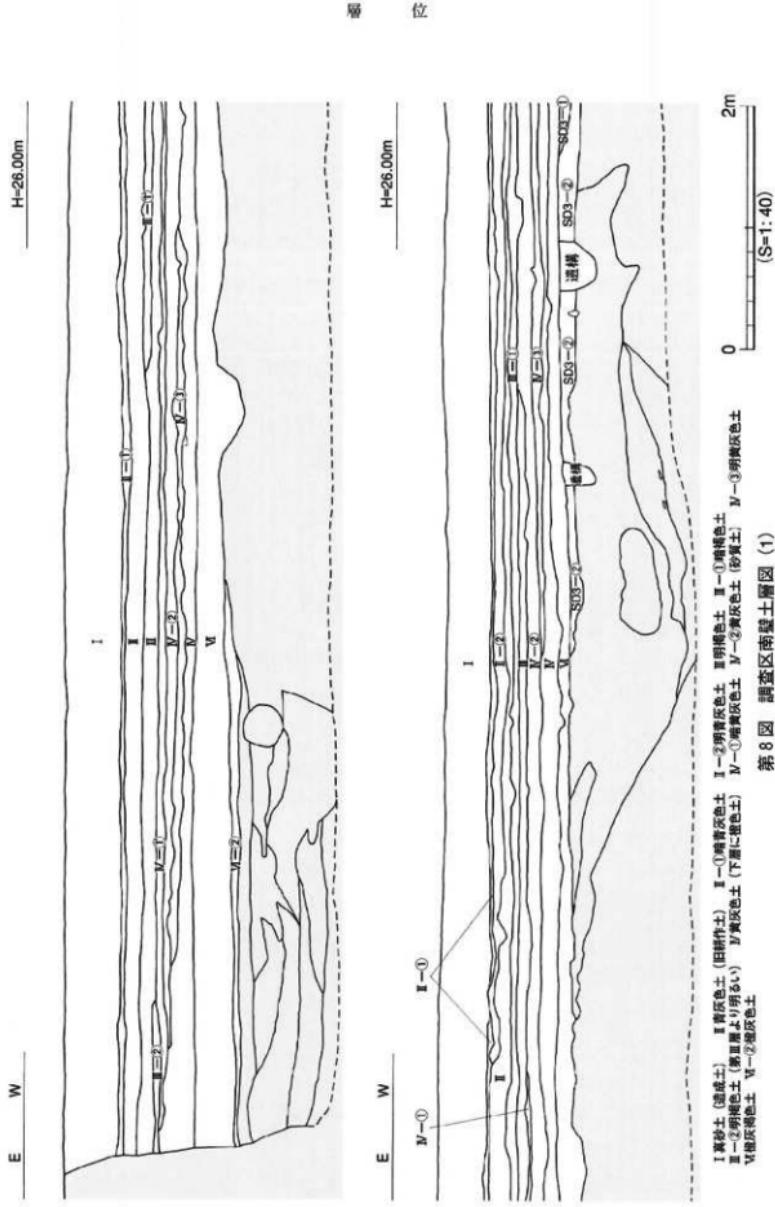


第6図 調査区東壁土壤圖(1)

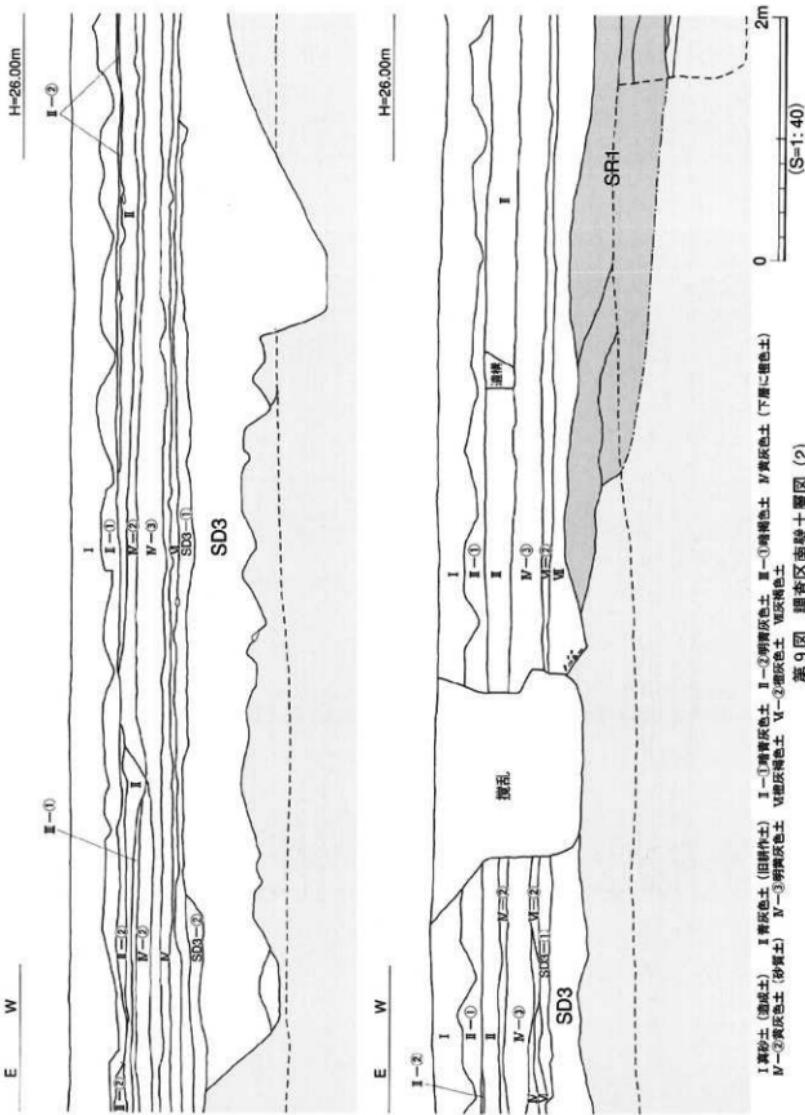
調査の概要



第7図 調査区東壁土層図 (2)



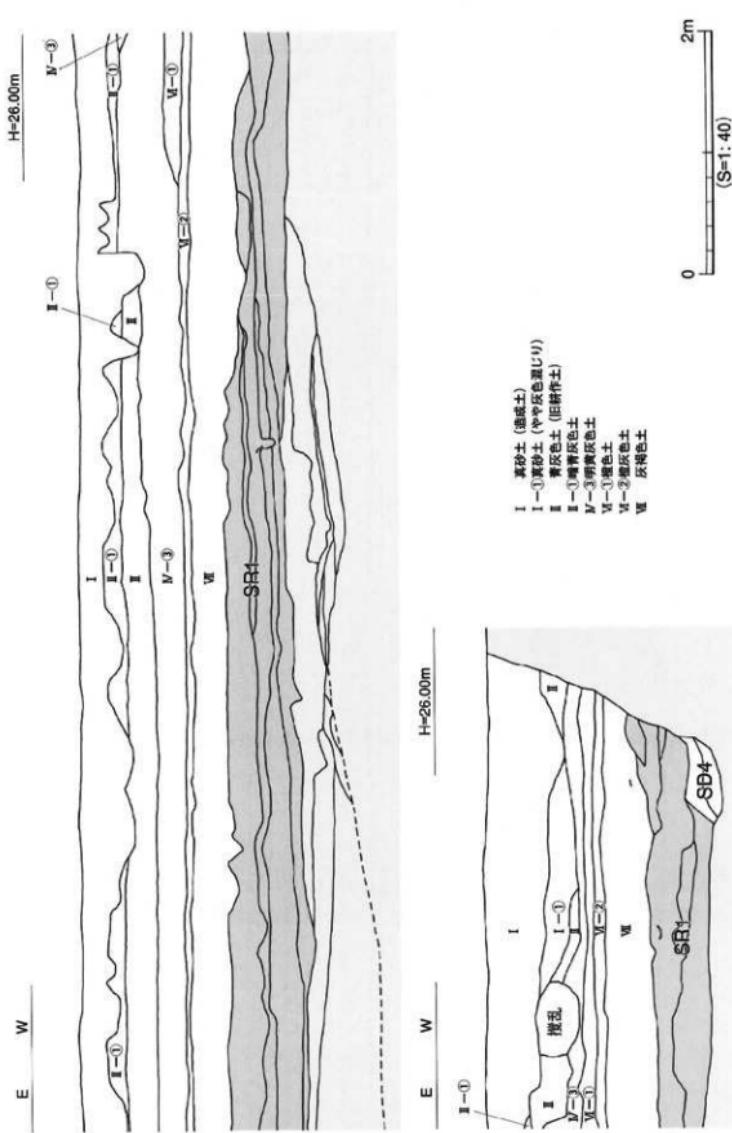
調査の概要



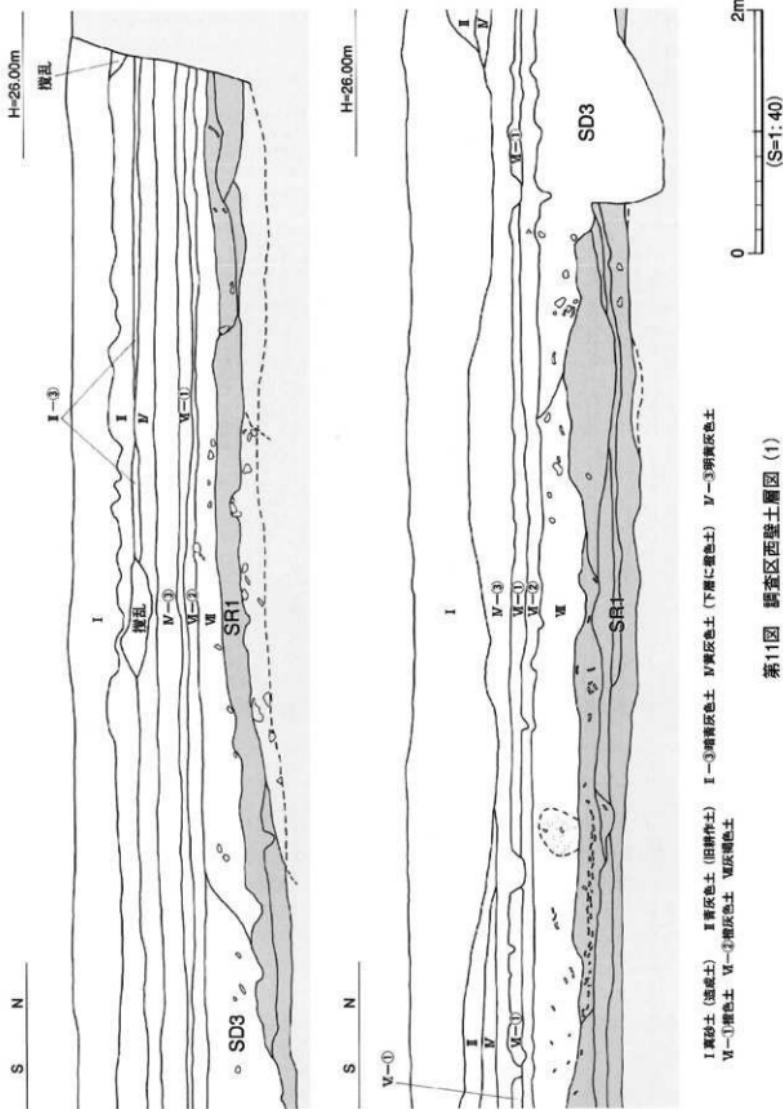
I-1 黑青灰色土 I-2 青灰色土 (旧耕作土) I-3 黑青灰色土 II 黑青灰色土 III-1 增褐色土 IV 黄灰色土 (下层に褐色土)

第9圖 調查區南壁土層圖 (2)

第10図 脊東区南壁土層図 (3)



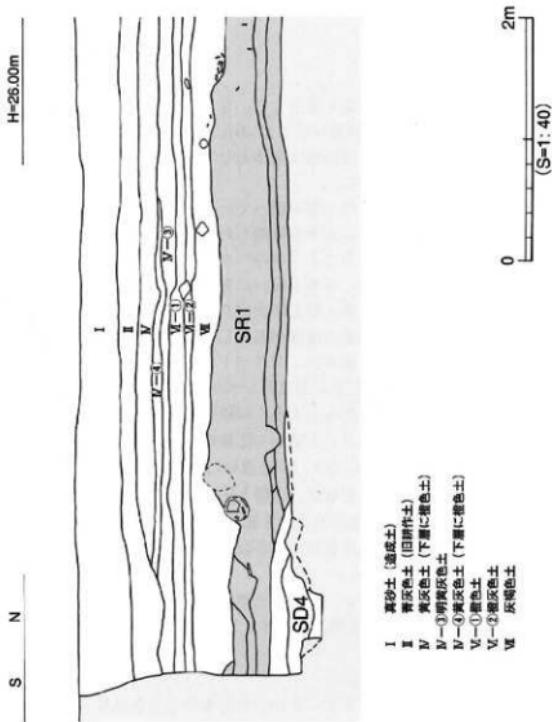
調査の概要



第11圖 調查區西壁土層圖 (1)

I—①暗青灰色土 (旧耕土) II—②暗灰黑色土 VI—①暗棕色土 VI—②暗灰黑色土 VII—明黄灰色土

層位



第12圖 調查區西壁土層圖 (2)

3. 遺構と遺物

検出した主な遺構は掘立柱建物跡1棟、自然流路1条、土坑63基、溝5条、柱穴89基、性格不明遺構10基である。遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土製品、石製品、鉄製品、青銅製品、装飾品、錢貨ほかが出土している。

(1) 弥生時代

弥生時代の遺構は自然流路1条、土坑14基、溝2条、柱穴12基、性格不明遺構10基である。これらのうち自然流路、土坑、溝、性格不明遺構について詳述する。

1) 自然流路 (SR)

SR 1 (第13~15図、図版3~7)

本調査において1条の自然流路を検出した。SR 1は、調査区西側を北東~南西方向に弧を描きながら流れる流路である。検出規模は長さ27.40m、幅24.80m、深さ0.2~1.0mを測るが、調査区外に続くため全容は不明である。断面形は全体として浅い皿状を呈するが、長軸方向に2列の窪みがあり、その間隙に平坦面が存在する。

作業工程は、第Ⅳ層がSR 1の上層を覆っていたため、第Ⅳ層の掘削作業終了後にSR 1の掘削を開始した。当初西・南・北トレントを掘削した時点でSR 1の存在を確認していたため、まず掘り下げに先立ち土壌観察用として「十」字のベルトを、東西方向はSR 1のほぼ中央、南北方向はやや東寄りに設定した。その後、ベルト沿いに先行トレントを掘り、土層観察を行った。その結果をもとに、グリッド別にSR 1各土層を順次掘り下げを行った。その結果、SR 1が調査区の大部分近くの面積を占めるとともに大量の遺物が出土したため、完掘するまで約1か月余りの調査期間を費やした。遺物の取り上げは、基本的にグリッドごとに層を分けて取り上げた。そのうち遺物が集中する地点などについては1点ごとに地点とレベルを記録しながら取り上げを行った。

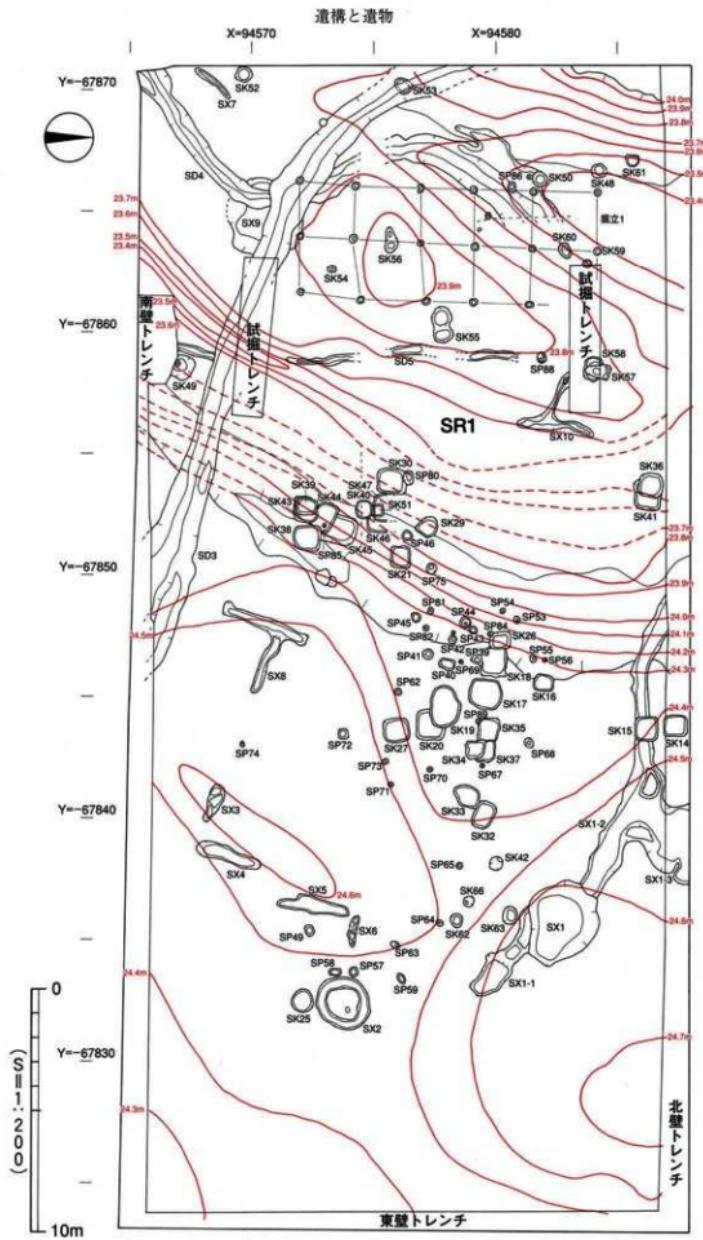
SR 1は大きく7層に分層できる。大きくは砂質土とやや粘り気のあるシルト層が互層になって堆積している。細かく分層すると、上層から①層暗灰色粗砂質土、②層黄灰色シルト（黄色濃い）、③層灰色微砂質土、④層黄灰色シルト（灰色濃い）、⑤層褐色シルト、⑥層黒色粘質土、⑦層暗灰色粗砂質土である。遺物が出土した層は、①層と⑥層である。そのほか、調査区北西隅に黒灰色土の層が存在し遺物がまとまって出土したためSR 1①層と呼称して記述する。（第3図）

出土遺物は、完形品は少なく破片資料が大多数を占めている。弥生土器のほか縄文土器、石器では石庖丁や砥石などが出土している。

報告は、⑥層出土遺物から行い、①層出土遺物、④層出土遺物を記述した後、層不明の遺物、層不明・グリッド不明の遺物、層不明・東西ベルト出土遺物の順に記述する。

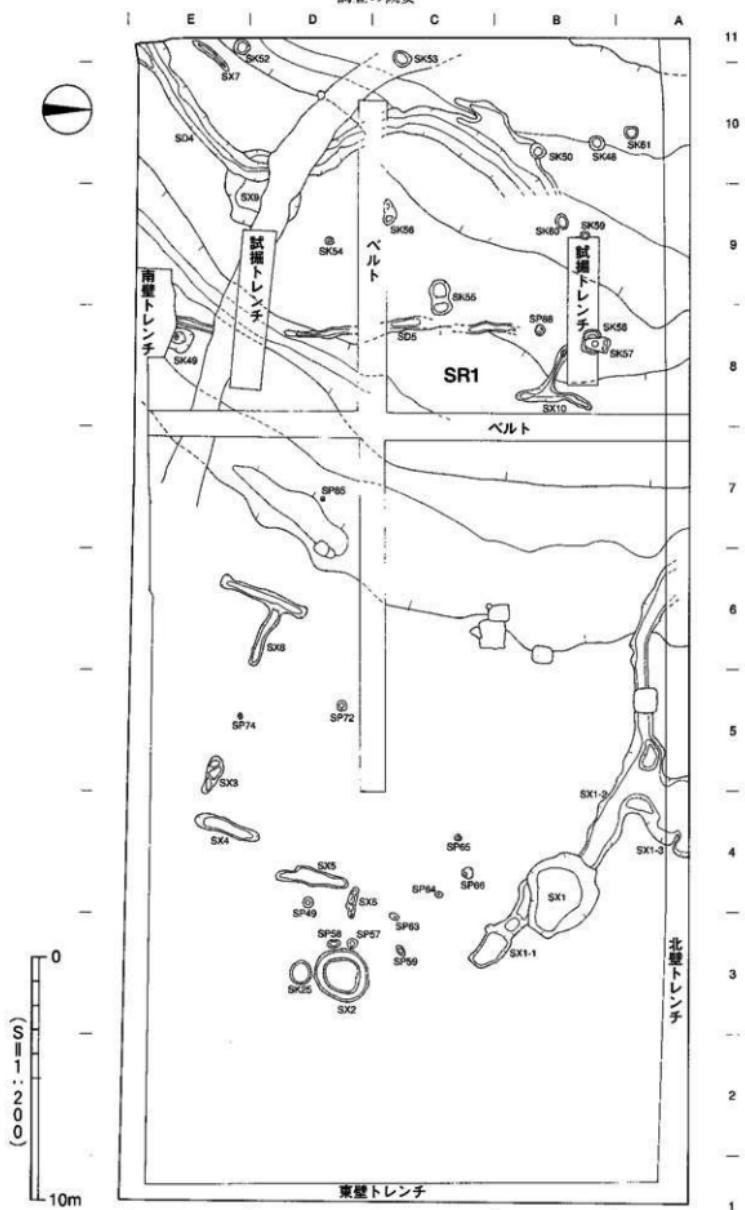
① SR 1⑥層 (第15・16図)

SR 1⑥層は、SR 1下層でA 6~E 10区に分布する黒色粘質土である。無遺物のSR 1⑦層の上層に約5cm~15cmの幅で堆積しているが均一ではなくまばらに分布している。作業工程は、グリッドごとに遺物を取り上げ、比較的依存状態の良好な遺物については地点とレベルを記録した上で取り上げた（第16図）。

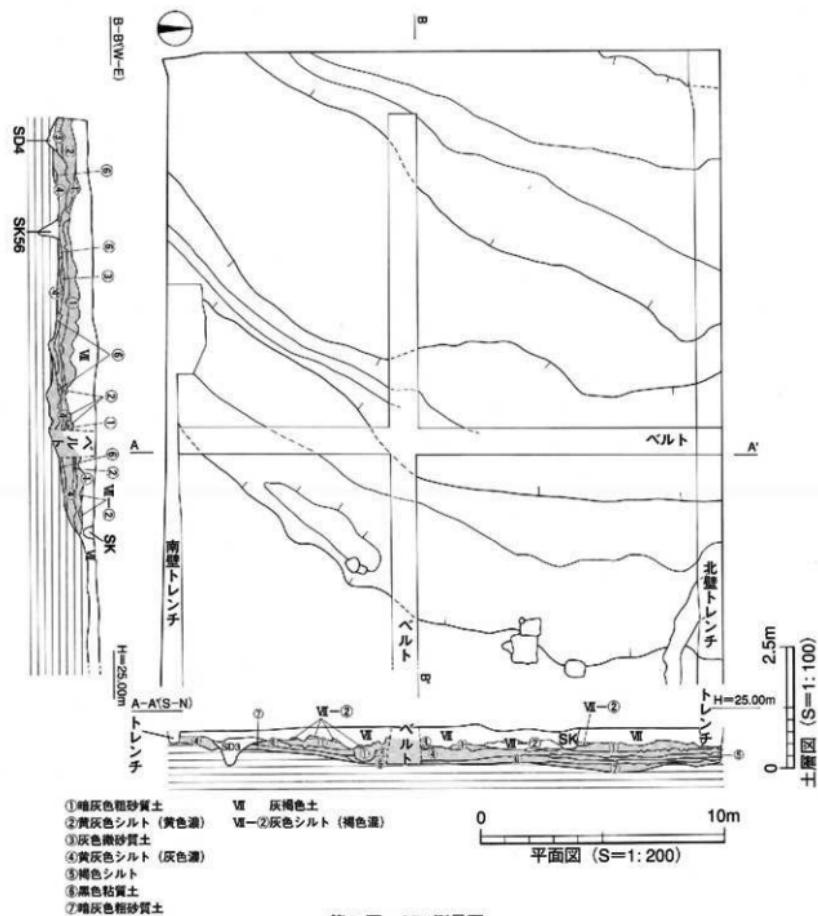


第13図 弥生時代～古代遺構配置図

調査の概要



第14図 弥生時代遺構配置図



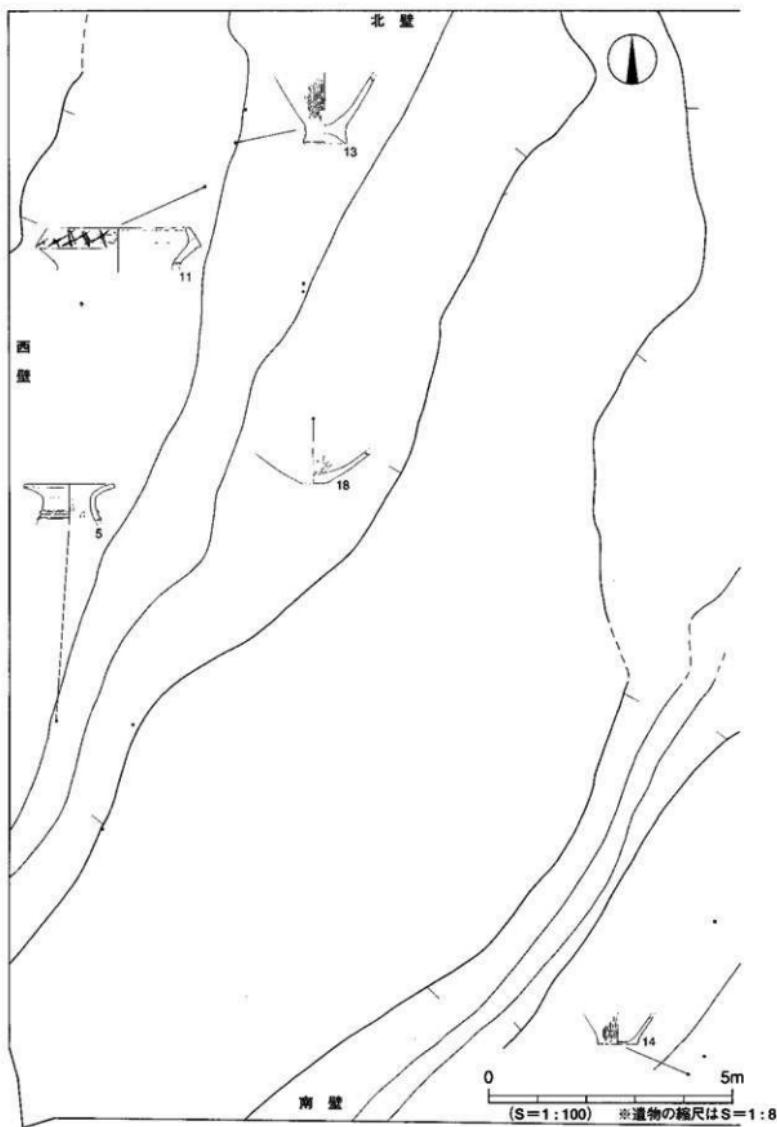
第15図 SR1測量図

遺物は弥生土器のほか縄文土器・石製品が出土した。全体として遺物のまとまりは少なく、破片資料がほとんどであった。

出土遺物（第17～19図、図版23）

1～28は弥生土器である。壺形土器と壺形土器は大きく分けて中期と後期のものが存在するため、1～10に中期、11・12に後期を記載する。1～4は壺形土器である。1～3は口縁部に凹線文を施し、1は頸部に刻目突帯を施す。3は頸部に焼成前穿孔を穿つ。4の口縁部は内湾して立ち上がり

調査の概要



第16図 SR1⑥層（西半部）遺物分布図

る。5～9は壺形土器であり、5～8が口縁～頸部、9が頸～胴部である。5は頸部に2条以上の突帯をもつ。中期中葉。6～8は口縁端部に円線文を施す。中期後半。7・9は肩部に「ノ」の字状の本口押圧を施す。10は肩部の張りが強く羽状文状の押圧を施す。胎土も在地のものとは異なり、安芸地方からの搬入品の可能性がある。後期初頭の土器と考えられる。11・12は後期後半の壺形土器である。11は複合口縁壺の口縁部で端部に斜格子目文を施す。12は複合口縁壺と思われ、頸部に斜格子の刻目突帯を施す。13～18は底部片で、13・14が壺形土器、15～18は壺形土器の底部と思われる。17は弥生前期土器の可能性がある。

19・20は鉢形土器である。19は口縁端部に凹線文を施す。壺形土器の可能性もある。20の外側は丁寧なミガキを施す。21～23は高環形上器である。21は外面に丁寧なミガキを施し、赤色顔料の痕跡が残る。22は厚手の器壁で、口縁部はほぼ直立する。

24～26は弥生前期の土器であり、混入品と思われる。24は口縁端部に刻目、頸部下に3条のヘラ搔き沈線を施す壺形土器である。25・26は壺形土器で25は大型品、26は中型品と思われる。25は胴部に沈線文4条が巡り、26は沈線文と木葉文と思われる沈線が巡る。

27は絵画土器である。壺形土器の肩～胴部あたりに動物と思われる線刻を施す。後期初頭の土器と考えられる。28は内面に粗圧痕が残る。

29・30は繩文土器であり、混入品と思われる。29は口縁部に刻目突帯を施す深鉢である。30は波状口縁をなす浅鉢である。

31・32は石斧である。31は先端部を欠損した扁平打製石斧である。土堀り具と考えられる。32は磨製石斧と考えられる。

時期 混入品と思われるものを除き、出土した遺物は弥生時代中期後半～後期初頭に比定されるものが多くを占める。このことから、S R 1①層が埋没したのは弥生時代中期後半～後期初頭と推定される。

② S R 1①層（第15・27図）

S R 1①層は、S R 1の最上層でA 7区～E 11区に分布する暗灰色粗砂質土である。調査区全域を覆う第Ⅶ層の下層に約10cm～28cmの幅で堆積している。作業工程は、グリッドごとに遺物を取り上げたほか、南北ベルトから西半部については遺物が集中して出土したため地点とレベルを記録した上で取り上げた（第27図）。

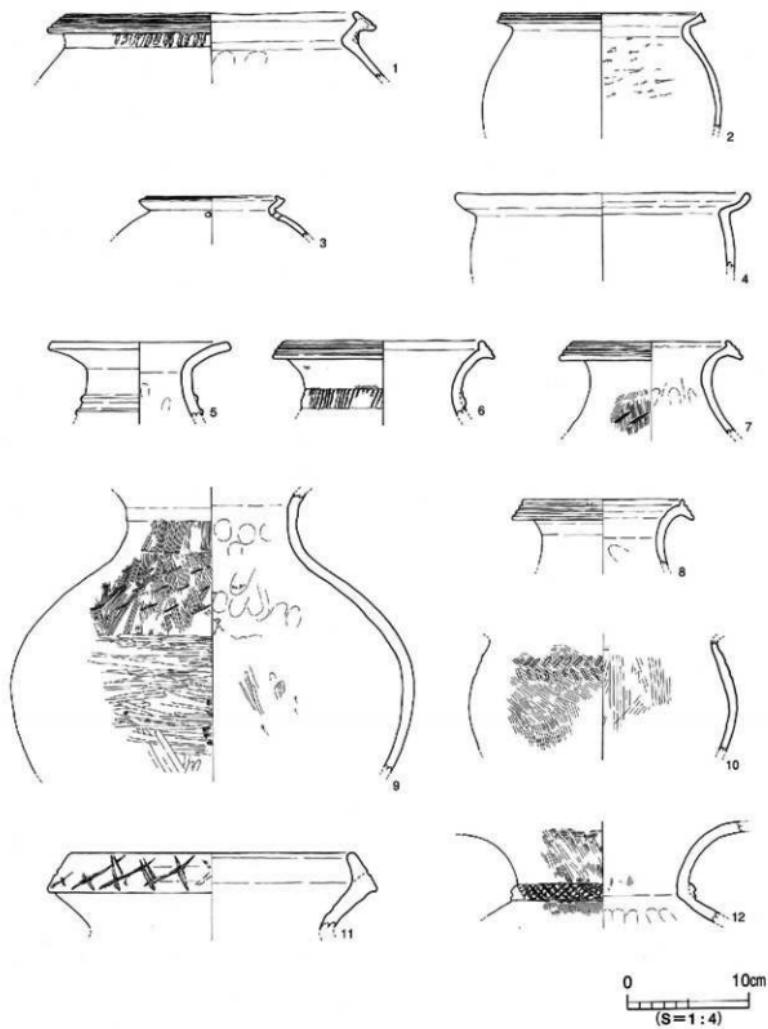
報告はまずグリッドごとに取り上げた遺物から報告し（第20～26図）、その後、ドットで取り上げた遺物を報告する（第28～35図）。しかし地点によっては第Ⅶ層との分層判別が難しく、その後の整理作業の段階で第Ⅶ層出土遺物とS R 1①層出土遺物とが接合できた個体もあったため、その場合はS R 1①層出土遺物として報告を行った。

遺物は弥生土器のほか土師器・須恵器・繩文土器・紡錘車・ミニチュア土製品・分銅形土製品・石製品などが出土した。遺物は破片資料がほとんどであったが、小型品には完形品も含まれる。

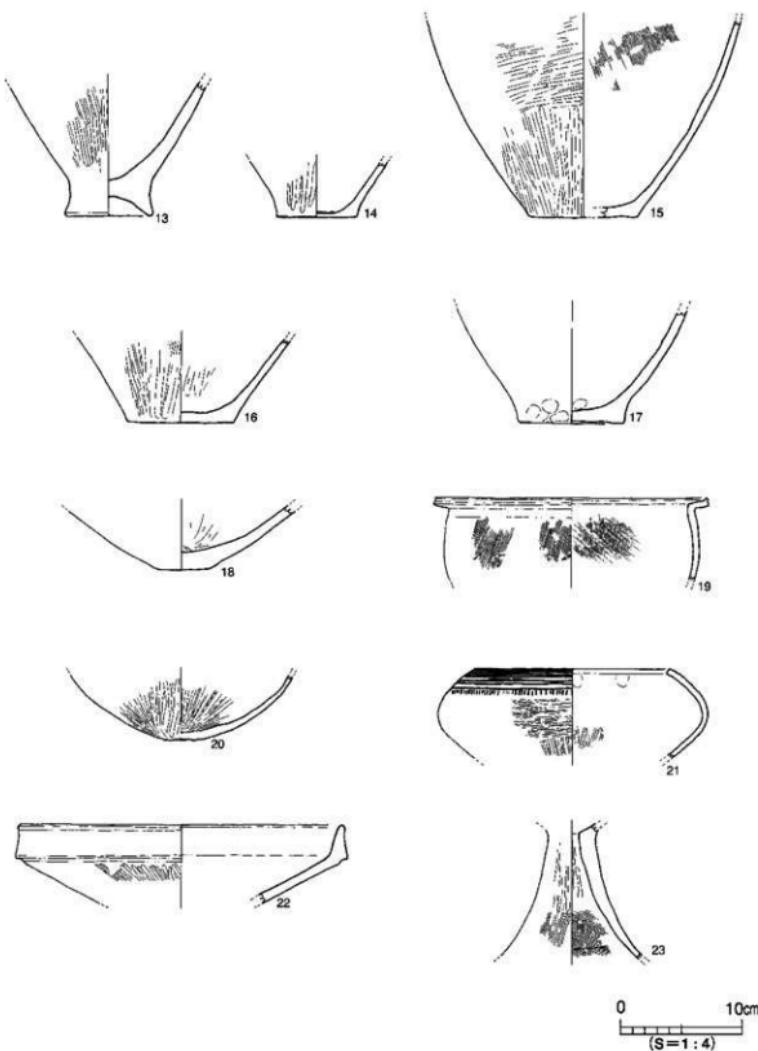
出土遺物（第20～26図、図版24～26）

33～98は弥生土器である。壺形土器と壺形土器は大きく区分して中期と後期のものがあるため、33～53に中期、54～66に後期のものを掲載する。33～42は壺形土器である。33～35は頸部に指頭押圧による刻目突帯を施す。34は黒色に近い褐灰色の胎土である。36～38は口縁端部に凹線文を施す。36は頸部に幅広の刻目突帯文を施す。在地の突帯文とは様相が異なるため搬入品の可能性がある。38は頸部に羽状文状の沈線文を施しており、搬入品の可能性がある。備後地方か？39は胴部に

調査の概要

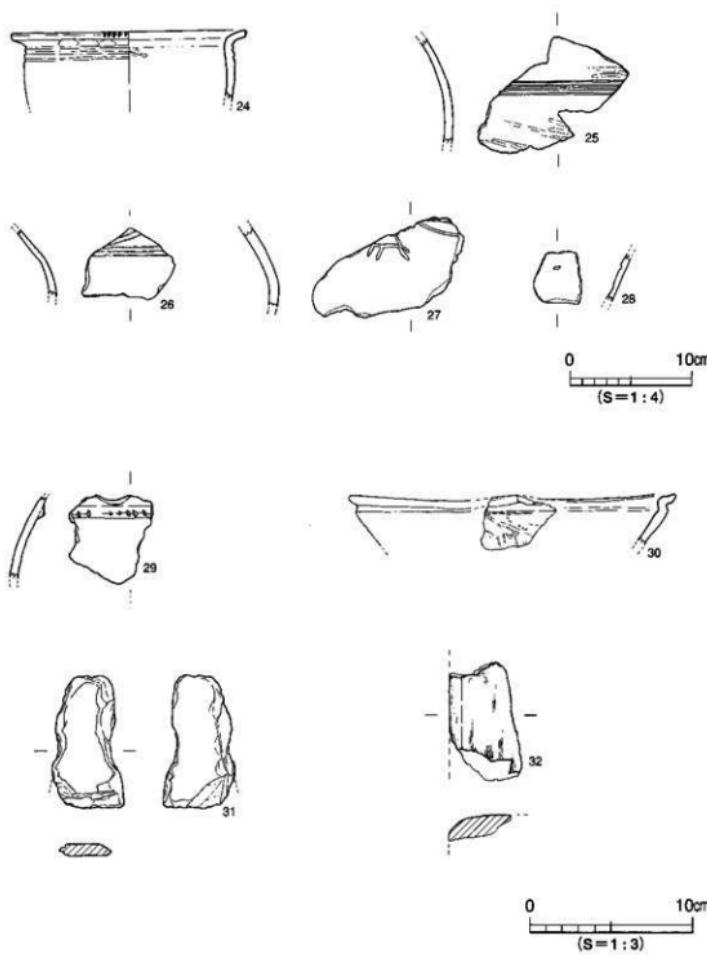


第17図 SR1⑥層出土遺物実測図 (1)



第18図 SR1⑥層出土遺物実測図（2）

調査の概要



第19図 SR1⑥層出土遺物実測図 (3)

2列の「ノ」の字状押圧を施す。40は頸部直下に列点文を巡らす。41と42は同一個体の可能性があるもので、鉢形土器とも考えられる。口縁部と底部に焼成前穿孔を施す。43～53は壺形土器である。43・49は口縁～胴部、44～48・50・52・53は口縁部、51は頸～肩部片である。43と44は頸部に断面三角形の突帯を貼り付け、指頭押圧を施す。中期中葉。45～50は口縁端部に凹線文を施す。50は高坏脚部片の可能性も考えられたが、口縁部として報告する。8条以上の円線文が巡る。在地の土器には類例がなく、搬入品の可能性がある。51は貼り付け突帯が4条以上巡る。搬入品の可能性がある。九州地方か？

54～56は壺形土器である。54は口縁端部に1条の凹線文を施す。57～66は壺形土器である。57は同一個体と考えられる口縁～肩部片と底部片である。大型品。口縁端面に山形文を施し、頸部に指頭押圧の刻目突帯文が巡る。胎土が34と同様に黒色に近い灰黄褐色である。58～61・64が口縁部、62・65・66が頸部、63が胴部片である。59～61は複合口縁壺である。59は拡張部が無文で、頸部に鈍い断面三角形の突帯を貼り付ける。62は頸部に断面三角形の突帯を貼り付ける。胎土は橙色で、搬入品の可能性がある。九州地方。63も九州地方からの搬入品の可能性がある。胎土は灰白色である。64は細沈線文と「S」字状半裁竹管文を組み合わせる。長頸壺と思われる。山陰地方からの搬入品か？65・66は肩部に貝殻による押圧を施す。67～81は底部片である。67～72は壺形土器、73～78は壺形土器、79・80は壺または鉢形土器と考えられる。81は壺形土器で、焼成前穿孔。

82～84は鉢形土器である。82は稜をもって大きく外反する口縁部、83・84は直口口縁である。85～91は高坏形土器である。85・86は口縁部、87～90は脚部、91は受～脚部である。85は口縁部が鋸先状をなすもので、伊予東部の影響を受けていると考えられる。中期中葉。86は直立する口縁部で端部は面をもつ。87～89は欠羽根透かしと凹線文の組み合わせをもつ。いずれも透かしは貫通しない。90は円孔が穿たれており、吉備地方からの搬入品か影響を受けたものである。91は細く短い柱部に大きく開く裾部をもつ。92は器台形土器である。柱部に沈線文と羽状文状の押圧の組み合わせを施す。裾部にはやや大きめの円孔を穿ち、脚端部には円形浮文を貼り付ける。衛後地方からの搬入品か影響を受けて在地で製作されたものか？93は支脚形土器である。角状の突起をもつ受部である。94～96はミニチュア土製品である。94は壺形のほぼ完形品。95・96は鉢形。97・98は線刻土器である。いずれも胴部片に2条の線刻を施す。98は櫛の先を描いた可能性もある。99は分銅形土製品である。上半部のみ残存しており、顔面表現がある。きめ細かい胎土で製作されている。赤色顔料は塗布されていない。

100は縄文土器である。口縁部に刻目突帯を施す深鉢である。101は土師器の皿であり、体部内面に放射状の暗文を施す。内外面に赤色顔料が付着。混入品と思われる。102は壊として報告するが、胎土に角閃石を含み、色調は赤褐色を呈す。在地のものではなく搬入品と考えられる。

103～106は石器である。103はサスカイト製石鏃である。104は扁平片刃石斧の刃部である。105は石庵丁であるが、欠損しており全体像は不明である。106は磨石である。両面中央が窪む。

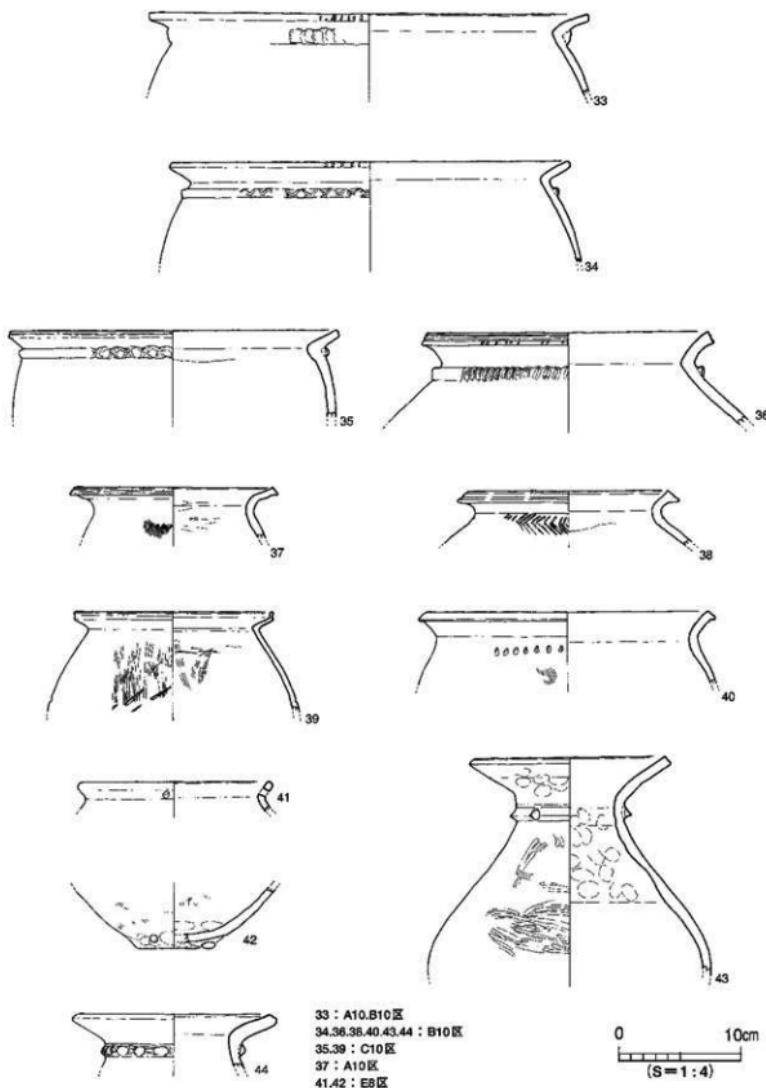
107は獸骨である。種類や部位は不明である。土圧により断面が橢円形を呈している。

統いてS R 1 西半部においてドットで取り上げた遺物を報告する（第27・28～35図）。

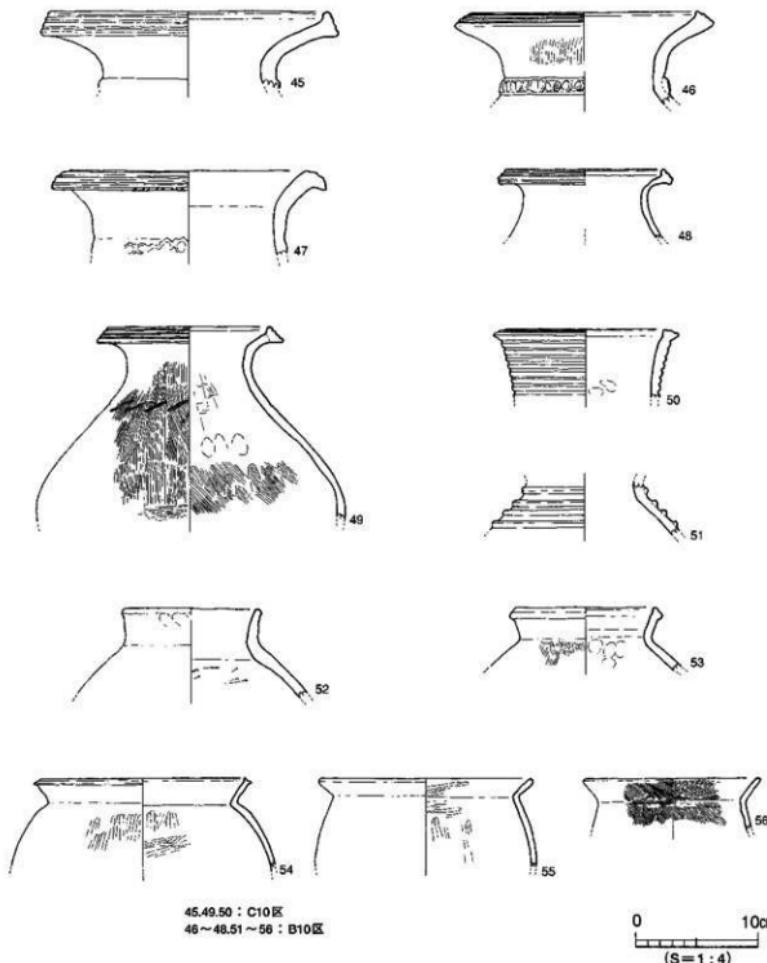
出土遺物（第28～35図、図版26～29）

108～161は弥生土器である。108～116は壺形土器である。108～110は口縁部、111～116は胴～底部である。108・109は口縁端部に凹線文を施す。110は頸～胴部の形態や調整が特徴的で、搬入品

調査の概要



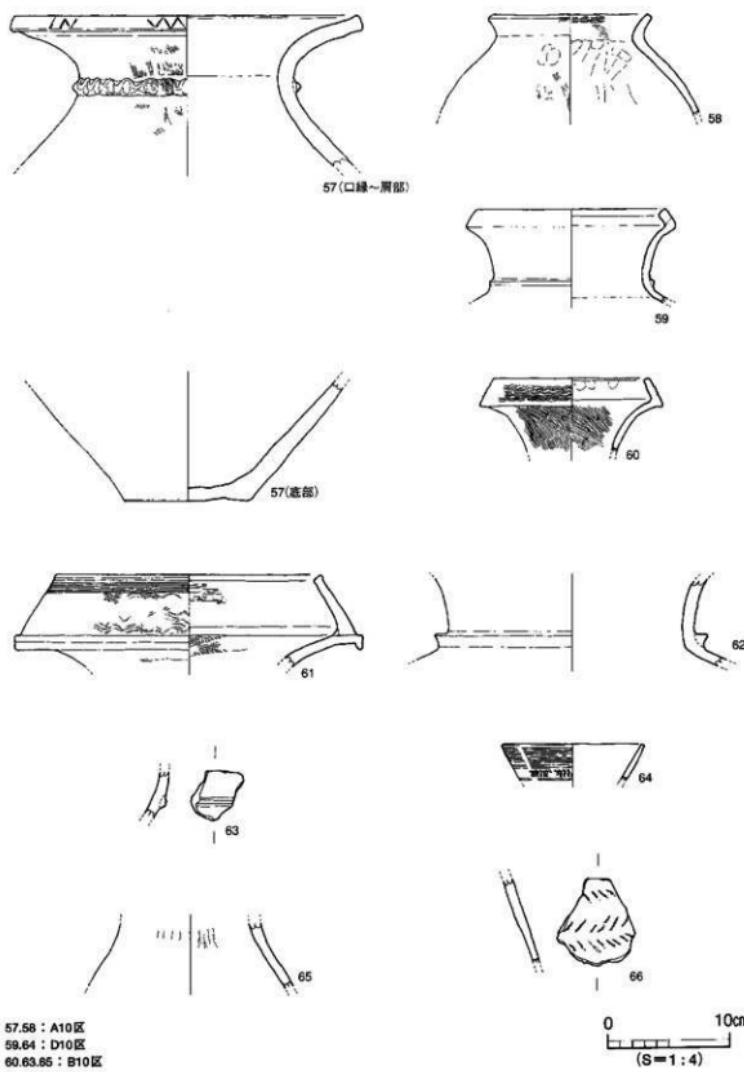
第20図 SR1①層出土遺物実測図 (1)



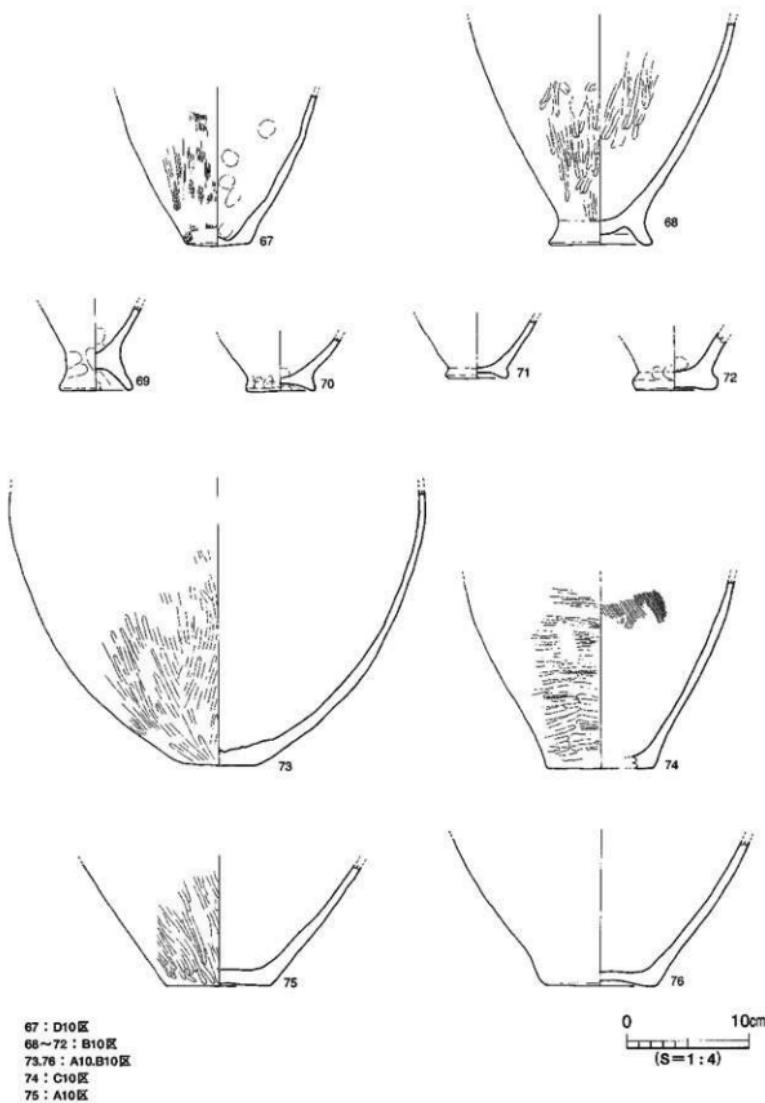
第21図 SR1①層出土遺物実測図(2)

の可能性がある。土佐地方か? 117・118は蓋形土器である。117は円孔がつまみ部に2か所のほか体部にも施す。118も体部に円孔を施す。119~149は蓋形土器である。119~141は口縁~胴部である。142~149は底部片である。119・120は頸部に断面二角形の突帯を貼り付ける。120は胎土が黒色に近い褐灰色を呈するもので、34・57と似る。122~126は口縁端部に凹線文を施す。122は小型品で、全体形状のわかるものである。126は長頸壺で頸部下位に沈線文が巡る。50と同様に外来的要

調査の概要

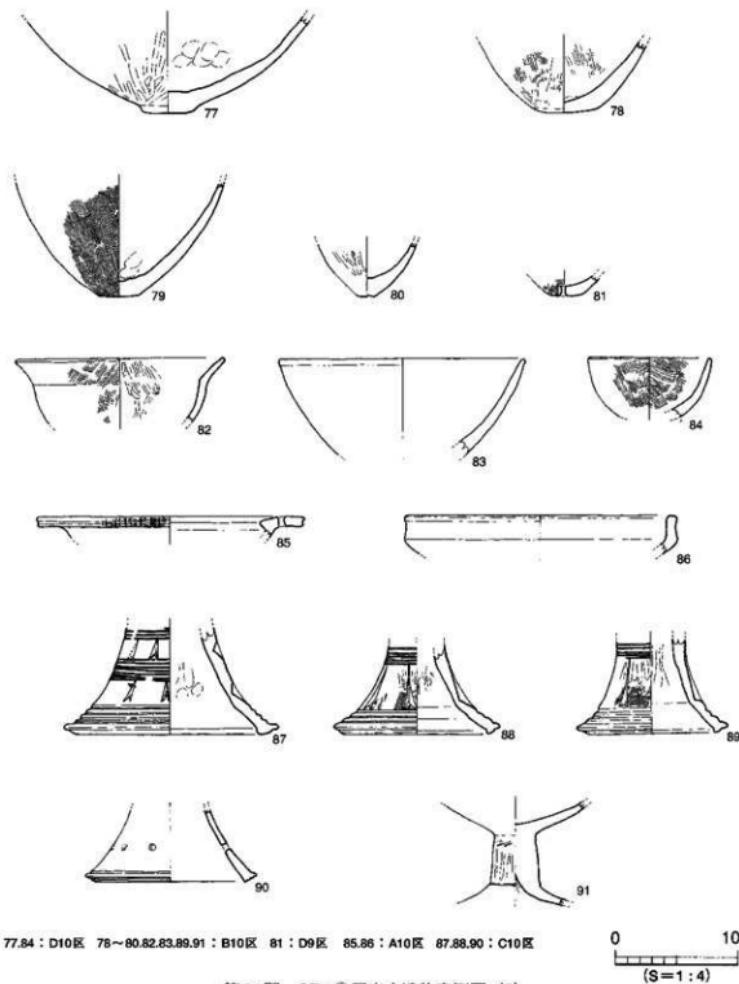


第22図 SR1①層出土遺物実測図 (3)



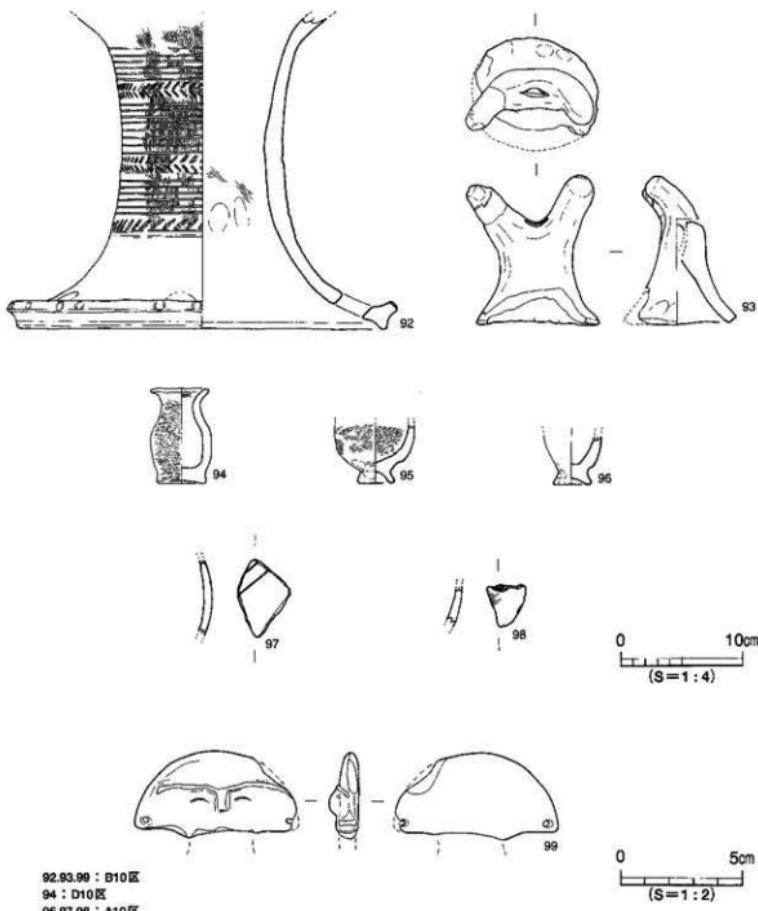
第23図 SR1①層出土遺物実測図 (4)

調査の概要



第24図 SR1①層出土遺物実測図 (5)

素の強いものである。127は頸部に格子状の沈線文あるいは「住居」と思われる線刻が施される。128・129は無頸壺である。130は直口壺の口縁～肩部片と底部片で同一個体と思われるものである。丁寧なミガキが施される。131は長頸壺で、丁寧なミガキが施される。132は口径が大きめの長頸壺である。133は肩部に貼り付け竹管文を施す。135・136は大型品で、136は頸部に断面三角形の尖帯を貼り付けており、62と同様に九州地方からの搬入品の可能性がある。137～141は複合口縁壺であ

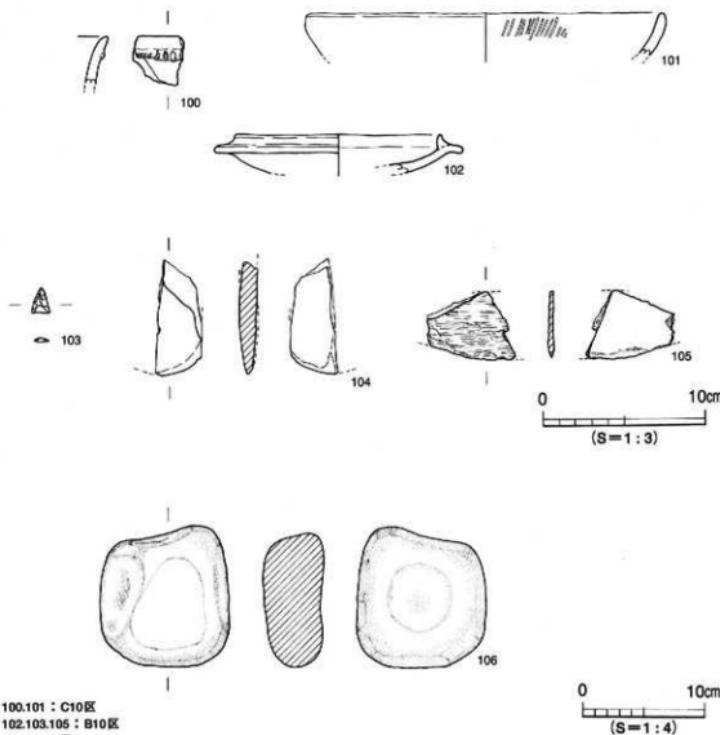


第25図 SR1①層出土遺物実測図 (6)

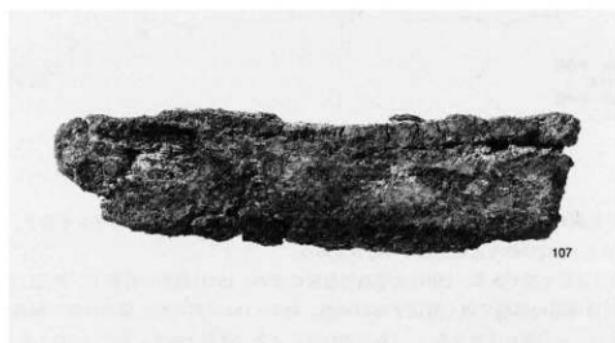
る。137は赤色顔料が塗布されている。141は口縁部が直立し端面に山形の押圧文を施す。142～149は底部片である。142は弥生前期土器の可能性がある。

150～152は鉢形土器である。150は大型品で器壁は厚い。151は球形の体部で、頸部に焼成前穿孔を施す。152は塊形の体部で短く外反する口縁部。153～158は高坏形土器の坏部～脚部片である。153は直線沈線と矢羽根状沈線を施す。158は脚柱部に2条の線刻を施す。胎土は102と似て角閃石を

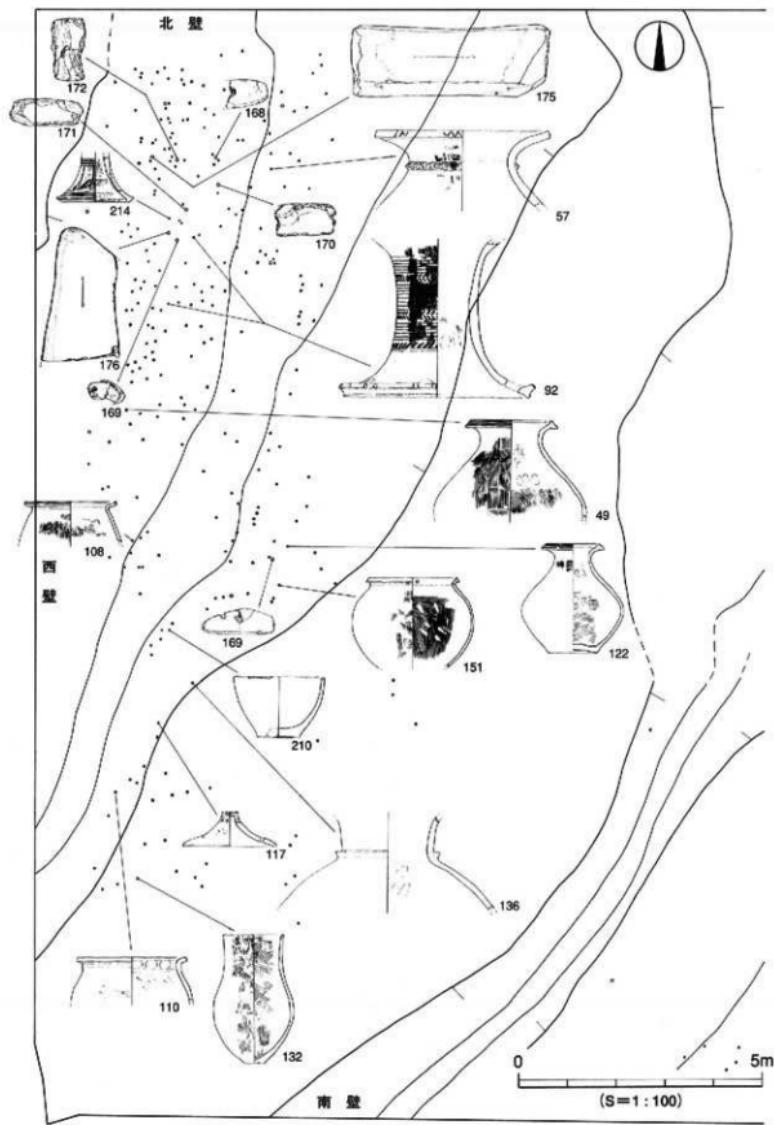
調査の概要



第26図 SR1①層出土遺物実測図(7)

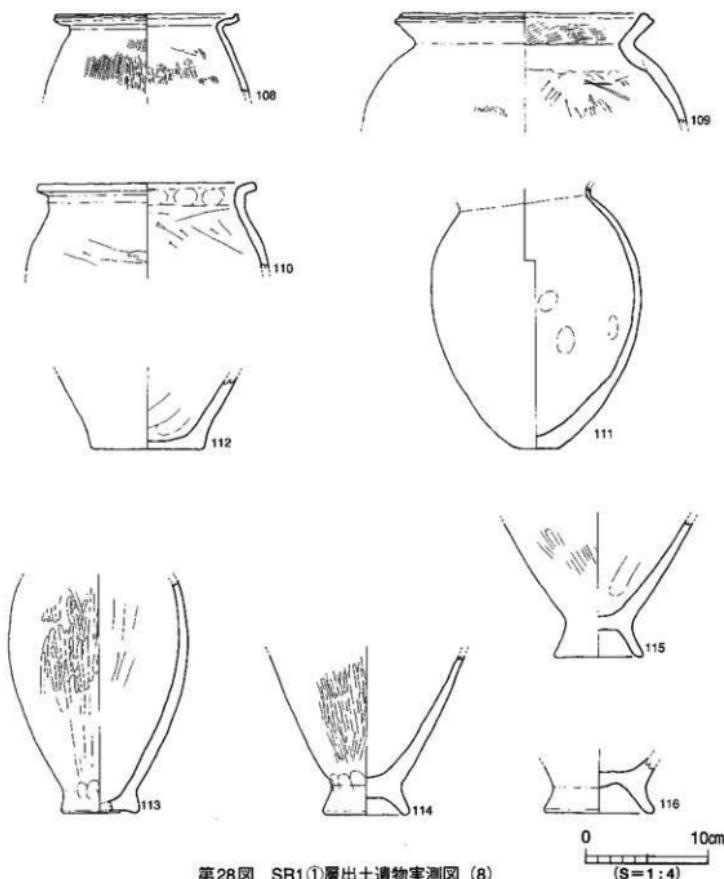


遺構と遺物



第27図 SR1①層（西半部）遺物分布図

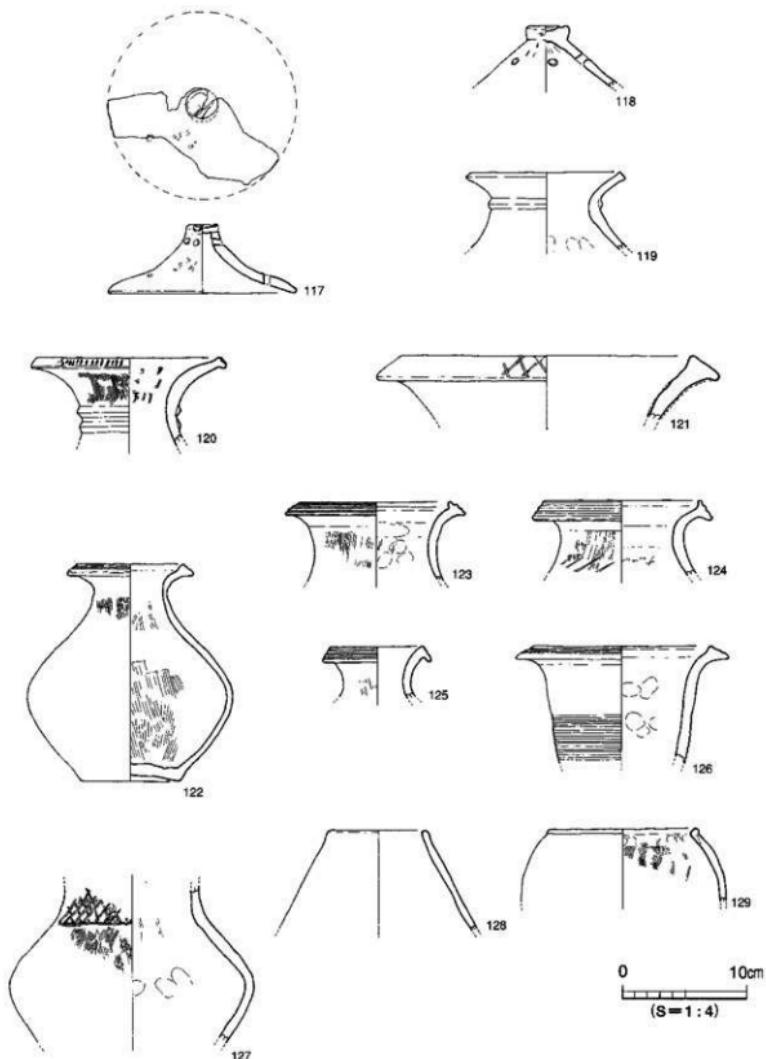
逝遺物の縮尺はS=1:8



第28図 SR1①層出土遺物実測図(8)

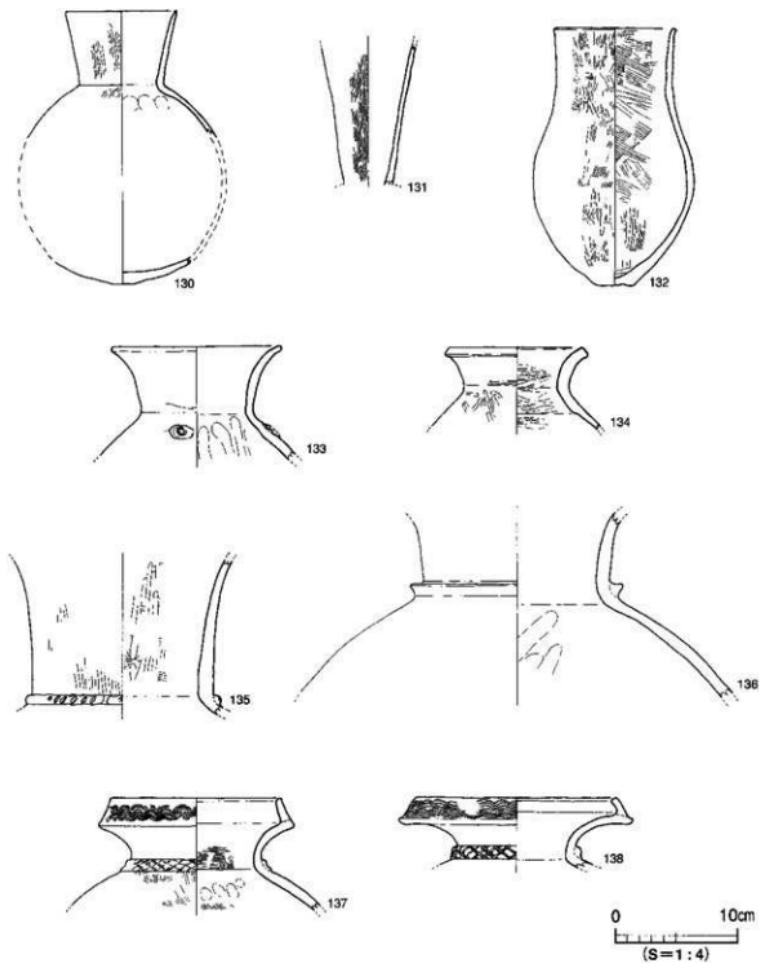
含み、色調は赤褐色を呈す。搬入品の可能性が高い。159は器台形土器である。口縁端部はナデ窪み、柱部上位に円孔を穿つ。160はミニチュア土製品である。鉢形。161は支脚形土器である。上部を丸く仕上げ、中央に円孔を穿つ。162は須恵器である。長頸壺の頸部で、混入品と思われる。163は土製紡錘車である。摩滅が著しい。164はラグビーボール形の土製品で、投弾の可能性がある。

165・166は石礫である。サヌカイト製でいずれも先端部を欠損する。167～170は石庵丁、171は石庵丁未製品である。167は紐掛け用の穿孔を施した際に欠損した可能性が考えられる。受熱の可能性がある。168も穿孔が未完通のため、製作途中で放棄したものと推定される。170はサヌカイト製

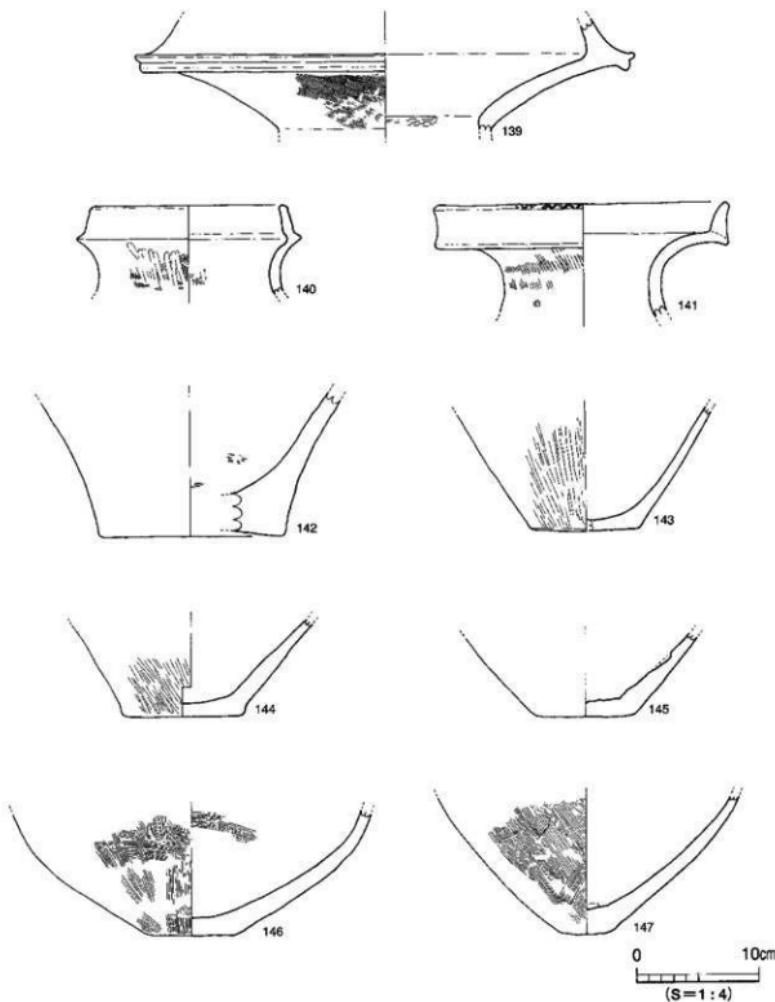


第29図 SR1①層出土遺物実測図 (9)

調査の概要

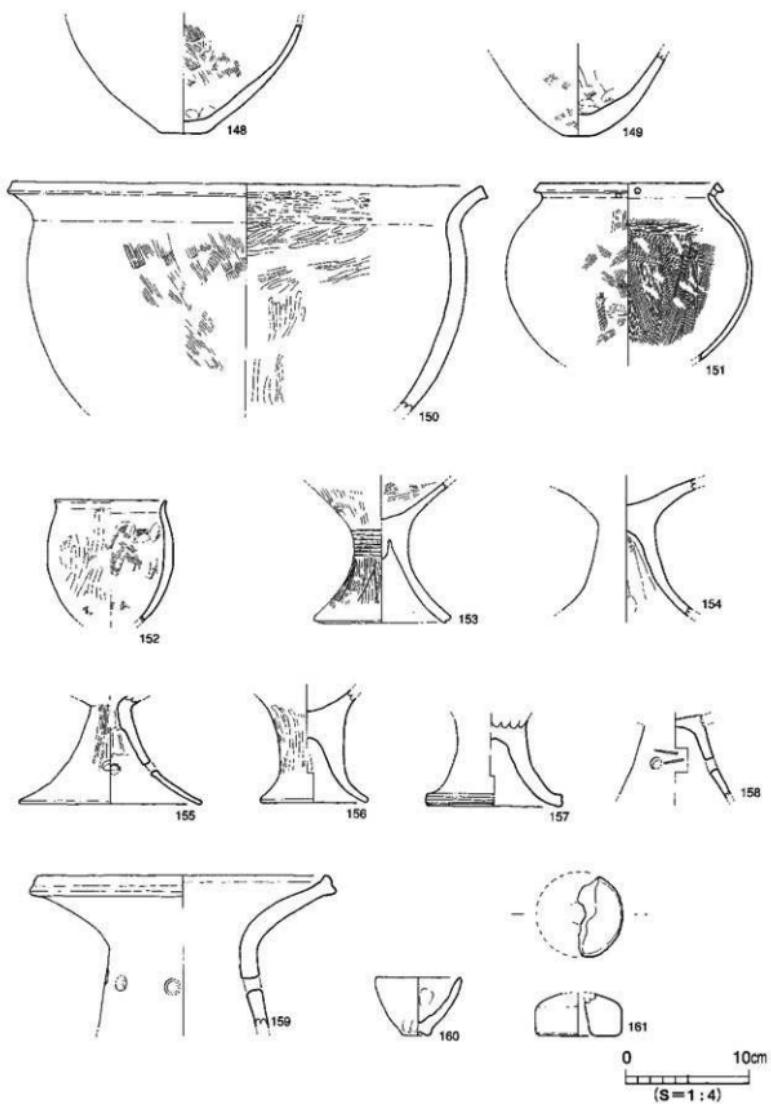


第30図 SR1①層出土遺物実測図 (10)



第31図 SR1①層出土遺物実測図 (11)

調査の概要



第32図 SR1①層出土遺物実測図 (12)

で両側部に打裂による抉りを有する。171は打裂段階で製作を中断したものと考えられ、自然面が隨所に残る。172は扁平片刃石斧、173は石斧未製品である。いずれも自然面が隨所に残るため、製作途中で放棄したものと推定される。174は砥石または鋸型と考えられるものである。受熱の痕跡が残る。175は砥石である。大型品で、不整七面体状を呈し、各面に使用痕が認められる。176～178は磨石である。研磨痕が隨所に残る。

時期 繩文土器や土器類、須恵器などの混入品と思われるものを除き、出土した遺物は弥生時代中期中葉、中期後半～後期初頭、後期後半～末に比定されるものが多くを占める。このことから、S R 1 ①層が埋没したのは弥生時代後期後半～末と推定される。

③ S R 1 ④層（第34図）

S R 1 ④層は、調査区北西隅で検出した黒灰色土層である。北壁と西壁下に重機にてトレーナーを掘削する段階で遺物がまとまりをもって出土したため遺物を取り上げたが、平面プランは確認することができなかった。本報告では S R 1 ④層として報告するが、本来は土器などが廃棄された上器溜まりの可能性もある。調査区全域を覆う第Ⅳ層の下層に約15cm～20cmの幅で堆積している。遺物は弥生土器のほか紡錘車・ミニチュア土製品・石製品が出土しているが、破片資料がほとんどであった。

出土遺物（第36・37図、図版29）

179～192は弥生土器である。179・180は壺形土器である。179は口縁端面に「ハ」の字状文を施す。181～186は底部片である。そのうち181～184は壺形土器、185・186は壺形土器の底部と考えられる。187～189は鉢形土器である。口縁部が外反する187・188と直口口縁の189がある。190・191は高壺形土器である。190は壺部片、191は柱部片である。192は支脚形土器である。受部が「U」字状を呈するものである。193はミニチュア土製品である。ほぼ完品で、直口壺の形状を呈する。194は土製紡錘車で土器の転用品である。195は匙形土製品である。体部は皿状、柄部は断面円形を呈する。

196は石庖丁である。背部も丁寧に研磨を施している。大きく欠損しているため全体形状は不明であるが杏仁形の可能性がある。197は棒状の礫で、石器素材または土器調整用工具と考えられるものである。

時期 出土した遺物は弥生時代中期中葉、後期後半に比定されるものがある。また層位的に S R 1 の上層に位置するため、S R 1 ④層が埋没したのは弥生時代後期後半と推定される。

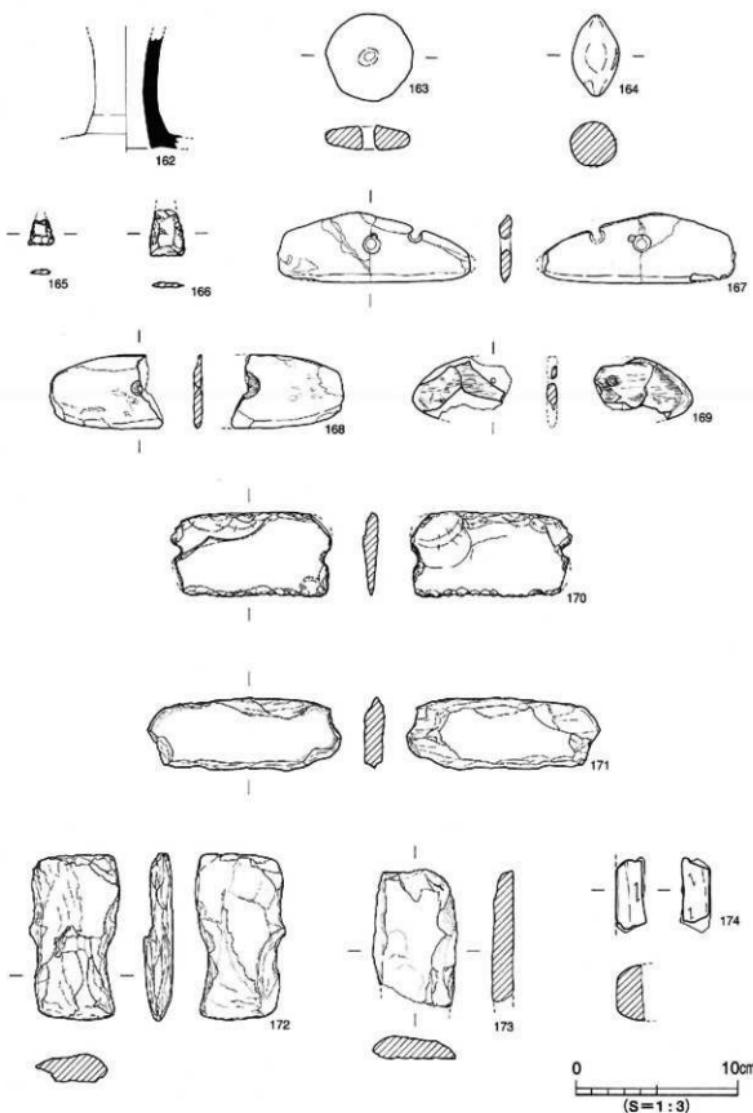
④ S R 1 (層不明)

S R 1 のグリッド出土遺物として取り上げたが、出土層が不明な遺物である。弥生土器や石器がある。

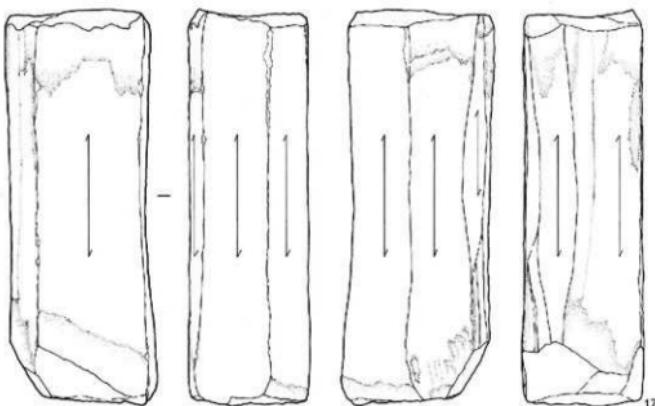
出土遺物（第38図、図版30）

198～202は弥生土器である。198・199は弥生中期後半～後期初頭の壺形土器である。口縁端部に凹線文を施す。200～202は弥生前期の資料である。200は折り曲げ口縁の壺形土器で、頸部下に3条のヘラ描き沈線を施す。内面に研磨痕が残る。201・202は壺形土器で、201は破片資料であるが図上復元した。3条1組の沈線文と山形文を組み合わせる。色調は暗褐色を呈し、丁寧なミガキが施される。202は肩部に3条の沈線文が巡る。

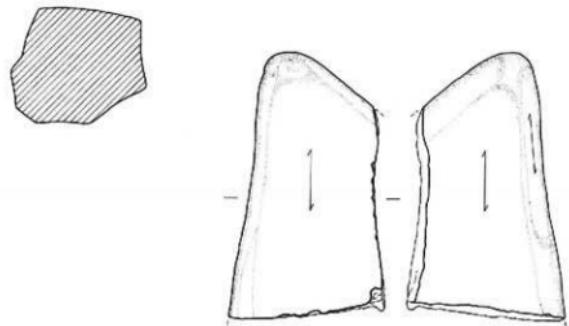
調査の概要



第33図 SR1①層出土遺物実測図 (13)



175



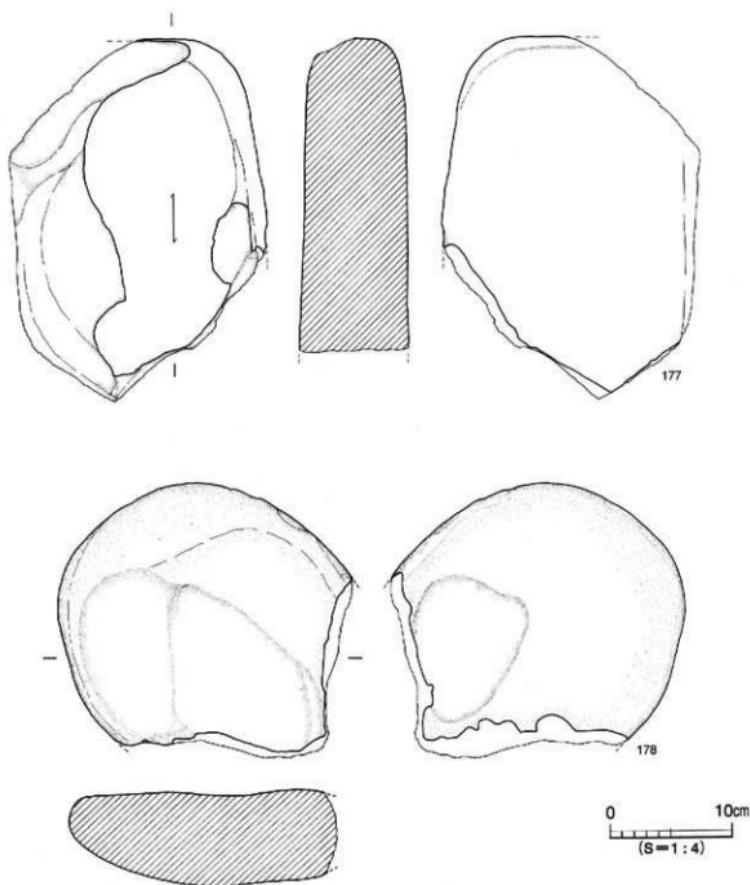
176



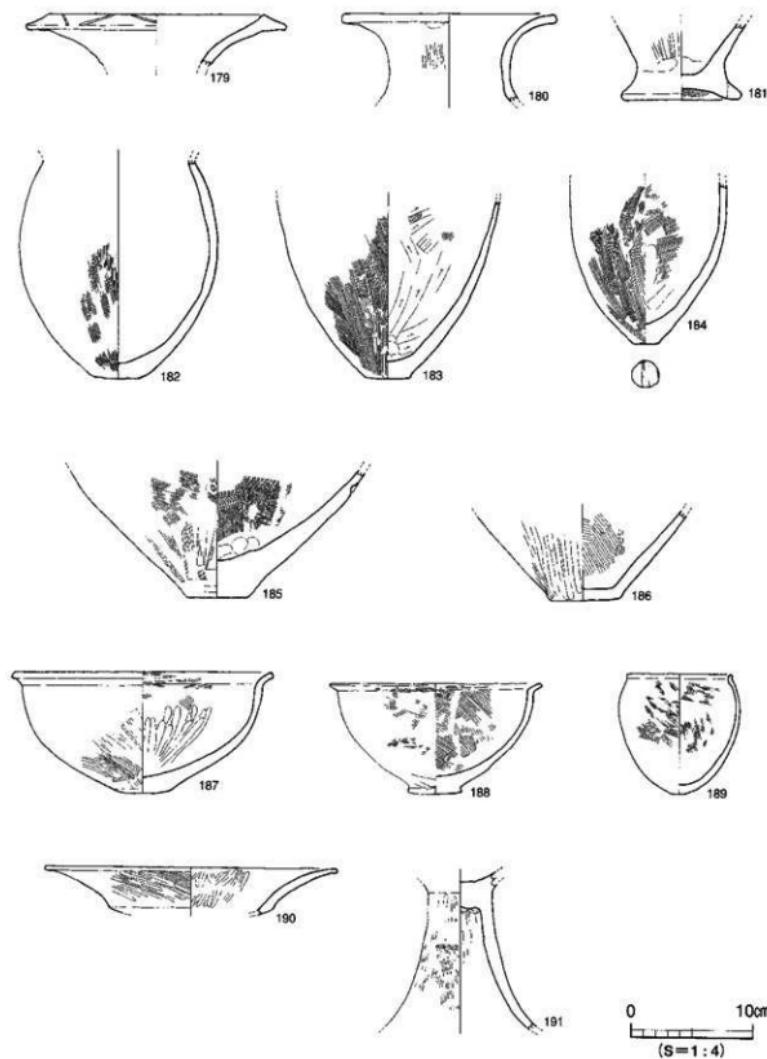
0
10cm
(S=1:4)

第34図 SR1①層出土遺物実測図 (14)

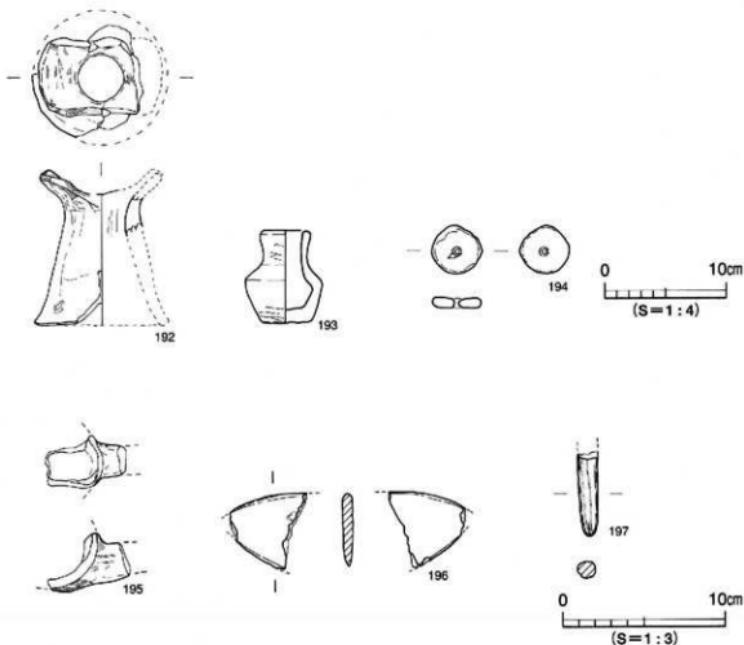
調査の概要



第35図 SR1①層出土遺物実測図 (15)



第36図 SR1④層出土遺物実測図(1)



第37図 SR1④層出土遺物実測図（2）

203は縄文土器である。刻目突帯をもつ深鉢である。

204は石棒である。断面形状は隅丸長方形を呈する。両端を欠損する。205はスクリイバーである。背部は直線状、刃部は弧状を呈する。一部自然面が残存する。

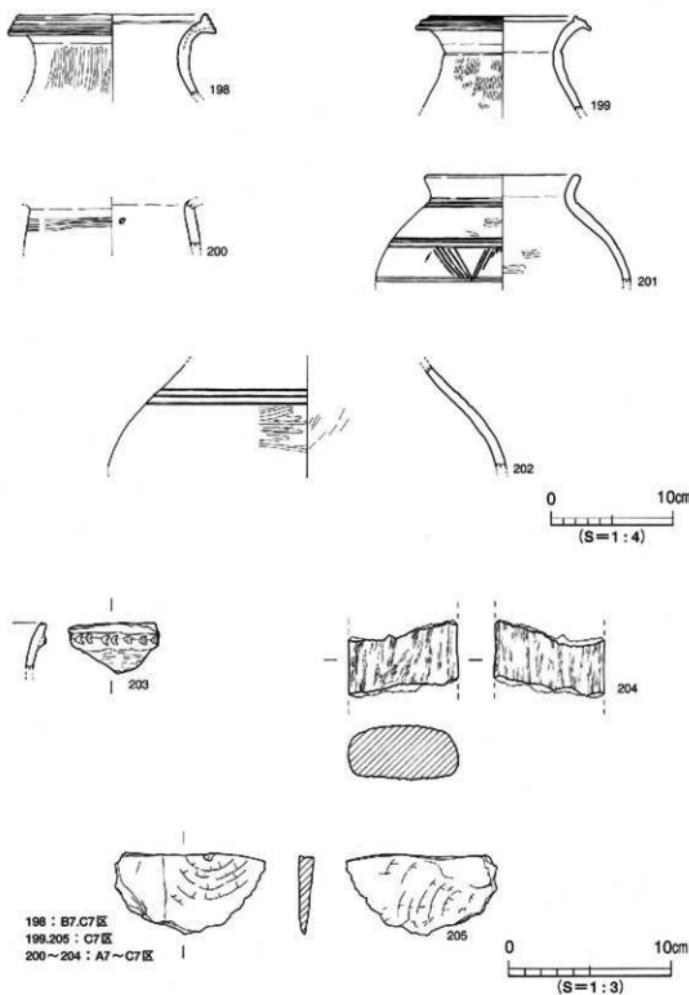
⑤ SR1（層不明・グリッド不明）

S R 1 出土遺物として取り上げたが、グリッドも出土層も不明な遺物である。弥生土器のほか土鍤・石器がある。

出土遺物（第39・40図、図版30）

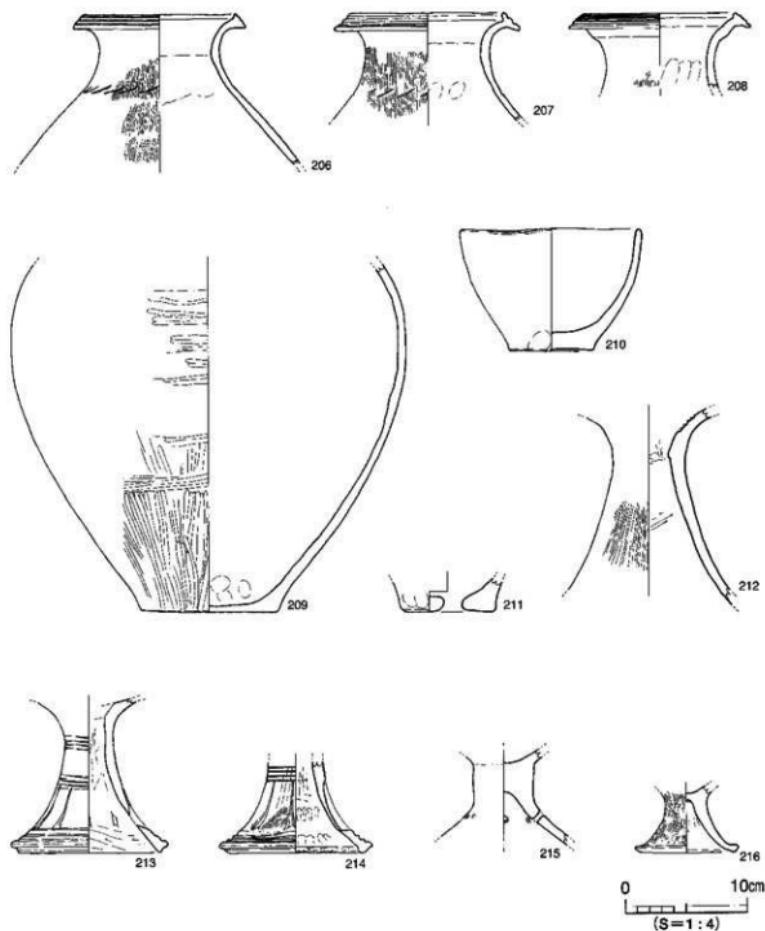
206～217は弥生土器である。206～209は壺形土器である。206～208は口縁端部に凹線文を施し、206・207は肩部に「ノ」の字状押圧を施す。209は大型品である。中期後半～後期初頭。210は鉢形土器で直口口縁である。弥生前期土器の可能性がある。211は壺形土器の底部である。焼成後にやや大きめの円孔を穿つ。212～216は高壺形土器の脚部片である。213・214は沈線文と矢羽根透かしを

遺構と遺物



第38図 SR1出土遺物実測図(1)

調査の概要



第39図 SR1出土遺物実測図 (2)

組み合わせる。215は楕部に円孔を8か所穿つ。吉備地方の影響か? 217は支脚形土器である。体部は中空で「U」字状の受部をもつ。218は土錘である。

219は打製石斧である。下端面が摩滅しており、石鋸として使用した可能性がある。

⑥ SR1（層不明・東西ベルト）

調査終了後にSR1の土層観察用の東西ベルトを一部除去した際に出土した遺物であるが、出土層が不明な遺物である。弥生土器が出土している。

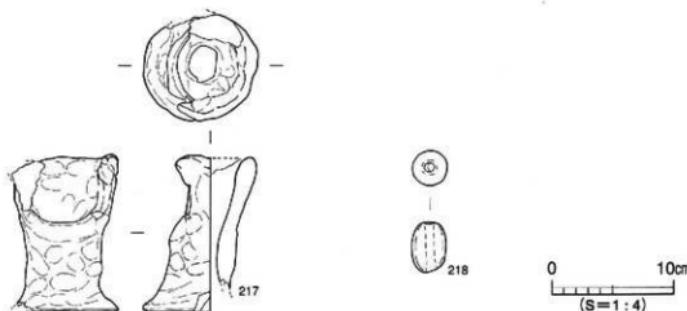
出土遺物（第41図）

220～226は弥生土器である。220は壺形土器である。口縁端部に凹線文、頸部に幅広の刻目突帯文が巡る。221～223は壺形土器である。222・223は複合口縁壺である。224・225は底部片であり、224は壺形土器、225は鉢形土器と考えられる。226は高壺形土器である。

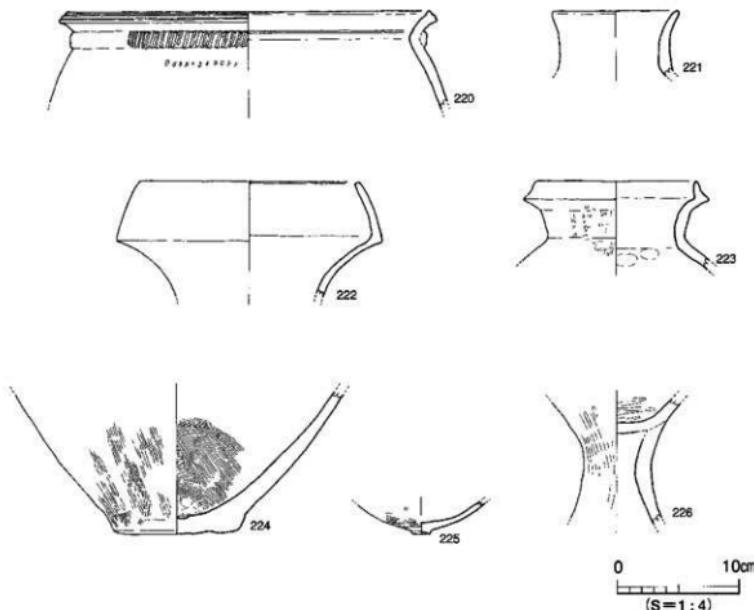
2) 土坑（SK）

SK25（第42図）

調査区東寄りD3区に位置し、SX2の南に位置する。近世遺構面の調査終了後に検出した遺構である。平面形態は円形を呈し、検出規模は直径90cm、深さ16cmを測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は黒褐色土である。遺物は弥生土器と石鏃が出土した。石鏃228は遺構中央、埋土中位にて出土した。



第40図 SR1出土遺物実測図（3）



第41図 SR1出土遺物実測図 (4)

出土遺物（第42図）

227は弥生土器の壺形土器である。上げ底の底部である。228は石縄である。サスカイト製の平基無茎式である。

時期 近接しているS X 2と同埋土であるため、遺構が埋没したのは弥生時代後期初頭と考えられる。

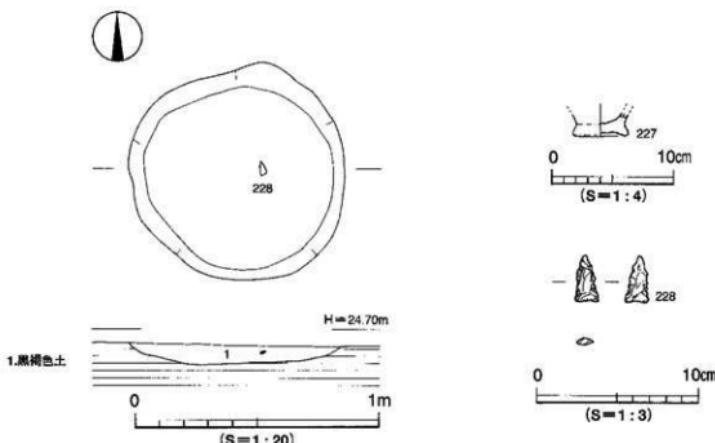
SK 48（第43図、図版31）

調査区北西寄りのB 10区に位置し、S R 1⑥層を掘り下げ途中に検出した。平面形態は隅丸方形を呈し、検出規模は長軸62cm、短軸54cm、深さ26cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、底面はほぼ平坦である。埋土は暗灰色粘質土（細砂混じる）である。遺物は弥生土器が出土した。完形品の弥生土器229は口縁部を上にして若干斜位で検出された。

出土遺物（第43図、図版31）

229～231は弥生土器の壺形土器である。229は完形品で短く立ち上がる口縁部に倒卵形の副部である。土坑内に据え置かれたように出土した。230は底部片である。231は口縁端部に凹線文を施す。

時期 229・230は後期後半、231は後期初頭の遺物と考えられることから、遺構が埋没したのは弥



第42図 SK25測量図、出土遺物実測図

生時代後期後半と推定される。

S K 49（第44図）

調査区西寄りの南壁トレチに接するE 8区に位置し、S R 1調査後に検出した。南壁トレチの崩落により南部を欠く。平面形態は隅丸方形を呈し、検出規模は長軸100cm、短軸残存86cm、深さ60cmを測る。断面形態は舟底状を呈し、埋土は上層より1層黒灰色粘質土、2層黄色粘質土、3層黒灰色粘質土である。出土遺物は、弥生土器が出土した。

出土遺物（第44図）

232～234は弥生土器である。232・233は底部片である。232は壺形土器、233は壺形土器と考えられる。234は鉢形土器の口縁部である。

時期 232・233は中期後半、234は後期と考えられることから、遺構が埋没したのは弥生時代中期後半以降と推定される。

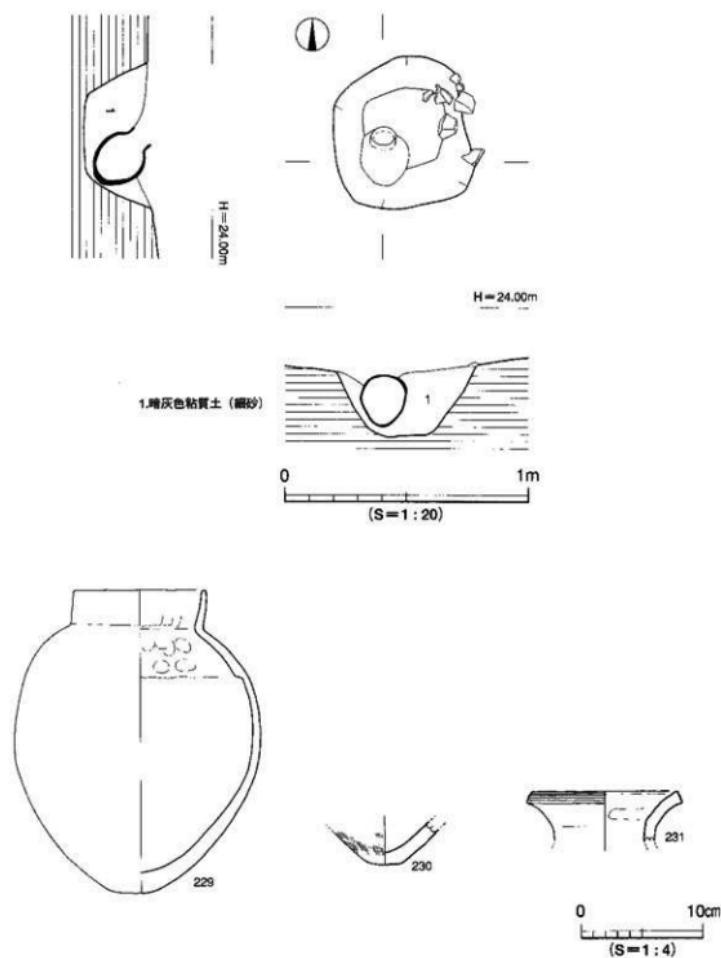
S K 50（第45図）

調査区北西寄りのB 10区に位置し、S R 1調査後に検出した。平面形態は梢円形を呈し、検出規模は長軸82cm、短軸74cm、深さ30cmを測る。断面形態は舟底状を呈し、埋土は上層より1層黒色粘質土、2層黄色粘質土である。出土遺物は、主に2層中から弥生土器やミニチュア土製品がまとまって出土した。

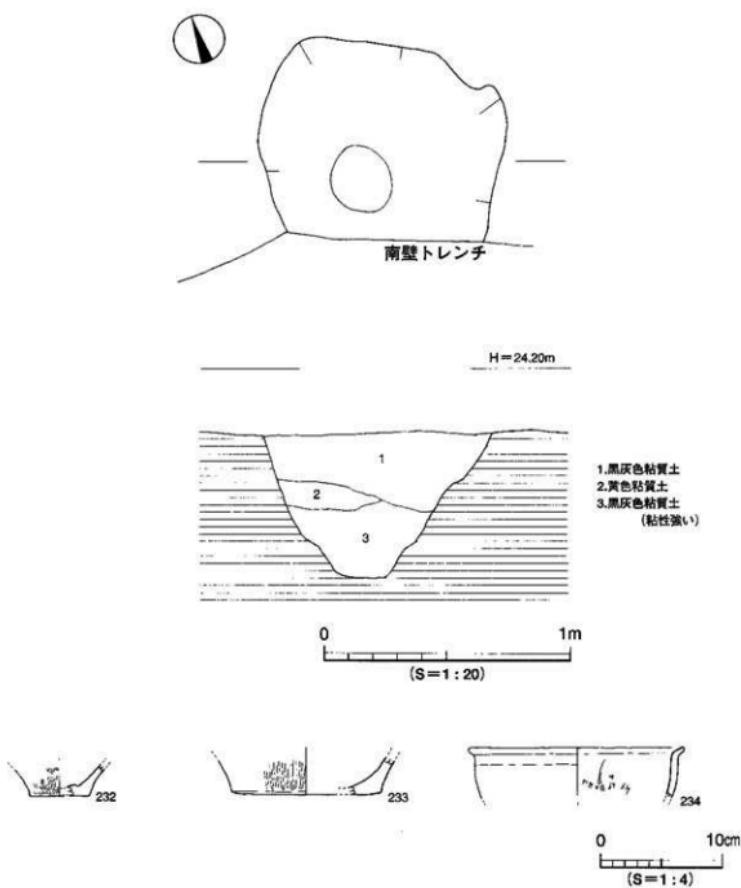
出土遺物（第45・46図、図版31）

235～244は弥生土器である。235～238は壺形土器である。235・236が口縁部、237・238が底部片である。236は口縁端部に凹線文を施し、頸部に幅広の突帯に木口押圧を施す。239・240は壺形土

調査の概要

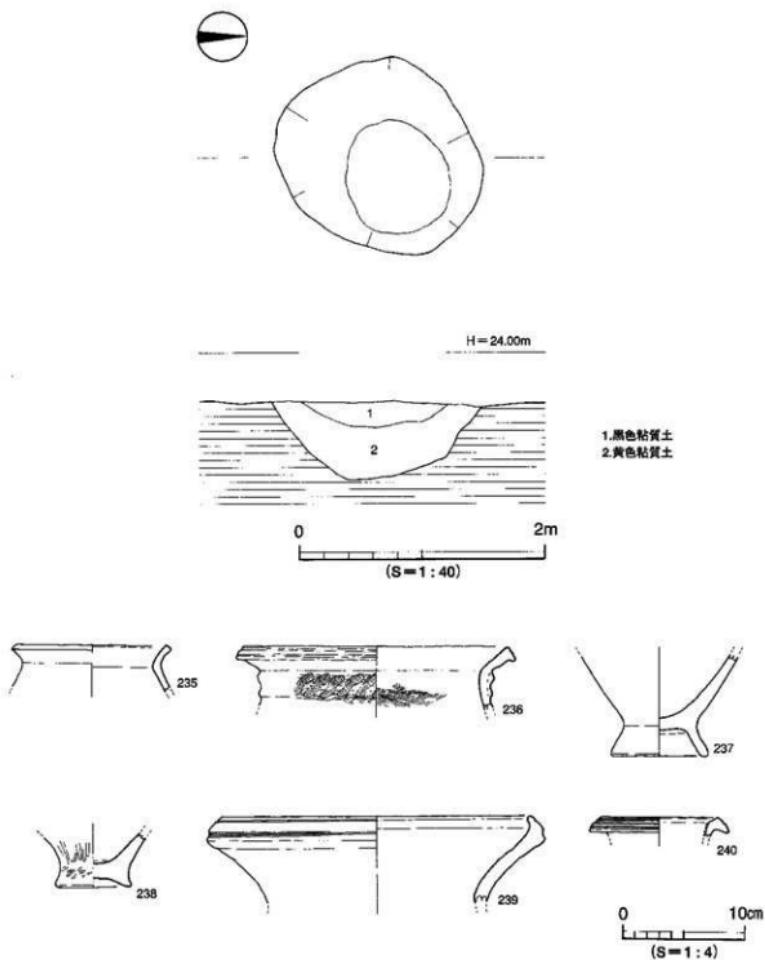


第43図 SK48測量図、出土遺物実測図

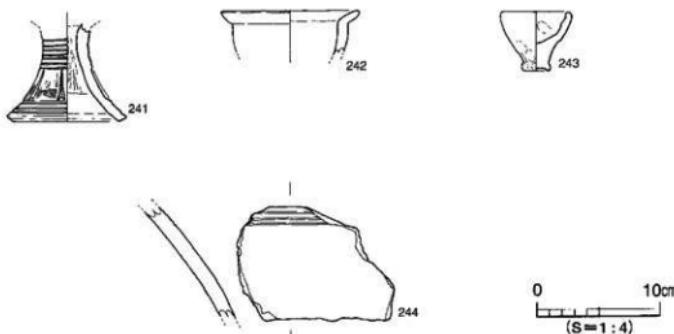


第44図 SK49測量図、出土遺物実測図

調査の概要



第45図 SK50測量図、出土遺物実測図（1）



第46図 SK50出土物実測図（2）

器の口縁部である。口縁端部に凹線文を施す。241は高壺形土器の脚部である。未完窓の欠羽根透かしと沈線文の組み合わせを施す。242は鉢形土器である。口縁部は外反する。243はミニチュア上製品である。鉢形。244は弥生前期の資料である。器壁の厚い大型壺の肩～胴部に3条の沈線文を施す。混入品と思われる。

時期 遺構が埋没したのは混入品を除く出土遺物より弥生時代中期後半と推定される。

S K 52（第47図）

調査区南西隅のE 11区に位置し、S R 1 調査後に検出した。平面形態は隅丸方形を呈し、検出規模は長軸68cm、短軸62cm、深さ18cm～22cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、埋土は上層より1層黒灰色粘質土、2層暗黄色粘質土、3層暗褐色土、4層黒色粘質土、5層暗黃灰色砂質土である。4層中に弥生土器のほか直徑2cm～10cmの自然縛が散在して検出された。

出土遺物（第47図、図版31）

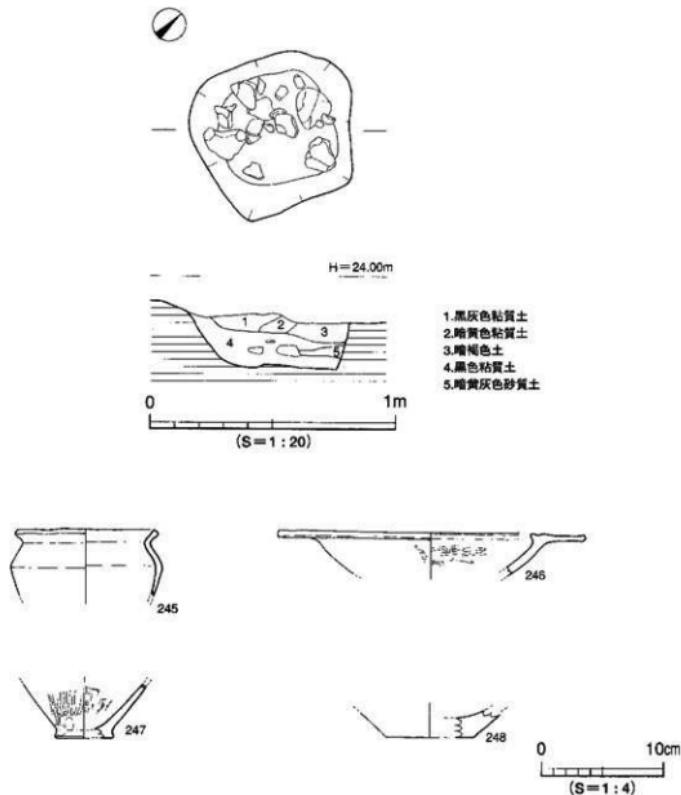
245～248は弥生土器である。245は鉢形土器である。やや肩の張る肩部～胴部である。246は高壺形土器である。鋸先状口縁で、口縁部内面に突出部をもつ。伊予東部からの影響が考えられる。247・248は底部片で、247は臺形土器、248は壺形土器と考えられる。

時期 245・246は弥生時代中期中葉に比定される遺物であるため、遺構が埋没したのはこの時期以降と推定される。

S K 53（第48図）

調査区西部のC 10・C 11区に位置し、S D 3 調査後に溝底で検出した。平面形態は梢円形を呈し、検出規模は長軸72cm、短軸54cm、深さ4cm～6cmを測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は暗褐色土である。S D 3 により上部を削平されていたため、遺構の残存状況は良好ではない。遺物は出土していない。

調査の概要



第47図 SK52測量図、出土遺物実測図

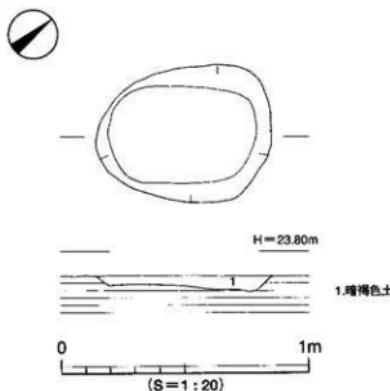
時期 SK52-3層と同埋土であるため、造構が埋没したのは弥生時代中期中葉以降と推定される。

SK54（第49図）

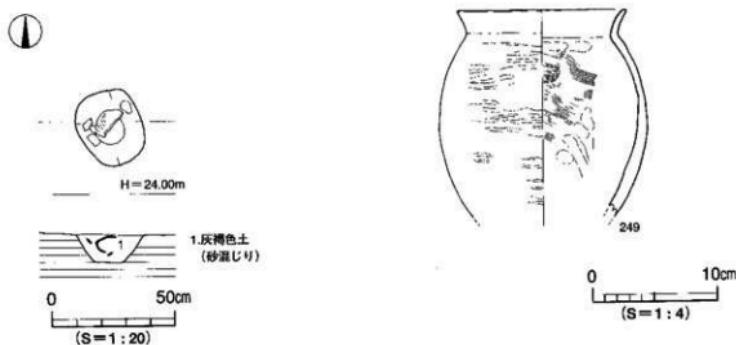
調査区西部のD9区に位置し、SR1調査後に検出された。遺構規模が小さいため、当初SPとして調査を行っていたが、整理作業中に変更しSKとして報告する。平面形態は橢円形を呈し、検出規模は長軸32cm、短軸25cm、深さ11cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、埋土は灰褐色土（砂混じり）である。遺物は弥生上器が出土している。弥生上器249は口縁部を下にして出土した。

出土遺物（第49図）

249は弥生土器の壺形土器である。胴部最大径が胴中位に位置する。胴部外面にはタタキ痕跡を明瞭に残す。



第48図 SK53測量図



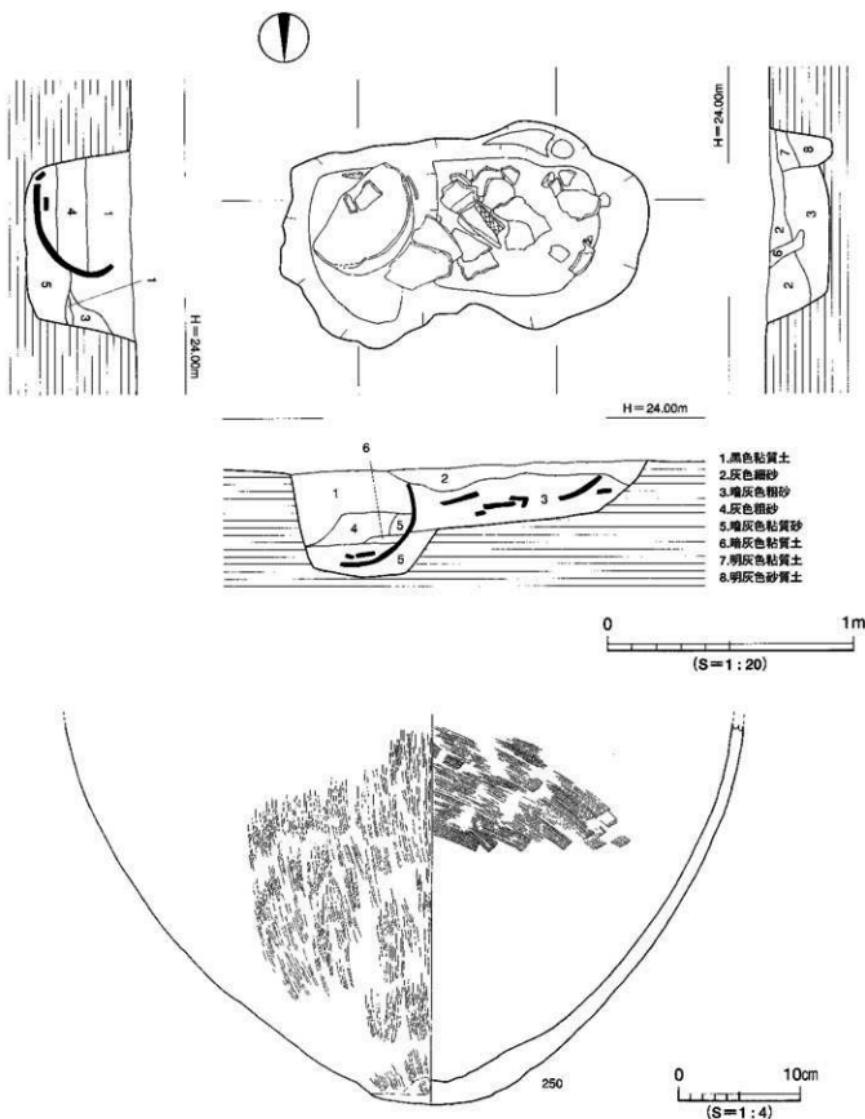
第49図 SK54測量図、出土遺物実測図

時期 出土遺物より遺構が埋没したのは弥生時代後期後半と推定される。このため、SR1調査後に検出したが、本来はSR1①層と同時期頃に埋没したものと考えられる。

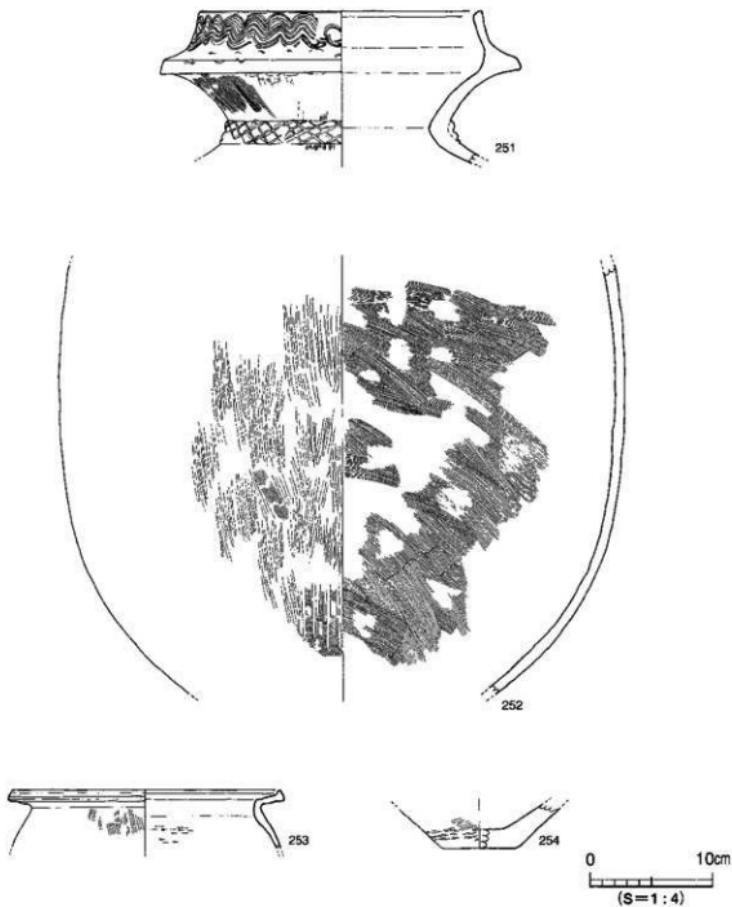
S K 55 (第50図、図版10)

調査区西部のC8・C9区に位置し、SD5の西側に位置する。SR1調査後に検出した。平面形態は東西に長く不整形であり、検出規模は長軸1.44m、短軸0.72m、深さ0.21m～0.44mを測る。断面形態は東側が深い階段状を呈し、床面は比較的平坦である。壁の立ち上がりは西側が緩やかである以外三方は急傾斜である。埋土は1層黒色粘質土、2層灰色細砂、3層暗灰色粗砂、4層灰色

調査の概要



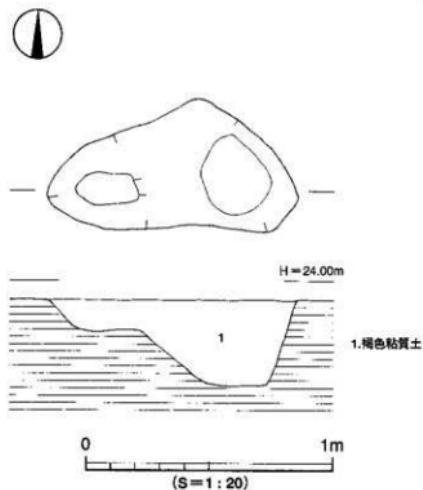
第50図 SK55測量図、出土遺物実測図（1）



第51図 SK55出土遺物実測図 (2)

粗砂、5層暗灰色粘質砂、6層暗灰色粘質土、7層明灰色粘質土、8層明灰色砂質土である。遺物は弥生土器が出土している。遺構東側で250が出土したほか、西側中央付近で251が、西側全体に散らばった状態で252が出土した。

本遺構は遺物の形態や遺物などから合口壺棺墓と考えられる。通常斜位で埋設する壺棺墓は、床面が深い側に下棺、浅い側に別個体として上棺を覆い被せて埋設することが多いが、本遺構の場合は床面が深い東側で250の胴部を東、底部を西に向けて検出している。そのためS R 1の流入などに



第52図 SK56測量図

より埋設後に動かされている可能性が考えられる。

出土遺物（第50・51図、図版31）

250～254は弥生土器である。250～252・254は壺形土器である。250は大型壺の胴部～底部で、やや突出する不安定な底部である。胴部断面が摩滅している。251は複合口縁壺の口縁部～頸部で、拡張部に横描波状文を施し、頸部には斜格子目文の貼り付け突帯が巡る。252は大型壺の胴部である。253は壺形土器である。口縁端部に2条の凹線文を施す。254は壺形土器の底部である。253・254は混入品と考えられる。

時期 混入品を除き、出土遺物より遺構を埋設したのは弥生時代後期後半と推定される。このため本遺構はSR1調査後に検出したが、本来はSR1①層と同時期かその前後に埋設し、その後SR1が流入したものと推定される。

SK56（第52図）

調査区西部中央のC9区に位置し、東西ベルトに接する。SR1調査後に検出した。平面形態は東西に長い不整形である。検出規模は長軸100cm、短軸52cm、深さ15cm～37cmを測る。断面形態は東側に深い2段掘りの逆台形状を呈し、埋土は褐色粘質土である。遺物は出土していない。

時期 遺物が出士していないため埋土で判断すると、SK54と同系色の埋土であるため遺構が埋没したのは弥生時代後期後半と推定される。このため本遺構はSR1調査後に検出したが、本来はSR1①層と同時期かその前後に埋没したものと推定される。

SK 57 (第53図)

調査区西部北寄りのB 8区に位置し、SK 58を切る。SR 1調査後に検出した。平面形態は隅丸長方形を呈する。検出規模は長軸100cm、短軸50cm、深さ21cmを測る。断面形態は北側に平坦面をもつ逆台形状を呈し、埋土は上層より1層暗灰色粘質土、2層暗灰色砂質土、3層黄色粘質土、4層灰色砂質土である。遺物は石器が出土している。

出土遺物 (第53図)

255は台石である。完形品。敲打による窪み及び底面の使用痕が顯著に残る。

時期 SR 55と同系色の埋土であるため、遺構が埋没したのは弥生時代後期後半と推定される。このため本遺構はSR 1調査後に検出したが、本来はSR 1①層と同時期かその前後に埋没したものと推定される。

SK 58 (第53図)

調査区西部北寄りのB 8区に位置し、SK 57に切られる。SR 1調査後に検出した。平面形態は隅丸長方形を呈する。検出規模は長軸96cm、推定短軸78cm、深さ40cmを測る。断面形態は舟底状を呈する。埋土は黒色粘質土である。遺物は出土していない。

時期 SR 1⑥層と同系色の埋土であるため、遺構が埋没したのは弥生時代中期後半～後期初頭と推定される。このため本遺構はSR 1調査後に検出したが、SK 57と同様に本来はSR 1⑥層と同時期かその前後に埋没したものと推定される。

SK 59 (第54図、図版9)

調査区西部北寄りのB 9区に位置し、試掘トレンチに切られる。SR 1調査後に検出した。SK 54と同様に遺構規模が小さい。SR 1調査後に複合口縁壺256が口縁端部を下にしてほぼ水平位置で出土したため取り上げてさらに調査を行うと、遺構内より底部258などが出土した。平面形態は楕円形を呈する。検出規模は長軸35cm、短軸28cm、深さ20cm～27cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、底面はほぼ平坦である。埋土は上層より1層灰色粗砂、2層黒色粘質土である。遺物は弥生土器のほか石器が出土している。

出土遺物 (第54図、図版31)

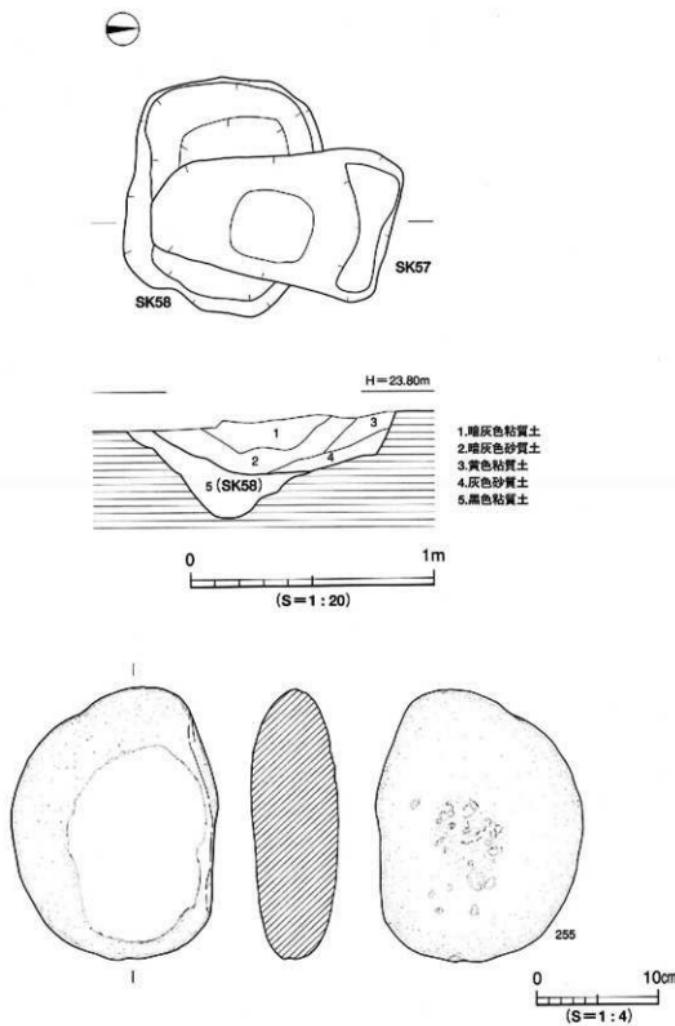
256～258は弥生土器である。256・258は壺形土器である。同一個体の可能性があり、256が複合口縁壺の口縁部、258が底部と考えられる。口縁部拡張部に櫛模波状文、端面に半裁竹管文を施す。半裁竹管文は10枚単位で向きを変え交互に施す。頸部には斜格子目文の貼り付け突帯が巡る。257は壺形土器の胴部片である。259は磨石である。

時期 出土遺物より遺構が埋没したのは弥生時代後期後半と推定される。このため本遺構はSR 1調査後に検出したが、本来はSR 1①層と同時期かその前後に埋没したものと推定される。

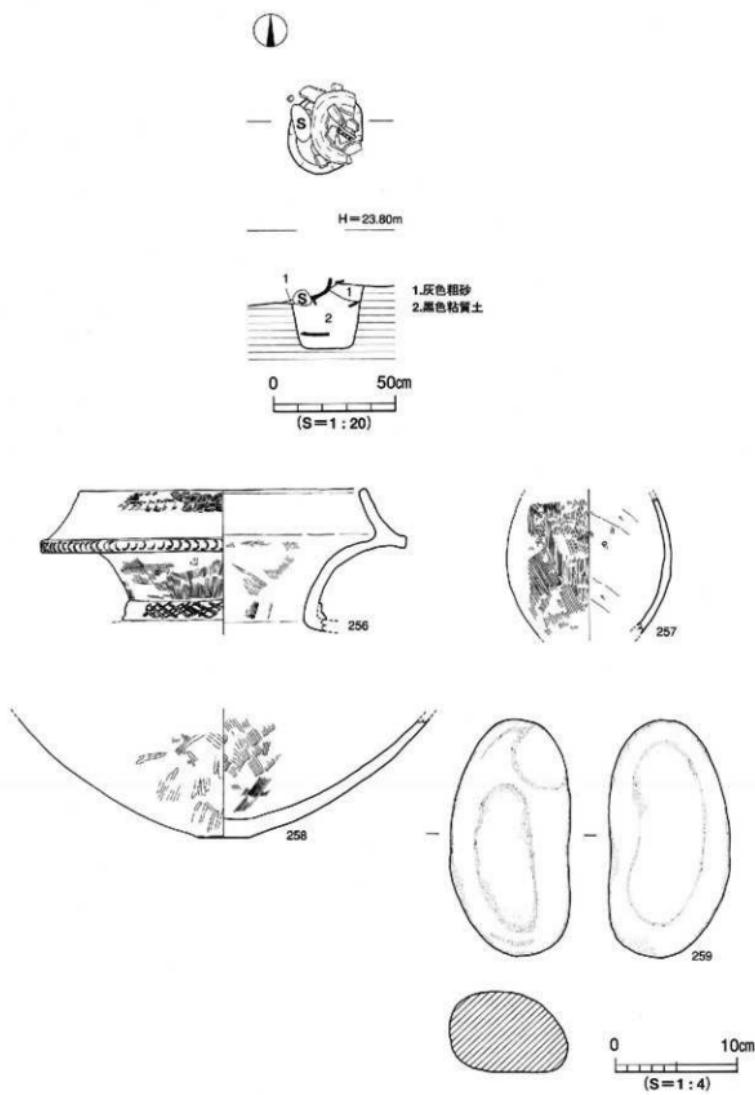
SK 60 (第55図)

調査区西部北寄りのB 9区に位置し、SK 59に近接する。SR 1調査後に検出した。平面形態は楕円形を呈する。検出規模は長軸66cm、短軸45cm、深さ26cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、底面はほぼ平坦な面をなす。埋土は灰色微砂質土である。遺物は弥生土器が出土している。

調査の概要

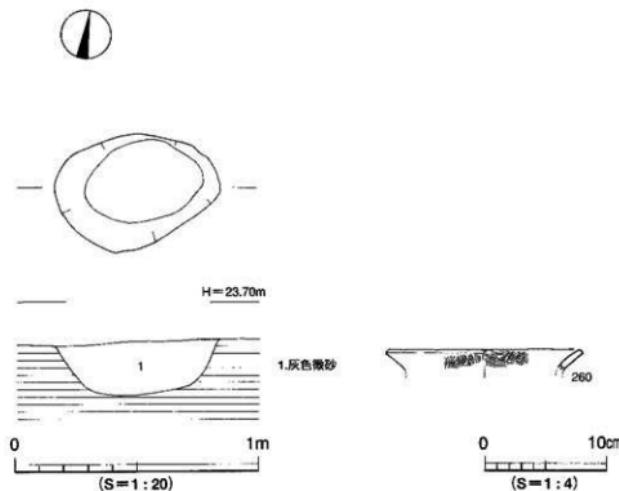


第53図 SK57・58測量図, SK57出土遺物実測図

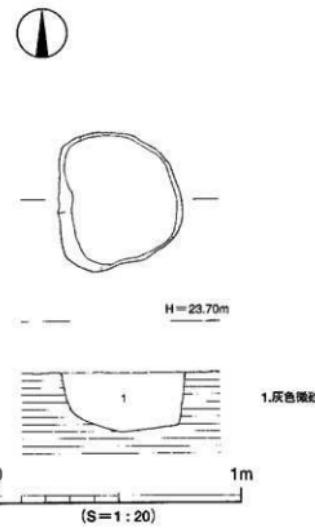


第54図 SK59測量図、出土遺物実測図

調査の概要



第55図 SK60測量図、出土遺物実測図



第56図 SK61測量図

出土遺物（第55図）

260は弥生土器である。壺形土器の口縁部片である。

時期 出土遺物が少量、小片のため確定はできないが、260の時期から判断すると遺構が埋没したのは弥生時代後期後半と推定される。このため本遺構はSR1調査後に検出したが、本来はSR1①層と同時期かその前後に埋没したものと推定される。

SK61（第56図）

調査区西部北寄りのA10区に位置し、SK48に近接する。SR1調査後に検出した。平面形態は楕円形を呈する。検出規模は長軸56cm、短軸48cm、深さ17cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、埋土は灰色微砂質土である。遺物は出土していない。

時期 SK60と同埋土であるため、遺構が埋没したのは弥生時代後期後半と推定される。SK60と同様に本遺構はSR1調査後に検出したが、本来はSR1①層と同時期かその前後に埋没したものと推定される。

3) 溝（SD）

SD4（第57図）

調査区西部のB9～E11区に位置し、SR1調査後に検出した。SX9を切り、SD3とSK50に切られる。検出した範囲では、平面形態はS字状を呈する。検出規模は長さ17.80m、幅0.60m～2.50m、深さ0.20m～0.27mを測る。南西側は調査区外に継ぎ、北東側はSR1調査途中には確認することができなかった。断面形態は逆台形状を呈し、埋土は上層より1層黒色粘質土、2層暗灰色砂質土、3層灰色粗砂質土、4層灰色砂質土、5層暗灰色砂質土である。遺物は弥生土器片が数点出土しているほか、石庖丁が出土している。

出土遺物（第58図）

261～264は弥生土器である。261・262は壺形土器の口縁部片である。稜をもって外反する。263は高壺形土器の脚部片である。円孔が2か所残存しており、本来は3方向あったものと思われる。264は壺形土器の底部である。265は石庖丁の未製品である。

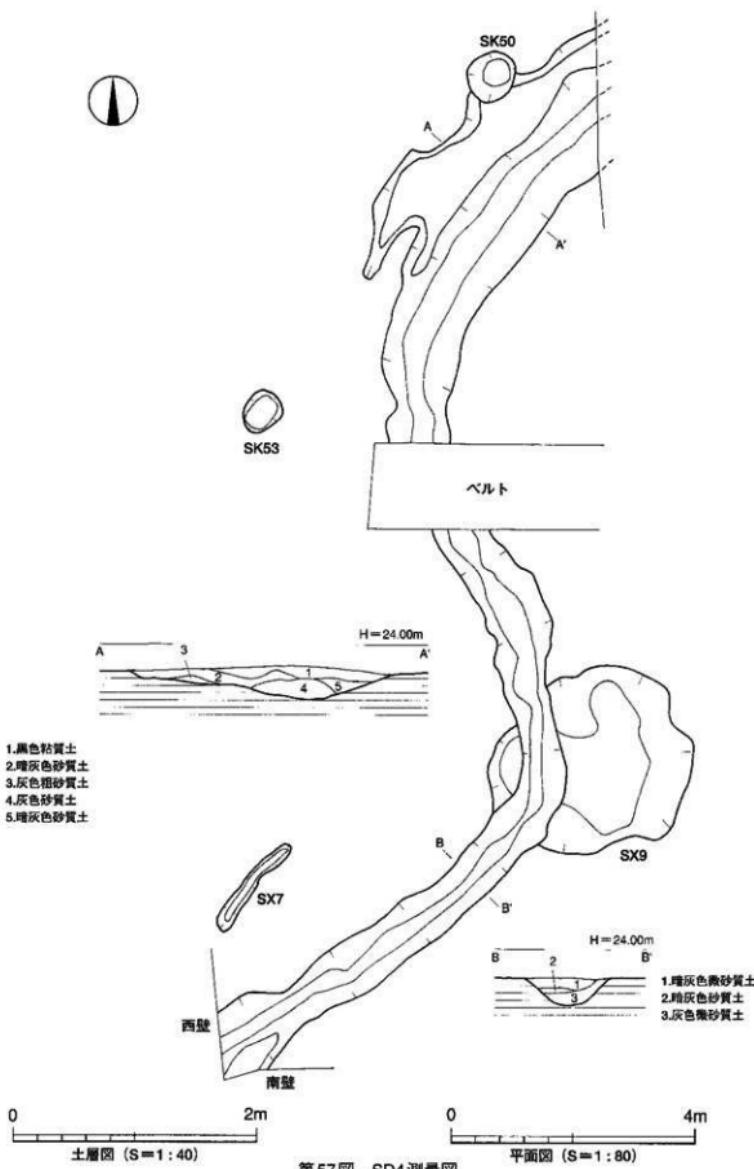
時期 SR1調査後に検出し、またSK50に切られていることから、遺構が埋没したのは弥生時代中期後半～後期初頭以前と推定される。

SD5（第59図）

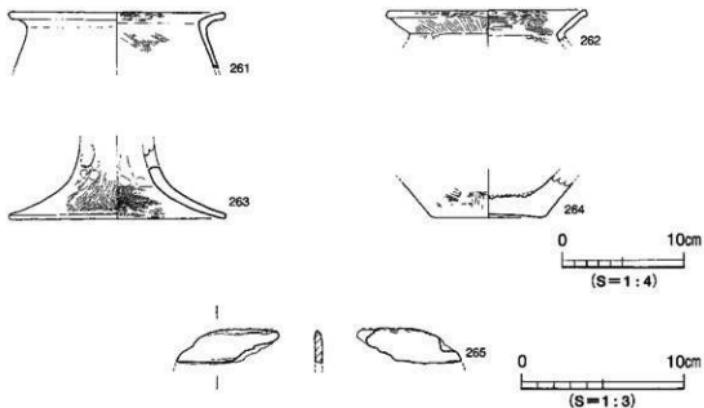
調査区西部のB8～E8区に位置し、SR1調査後に検出した。南北方向に細長くほぼ直線的に続く溝であるが、残存状態が悪く部分的に途切れで検出した。検出規模は長さ13.70m、幅0.18m～0.40m、深さ0.10m～0.18mを測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は黒色粘質土である。遺物は出土していない。

時期 SR1⑥層と同埋土であるため弥生時代中期後半～後期初頭に埋没したものと考えられる。

調査の概要



第57図 SD4測量図



第58図 SD4出土遺物実測図

4) 性格不明遺構 (S X)

SX 1 (第60・61図、図版11・12)

調査区中央東寄りのB 3・B 4区に位置する。平面形態は不整形を呈する。検出規模は長軸3.50m、短軸3.05m、深さ0.76mを呈する。断面形態は逆台形状を呈し、底面はほぼ平坦な面をなす。

作業工程は、掘り下げに先立ち土層観察用として遺構中央に「十」字のベルトを南北・東西方向に設定した。その後、ベルト沿いに先行トレーナーを掘り、土層観察を行った。その結果をもとに、各グリッドで水平に順次掘り下げを行った。その結果、弥生土器の比較的大きい破片がまとまって出土し、特に北東と南西グリッドに完形品に近い遺物が集中して出土した。遺物の取り上げは、遺物が折り重なって出土していたため2~3度に分けて遺物出土状況の平面図とレベルを記録しながら行った。

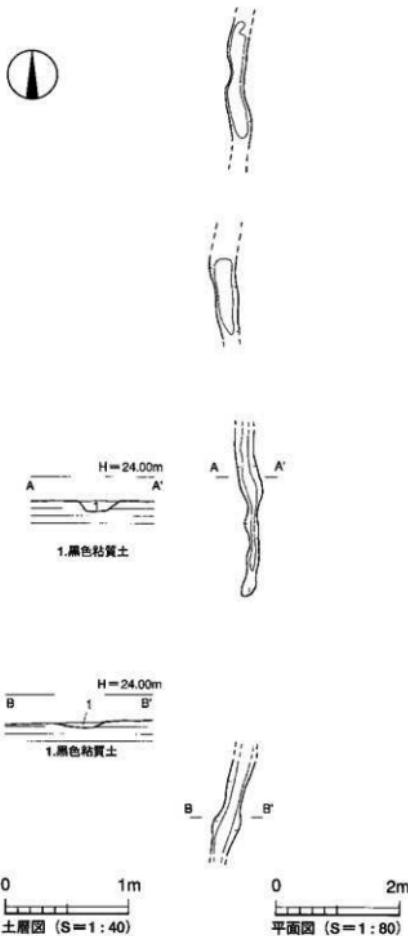
埋土は上層より1層暗灰褐色土、2層暗灰色砂質土、3層灰色粗砂質土、4層黄色砂質土、5層明灰色粘質土、6層褐色粘質土、7層黄色土、8層黄灰色土、9層黄灰色砂質土、10層灰色砂礫である。出土遺物は弥生土器があり、完形品に近い個体が多い。

なお、SX 1検出時に南東-北東方向に溝状に遺物が出土する地点があり、同一の遺構か別の遺構か判断ができなかった。埋土の切り合ひ関係も明確ではなく、その際の判断としてSX 1に関する構造であると推定して溝状遺構をSX 1-1、SX 1-2、SX 1-3と呼称した上で掘り下げを行った。その結果、SX 1、SX 1-1、SX 1-2、SX 1-3はほぼ同時期であり、遺構の平面形態などからSX 1-1、SX 1-2、SX 1-3は同一遺構と推定されるものの、それらとSX 1とは別遺構と推定される。報告は、調査時の呼称をそのまま採用しSX 1、SX 1-1、SX 1-2、SX 1-3の順に記述する。

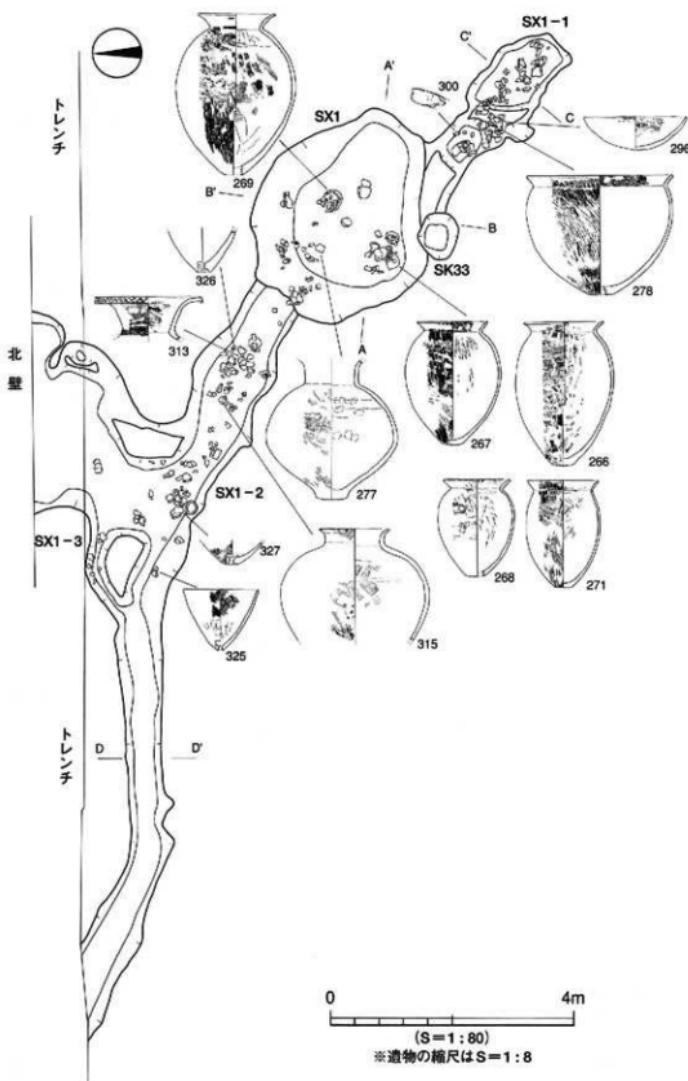
出土遺物 (第62・63図、図版32・33)

266~280は弥生土器である。266~273は壺形土器である。器形は長胴で、胴部最大径が胴上位に位置するものと中位にあるものとがある。また法量により大型品と中型品・小型品にさらに分類される。

調査の概要

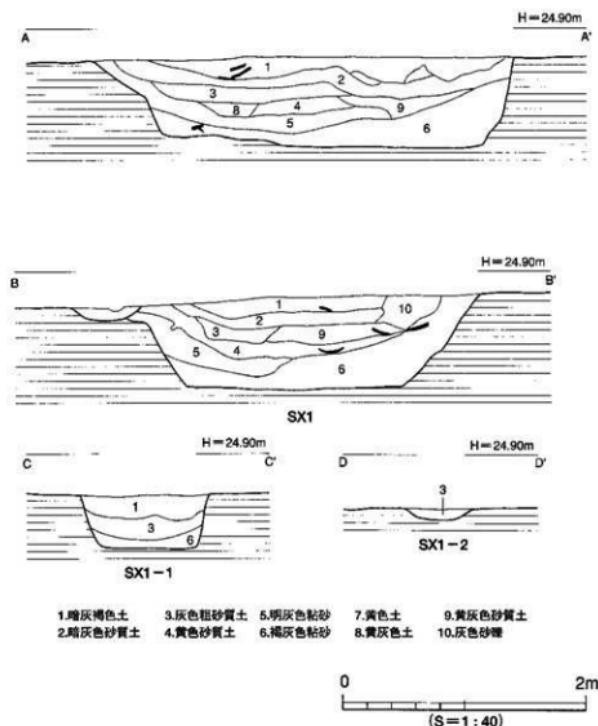


第59図 SD5測量図



第60図 SX1・SX1-1・SX1-2・SX1-3測量図(1)

調査の概要



第61図 SX1・SX1-1・SX1-2測量図(2)

266～268は胴部最大径が胴上位に位置するもので、266は大型品、267は中型品、268は小型品に分類される。269～272は胴部最大径が胴中位にあるもので、269は大型品、270～272は小型品に分類される。269は長い口縁部をもつほか、いずれも口縁部は短く外反し、底部は平底である。273は口縁部片で、比較的長く外反する口縁部である。274～277は壺形土器である。275は複合口縁壺、276は無頸壺である。277は頭部が長く直立し、胴部最大径が胴中位に位置する。278～280は鉢形土器である。口縁部が外反するものと直口のものとがある。278は大型品で口縁部は稜をもって外反する。279は内湾気味に立ち上がる直口口縁である。280は台付鉢の脚部である。「ハ」の字状の脚台をもつ。

時期 出土遺物より弥生時代後期後半に埋没したものと考えられる。

S X 1-1 (第60・61図)

調査区中央東よりのB 4～C 3区に位置する。S X 1から南東方向に延びる溝状の遺構である。検出規模は長さ3.50m、幅0.70m～1.10m、深さ0.43mを測る。断面形態は逆台形状を呈する。埋土は上層より1層暗灰褐色土、2層灰色粗砂質土、3層褐灰色粘砂である。遺物は弥生土器のほか石庖丁が出土している。

出土遺物 (第64・65図、図版33)

281～299は弥生土器である。281～288は壺形土器である。281～283は胴部最大径が胴上位に位置する中型品である。284～287は胴部最大径が胴中位にあるもので、284は中型品、285～287は小型品に分類される。いずれも口縁部は短く外反し、底部は平底である。288は大型品で、直線的に長く伸びる口縁部をもつ点で他と個体と区別される。289～291は壺形土器である。289・290は広口壺の口縁部～頸部である。291は複合口縁壺で口縁部は直立する。292～294は底部片で壺形土器と思われる。294は底面に板状圧痕あり。295～299は鉢形土器である。295・298は外反口縁、296・297は内湾気味に立ち上がる直口口縁である。299は小さく突出する底部片である。300は石庖丁である。全体形状はやや丸みを帯びた長方形で、両側部には研磨によって抉りを作り出す。

時期 出土遺物より弥生時代後期後半に埋没したものと考えられる。

S X 1-2 (第60・61図)

調査区中央東寄りのA 6～B 4区に位置する。S X 1から北西方向に延びる溝状の遺構である。S R 1を切り、S K 15に切られる。北壁から調査区外に続く。検出規模は長さ12.0m、幅0.60m～2.80m、深さ0.05m～0.24mを測る。断面形態は皿状を呈する。埋土は灰色粗砂質土の単一層である。遺物は弥生土器のほか石製品・鉄鎌が出土している。

以下に、出土状況の平面図とレベルを記録しながら取り上げた遺物（301～329）を掲載した後、S X 1-2内で地点を関係なく取り上げた遺物（330～337）を報告する。

出土遺物 (第66～69図、図版34)

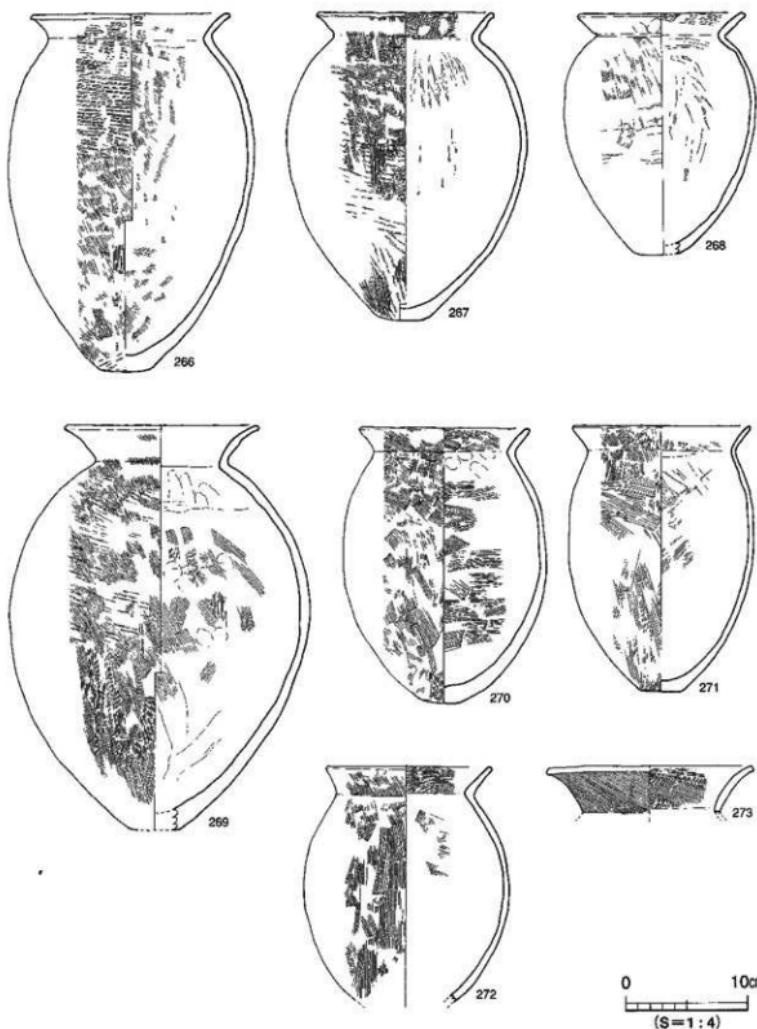
301～327は弥生土器である。301～312は壺形土器である。301～305は胴部最大径が胴上位にあるもので、301・302は大型品、303～305は中型品に分類される。306～308は胴部最大径が胴中位に位置するもので、306・307は長胴、308は短く丸い胴部をもつものである。309～312は胴部～底部である。いずれも平底の底部。313～321は壺形土器である。313は大きく外反する口縁部。口縁端面に斜格子目文、頸部に斜格子の突帯を貼り付ける。314は複合口縁壺の口縁部である。315は短く直立する口縁部。肩部は大きく張る。316は球形の胴部で、粘土接合痕が明瞭に残る。317～321は胴部～底部である。317の底面にはワラ状の植物痕跡が残存する。322～324は鉢形土器である。322は直口口縁のもので、323・324は台付鉢の脚部片である。325～327は盤形土器である。325・326は焼成前穿孔、327は焼成後穿孔である。326は底部中央に2か所穿孔する。

328はスクレイバーである。薄い薄片を素材としている。329は鉄鎌である。柳葉形の有茎鎌である。先端部及び茎部を欠損する。

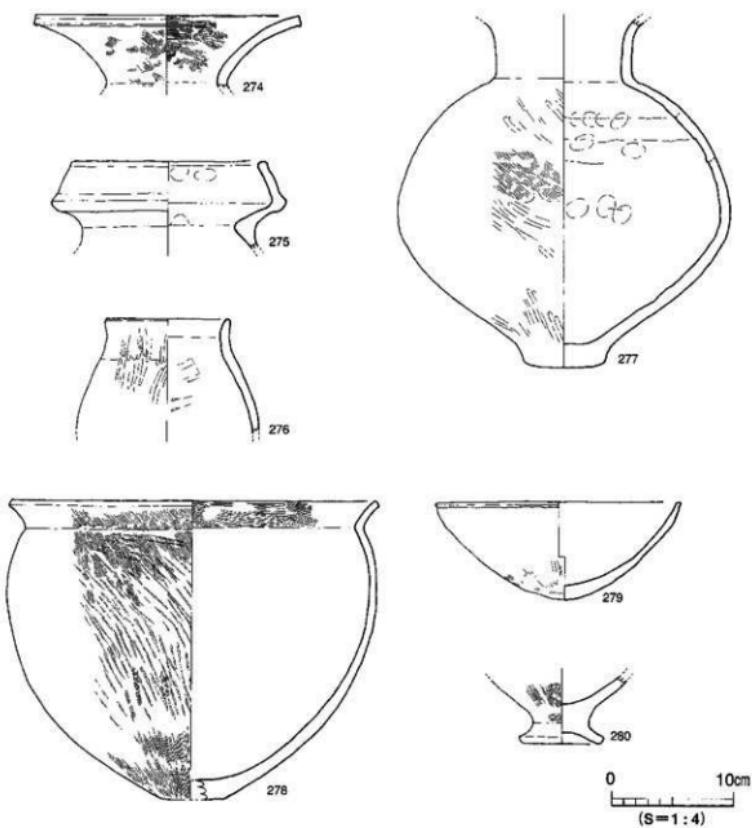
次に、S X 1-2内で地点を関係なく取り上げた遺物である。

330～336は弥生土器である。330・331は壺形土器の口縁部片である。332は壺形土器の口縁部片である。頸部に斜格子の貼り付け突帯を巡らす。333は鉢形土器である。外反口縁で器壁は薄い。

調査の概要



第62図 SX1出土遺物実測図 (1)



第63図 SX1出土遺物実測図（2）

334～336は底部片である。

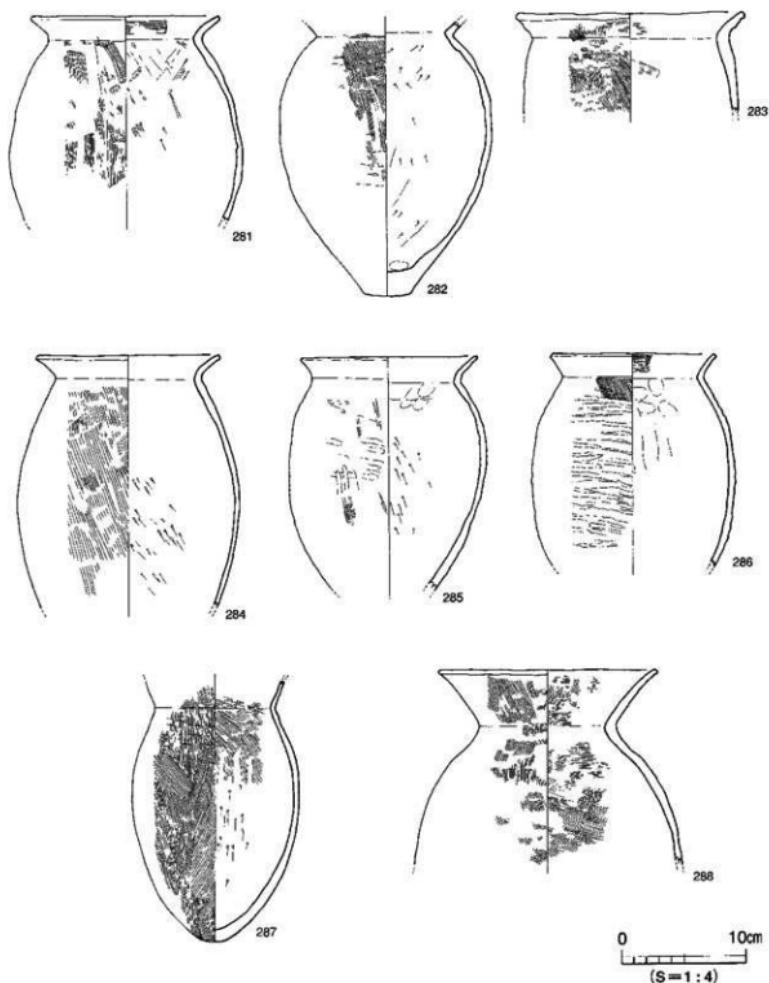
337は縄文土器である。浅鉢の口縁部である。混入品と考えられる。

時期 混入品を除き、出土遺物より弥生時代後期後半に埋没したものと考えられる。

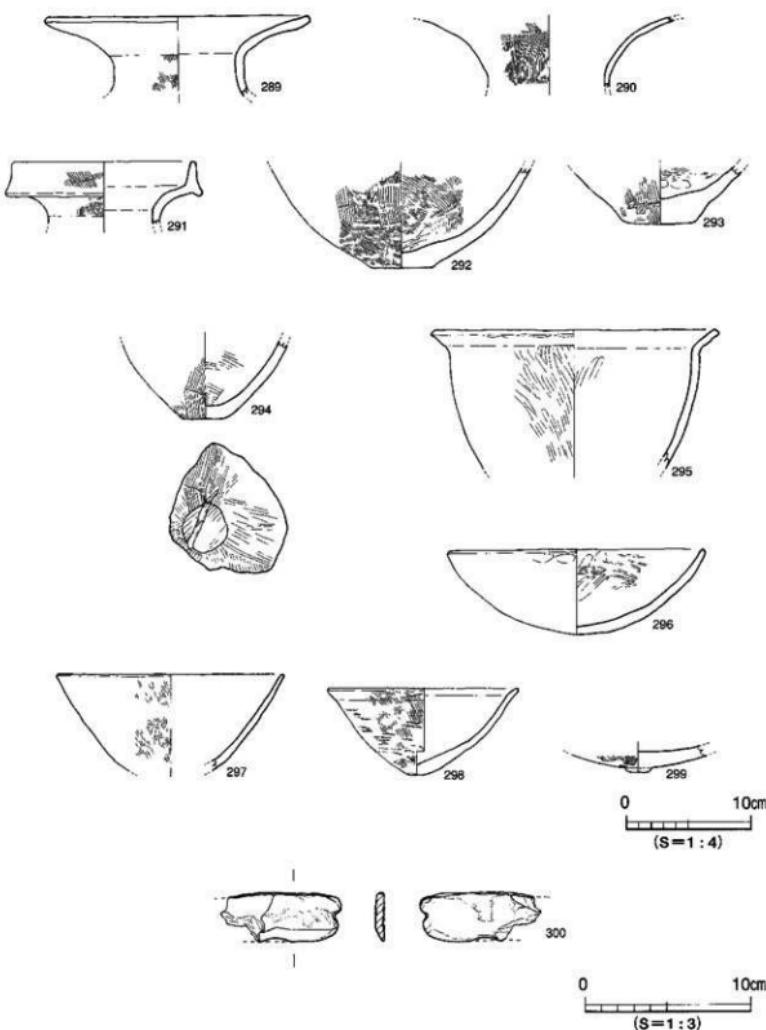
S X 1 - 3 (第60図)

調査区中央東寄りのA 4・A 5区に位置する。SX 1-2から北壁に向けて延びる溝状の遺構で調査区外に続く。SX 1-2と合流する地点は両岸が狭くなる。検出規模は長さ2.40m、幅1.80m～2.80m、深さ0.25mを測る。断面形態は皿状を呈する。埋土はSX 1-2と同様に、灰色粗砂質土の

調査の概要

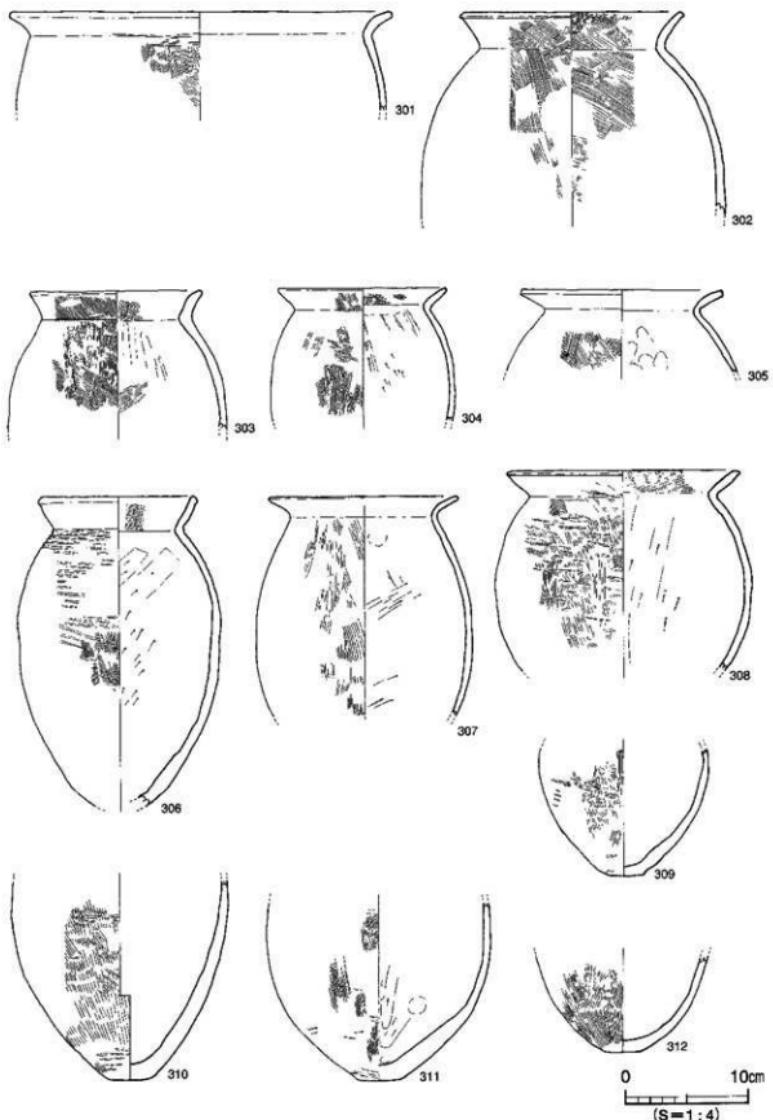


第64図 SX1-1出土遺物実測図(1)

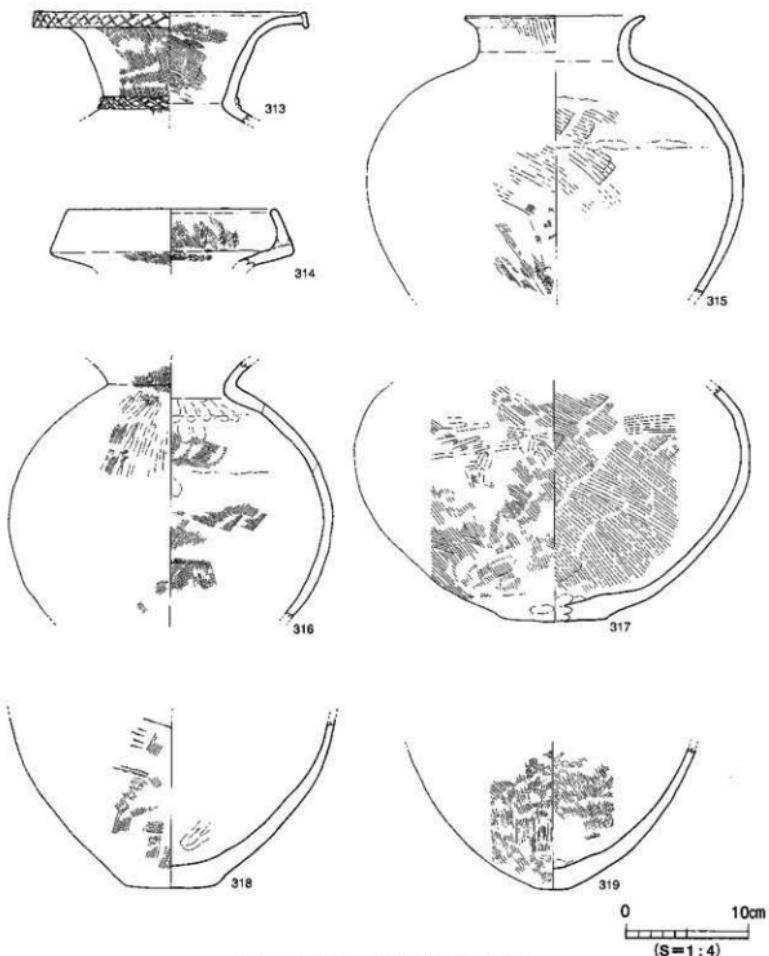


第65図 SX1-1出土遺物実測図（2）

調査の概要

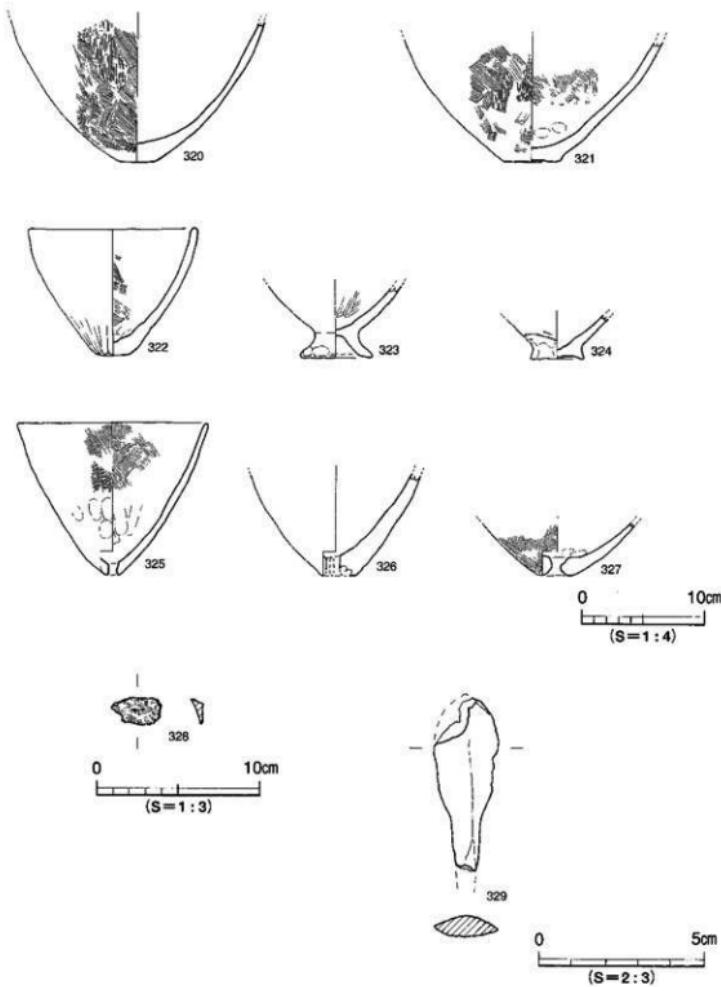


第66図 SX1-2出土遺物実測図（1）

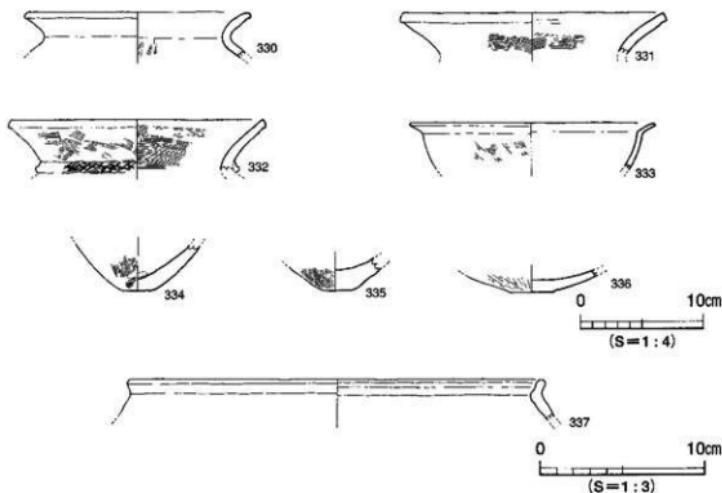


第67図 SX1-2出土遺物実測図(2)

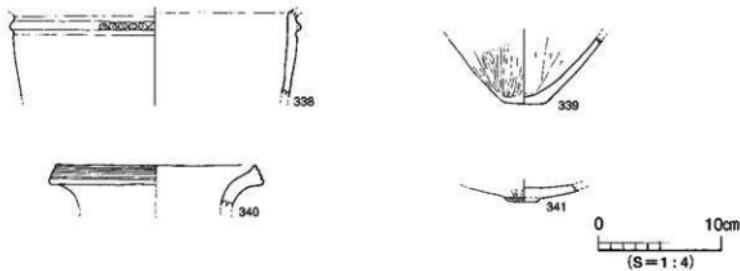
調査の概要



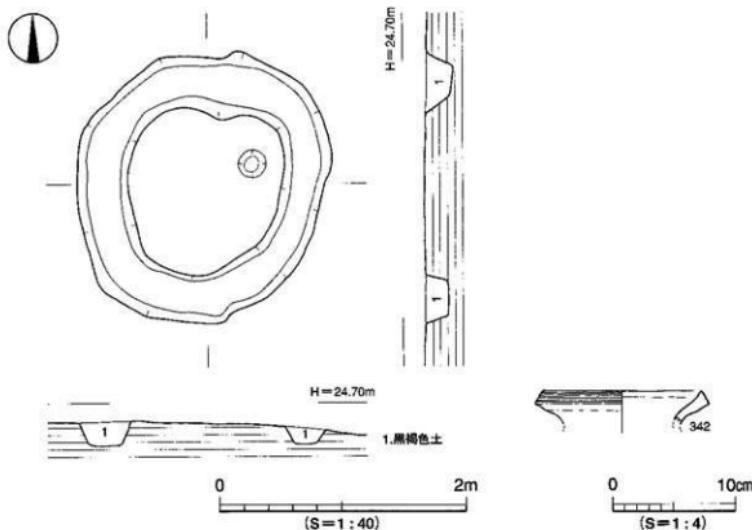
第68図 SX1-2出土遺物実測図 (3)



第69図 SX1-2出土遺物実測図（4）



第70図 SX1-3出土遺物実測図



第71図 SX2測量図、出土遺物実測図

単一層である。遺物は弥生土器が出土しているが、北壁トレンチ掘削時に別の土層から出土したものも含まれていると思われる。

出土遺物（第70図）

338～341は弥生土器である。338・339は壺形土器である。338は如意形の口縁部片である。口縁直下に刻目突帯が巡る。339は底部片である。340は壺形土器である。口縁端部に3条の凹線文が巡る。341は鉢形土器である。小さく突出する底部片である。

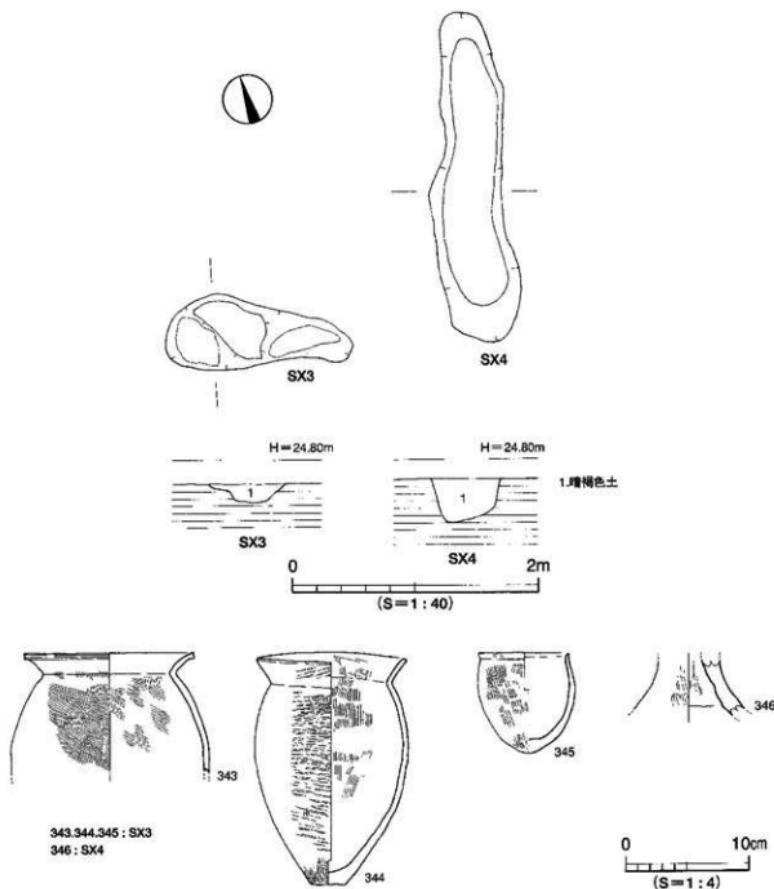
時期 調査時の遺物取り上げに問題があり、中期のものと後期のものが混在している。埋土がSX1-2と同じであるため、弥生時代後期後半と推定される。

SX2（第71図、図版13）

調査区東寄りのD3区に位置する円形周溝状遺構である。検出規模は内径1.40m、溝幅0.33m～0.45mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、溝床面はほぼ平坦である。埋土は黒褐色土の單一層である。また、遺構内部北寄りで径0.22m、深さ0.06mの円形の柱穴が検出された。埠上は溝内の埋土と同じであるためSX2に付属する遺構と考えられる。遺物は溝内から弥生土器が少量出土しているが、図示できたのは1点のみである。

出土遺物（第71図）

342は弥生土器の壺形土器である。口縁端部に3条の凹線文が巡る。



第72図 SX3・4測量図、出土遺物実測図

時期 遺物が少量であるため判断しがたいが、弥生時代後期初頭とする。

S X 3 (第72図)

調査区南東部のE 4・E 5区に位置する。平面形態は東西方向に長い溝状で、中央付近が浅く両端が深くなる。検出規模は長袖1.50m、短軸0.38m、深さ0.11m～0.18mを測る。断面形態は皿状を

調査の概要

早する。埋土は暗褐色土の單一層である。遺物は弥生土器が出土している。

出土遺物（第72図、図版34）

343・344は壺形土器である。いずれも器形は長胴で、胴部最大径が胴上位にあるもので、343が中型品、344が小型品と考えられる。半底の底部。345は鉢形土器である。わずかにくびれる口縁部。

時期 出土遺物より弥生時代後期後半と推定される。

S X 4（第72図）

調査区南東部のD 4・E 4区に位置し、S X 3の東側で検出した。平面形態は南北方向に長い溝状で、南北端は若干浅くなる。検出規模は長軸2.66m、短軸0.45m、深さ0.19m～0.28mを測る。断面形態は逆台形状を呈する。埋土は暗褐色土の單一層である。遺物は弥生土器が出土している。

出土遺物（第72図）

346は弥生土器の高壺形土器である。脚柱部片。

時期 出土遺物より弥生時代後期後半と推定される。

S X 5（第73図）

調査区南東部のD 4区に位置し、S X 4の北東側で検出した。さらに北東側にはS X 6が位置する。平面形態は南北方向に長い溝状で、底面はほぼ平坦な面をなす。検出規模は長軸2.97m、短軸0.45m～0.72m、深さ0.08m～0.20mを測る。断面形態は逆台形状を呈する。埋土は暗褐色土の單一層である。遺物は弥生土器が出土している。

出土遺物（第73図）

347は弥生土器の壺形土器である。平底の底部。

時期 埋土がS X 3・4と同一であり、また出土遺物より弥生時代後期後半と推定される。

S X 6（第73図）

調査区南東部のD 3・D 4区に位置し、S X 5に隣接する。平面形態は東西方向に長い溝状である。検出規模は長軸1.31m、短軸0.21m～0.36m、深さ0.07m～0.30mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、中央付近と東端が深くなる。埋土は暗褐色土の單一層である。遺物は弥生土器が出土している。

出土遺物（第73図）

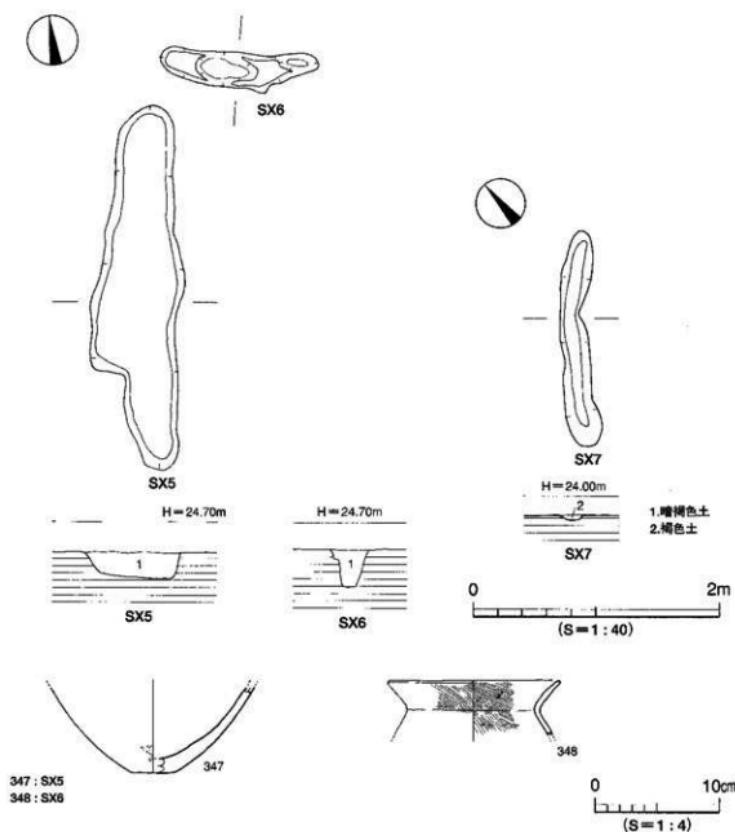
348は弥生土器の壺形土器である。稜をもって外反する口縁部。器壁は薄い。

時期 埋土がS X 3・4と同一であり、また出土遺物より弥生時代後期後半と推定される。

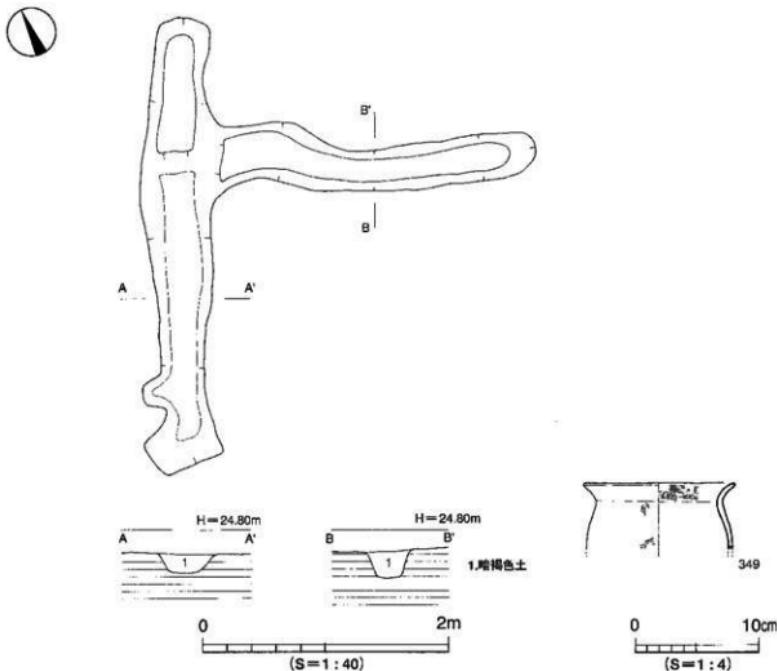
S X 7（第73図）

調査区南西部のE 10・E 11区に位置し、西壁に接する。平面形態は北東～南西方向に長い溝状である。検出規模は長軸1.77m、短軸0.22m～0.25m、深さ0.03m～0.04mを測る。断面形態は皿状を呈する。埋土は褐色土の單一層である。遺物は出土していない。

時期 遺物が出土していないため判断しがたいが、S X 3～6と同系色であるため弥生時代後期と推定される。



第73図 SX5・6・7測量図、SX5・6出土遺物実測図



第74図 SX8測量図、出土遺物実測図

SX8（第74図）

調査区中央南寄りのD 6・E 6区に位置する。平面形態は東西方向と南北方向に長いT字状を呈する溝状の遺構である。検出規模は南北3.72m、東西3.12m、幅0.30m～0.52m、深さ0.06m～0.20mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、南北方向に長い溝状遺構のうち南部が深くなる。埋土は暗褐色土の單一層である。遺物は弥生土器が出土している。

出土遺物（第74図）

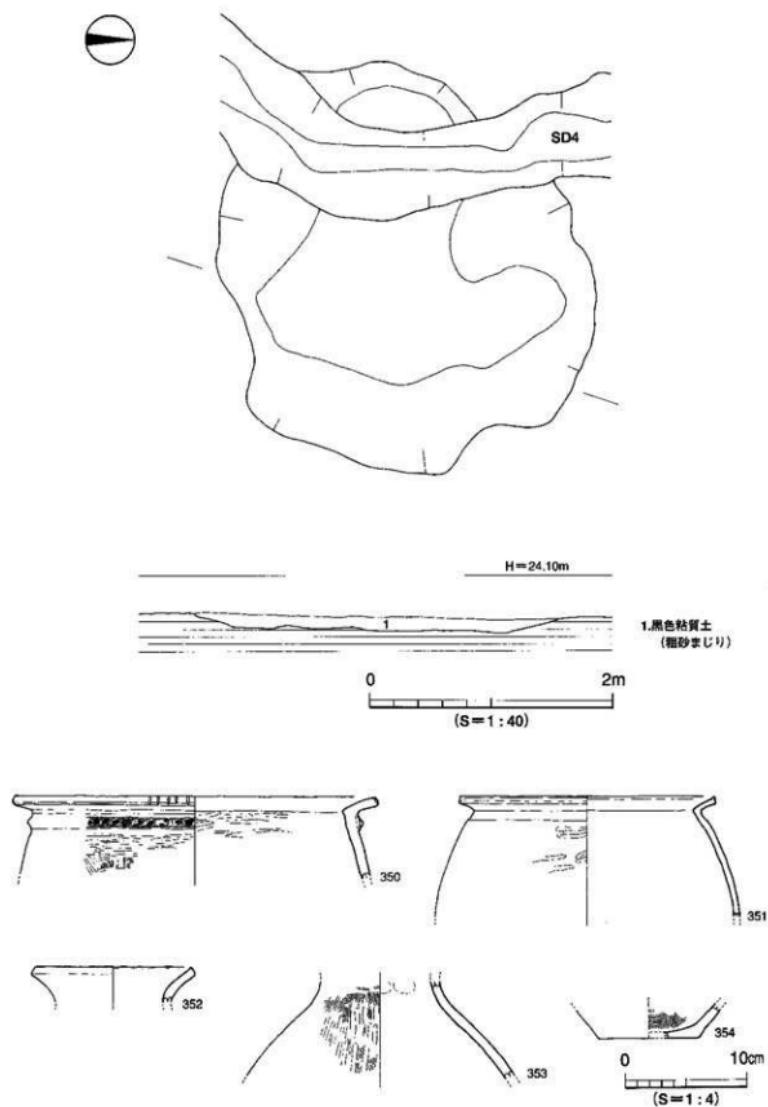
349は弥生土器の壺形土器である。緩やかに外反する口縁部。

時期 墳上がSX3～6と同一であり、また出土遺物より弥生時代後期後半と推定される。

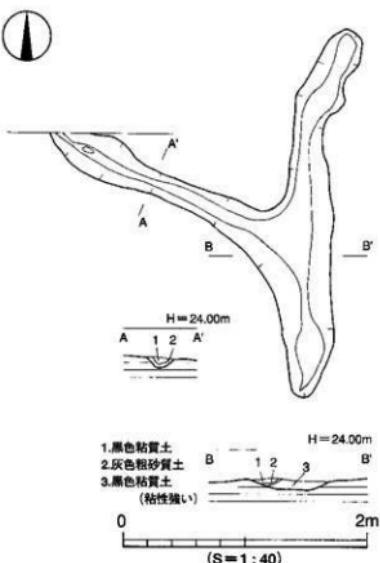
SX9（第75図）

調査区南西部のD 10～E 9区に位置する。SR1調査後に検出し、SD3・4に切られる。平面形態は円形に近い不整形を呈する。検出規模は南北3.04m、東西3.29m、深さ0.12m～0.20mを測る。

遺構と遺物



第75図 SX9測量図、出土遺物実測図



第76図 SX10測量図

断面形態は皿状を呈する。埋土は黒色粘質土（粗砂混じり）である。遺物は弥生土器が出土している。

出土遺物（第75図）

350～354は弥生土器である。350・351は壺形土器である。350は口縁端部に刻目を施し、頸部に布目押圧による刻目突帯が巡る。351は口縁端部に四線文が巡る。器壁は薄く、丁寧なミガキを施す。352・353は壺形土器である。352は口縁部片、353は頸部～胴部片。354は底部片である。壺形土器と考えられる。

時期 埋土がS R 1⑥層と同一であり、また出土遺物より弥生時代中期後半～後期初頭と推定される。

S X 10（第76図）

調査区中央西寄りのB 8区に位置する。平面形態はY字状を呈する。検出規模は南北3.12m、東西2.40m、深さ0.10mを測る。断面形態は皿状を呈する。埋土は上層より1層黒色粘質土、2層灰色粗砂質土、3層黒色粘質土（粘性強い）である。遺物は弥生土器片が数点出土しているが、小片のため図示できるものはなかった。

時期 遺物が出土していないため判断しがたいが、S X 9と同系色であるため弥生時代中期後半～後期初頭と推定される。

(2) 古代

古代の遺構は掘立柱建物跡（掘立）1棟、柱穴（S P）26基、土坑（S K）31基、溝（S D）1条である。掘立柱建物跡と溝は調査区の西部と南西部で検出し、土坑や柱穴は調査区の中央部で検出した。ここでは、遺物が出土した遺構を中心に記述する。

1) 掘立柱建物跡（掘立）

掘立1（第77図・第78図、図版14）

掘立1は、調査区の西側で検出した。弥生時代の自然流路S R 1と古代の溝S D 3を切る。梁行2間（4.60m）×桁行5間（12.40m）の総柱構造の建物で南北棟となる。北東隅の柱穴は、試掘トレントにより尖われている。各柱穴の平面形は、円形ないし稍円形を呈する。柱穴検出規模は直径0.24m～0.30m、深さ0.26m～0.48m、柱間1.94m～2.70mを測る。柱穴の埋土は暗灰褐色土である。柱痕跡はどの柱穴についても検出していない。出土遺物には土師器、白磁、弥生土器、種子がある。種子は、建物北東隅の柱穴P 1より322点が出土した。種子については、第4章自然科学分析で種実同定を行っている。（P.191）

出土遺物（第79図、図版35）

355は土師器塊。口縁部はわずかに外反し、口縁端部は丸くおさめる。356は白磁碗。口縁部は薄い玉縁である。357は土師器塊の底部。358は弥生土器の壺底部。359は笠状に加工された石器である。刃部は磨かれる。2ヶ所に孔が穿たれている。材質は緑色片岩である。石庖丁からの転用品とも思われる。本資料は柱穴P 17から出土したものであるが、弥生時代のS R 1を掘り込んでいることにより、S R 1からの流入遺物と考えられる。よって掘立柱建物跡には、関係しない資料と考える。

時期 出土遺物より11世紀。

2) 柱穴（S P）

S P 40（第80図）

C 6グリッドでの検出である。平面形は隅丸長方形を呈する。埋土は暗灰褐色土である。検出規模は長軸66cm、短軸46cm、深さ22cmを測る。柱痕跡は検出していない。

出土遺物（第81図）

360は鋳成の著しい不明鉄製品。重さは10.91gを測る。

時期 掘立柱建物跡の柱穴埋土色と同一のため11世紀頃と考える。

S P 46（第80図）

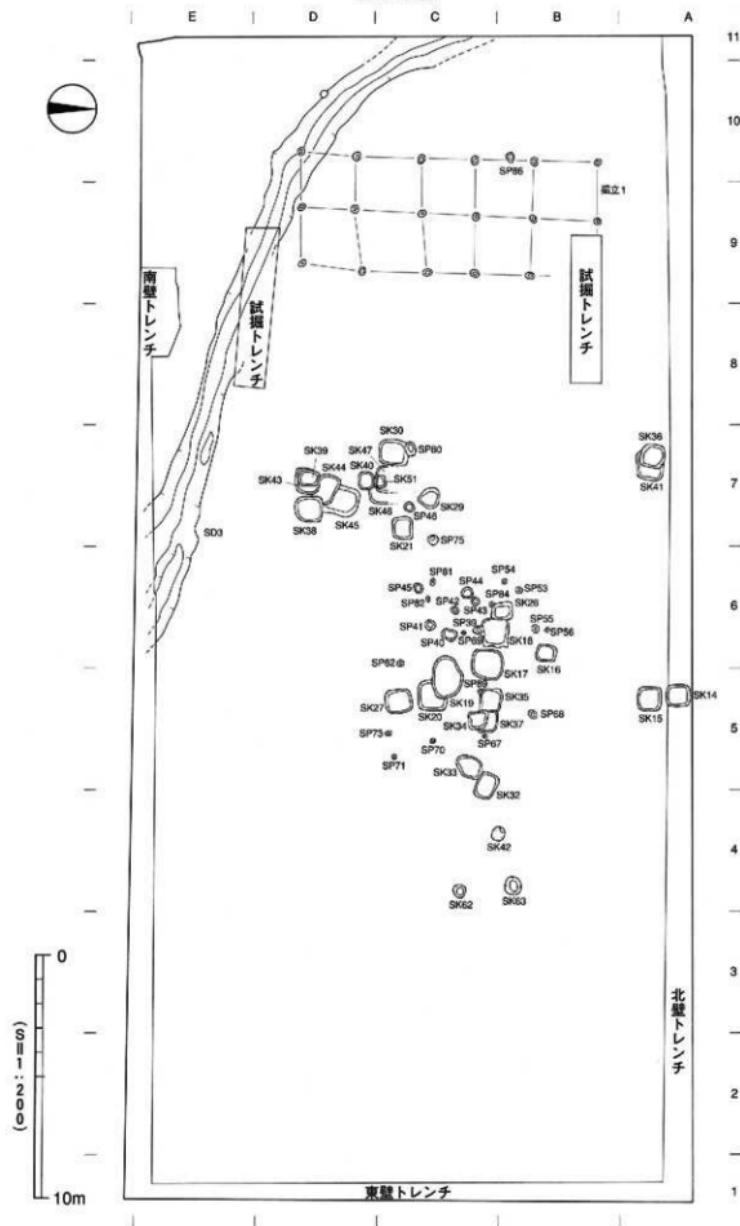
C 7グリッドでの検出である。平面形は円形を呈する。埋土は暗灰褐色土である。検出規模は直径42cm、深さ23cmを測る。柱痕跡は検出していない。

出土遺物（第81図）

361は角釘である。釘頭部は欠損。

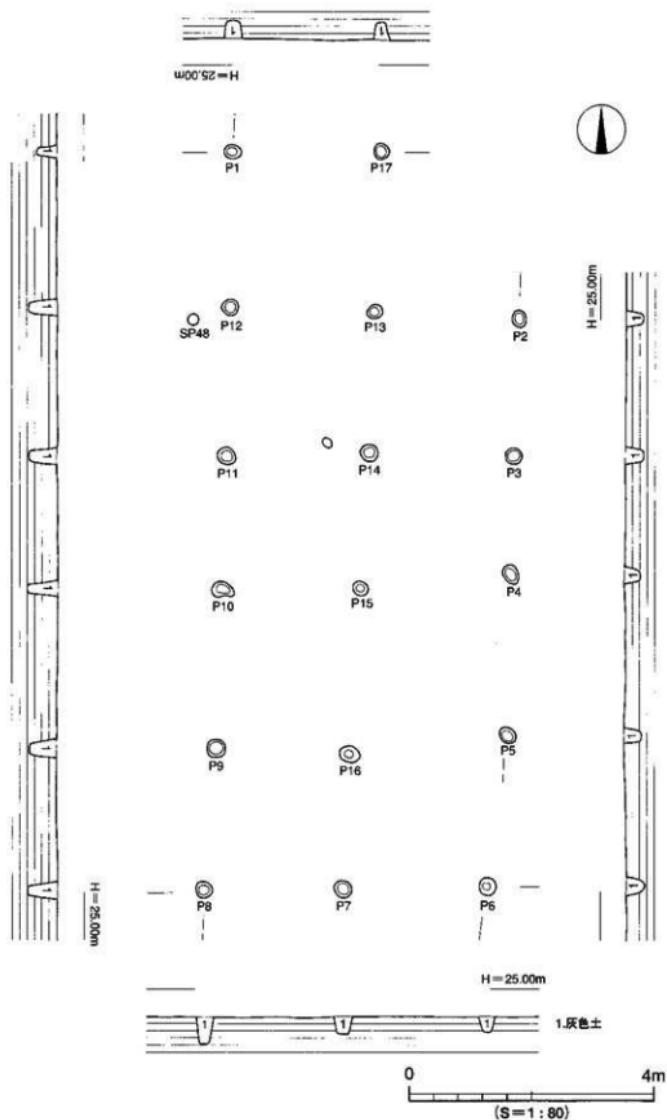
時期 掘立柱建物跡の柱穴埋土色と同一のため11世紀頃と考える。

調査の概要

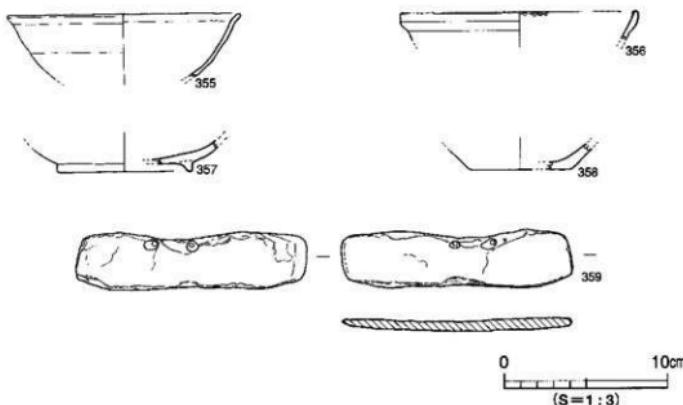


第77図 古代遺構配置図

遺構と遺物



第78図 掘立1測量図



第79図 掘立1出土遺物実測図

S P 67 (第80図)

C 5 グリッドでの検出である。平面形は円形を呈する。埋土は暗灰褐色土である。検出規模は直径 16cm、深さ 6cm を測る。柱痕跡は検出していない。遺物は土師器が出土した。

出土遺物 (第81図)

362 は皿である。推定口径 13.0cm、器高 2.0cm を測る。口縁端部は丸くおさめる。底部調整は、回転ヘラ切り後ナデ調整される。

時期 出土遺物より 9世紀後半以降。

3) 土坑 (SK)

SK 14 (第82図、図版14)

A 5 グリッドでの検出である。平面形は隅丸方形を呈する。検出規模は長軸 90cm、短軸 86cm、深さ 24cm を測る。埋土は上層から炭の混じる灰褐色土、黄灰色土、暗灰色粘質土の 3 層となる。遺物は、土坑内底部の北東隅より砥石 1 点と直徑 3~4cm の自然石が数点出土したほか、南西隅の暗灰褐色土中より完形の土師皿 1 点を含む土師器や須恵器が出土した。

出土遺物 (第83図、図版35)

363 は大型の壺である。内外面とも横方向のミガキが施される。364 は皿。底部は回転ヘラ切りである。口縁端部の一カ所に炭跡を残す光明皿。365 は壺。内湾して立ち上がる口縁部。366 は須恵器の蓋。推定口径 12.4cm を測る。367 は砥石である。磨面が一面にみられる。

時期 出土遺物より 9世紀後半~10世紀前半。

SK 15 (第82図、図版15)

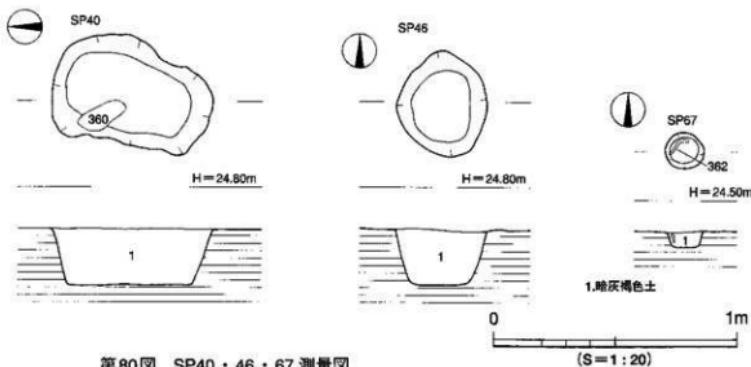
A 5 グリッドでの検出である。平面形は隅丸方形を呈する。検出規模は長軸 100cm、短軸 90cm、深さ 30cm を測る。埋土は、炭の混じる暗灰褐色土である。土坑底には約 50cm 四方、厚さ 1cm~2cm を

測る炭層が遺存する。遺物は土師器、須恵器、錢貨が出土した。錢貨は、土坑底より3枚が出土した。このうち2点は掘削中の排水で検出した。1点は元位置を保ったままの出土である。他の2点については、出土状況などから検出した1点の上に重なっていたものと考えている。

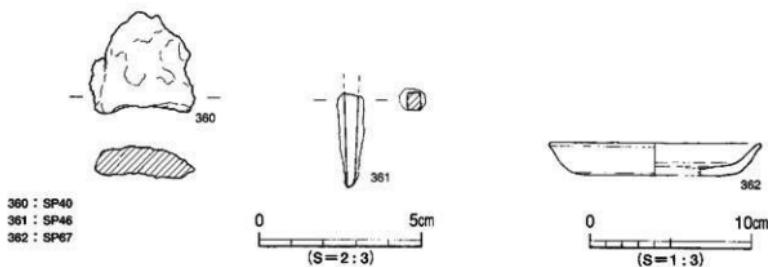
出土遺物（第84図、図版35）

368・369は壺である。底部は回転ヘラ切りである。368は内湾して立ち上がり口縁端部は丸くおさめる。370は壺の口縁部。内面に横方向のハケ目調整、外面はナデである。371は須恵器の壺。高台が外よりに付く。372はサヌカイトの剥片である。373～375は「富壽神寶」である。銘文は鋳化のため不鮮明である。「富壽神寶」は皇朝十二錢の5番目にあたり、弘仁9年（818）から承和元年（834）にかけて鋳造された。大小の区があり、錢文や周縁の幅などにより細分されている（『平城報告VI』）。本資料は3点とも錢径2.35cmの小型のものとなる。

時期 出土遺物より9世紀後半～10世紀前半。



第80図 SP40・46・67 測量図



第81図 SP40・46・67 出土遺物実測図

調査の概要

S K 16 (第85図、図版16)

B 6 グリッドでの検出である。平面形は隅丸方形を呈する。検出規模は長軸78cm、短軸66cm、深さ12cmを測る。埋土は、炭の混じる暗灰褐色土である。土坑底の南半部には、炭と白くなった灰の層が遺存する。土坑底と壁面には、被熱した様子は伺われない。遺物は土師器、須恵器が出土した。

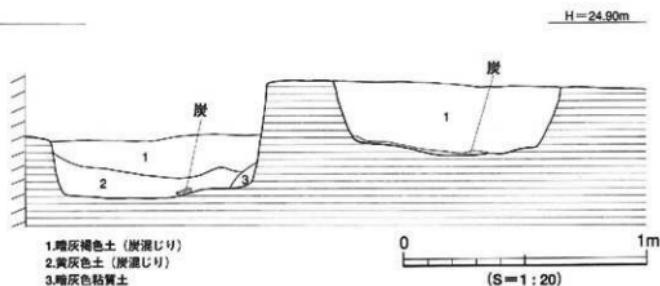
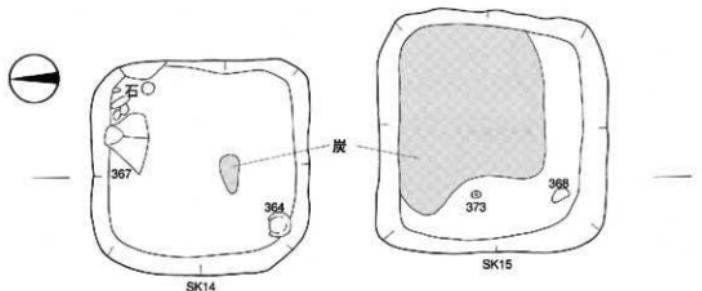
出土遺物 (第86図)

376は皿。底部は回転ヘラ切りである。377は壺底部。残高1.2cmを測る。底部は回転ヘラ切りである。378は須恵器杯である。379は須恵器の塊である。内湾して立ち上がる口縁部。

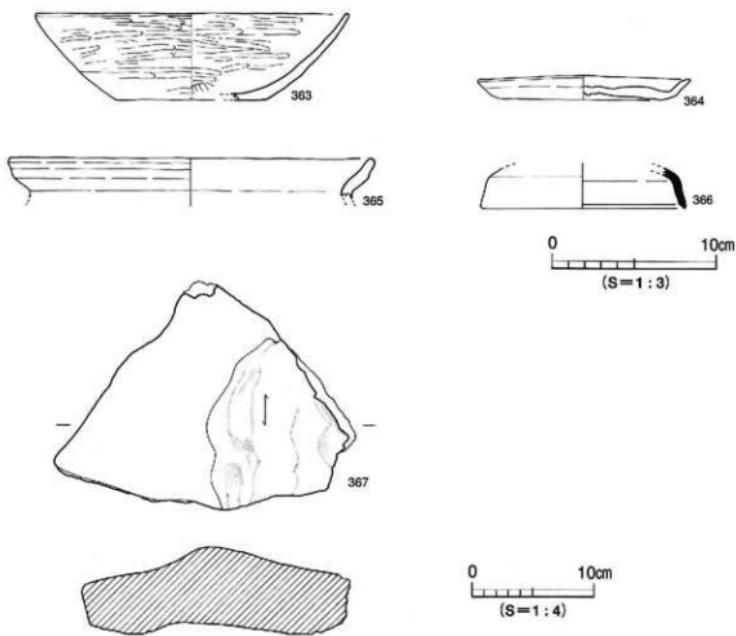
時期 出土遺物より9世紀後半～10世紀前半。

S K 17 (第87図、図版16)

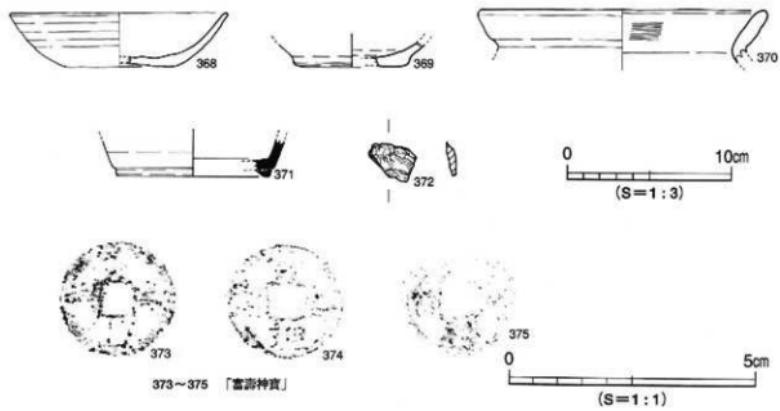
C 5、C 6 グリッドでの検出である。平面形は隅丸方形を呈する。検出規模は長軸130cm、短軸120cm、深さ22cmを測る。埋土は、炭の混じる暗灰褐色土である。土坑底の中央部には、直径60cm程の範囲で厚さ1～2cmの炭層が遺存する。遺物は土師器、須恵器が出土した。



第82図 SK14・15測量図



第83図 SK14出土遺物実測図



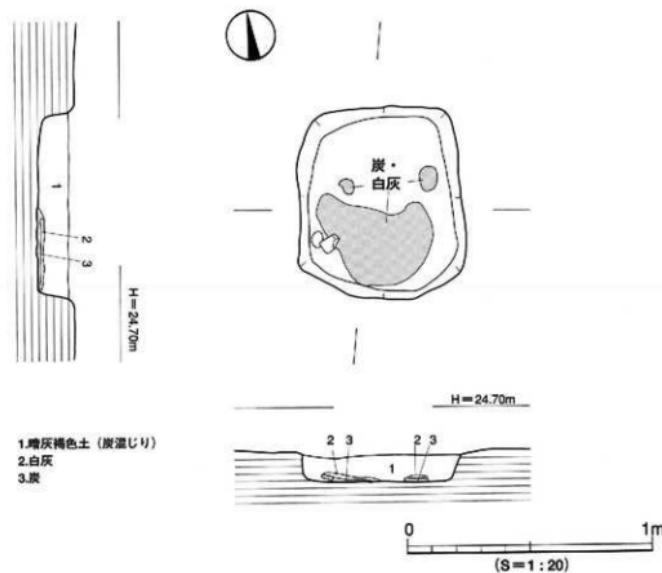
第84図 SK15出土遺物実測図

調査の概要

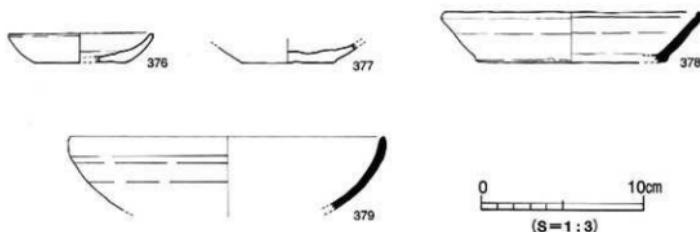
出土遺物（第88図、図版35）

380～383は土師器壺。底部は回転ヘラ切りである。384は高台付壺である。385は皿。底部は回転ヘラ切りである。内面に煤あとを残す灯明皿。386は内黒の壺。内面はミガキが施される。387は壺の口縁部。388は鉢。外面ハケ目調整を施す。389は須恵器高壺の脚柱部である。

時期 出土遺物より9世紀後半～10世紀前半。



第85図 SK16測量図



第86図 SK16出土遺物実測図

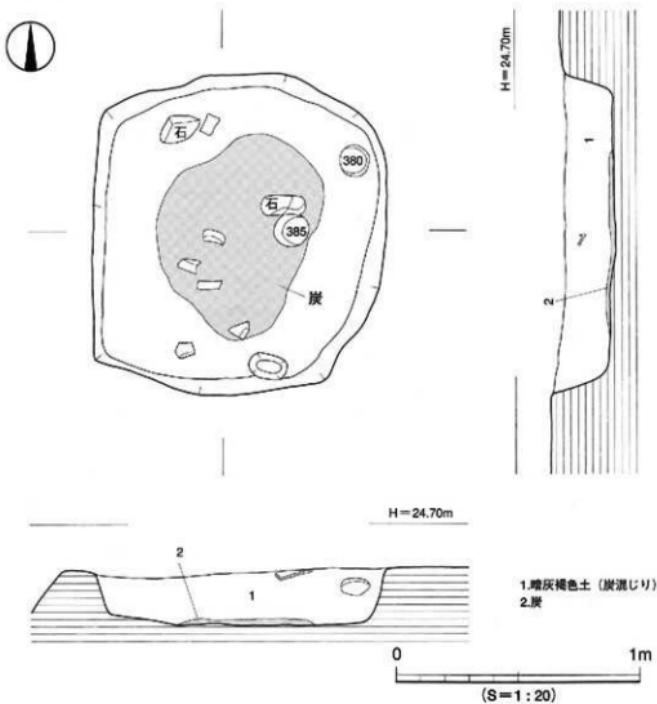
SK 18 (第89図)

B 6、C 6 グリッドでの検出である。SK 26に切られる。平面形は隅丸方形を呈する。検出規模は長軸118cm、短軸106cm、深さ43cmを測る。埋土は、炭の混じる暗灰褐色土である。

出土遺物 (第90図、図版36)

390、391は壺。内外面ともナデ調整を施す。390は内湾して立ち上がりやや外反する口縁部。391の底部は回転ヘラ切りである。392は内黒の黒色土器の底部片。393は皿。内外面ともナデ調整。底部は回転ヘラ切りである。394は壺の口縁部。395は須恵器の高台付き壺。396は須恵器の壺。397は角釘。残長7.9cmを測る。398は刃部の破片と思われる。399は錫化が著しい不明鉄製品。

時期 出土遺物より9世紀後半～10世紀前半。



第87図 SK17測量図

調査の概要

S K 26 (第89図)

B 6、C 6グリッドでの検出である。平面形は隅丸長方形を呈する。検出規模は長軸84cm、短軸68cm、深さ19cmを測る。埋土は、炭の混じる暗灰褐色土である。S K 18を切る。遺物は土師器、須恵器が出土した。

出土遺物 (第91図)

400は内黒の土師器塊。内湾して立ち上がる口縁部。口縁端部は丸くおさめる。401は須恵器の坏。時期 出土遺物と埋土色から9世紀後半～10世紀前半。

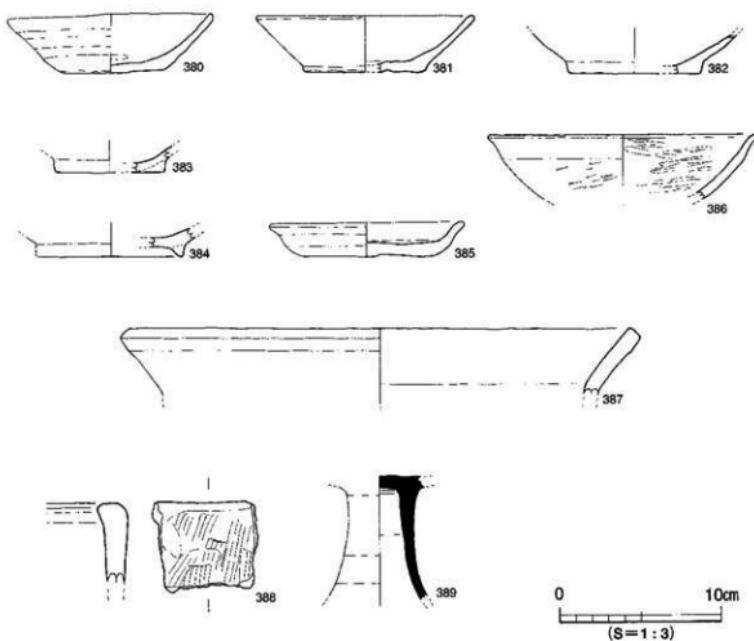
S K 19 (第92図、図版17)

C 5、6グリッドでの検出である。S K 20を切る。平面形は不整形を呈する。検出規模は長軸171cm、短軸100cm、深さ18cmを測る。埋土は赤褐色土である。遺物は土師器、須恵器が出土した。

出土遺物 (第93図)

402、403は土師器坏。内外面ともナデ調整。402は内湾して立ち上がる口縁部。口縁端部は尖る。403は摩滅のひどい底部片。404は須恵器の坏。底部は回転ヘラ切りである。

時期 出土遺物より9世紀後半以降。



第88図 SK17出土遺物実測図

SK 20 (第92図、図版17)

C 5 グリッドでの検出である。SK 19、SP 61に切られる。平面形は隅丸方形を呈する。検出規模は長軸126cm、短軸120cm、深さ26cmを測る。埋土は、炭の混じる暗灰褐色土である。

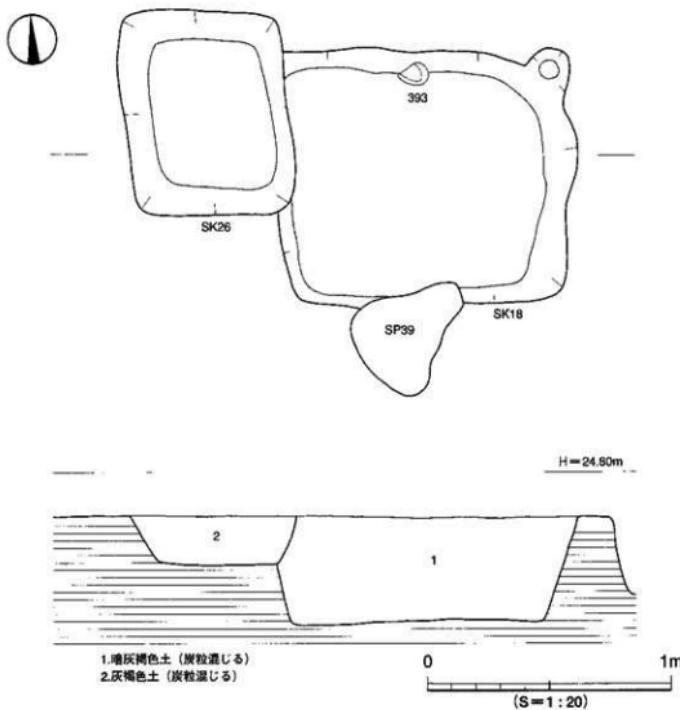
出土遺物 (第94図、図版36)

405～407は土師器坏。内外面ともナデ調整。405は口径12.7cm、器高3.9cmを測る。胴下部は回転ヘラケズリ痕を残す。底部は回転ヘラ切りである。406は口径13.2cm、器高3.4cmを測る。底部は回転ヘラ切りである。407の内面はミガキが施される。408は壺である。409は蓋のツマミ。410は須恵器の高台付坏の底部。411は須恵器坏の底部。

時期 出土遺物より9世紀後半～10世紀前半。

SK 21 (第95図、図版18)

C 7 グリッドでの検出である。平面形は隅丸方形を呈する。検出規模は長軸88cm、短軸80cm、深



第89図 SK18・26測量図

調査の概要

さ24cmを測る。埋上は、炭の混じった暗灰褐色土である。遺物は土師器、須恵器、鉄製品が出土した。

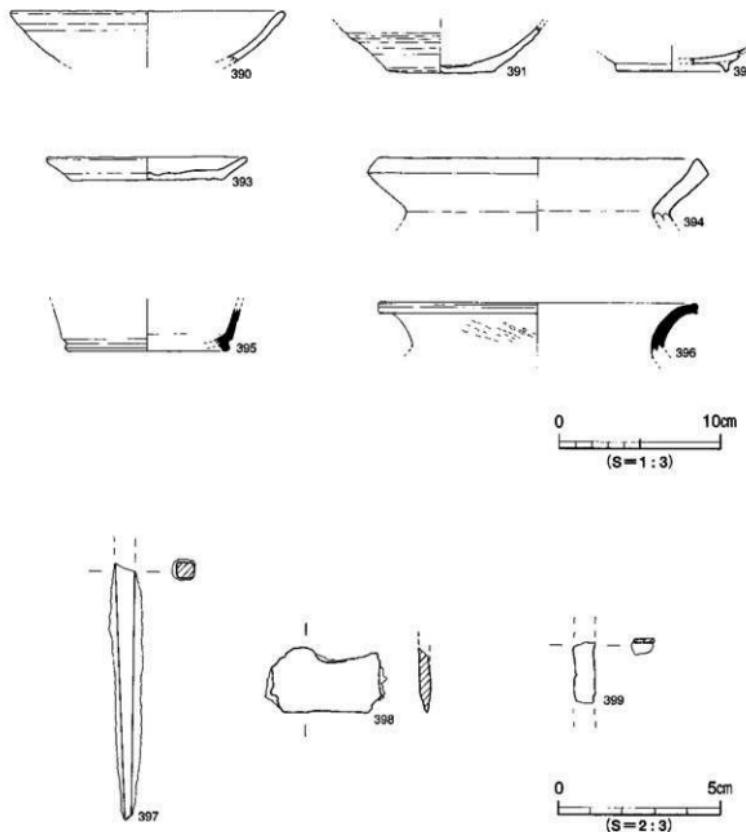
出土遺物（第96図）

412は土師器坏の底部片。底部は回転ヘラ切りと思われる。413は土師器皿である。414は須恵器蓋の口縁部片。415は角釘。釘頭部は欠損。残長7.3cmを測る。

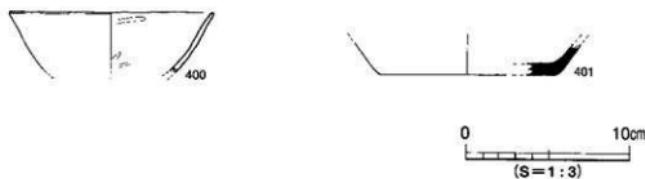
時期 出土遺物と埋土色から9世紀後半～10世紀前半。

S K 27 (第97図)

C 5グリッドでの検出である。平面形は隅丸方形を呈する。検出規模は長軸110cm、短軸98cm、



第90図 SK18出土遺物実測図



第91図 SK26出土遺物実測図

深さ16cm～20cmを測る。埋土は上層と下層の2層に分かれる。上層は赤褐色土、下層は炭の混じる暗灰色土である。暗灰色土中には焼土が混入する。遺物は土師器が出土した。

出土遺物（第98図）

416は土師器壺の底部。内外面ともナデ調整。底部は回転ヘラ切りである。

時期 出土遺物と埋土色から9世紀後半～10世紀前半。

S K 29（第99図）

C 7グリッドでの検出である。平面形は不整形である。検出規模は長軸90cm、短軸76cm、深さ20cmを測る。埋土は、炭の混じる灰褐色土である。遺物は土師器、須恵器、鉄製品が出土した。

出土遺物（第100図、図版35）

417は土師器壺。418は須恵器の壺。419は角釘。釘頭のあるほぼ完形品。

時期 出土遺物から9世紀後半～10世紀前半。

S K 30（第101図）

C 7グリッドでの検出である。平面形は隅丸方形を呈する。検出規模は長軸118cm、短軸117cm、深さ43cmを測る。埋土は、炭の混じる暗灰褐色土である。遺物は土師器、須恵器が出土した。

出土遺物（第102図）

420は土師器壺。底部は回転ヘラ切りである。421、422は壺。423は須恵器の壺身。たちあがりは短く、受部は上方にのびる。424は壺の底部片。425は須恵器の皿である。

時期 出土遺物と埋土色から9世紀後半～10世紀前半。

S K 32（第103図、図版18）

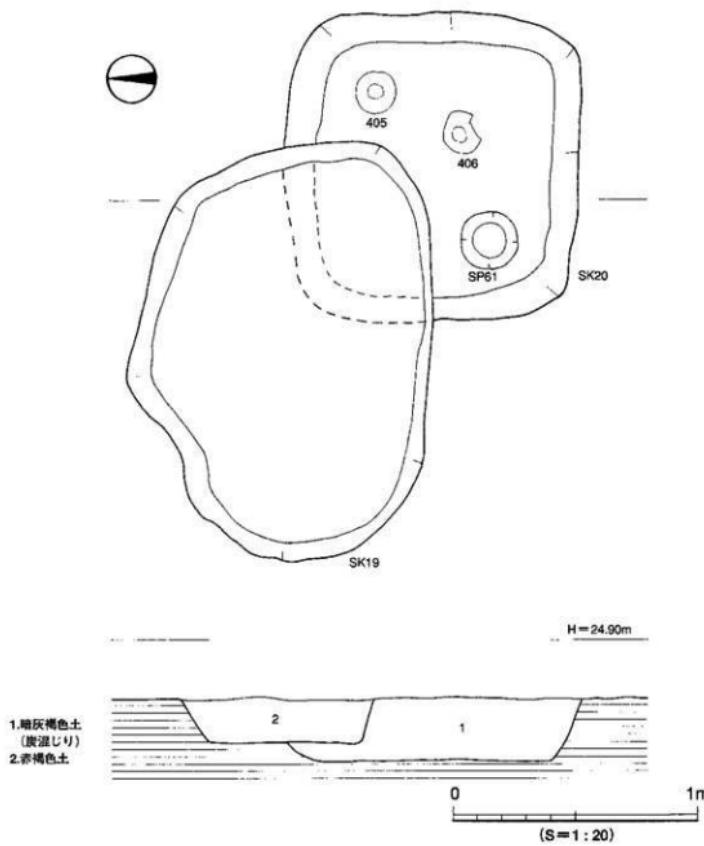
C 4、5グリッドでの検出である。S K 33を切る。平面形は隅丸長方形を呈する。検出規模は長軸117cm、短軸80cm、深さ4cmを測る。埋土は、炭の混じる暗灰褐色土である。遺物は弥生土器、土師器が出土した。土師器は、図示できるものは出土していない。

出土遺物（第104図）

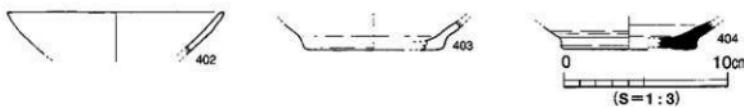
426は弥生時代後期の壺形土器。外反して外上方に開く口縁部である。本資料は、造構に直接関係はなく流入遺物と考えられる。

時期 他の土坑と埋土色が同一のため9世紀後半～10世紀前半。

調査の概要

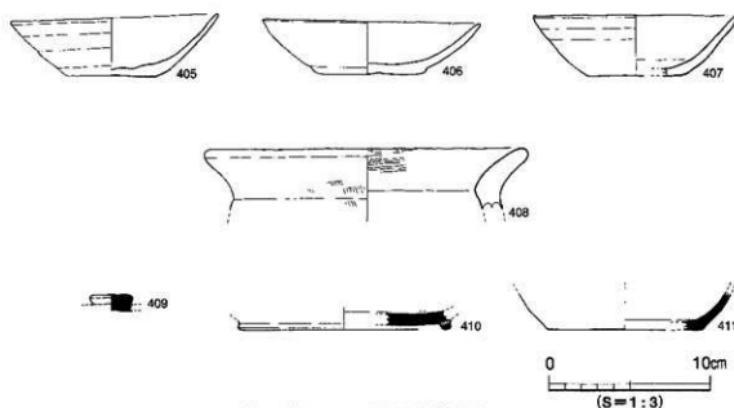


第92図 SK19・20測量図

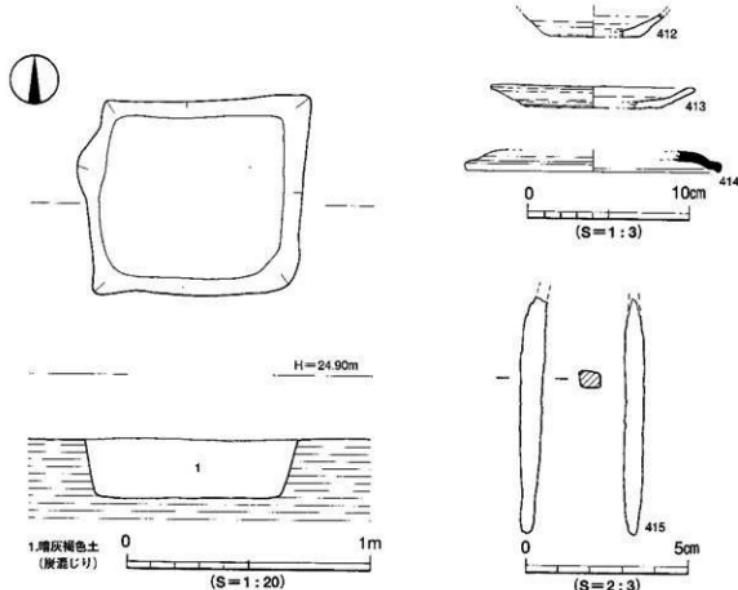


第93図 SK19出土遺物実測図

遺構と遺物



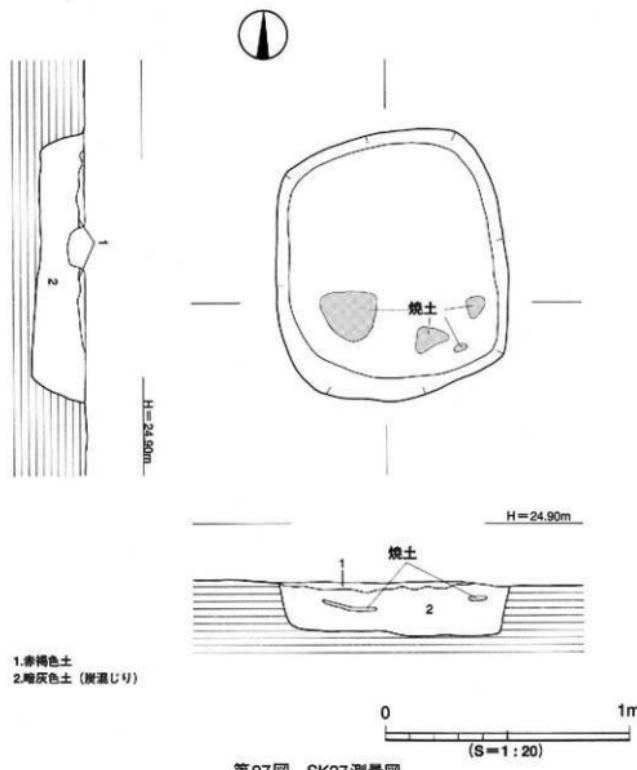
第94図 SK20出土遺物実測図



第95図 SK21測量図

第96図 SK21出土遺物実測図

調査の概要

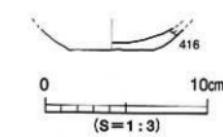


第97図 SK27測量図

S K 33 (第103図、図版18)

C 5グリッドでの検出である。SK 32に切られる。平面形は不整形を呈する。検出規模は長軸110cm、短軸86cm、深さ7cmを測る。埋土は、炭の混じる暗紅褐色土である。遺物は、土師器片が出土しているが図示できるものはない。

時期 出土遺物と埋土色から9世紀後半～10世紀前半。

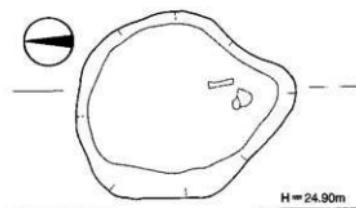


第98図 SK27出土遺物実測図

S K 34 (第105図、図版19)

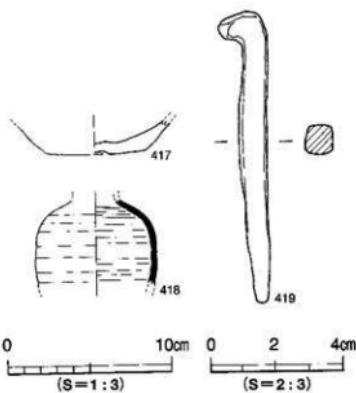
C 5グリッドでの検出である。SK 37を切る。平面形は隅丸方形を呈する。検出規模は長軸75cm、短軸64cm、深さ4cm～7cmを測る。埋土は、上層と下層の2層に分かれる。上層は炭の混じる暗灰褐色土、下層は炭の混じる暗灰色土である。土坑底には、厚さ1cm～2cmの炭層と灰層がある。

造構と遺物

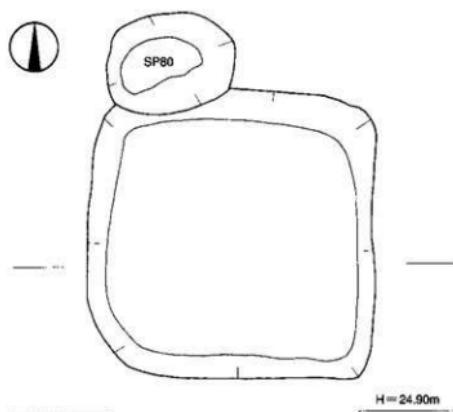


1.灰褐色土
(炭温じり)

第99図 SK29測量図



第100図 SK29出土遺物実測図



1.堆灰褐色土
(炭温じり)

第101図 SK30測量図

調査の概要

炭層中には粒状の焼土がみられる。土坑底面や壁面には土坑内が被熱を受けた様子は見られない。遺物は、炭層の直上で完形の土師器坏1点のほか、土師器皿が出土した。

出土遺物（第106図、図版36）

427は土師器の坏。内外面ともナデ調整。底部は回転ヘラ切りである。428は土師器の皿。口縁部は段をなし外上方にのびる。口縁部内面は凹む面をもつ。

時期 出土遺物と埋土色から9世紀後半～10世紀前半。

S K 35（第105図、図版19）

B 5、C 5グリッドでの検出である。S K 37に切られる。平面形は隅丸方形を呈する。検出規模は長軸90cm、短軸86cm、深さ3cm～9cmを測る。埋土は、炭の混じる暗灰褐色土である。遺物は、土師器片が出土したが図示できるものはない。

時期 遺構の埋土色から9世紀後半～10世紀前半と考える。

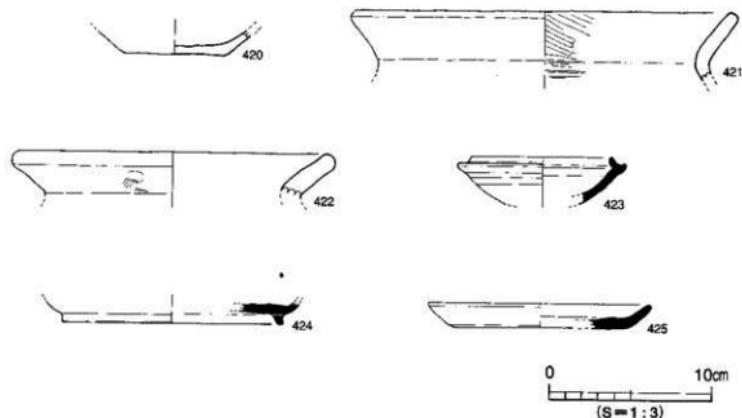
S K 37（第105図）

S K 35を切る。平面形は隅丸方形を呈する。検出規模は長軸92cm、短軸80cm、深さ8cm～11cmを測る。埋土は、暗灰褐色土である。遺物は土師器が出土したが図示するものはない。

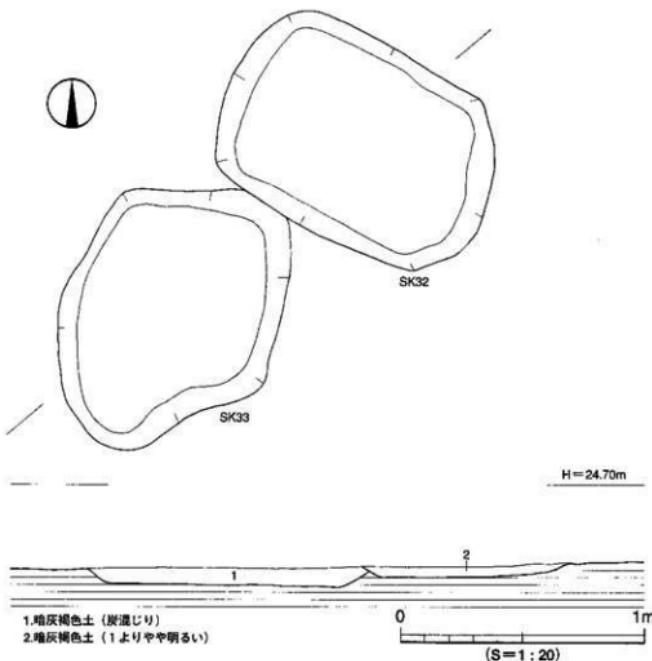
時期 遺構の埋土色から9世紀後半～10世紀前半。

S K 36（第107図）

A 7グリッドでの検出である。S K 41を切る。平面形は隅丸方形を呈する。検出規模は長軸98cm、



第102図 SK30出土遺物実測図



第103図 SK32・33測量図

短軸92cm、深さ13cm～17cmを測る。土坑底には、厚さ1cm～2cmの炭層と白灰層がある。遺物は土師器のほか、焼けた微細な骨片が出土した。

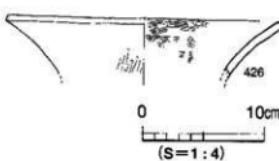
出土遺物（第108図）

429は上師器の壺。底部は回転ヘラ切りである。

430は須恵器の高台付の壺底部。

時期 出土遺物より9世紀後半～10世紀前半。

第104図 SK32出土遺物実測図



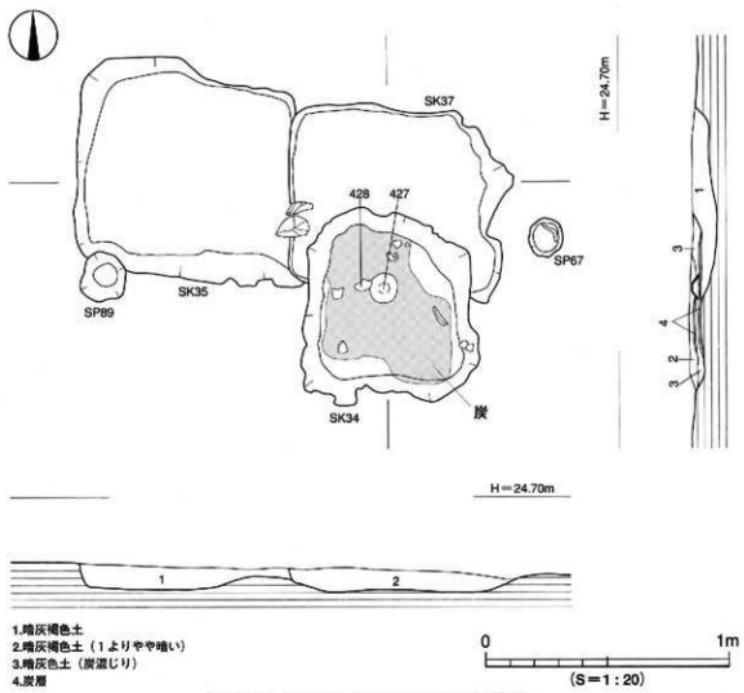
SK 41（第107図）

A 7グリッドでの検出である。SK 36に切られる。平面形は隅丸方形を呈する。検出規模は長軸106cm、短軸92cm、深さ16cm～20cmを測る。埋土は、炭の混じる暗灰褐色土である。土坑底には、厚さ1cm～2cmの炭層と白灰層がある。遺物は上師器が出土した。

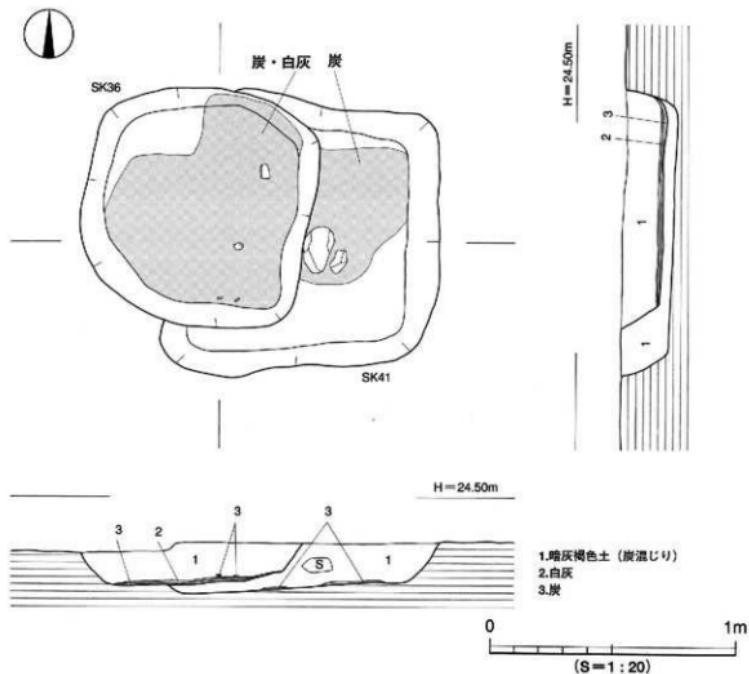
出土遺物（第109図）

431は上師器の壺。底部は回転ヘラ切り。

調査の概要



第106図 SK34出土遺物実測図



第107図 SK36・41測量図

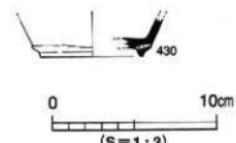
時期 出土遺物より 9世紀
後半～10世紀前半。

S K 38 (第110図、図版20)
D 7グリッドでの検出である。
SK 44, 45を切る。平面形は隅丸方形を呈する。規模は長軸 108 cm、短軸 101 cm、深さ 19 cmを測る。

埋土は、炭の混じる暗灰褐色土である。

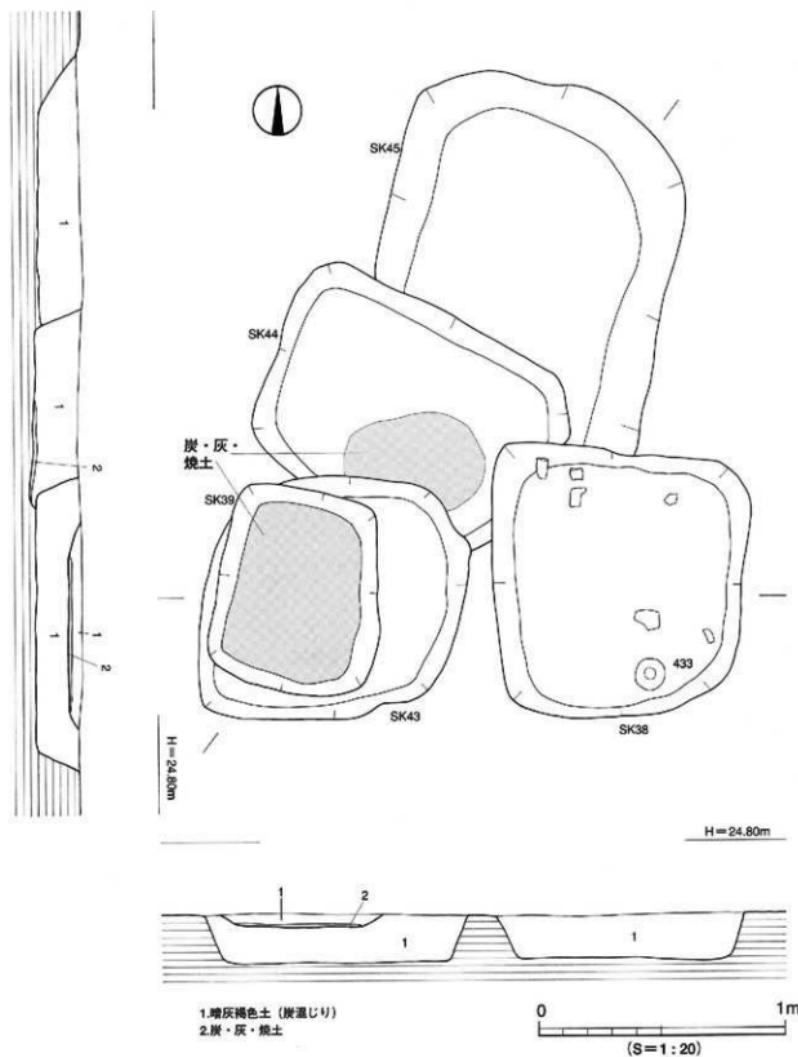


第108図 SK36出土遺物実測図



第109図 SK41出土遺物実測図

調査の概要



第110図 SK38・39・43・44・45測量図

出土遺物（第111図）

432、433は土師器の坏。432の底部は回転ヘラ切りである。

434は胴部片。外面に柳円痕跡を残す。

時期 出土遺物から9世紀後半～10世紀前半。

SK 39（第110図、図版20）

D 7グリッドでの検出である。SK 43を切る。平面形は隅丸方形を呈する。検出規模は長軸85cm、短軸66cm、深さ6cmを測る。埋土は、炭の混じる暗灰褐色土である。土坑底の全面には厚さ1cm～2cmの炭層と白灰層がある。炭層には焼土がみられた。遺物は上師器が出土した。

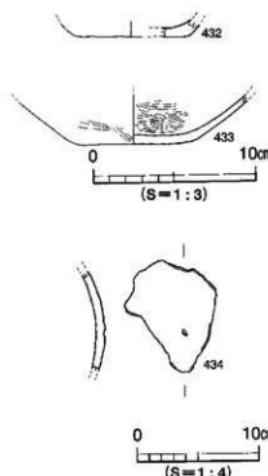
出土遺物（第112図）

435は鍋。外面はハケ目調整である。

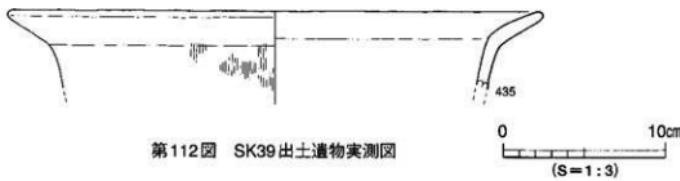
時期 出土遺物と埋土色から9世紀後半～10世紀前半。

SK 43（第110図）

D 7グリッドでの検出である。平面形は隅丸方形を呈する。検出規模は長軸107cm、短軸100cm、深さ19cmを測る。埋土は、炭の混じる暗灰褐色土である。



第111図 SK38出土遺物実測図



第112図 SK39出土遺物実測図

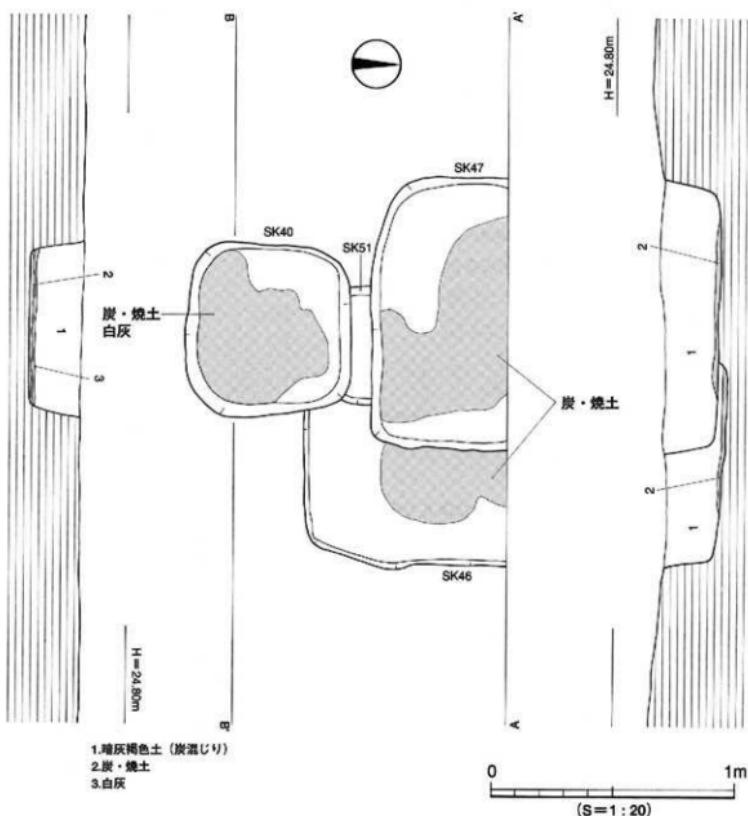


第113図 SK43出土遺物実測図



第114図 SK44出土遺物実測図

調査の概要



第115図 SK40・46・47・51測量図

出土遺物（第113図）

436は須恵器の蓋。437は須恵器の坏。

時期 出土遺物より 9世紀後半～10世紀前半

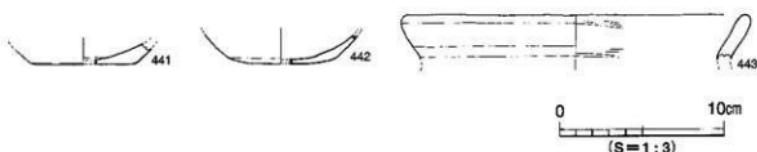
S K 44（第110図）

D 7グリッドでの検出である。SK 43に切られる。

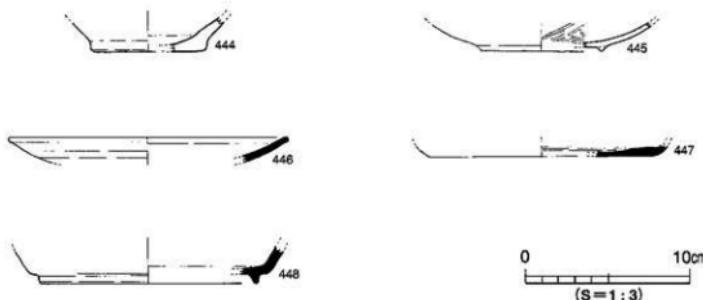
平面形は隅丸方形を呈する。検出規模は長軸125cm、短軸90cm、深さ20cmを測る。埋土は、炭の混じった暗灰褐色土である。土坑底には焼土のほか、厚さ1cm～2cmの炭層と白灰層、焼土粒層がある。遺物は土師器、須恵器が出土した。



第116図 SK40出土遺物実測図



第117図 SK46出土遺物実測図



第118図 SK47出土遺物実測図

出土遺物（第114図）

438は土師器の壺。底部は回転ヘラ切りである。439は須恵器の壺。口縁端部は丸い。

時期 出土遺物と埋土色から9世紀後半～10世紀前半。

SK 45（第110図）

D 7グリッドでの検出である。SK 38、SK 44に切られるため全容は不明である。平面形は、隅丸長方形を呈するものと考えられる。検出規模は長軸136cm、短軸118cm、深さ17cmを測る。埋土は、炭の混じる暗灰褐色土である。遺物は、土師器片が出土したが図示できるものはない。

時期 埋土色から9世紀後半～10世紀前半。

SK 40（第115図、図版20）

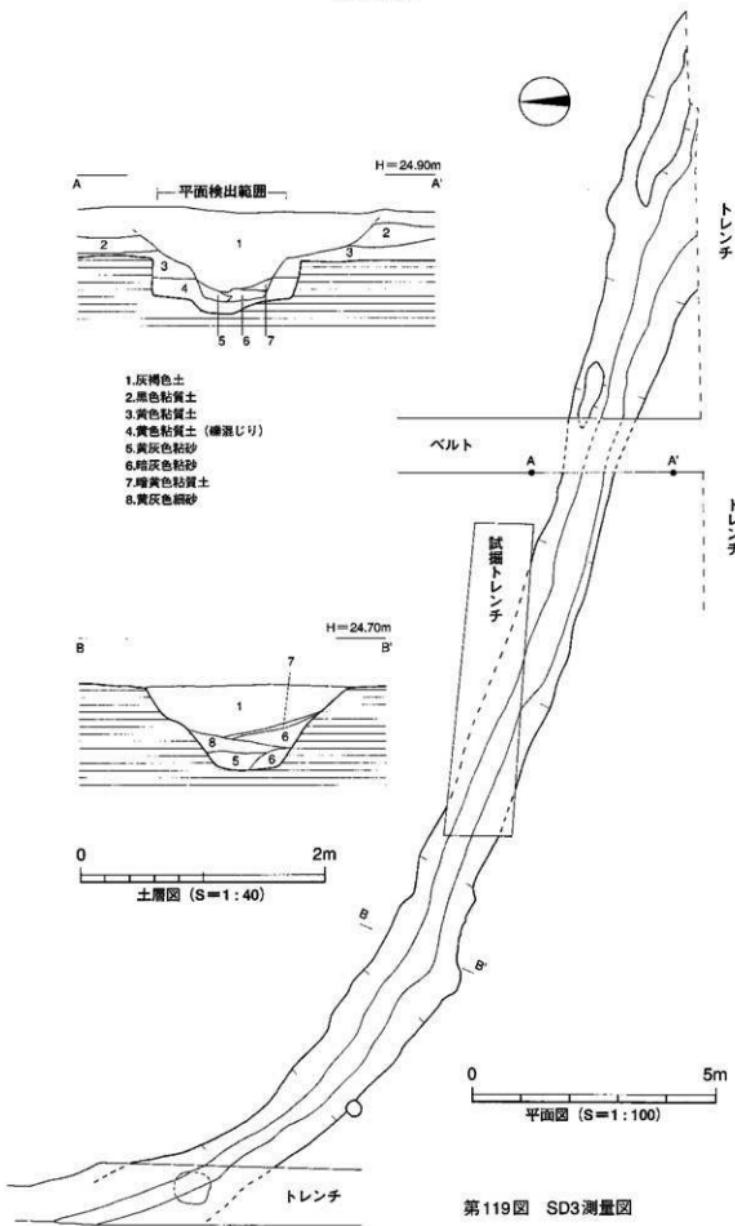
D 7グリッドのベルト上で検出した。SK 46、SK 51を切る。平面形は隅丸方形を呈する。検出規模は長軸70cm、短軸68cm、深さ21cmを測る。埋土は、炭の混じる暗灰褐色土である。土坑底には厚さ1cm～2cmの炭層と白灰層とがある。炭層には粒状の焼土がみられた。遺物は須恵器が出土した。

出土遺物（第116図）

440は須恵器の蓋である。天井部はヘラケズリ。

時期 出土遺物と埋土色から9世紀後半～10世紀前半。

調査の概要



第119図 SD3測量図

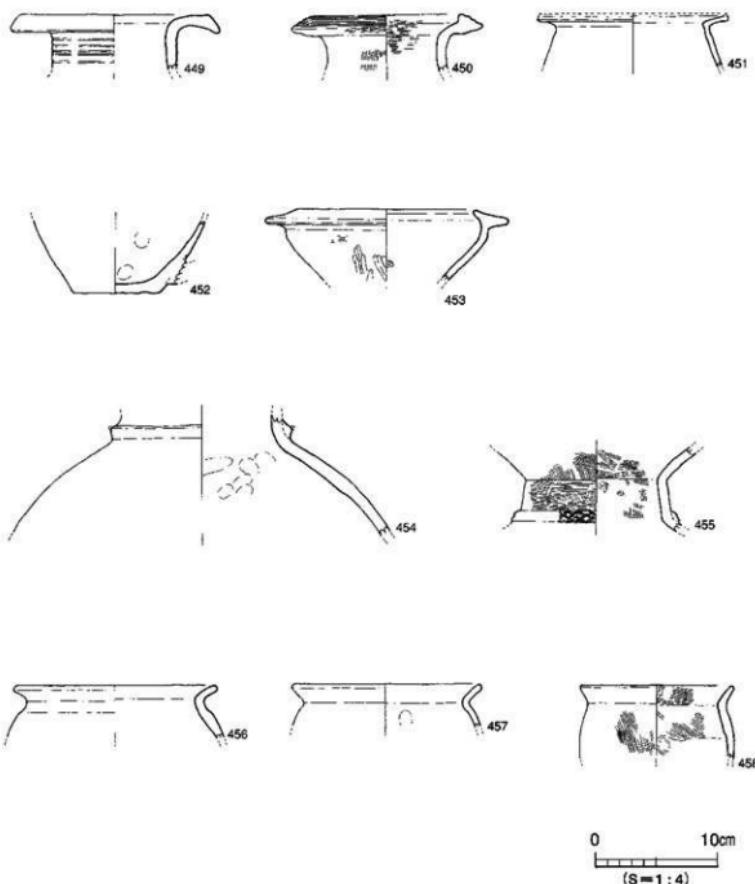
SK 46 (第115図、図版20)

C 7、D 7 グリッドのベルト上で検出した。SK 40、SK 47、SK 51に切られる。北側が欠失する。平面形は隅丸方形を呈する。検出規模は長軸85cm、短軸83cm、深さ26cmを測る。埋土は、炭の混じる暗灰褐色土である。土坑底には、厚さ1cm~2cmの炭層と焼土粒がある。

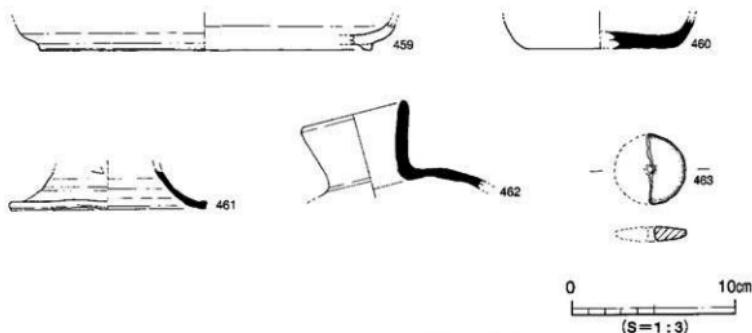
出土遺物 (第117図)

441、442は土器の壺。底部は回転ヘラ切りである。443は壺の口縁部。

時期 出土遺物と埋土色から9世紀後半~10世紀前半。



第120図 SD3出土遺物実測図 (1)



第121図 SD3出土遺物実測図（2）

SK 47 (第115図、図版20)

C 7 グリッドのベルト上で検出した。SK 46、SK 51を切る。北側が欠失する。平面形は隅丸方形を呈する。検出規模は長軸112cm、短軸56cm、深さ24cmを測る。埋土は、炭の混じる暗灰褐色土である。上坑底には厚さ1cm～2cmの炭層がある。炭層中には粒状の焼土がみられる。

出土遺物 (第118図)

444は土師器の壺。底部外面はナデを施す。445は内面黒色の土師器壺。446は灰釉の皿。447は須恵器の壺。448は高台付の壺である。

時期 出土遺物と埋土色から9世紀後半～10世紀前半。

SK 51 (第115図)

SK 46の上坑底で検出した。SK 40、SK 47に切られる。平面形は隅丸方形を呈する。

検出規模は長軸50cm、短軸50cm、深さ12cmを測る。埋土は、炭の混じる暗灰褐色土である。出土遺物は、土師器片が出土したが図示するものはない。

時期 埋土色から9世紀後半～10世紀前半。

4) 溝 (SD)

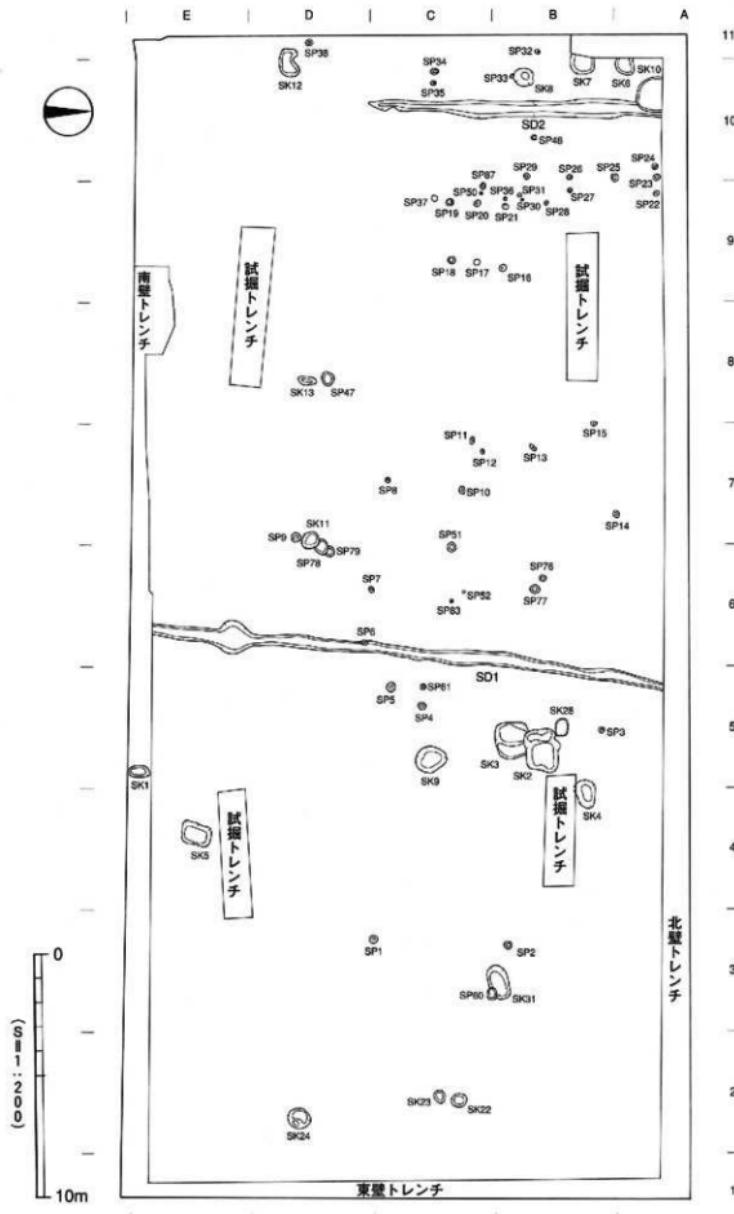
SD 3 (第119図、図版21)

調査区南壁の中央部から西壁の中央部に向かって流れる溝である。弥生時代の自然流路S R 1を切り、掘立1に切られる。検出長24.20m、幅1.04m～1.98m、深さ0.40m～0.72mを測る。

出土遺物 (第120・121図、図版36)

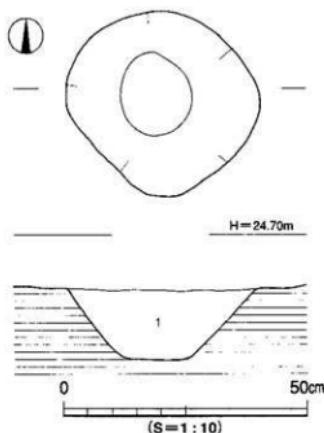
449～458は弥生土器である。449～453は中期の上器。450は口縁部に凹線文を施す。451は壺形土器。口縁端部は上方にのびる。452はジョッキ形土器。把手部は折損。453は高壺形土器。454～458は後期の土器。454、455は壺形土器。456～458は壺形上器。459は土師器壺の底部片。460は須恵器の壺底部。底部は回転ヘラ切りである。461は高壺の脚部。462は平瓶である。463は土製の紡錘車。半分欠損する。

遺構と遺物

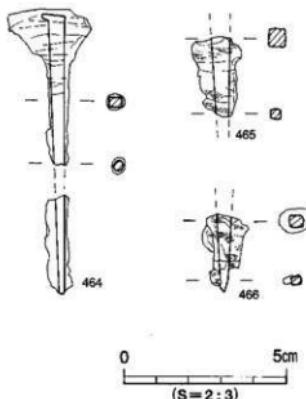


第122図 中世以降遺構配置図

調査の概要



第123図 SP5測量図



第124図 SP5出土遺物実測図

時期 掘立1との切り合い関係と出土遺物より11世紀までには埋没したものと考える。

(3) 中世以降

第VI層では土坑18基、柱穴51基、溝2条を検出している。これら遺構の埋土は灰色系の上である。この灰色系の土を埋土にもつ遺構からは上飾器、陶磁器などが出土しており、概ね中世から近世にかけての遺構と考えられる。この灰色土を埋土とする遺構にはSK3がある。埋土からは、13世紀後半の遺物が出土しており、灰色土を埋土にもつ遺構の時期としてはもっとも古い時期にあたる。よって、ここでは灰色土を埋土にもつ遺構を中世以降として扱った。以下主な遺構について記述する。

1) 柱穴 (S P)

S P 5 (第123図)

C 5グリッドでの検出である。平面形は円形を呈する。埋土は灰色土である。

出土遺物 (第124図)

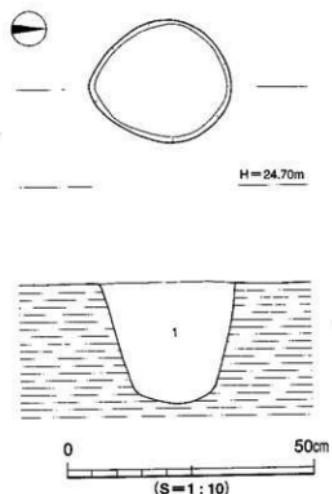
464～466は角釘である。いずれも木質が付着する。464は釘頭まで残す。465、466は欠損。

S P 17 (第125図)

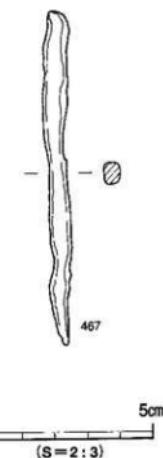
C 9グリッドでの検出である。平面形は円形を呈する。埋土は灰色土である。

出土遺物 (第126図)

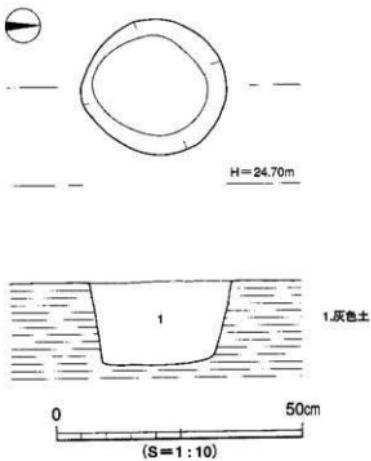
467は角釘である。釘頭は欠損する。



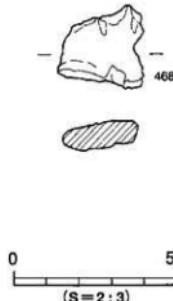
第125図 SP17測量図



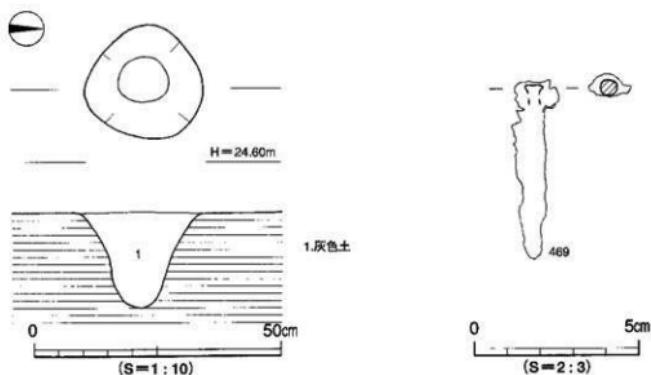
第126図 SP17出土遺物実測図



第127図 SP18測量図

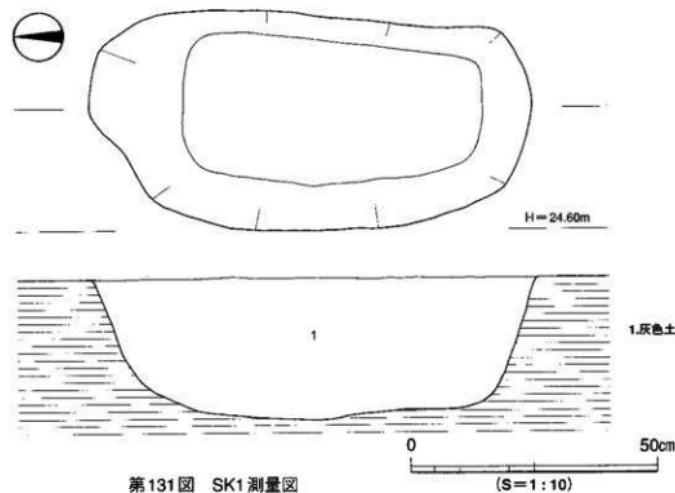


第128図 SP18出土遺物実測図



第129図 SP20測量図

第130図 SP20出土遺物実測図



第131図 SK1測量図

第132図 SK1出土遺物実測図

S P 18 (第127図)

C 9 グリッドでの検出である。平面形は円形を呈する。埋土は灰色土である。

出土遺物 (第128図)

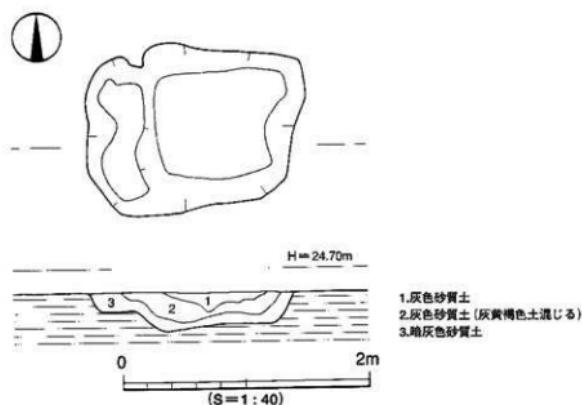
468は鉄洋である。重量は7.47 gを測る。

S P 20 (第129図)

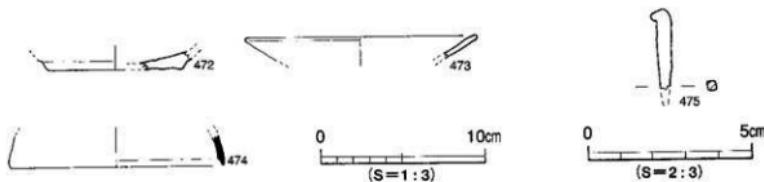
C 9 グリッドでの検出である。平面形は円形を呈する。埋土は灰色土である。

出土遺物 (第130図)

469は角釘である。長さ5.4cmを測る。



第133図 SK2測量図



第134図 SK2出土遺物実測図

2) 土坑

SK 1 (第131図)

E 5 グリッドでの検出である。平面形は隅丸長方形を呈する。検出規模は長軸89cm、短軸45cm、深さ29cmを測る。埋土は灰色土である。

出土遺物 (第132図)

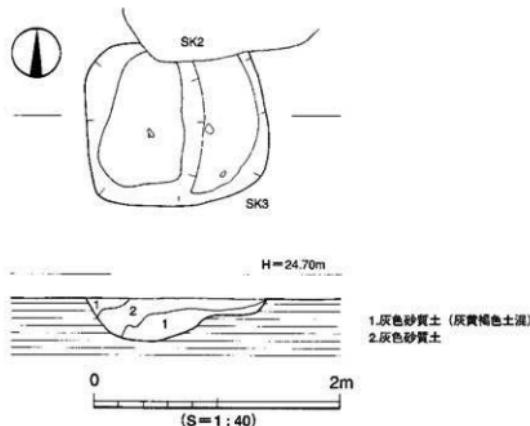
470は土師器の壺。内外面ともナデ調整。471は蓋壺の蓋。口縁部は段をもつ。

SK 2 (第133図)

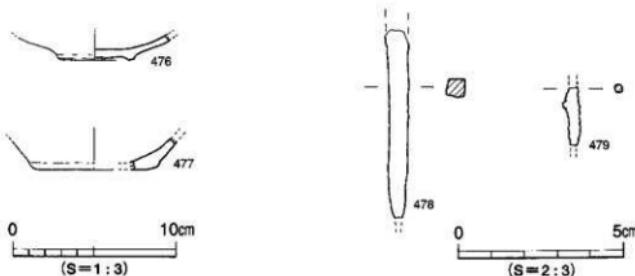
B 5 グリッドでの検出である。平面形は不整形を呈する。埋土は灰色砂質土である。

出土遺物 (第134図)

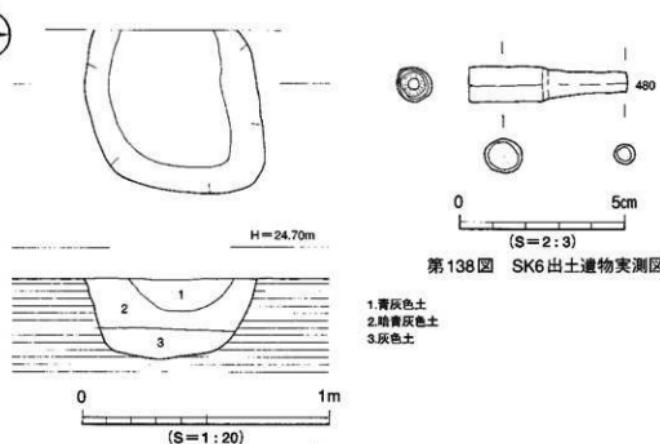
472は土師器の壺。473は灰釉の皿。474は蓋壺の蓋。口縁端部は段をもつ。



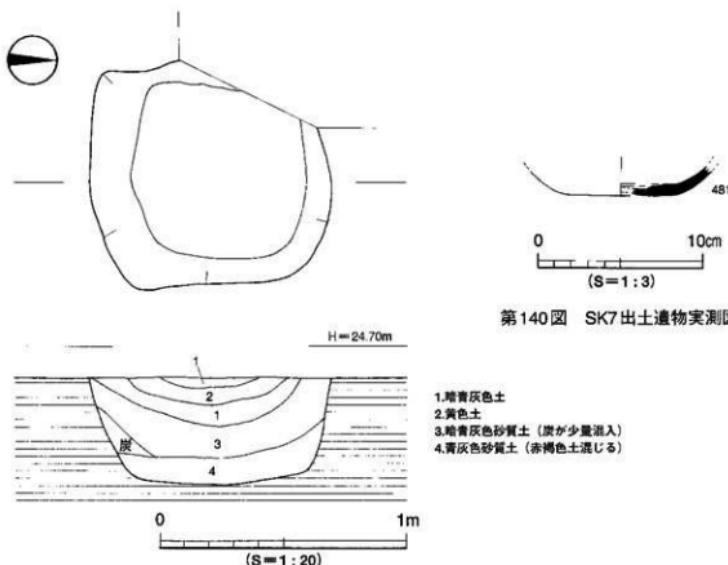
第135図 SK3測量図



第136図 SK3出土遺物実測図



第137図 SK6測量図



第138図 SK6出土遺物実測図

第139図 SK7測量図

調査の概要

SK 3 (第135図)

B 5グリッドでの検出である。平面形は隅丸方形を呈する。土坑底部は段をもつ。規模は長軸1.48m、短軸1.34m、深さ0.12m～0.35mを測る。遺物は土師器、須恵器、鉄製品が出土した。

出土遺物 (第136図)

476は瓦器塊。477は土師器の坏。内外面ともナデ調整。478、479は角釘。釘頭と釘先は欠損。

時期 出土遺物より13世紀以降。

SK 6 (第137図)

A 10グリッドでの検出である。西側はトレンチに切られ全容は不明である。検出規模は長軸72cm、短軸68cm、深さ33cmを測る。遺物は銅製品が出土した。

出土遺物 (第138図、図版36)

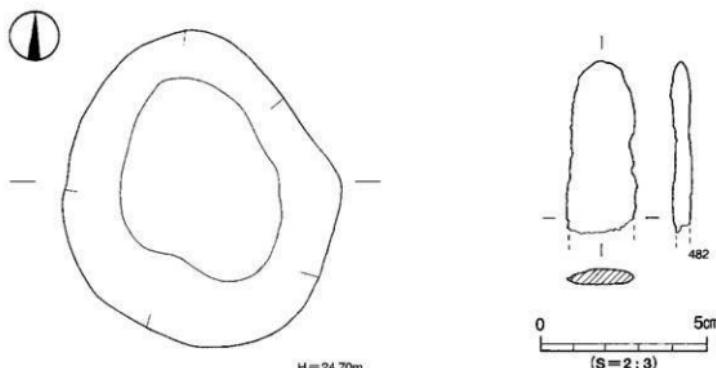
480は煙管の吸口である。

SK 7 (第139図)

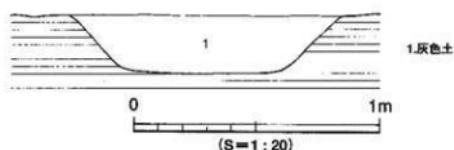
B 10グリッドでの検出である。平面形は隅丸方形を呈する。埋土は暗青灰色土である。

出土遺物 (第140図)

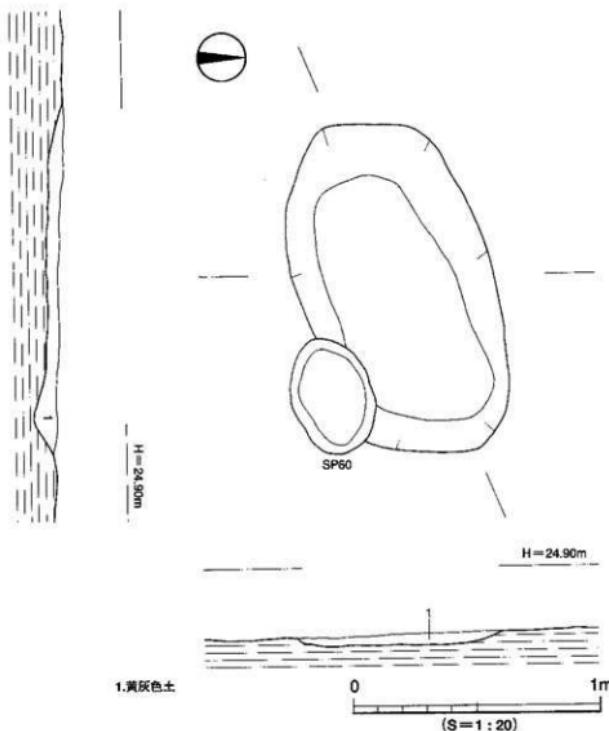
481は須恵器の坏。内外面ともナデ調整。



第142図 SK9出土遺物実測図



第141図 SK9測量図



第143図 SK31測量図

SK 9 (第141図)

C 5 グリッドでの検出である。平面形は不整形を呈する。埋土は灰色土である。

出土遺物 (第142図)

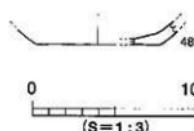
482は小刀の破片と思われる。重量11.21 gを測る。

SK 31 (第143図)

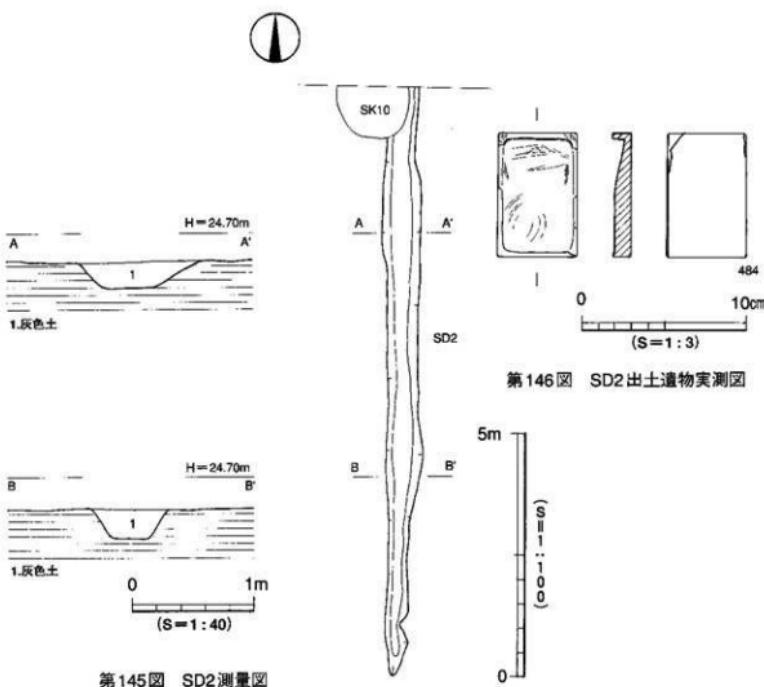
B 3、C 3 グリッドでの検出である。平面形は東西に長い隅丸長方形を呈する。埋土は黄灰色土である。

出土遺物 (第144図)

483は十師器の壺。内外面ともナデ調整される。



第144図 SK31出土遺物実測図



3) 溝 (SD)

SD 2 (第145図)

A 10～C 10グリッドでの検出である。南北にのびる溝で北側は調査区外となっている。断面形は逆台形状となる。検出規模は長さ12.10m、幅0.30～0.80m、深さ0.21～0.24mを測る。埋土は灰色土である。遺物は石製品が出土した。

出土遺物 (第146図、図版36)

484は粘板岩製の硯である。長さ7.6cm、幅4.9cm、厚さ1.1cmを測る。

(4) 包含層出土遺物

第Ⅶ層及び第Ⅲ層から遺物が出土している。また地山とした第Ⅳ層からも遺物が出土している。ここでは、第Ⅶ層・第Ⅲ層・第Ⅳ層の順に出土遺物を詳述する。

1) 第Ⅶ層（第3～12、154図）

第Ⅶ層は調査区西半部に堆積する灰褐色土である。

作業工程は、グリッドごとに掘り下げを行い、遺物の出土に伴って順次取り上げていった。そのうち、比較的残存状況が良好な遺物や特筆すべきものについては1点ごとに地点とレベルを記録しながら取り上げを行った。

報告は、まずグリッドごとに取り上げた遺物から報告し（第147～153図）、次にA 9～E 11区においてドットで取り上げた遺物について行う（第155～161図）。しかし前述したとおり、整理作業段階で第Ⅶ層出土遺物とS R 1 ①層出土遺物が接合した場合はS R 1 ①層出土遺物として報告している。

遺物は弥生土器のほか土師器・須恵器・石製品などが出土した。遺物は破片資料がほとんどであったが、複合口縁壺などの口縁部は良好に残存している個体もある。

出土遺物（第147～153図、図版37～42）

485～532は弥生土器である。壺形土器と壺形土器は大きく区分して中期のものと後期のものとが出土しているため、485～488に中期、489～502に後期を掲載する。底部片については区分が難しいため、まとめて503～511に掲載する。485は壺形土器である。口縁端部に2条の凹線文を施し、頸部に焼成前穿孔を施す。486～488は壺形土器である。486は外反して開く口縁部に丁寧なミガキを施す。487は長く伸びた頸部に2列の刻目突部を貼り付ける。在地の上器とは異なるため、搬入品の可能性がある。488は複合口縁壺で、拡張部に5条の凹線文と山形文を施す。489～492は壺形土器である。器形は長胴で、胴部最大径が489は胴上位に、490～492は胴中位にあると思われる。489・490は中型品、491は小型品、492は大型品に分類される。493～502は壺形土器である。494は大きくラッパ状に開く口縁部。496は直立気味に長く立ち上がる口縁部。497～500は複合口縁壺。497は直線的に内傾する頸部下位に沈線文、肩部に斜格子の刻目突部を施す。498・499は拡張部が内湾気味に立ち上がる。無文である。500は拡張部が直立したのち外反する。搬入品か？501は頸部が長く立ち上がり、口縁部はわずかに内湾する直口口縁。端部は丸く仕上げる。肩部はなだらかにおさめる。502は複合口縁壺の拡張部と思われる。拡張部に1条の沈線文。503～511は底部片である。503～506は壺形土器と思われる。506はボタン状の突出した底部。507～511は壺形土器と思われる。511は器壁が薄い。弥生前期土器と思われる。

512は壺形土器である。底部に径6.5mmの焼成前穿孔を施す。

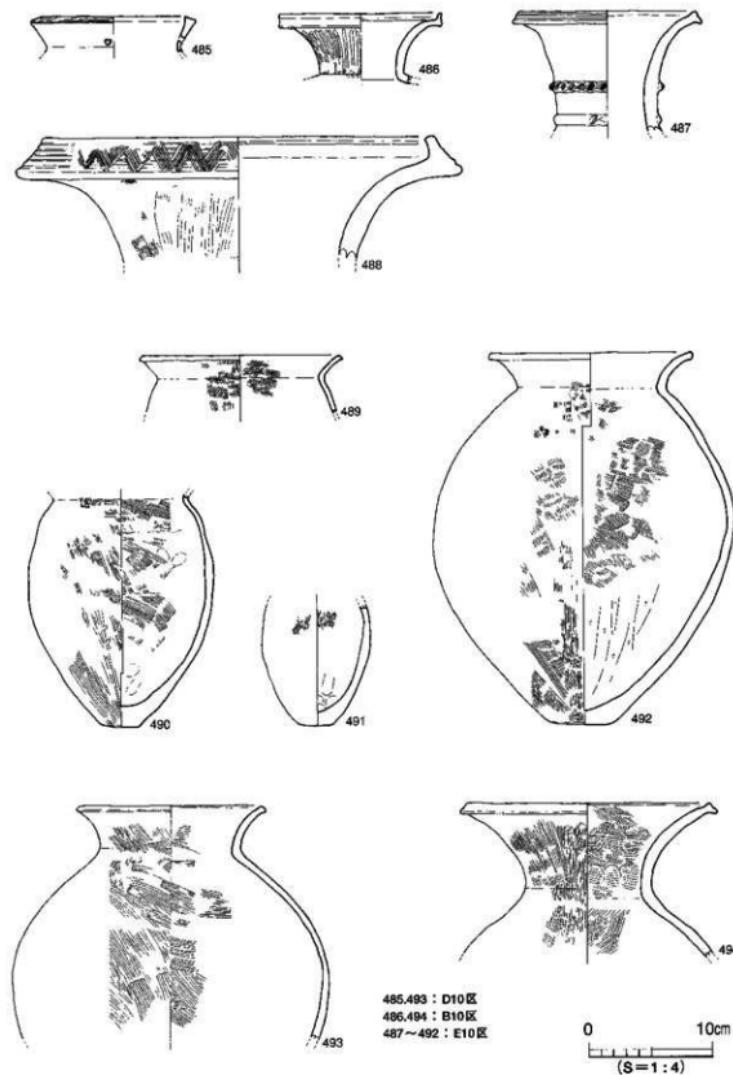
513～521は鉢形土器である。513～518は稜をもって外反する口縁部、519～521は内湾気味に立ち上がる直口口縁である。515は外面上に爪状の痕跡あり。518は鉢形のミニチュアではなく完形品である。521は塊形を呈する。

522・523は高杯形土器である。いずれも脚部片で、凹線文と矢羽根透かしの組み合わせをもつ。

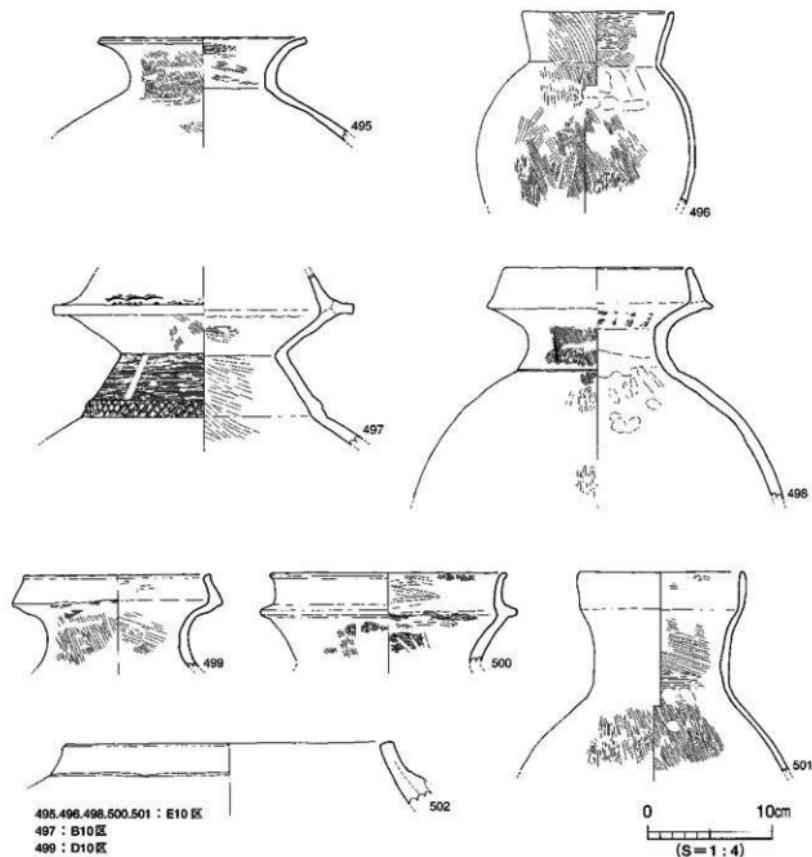
524～526は器台形土器である。524は口縁部がラッパ状に大きく外反しており、拡張部は欠損しているが本来は複合口縁をなす。525は上下に沈線文を施し、その間に斜格子円文充填の三角文を施す。526は柱部に貫通する大きめの円孔を上下に2段穿つ。

527～529は支脚形土器である。527は角状の突起を前面に2方向、背面に1方向作り出す。528は

調査の概要



第147図 第VII層出土遺物実測図（1）



第148図 第VII層出土遺物実測図（2）

長い柱部に「U」字状の受部をもつ。底部は上げ底である。529は中央部が窪む。

530はジョッキ形土器である。把手部を欠損する。

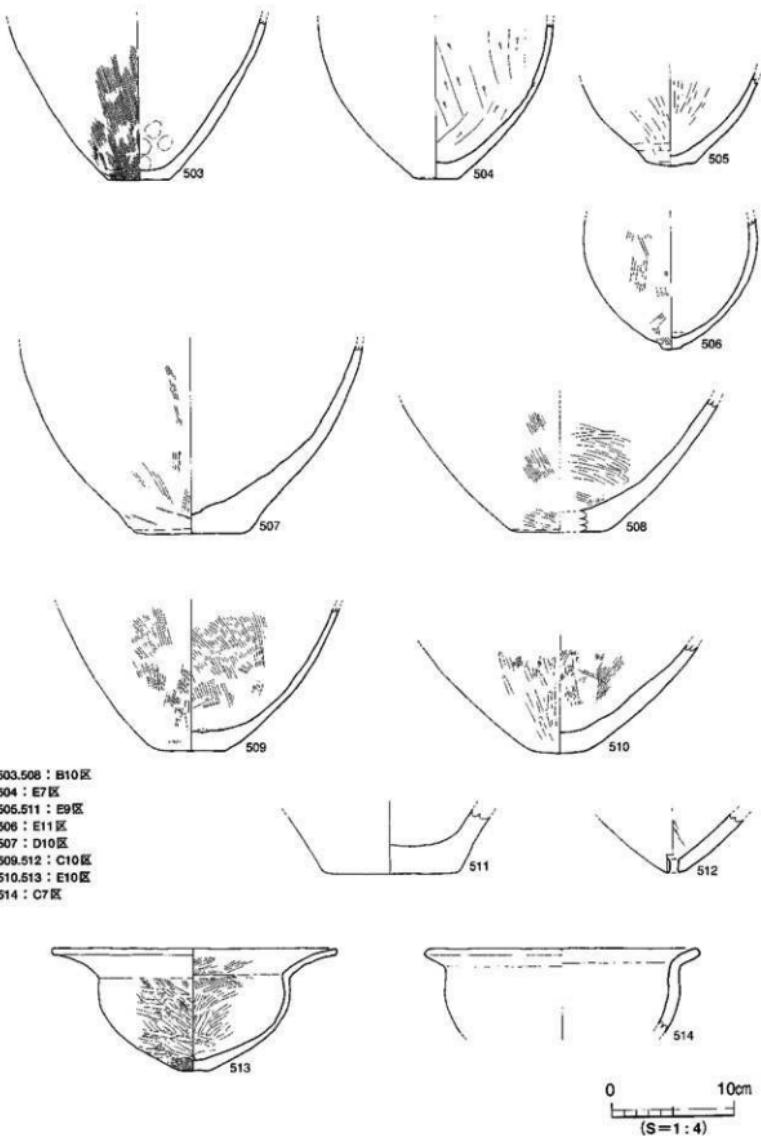
531は線刻土器である。胴部に交差した2本線を描く。

532は底部付近内面に炭化米が付着する。土器製作途中で胎土に混入したものと推定される。

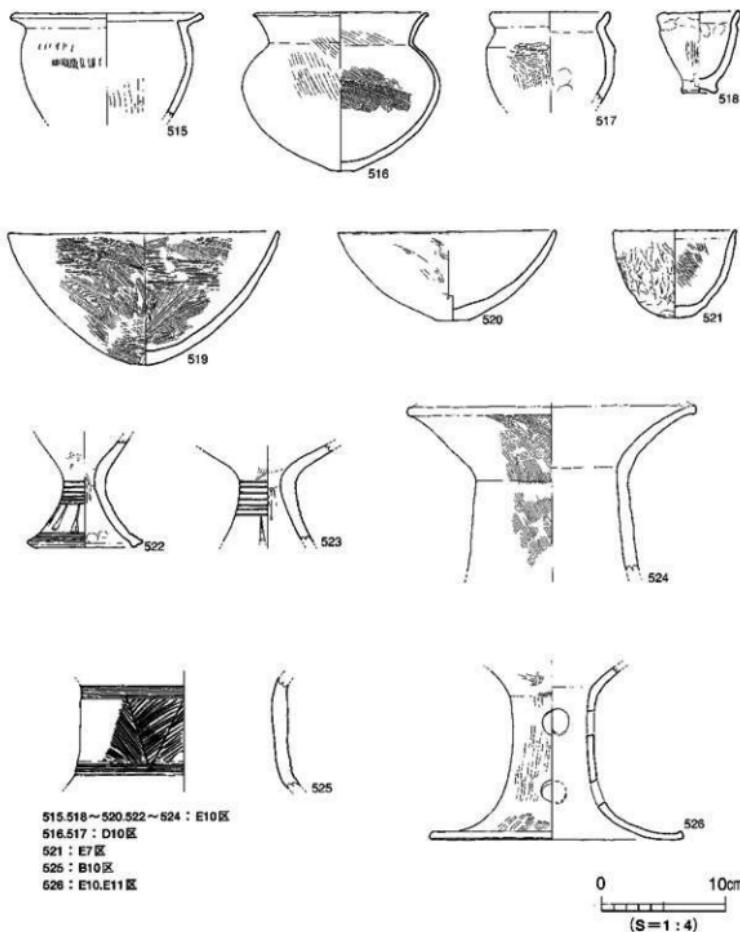
533は分鉄形土製品である。上半部のみ残存している。形状は円形で顔面表現がある。赤色顔料が付着する。

534は土師器の壺形土器である。肩の張る肩部に短い口縁部。内面に同心円文が残る。内外面とも

調査の概要

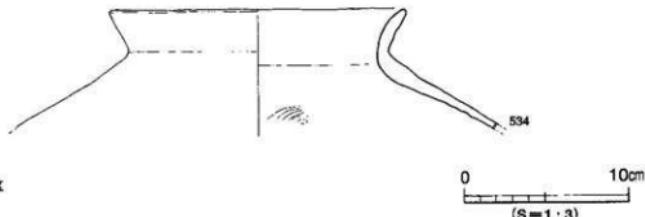
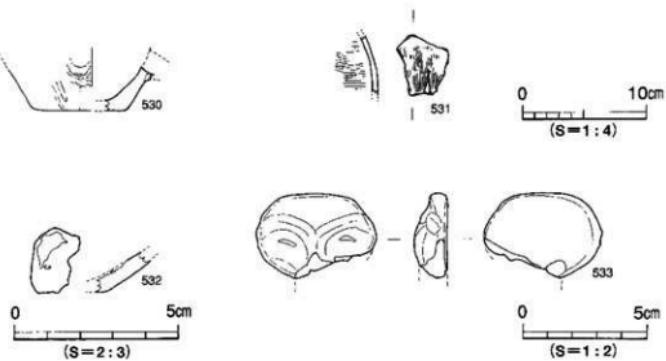
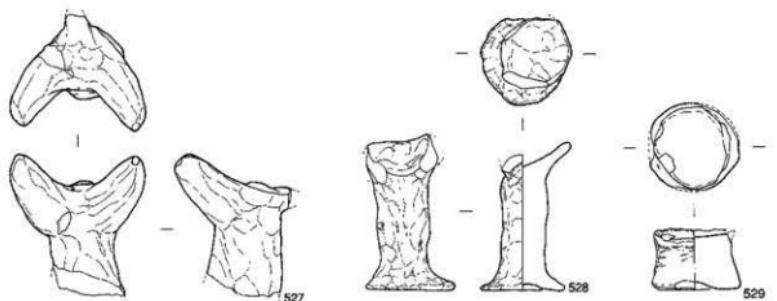


第149図 第VII層出土遺物実測図 (3)



第150図 第VII層出土遺物実測図 (4)

調査の概要



527 : E11区
 528,531 : E10区
 529,532,533 : B10区
 530 : C7区
 534 : C10区

第151図 第VII層出土遺物実測図(5)

橙色をなす。

535～538は須恵器である。535は壺蓋である。天井部は扁平で、断面台形状のつまみが付く。536・537は壺である。半底風の底部で、口縁部は外反しながら立ち上がる。538は壺底部である。高台は高く外方へ踏ん張る形状である。

539～548は石製品である。539・540は石斧丁である。大きく欠損しているため全体形状は不明である。541は石鎌である。打製段階途中で、刃部に研磨が及んでいない。542は石鎌未製品と思われる石器素材である。大きく白自然面が残る。543・544はスクレイパーである。曲線的な刃部を片面調整により作り出す。545は砥石である。欠損しているが、正四面体各面を機能面として利用している。546は用途不明品である。547・548は敲石である。

549・550は鉄製品である。549は角釘である。釘頭部は欠損する。錆が厚く付着する。550は鉄鎌である。刃部先端部及び茎部を欠損する。刃部の断面形状は長方形を呈する。

以下に、調査区西部（A 9～E 11区）において残存状態が良好な遺物や複数破片でも1個体と推定されるものについて取り上げた遺物を報告する。主な遺物については第154図にその分布を図示している。

出土遺物（第155～161図、図版37～42）

551～603は弥生土器である。551～553は壺形土器である。551は口縁端部に1条の凹線文、頸部に刻目突帯を施す。554～570は壺形土器である。554は口縁部が直立し端部はわずかに外反する。球形の胴部に小さく突出した底部。555は胴部に焼成後穿孔あり。平底の底部。556は厚手のつくりで、胴部中位が大きく張り出す。長頸壺と思われる。557も厚手のつくりで、口縁部が大きく外反したのち端部は「コ」の字状に面をもつ。558は口縁端部を上下に拡張し端面に櫛指波状文を施す。小動物の引っ搔き傷と思われる痕跡がある。赤色顔料の痕跡あり。559～569は複合口縁壺の口縁部～肩部。559～566は口縁拡張部に櫛指波状文や直線文を施す。頸部には斜格子目文の突帯を施す。567は拡張部に斜格子目文を施す。568は口縁拡張部に沈線文を施す。頸部は長く直立し、頸部下位に断面三角形の貼り付け突帯が巡る。九州地方からの搬入品か？569は無文の口縁拡張部が内湾気味に立ち上がる。570は直線的に立ち上がる口縁部に断面三角形の貼り付け突帯が巡る。搬入品か？559・561は赤色顔料の痕跡あり。571～585は底部片である。571～575は壺形土器である。576～585は壺形土器である。576は大型品である。

586は瓶形土器である。底部に径7mmの焼成前穿孔を施す。

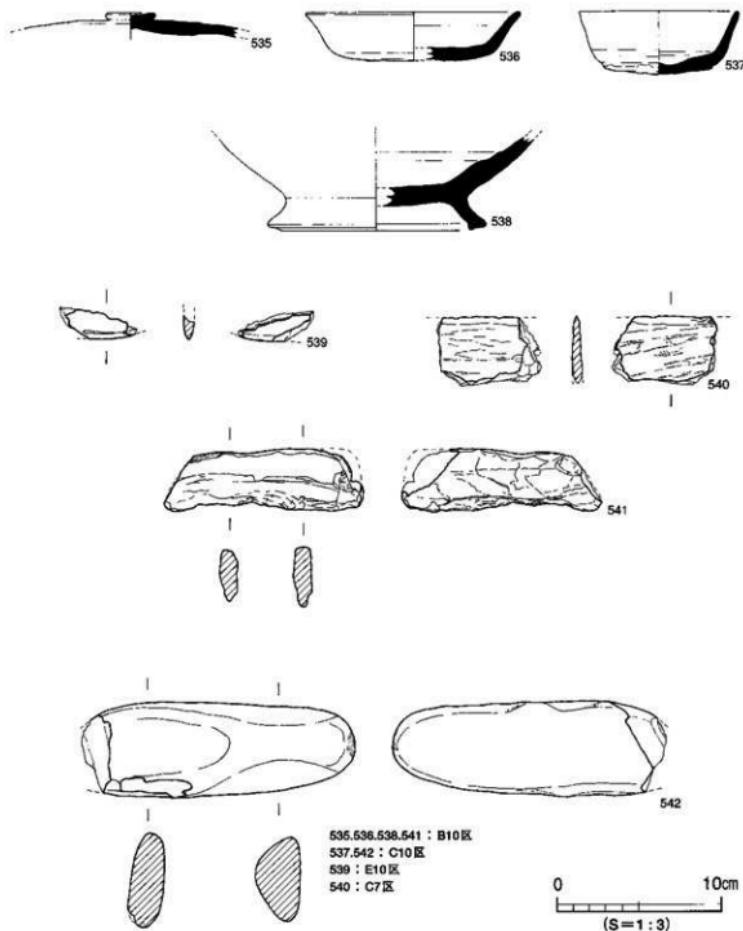
587～592は鉢形土器である。587・588は棱をもって外反する口縁部、589・591は直口口縁である。590は底部内面がこぶ状に突出する。592は底部がボタン状に小さく突出する。

593・594は高环形土器である。593は柱部から大きく聞く據部。交互に大きめの円孔が貫通する。594は上下に貫通する大きめの円孔。

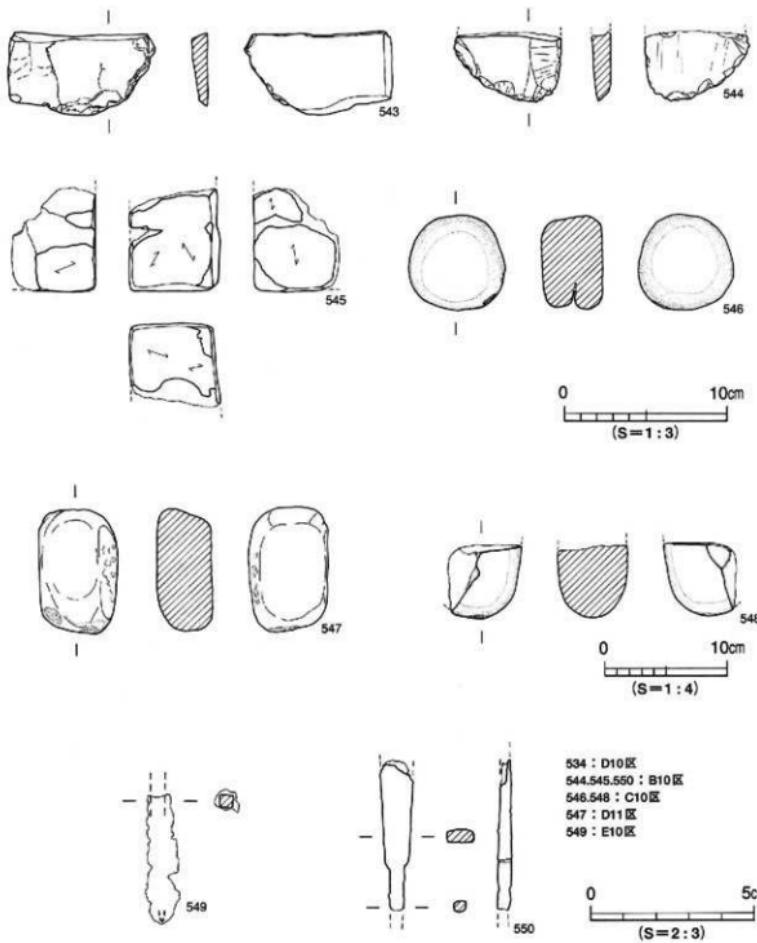
595～603は支脚形土器である。595～599は中・大型品、600～603は小型品である。595～597・603は中実、598～602は中空である。595はほぼ完形品で角状の突起を前面に2方向、背面に1方向作り出す。596は角状の突起を前面に2方向作り出す。597は背面に突起を1方向つまみ出す。前面には2方向突起があったと思われるが、欠損している。598・599は受部に「U」字状の傾斜部をもつ。600～602は円柱状の体部。

604～606はミニチュア土製品である。604は鉢形土器、605は支脚形土器を模したものと思われる。606は鏡形土製品である。鏡背につまみ部を作り出し、径4mmの円孔を穿つ。鏡面はナデにより無文。

調査の概要

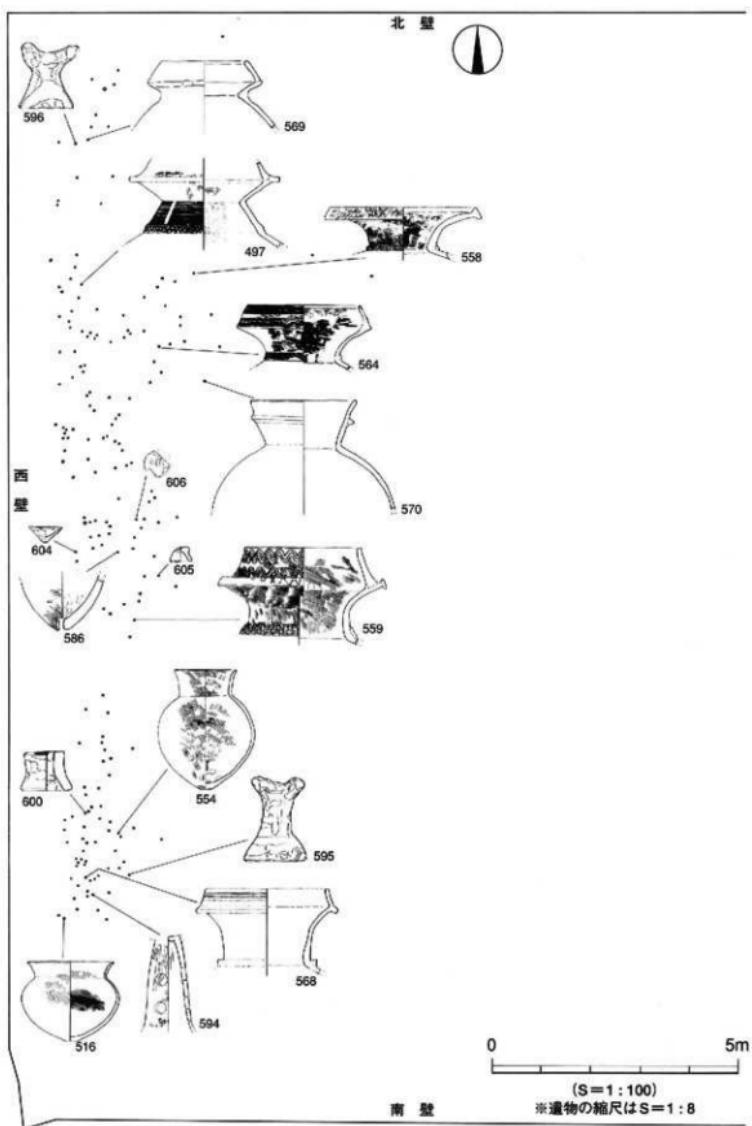


第152図 第VII層出土遺物実測図 (6)

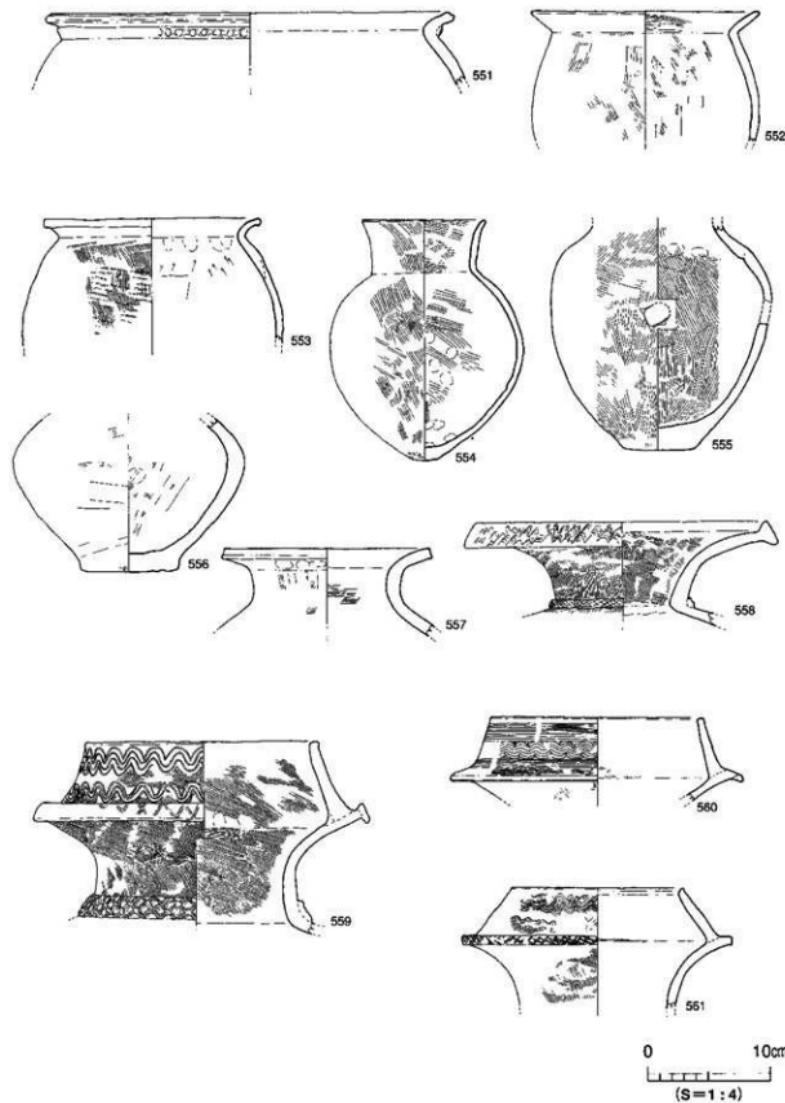


第153図 第VII層出土遺物実測図 (7)

調査の概要

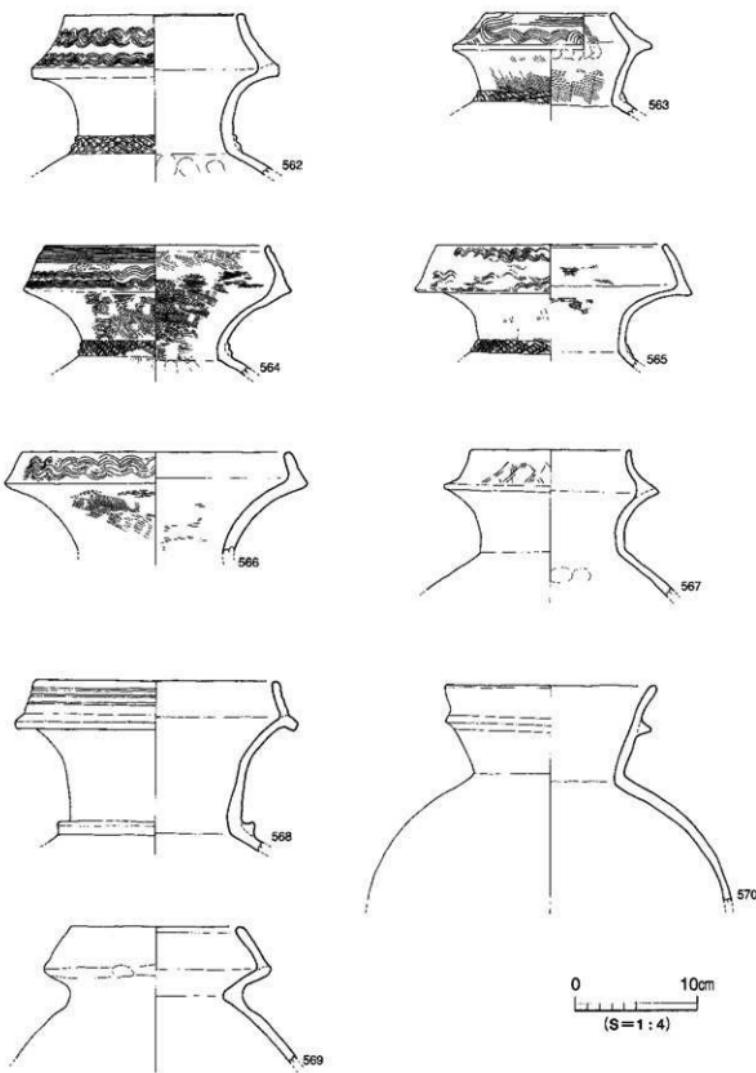


第154図 第VII層（西半部）遺物分布図

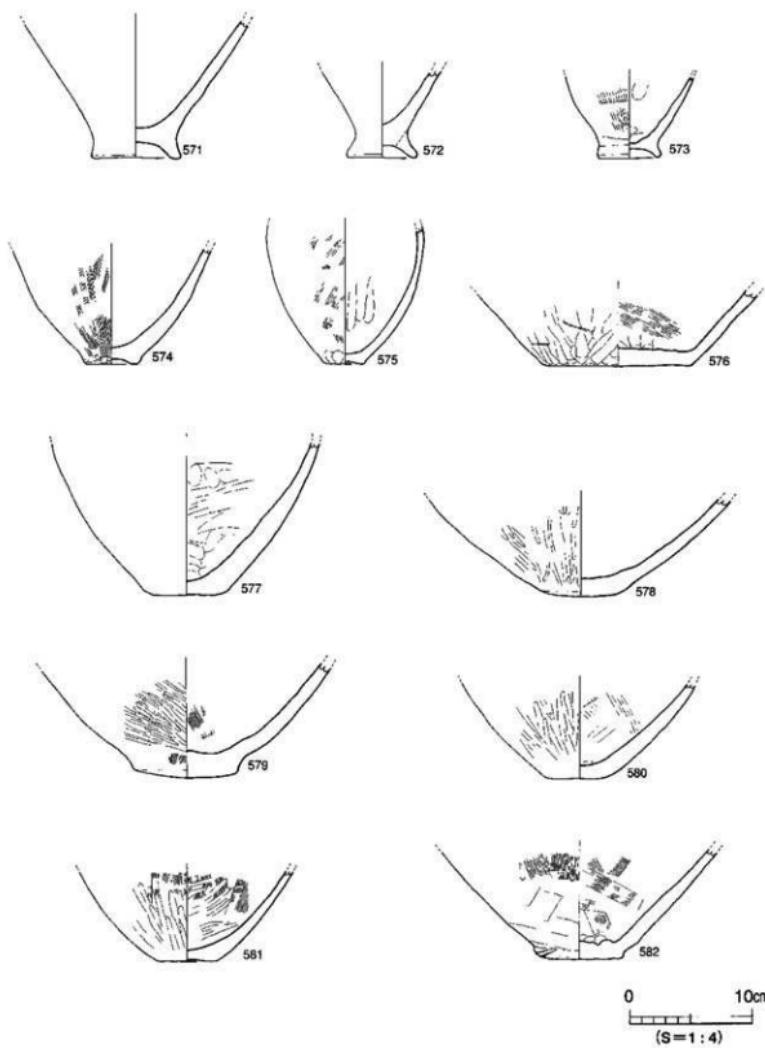


第155図 第VII層出土遺物実測図 (8)

調査の概要

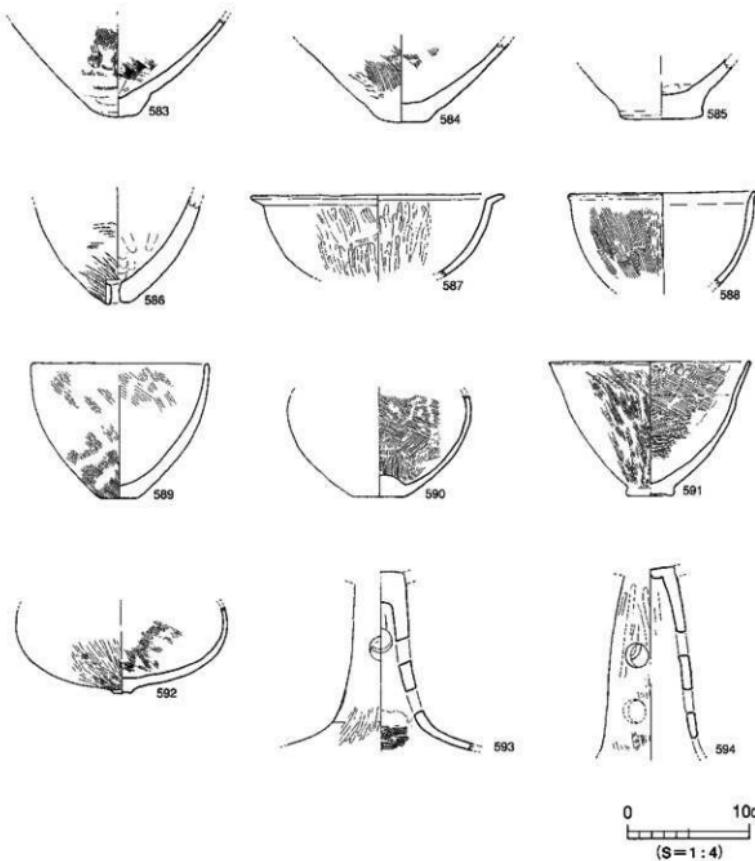


第156図 第VII層出土遺物実測図 (9)

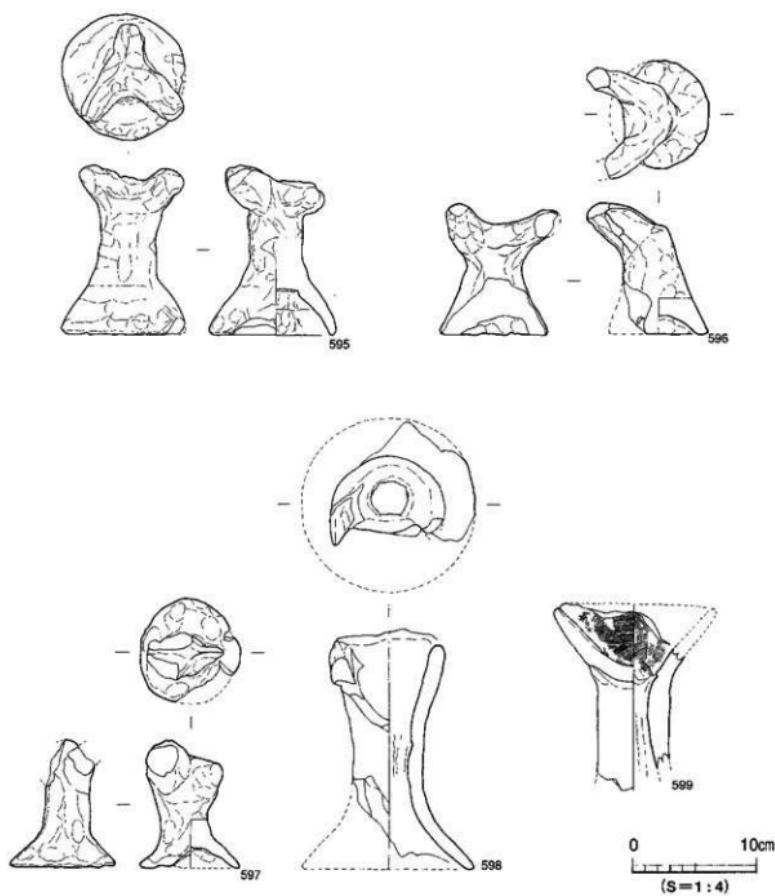


第157図 第VII層出土遺物実測図 (10)

調査の概要



第158図 第VII層出土遺物実測図 (11)



第159図 第VII層出土遺物実測図 (12)

607は上師器の坏である。赤色顔料が付着。

608～611は須恵器である。608は高台付坏である。体部は直線的に立ち上がる。高台は境界付近に付き、細く短い。609は高台付皿である。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はやや外反する。高台は境界より内側に付く。610は高坏脚部である。低脚で脚端部は下外方へ屈曲する。611は壺底部である。高台は低く外方へ踏ん張る形状である。

612・613は石製品である。612は磨石、613は砥石である。

614は獸骨である。馬または牛の臼歯と思われる。

時期 第VII層からは、弥生時代中期・後期、古代の遺物が出土している。このうち古代の遺物として608～611の須恵器は7世紀後半～8世紀後半と推定されるため、第VII層が堆積した時期を7世紀後半～8世紀後半とする。

2) 第III層 (第3～12図)

第III層は調査区ほぼ全域に堆積する明褐色土である。

出土遺物 (第162～164図、図版43)

615～618は白磁碗であり、ほぼ同形態をなす。小さい玉縁状口縁で低い高台をもつ。胎土は灰白色～オリーブ灰色である。619・620は白磁皿であり、ほぼ同形態をなす。体部は外上方へ伸び、内面見込み部に1条の沈線が巡る。

621・622は土師器である。621は皿である。厚手のつくりで、口縁部はやや外反する。622は壺である。底部片。

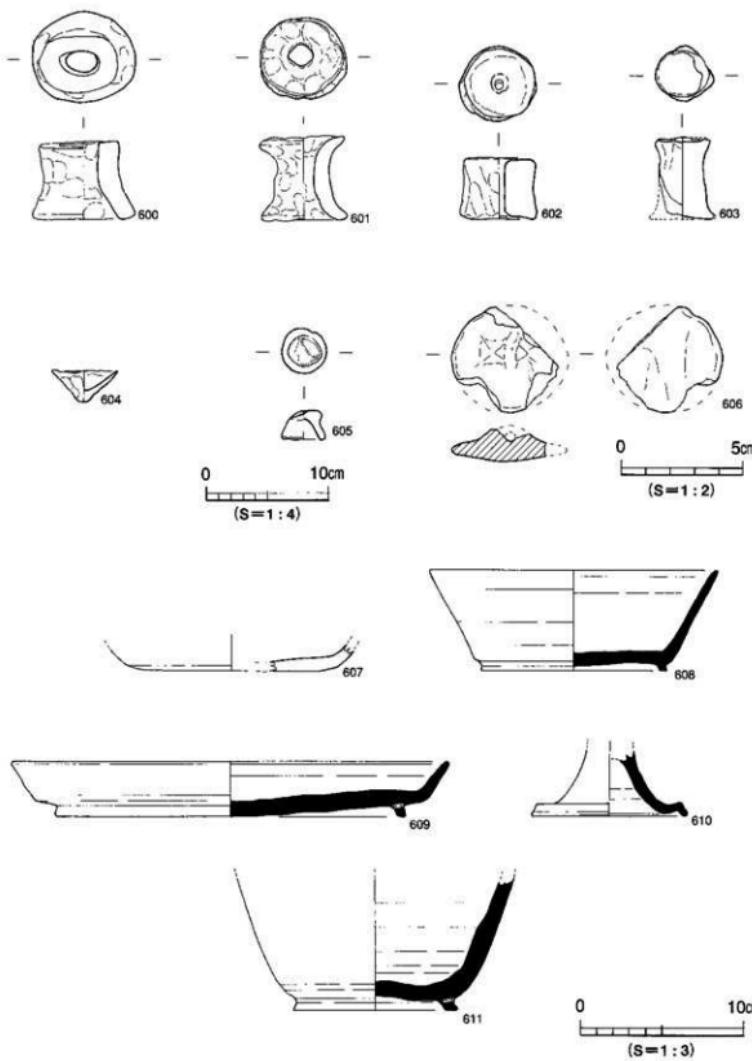
623～626は須恵器である。623は壺蓋である。天井部は扁平で、宝珠つまみが付く。624は高台付坏である。体部と底部の境界は丸みをもち、高台は境界より内側に短く付く。625は瓶である。口縁部は直立したのち外反する。626は壺である。大型品。

627～630は弥生土器である。627は甕形土器である。胴部最大径が胴上位に位置する。口縁部は薄く仕上げる。628は鉢形土器である。口縁部は内湾気味に立ち上がる直口口縁で、底部は小さく突出する。629は底部片である。甕形土器と思われる。630は支脚形土器である。円柱状の体部で、受部はナデ窪む。

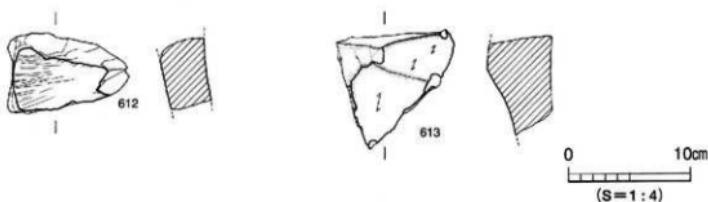
631～634は石製品である。631は石帯（丸範）である。約半分を欠損している。裏面に上下2孔1対の潜り穴が2か所残存しているが本来は3か所あったものと思われる。632・633は砥石である。632は欠損しているが大型品で、不整五面体状を呈し、各面に使用痕が認められる。633は1面に使用痕が認められる。634は敲石である。下部が使用により窪む。

635～637は鉄製品である。635は鉄斧と思われる。鋸造品である。636は鉄鎌である。先端部及び基部を欠損する。637は角釘である。釘頭部を欠損する。

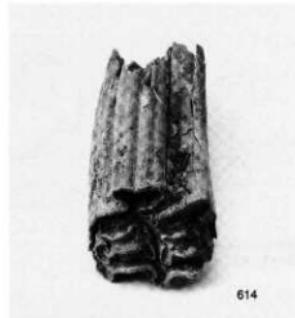
時期 第III層からは弥生時代後期の土器、8世紀代の須恵器、10世紀後半～11世紀中頃の陶磁器が出土している。このうち615～620の陶磁器が最も新しく位置づけられるため、第III層が堆積した時期を古代末とする。



第160図 第VII層出土遺物実測図 (13)



第161図 第VII層出土遺物実測図（14）



3) 第Ⅶ層（第3～12回）

S R 1 調査中に地山とした第Ⅶ層から遺物が出土した。第Ⅶ層は以前より縄文時代後・晩期の包含層であることが知られており、弥生時代の遺構基盤層である。

出土遺物（第165図、図版43）

638～640は縄文土器である。638は深鉢で刻目突帯を施す口縁部である。639は大きく内傾し深めの体部をもつ浅鉢である。640は底部片である。わずかに上げ底の底部。

641は分銅形土製品である。上半部の右側のみ残存しており顔面表現がある。形状は不明であるが、方形または隅丸方形と思われる。赤色顔料が付着しているかどうかは不明である。

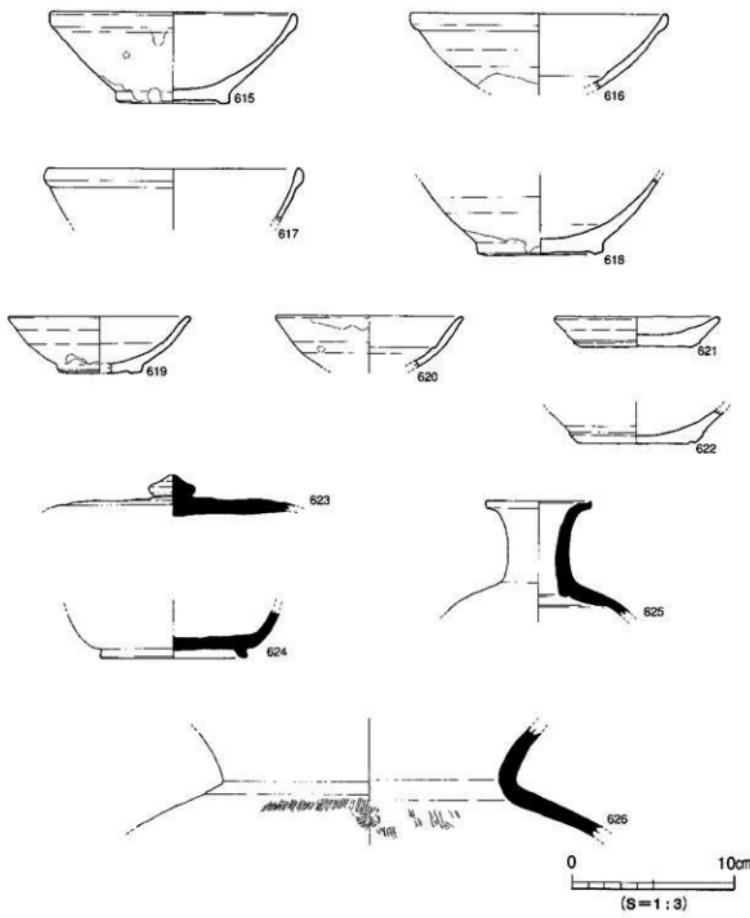
642は石製品である。ほぼ完成品の石庖丁で、平面形は長方形を呈する。背部にも研磨痕跡が残り、穿孔2か所が下位に位置するため、再加工品と思われる。

時期 638～640は縄文時代晩期、641・642は弥生時代中～後期に位置づけられることから、前者が第Ⅶ層に包含していた遺物、後者が本來 S R 1 に包含されていた遺物と推定される。

(5) その他の遺物

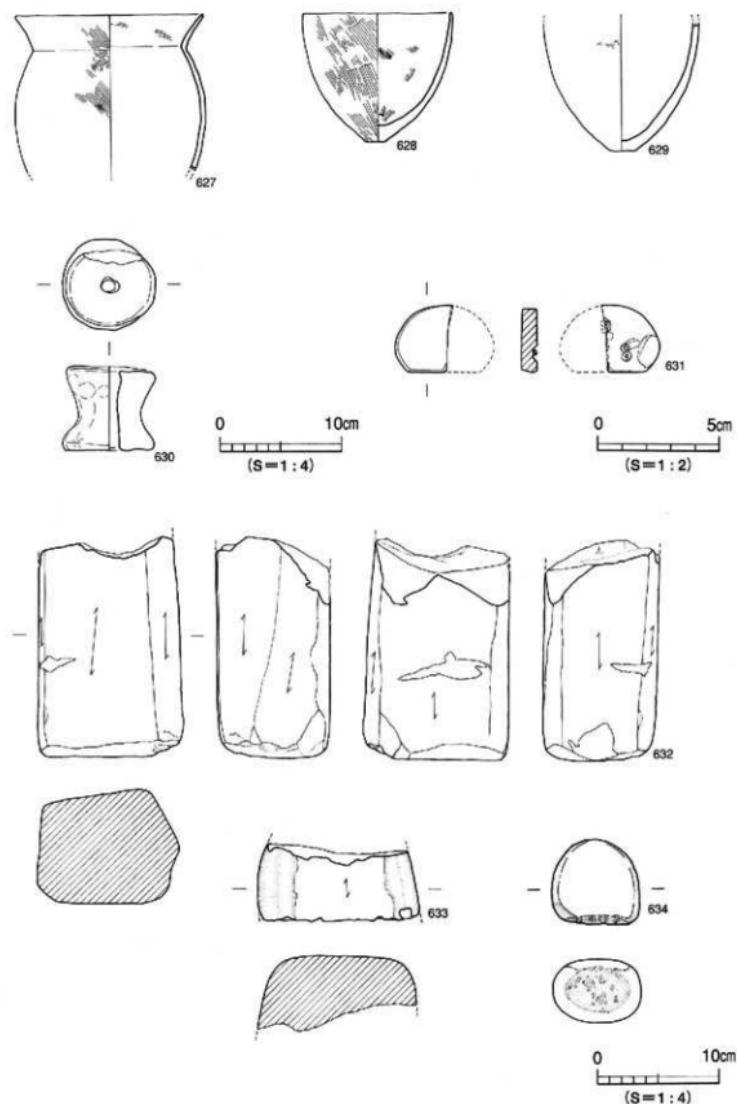
1) トレンチ出土遺物（第13図）

北壁・南壁・西壁トレンチを重機及び人力にて掘削した際に出土した遺物である。概ね弥生時代の遺物については S R 1 出土遺物、古代の遺物については包含層出土遺物と考えられる。

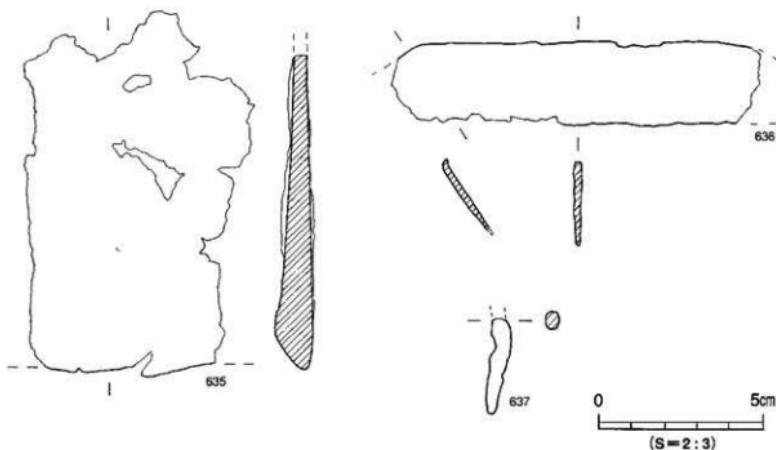


第162図 第III層出土遺物実測図 (1)

調査の概要



第163図 第III層出土遺物実測図（2）



第164図 第III層出土遺物実測図（3）

北壁トレンチ

出土遺物（第166～168図、図版44）

643～662は弥生土器である。壺形土器と壺形土器は大きく区分して中期のものと後期のものとが出土しているため、643～646に中期、647～651に後期を掲載する。643・644は壺形土器である。643は短く外反する口縁部。頸部は刻目突帯を貼り付ける。644は口縁端部に凹線文を施す。胎土がにぶい黄褐色を呈し、備前または備中地方からの搬入品の可能性がある。645・646は壺形土器の口縁部である。645は口縁端部を上下に拡張し、凹線文が巡る。646は口縁端部を上方に拡張し、凹線文と刻目文を施す。647～649は壺形土器である。稜をもって外反する口縁部。肩部最大径は647・648が胴上位に、649が胴中位に位置する。650・651は壺形土器で複合口縁壺である。650の口縁拡張部は無文と思われ、頸部に刻目突帯を施す。651は拡張部に直線文と波状文を組み合わせて施す。652～655は底部片である。652・653は壺形土器、654・655は壺形土器と思われる。

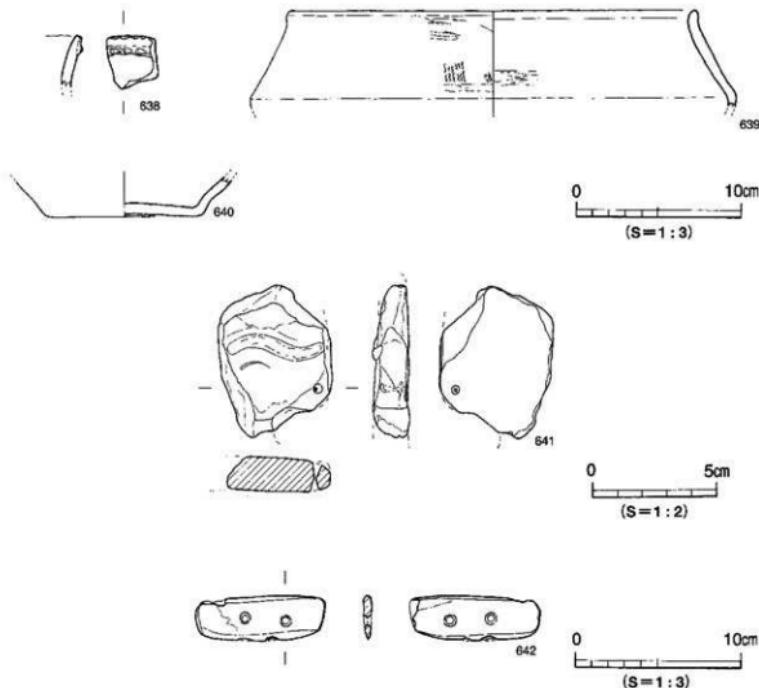
656は壺形土器である。全体形状は内湾気味に立ち上がる直口口縁の鉢形を呈し、底部に直径8の焼成前穿孔を穿つ。

657～659は高壺形土器である。657・658は壺部片である。657は85と同様に鶴先状口縁をもつもので、端部に凹線文と刻目を施す。口縁部内面に突起をもつ。伊予東部地方の影響を受けていると考えられる。658は直立する口縁部で端部は面をもつ。659は脚部片である。受熱の痕跡が残る。

660・661は支脚形土器である。660は中空で厚手のつくり。受部に「U」字状の傾斜部をもつ。661は中実で円柱状の体部。

662は縦刻土器である。胴部に2本の曲線を描く。

調査の概要



第165図 第VII層出土遺物実測図

663・664は縄文土器の深鉢である。刻目突帯を施す口縁部である。

665～668は土師器である。665は皿の蓋である。口縁部は下方へ屈曲し、天井部は扁平になると思われる。赤色顔料が付着する。666は皿である。体部は外傾して立ち上がり口縁端部は平坦面をなす。667は壺である。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部は先細り気味におさめる。赤色顔料が付着する。668は鍋である。「く」の字状口縁を呈し、口縁端部は丸くおさめる。

669～674は須恵器である。669・670は壺である。体部は外傾して立ち上がる。671・672は皿である。体部は外傾して立ち上がり、口縁端部は671が平坦面をなし、672が丸くおさめる。673は高台付壺である。体部と底部の境界は丸みをもち、高台は境界より内側に短く付く。口縁端部は丸くおさめる。674は甕である。大型品で、口縁端部は下方に肥厚する。

675は石製品である。砥石である。

676～678は鉄製品である。676は刀子である。切先部を欠損するがほぼ完形品である。677・678は角釘である。いずれも釘頭部及び先端部を欠損する。

南壁トレント

出土遺物（第169・170図、図版45）

679～689は弥生土器である。679～682は壺形土器である。稜をもって外反する口縁部で、端部に凹線文が巡る。679・680は比較的の残存状況が良好である。681はやや肩の張る体部で、肩部に「ノ」の字状の木口押圧を施す。

683～685は壺形土器である。いずれも口縁部片で、683・684は口縁端部を上に肥厚し、凹線文を施す。685は口縁部が外反し端部を丸くおさめる。全体に摩滅が著しい。

686～688は高壺形土器である。686は直立する口縁部で端部は面をもち、凹線文を施す。687は壺部～柱部である。柱部に沈線文を半周ずつ巡らす。688は脚部片である。水平位置に円孔を推定6か所穿つ。

689は支脚形土器である。角状の突起を前上方に2方向作り出す。

690は須恵器壺蓋である。天井部は丸みをもち、天井部と口縁部を区分する稜はみられない。口縁端部は丸く仕上げる。

西壁トレント

出土遺物（第171図、図版45）

691～693は弥生土器である。691は壺形土器である。頸部に幅広の突帯を貼り付け、太目の刻目を施す。搬入品か？692は底部片である。壺形土器と思われる。693は高壺形土器である。直立する口縁部で端部は面をもち、凹線文を施す。

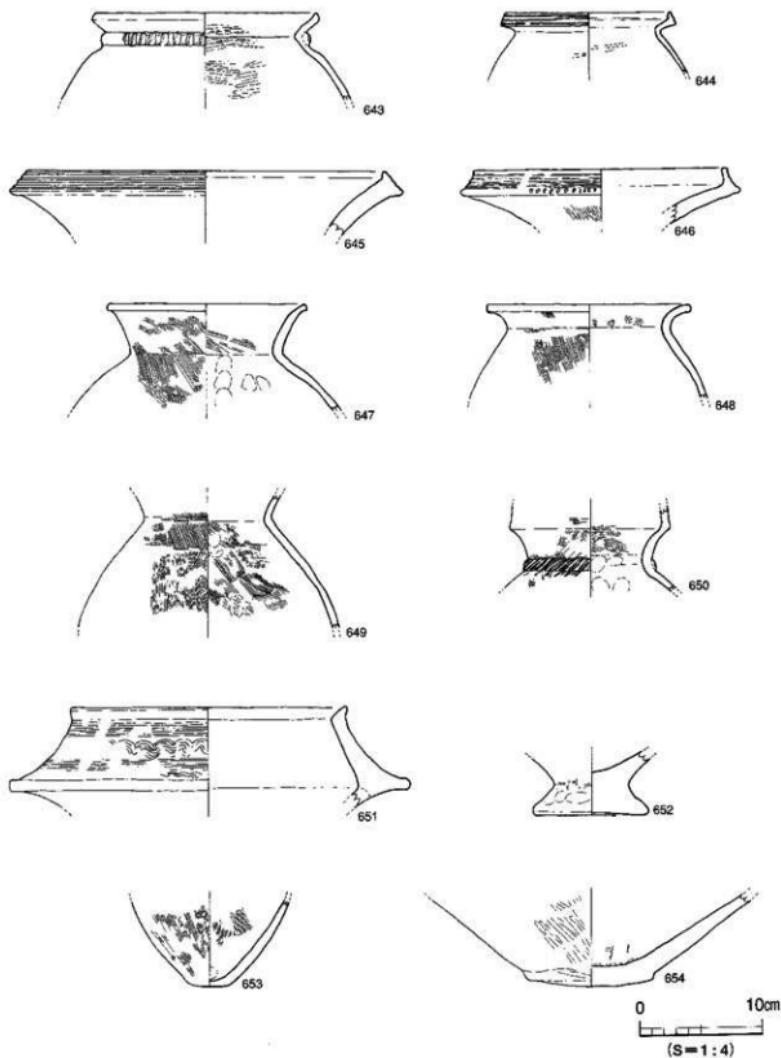
694は土師器の皿である。体部は外傾して立ち上がり口縁端部は丸くおさめる。

695～697は石製品である。695・696は砥石である。696は角閃石を多く含む。697は磨石である。698は鉄製品である。角釘の先端部である。釘頭部を欠損する。

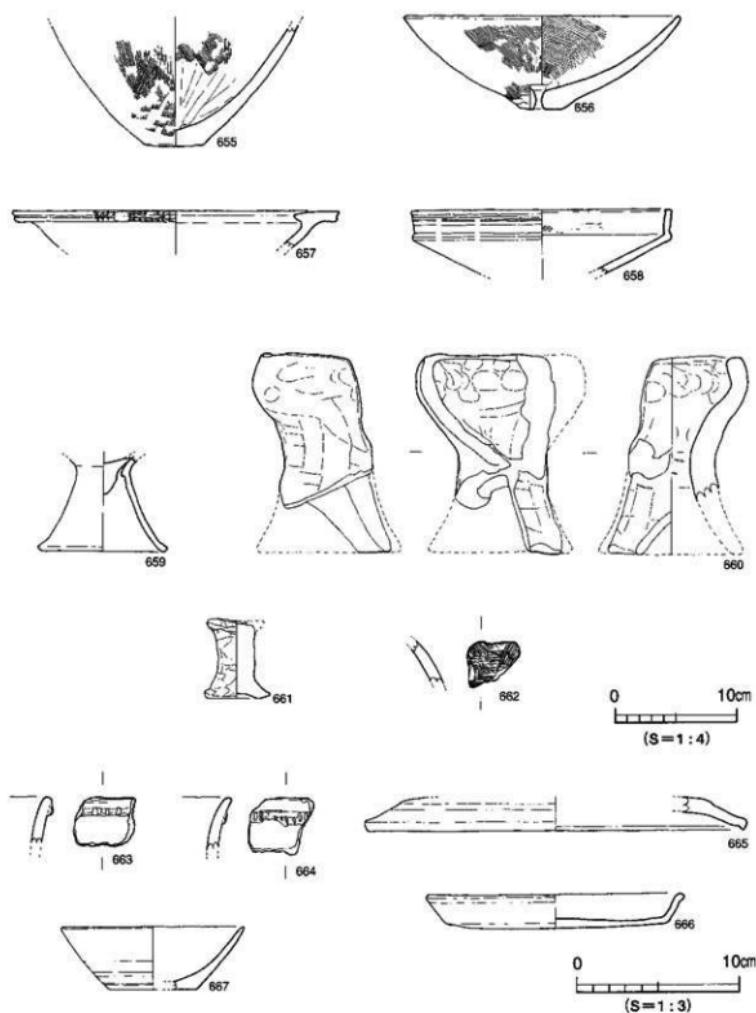
2) グリッド出土遺物（第14図）

層位不明のグリッド出土遺物である。その多くは重機にて掘削する段階で出土したものである。

調査の概要

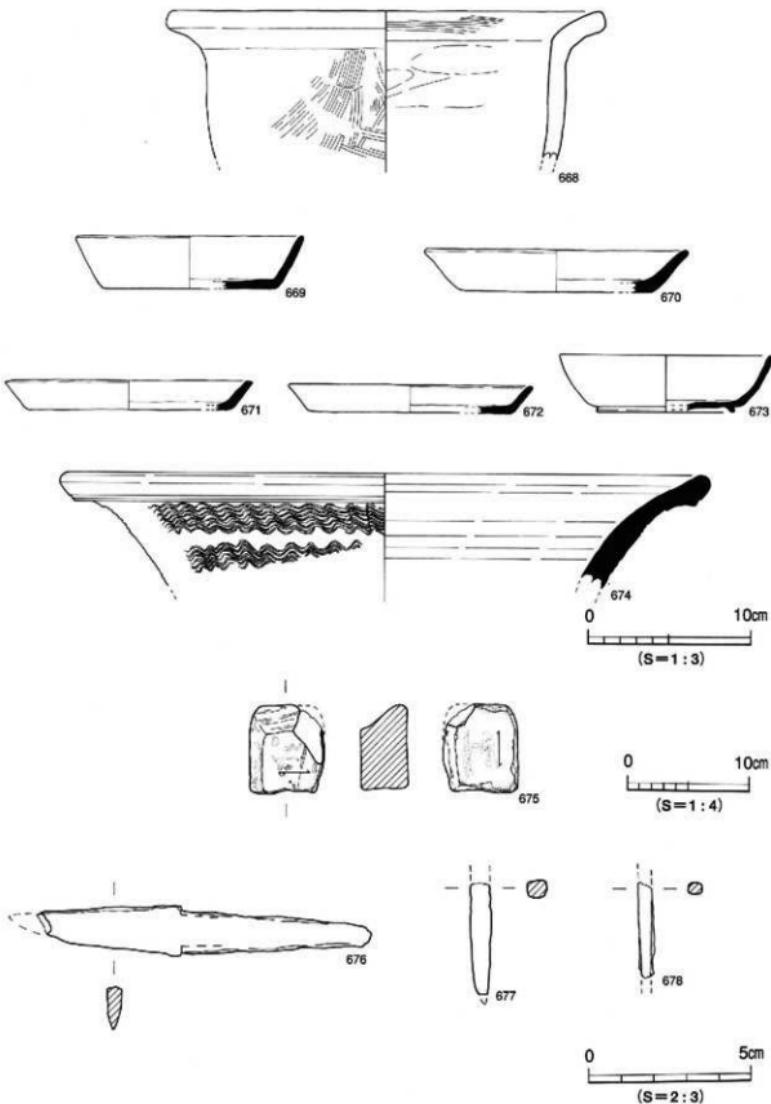


第166図 北壁トレンチ出土遺物実測図（1）

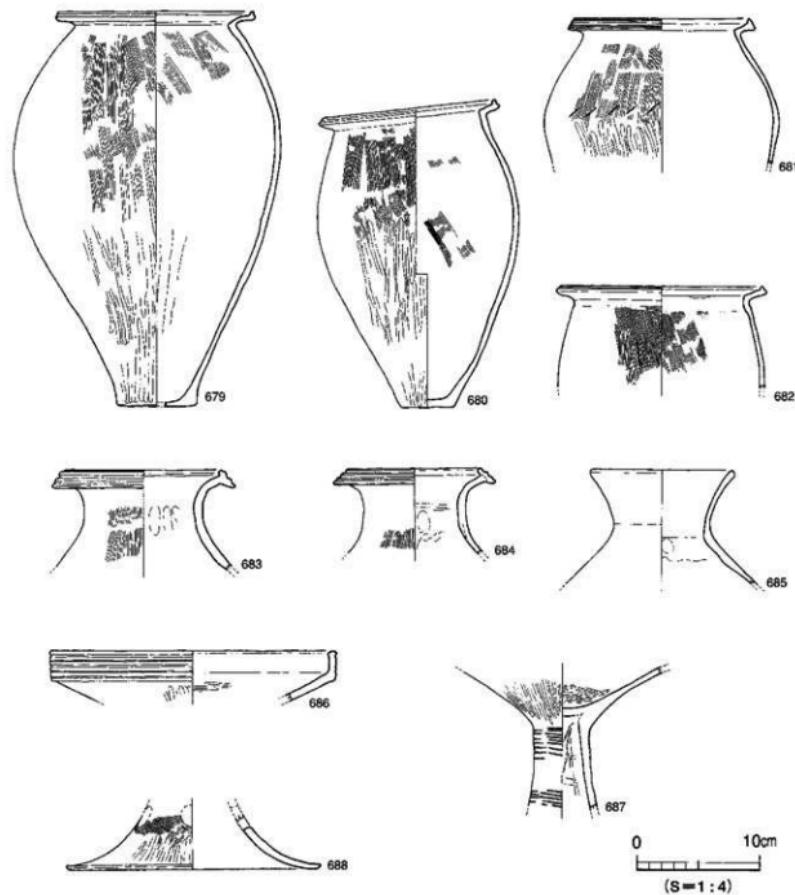


第167図 北壁トレンチ出土遺物実測図（2）

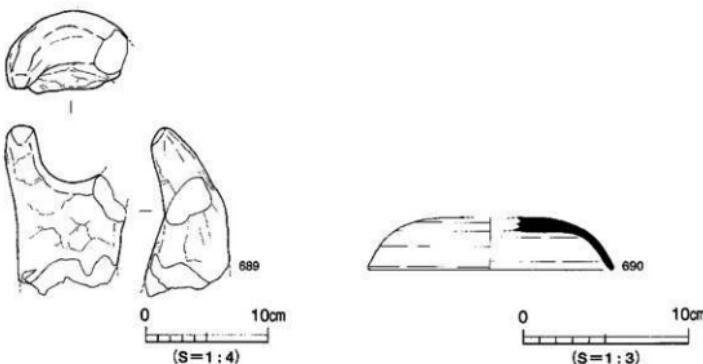
調査の概要



第168図 北壁トレンチ出土遺物実測図 (3)



第169図 南壁トレンチ出土遺物実測図(1)



第170図 南壁トレンチ出土遺物実測図(2)

出土遺物(第172図、図版45)

699～701は弥生土器である。699は壺形土器である。複合口縁壺で、口縁拡張部に櫛描波状文と直線文を組み合わせて描く。頸部に刻目突帯を貼り付ける。700は底部片である。壺形土器と思われる。701は鉢形土器である。直口口縁で、端部は面をもつ。

702は繩文上器の深鉢である。口縁端部と突帯に刻目を施す。

703は須恵器の壺底部である。高台は高く外方へ踏ん張る形状である。

704は土鍤である。孔径5.5mmを計る。

705はサヌカイト製石鏃である。先端部を欠損する。

706は角釘である。両端を欠損する。

3) 表採遺物・出土地点不明遺物

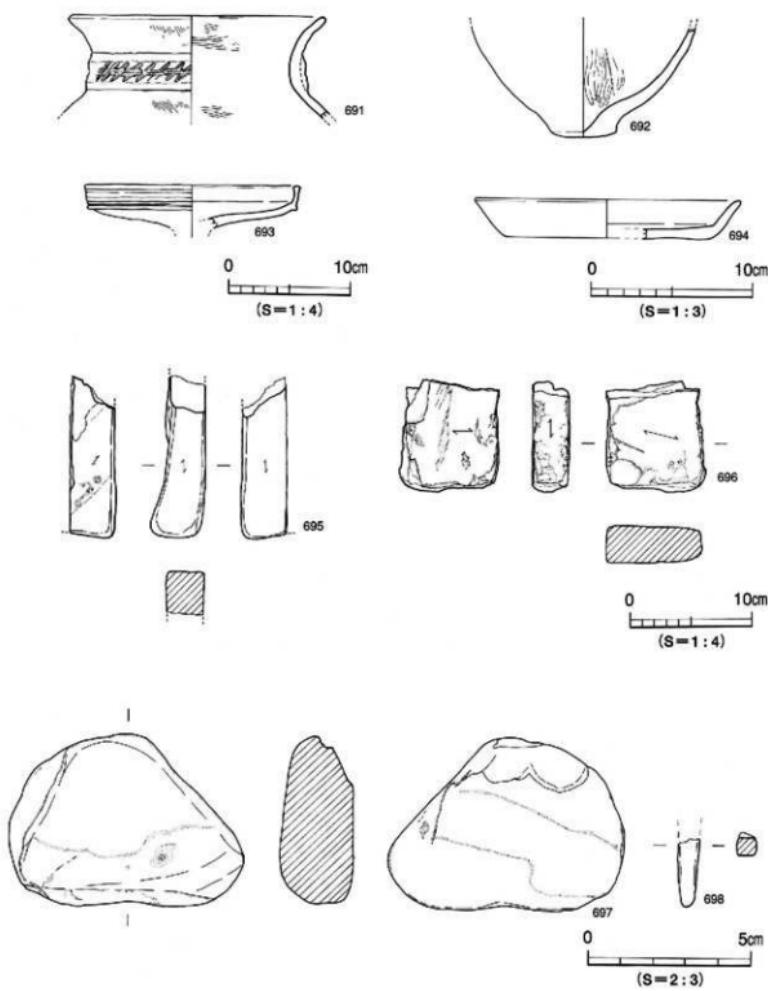
調査終了後に表採した遺物や廃土中から出土した遺物など、出土地点や土層が確認できない遺物である。

出土遺物(第173～174図、図版45)

707～711は弥生土器である。707は壺形土器である。形状は長胴で、胴部最大径が胴上位に位置する。底部は平底である。708は壺形土器である。複合口縁壺。口縁拡張部は無文。頸部に斜格子目文の刻目突帯を施す。709・710は底部片である。壺形土器と思われる。710はくびれの上げ底である。711は支脚形土器である。受部中央がややナデ窪む。

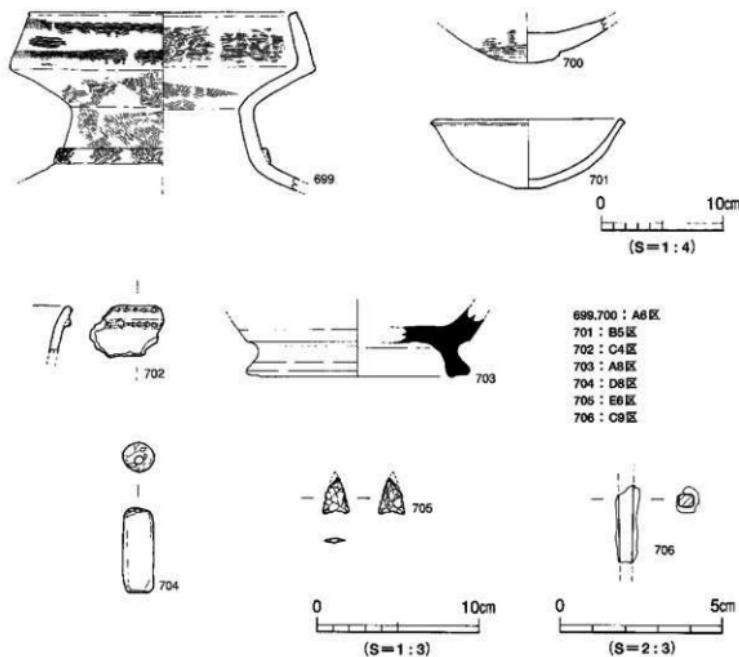
712～717は石製品である。712は石帶(丸柄)である。第Ⅲ層出土の631と同様に約半分を欠損している。713・714はサヌカイト製石鏃である。714は先端を欠損する。715は磨石である。716・717は砥石である。

718～722は鉄製品である。718は鉄刀である。両端を欠損する。719・720は角釘である。719は先端部、720は釘頭部を欠損する。721は鉄塊である。器種不明品。722は鉄滓である。

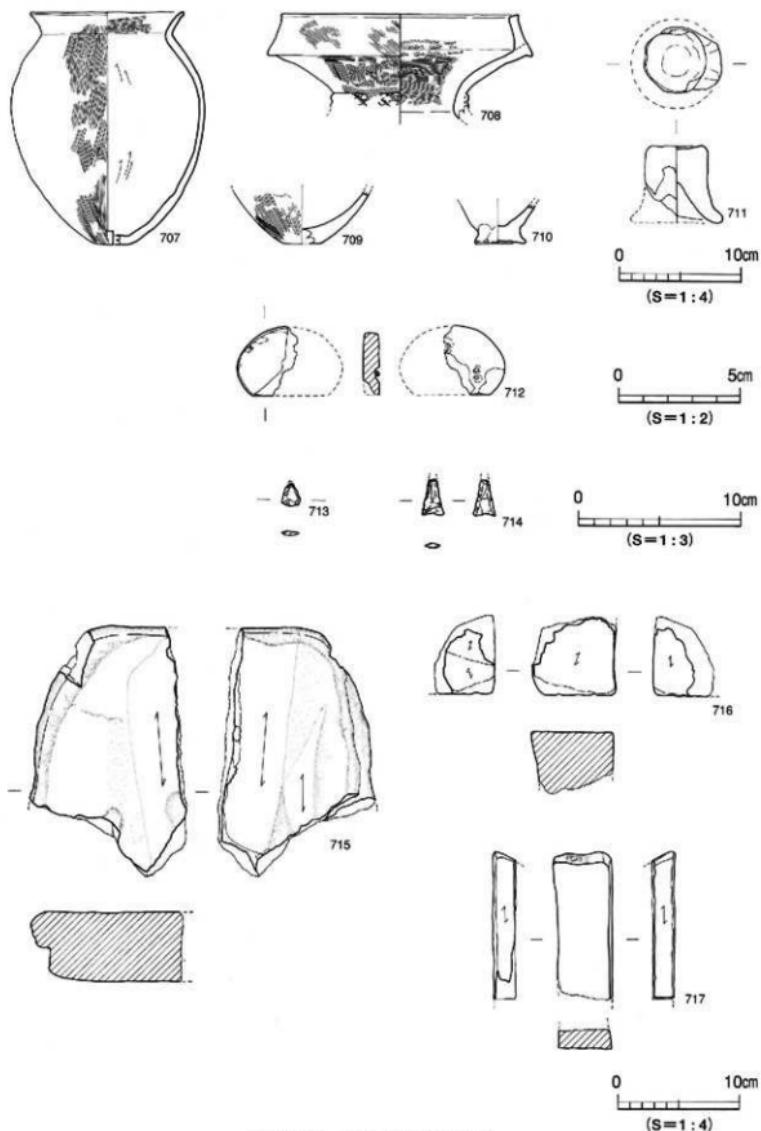


第171図 西壁 トレンチ出土遺物実測図

調査の概要

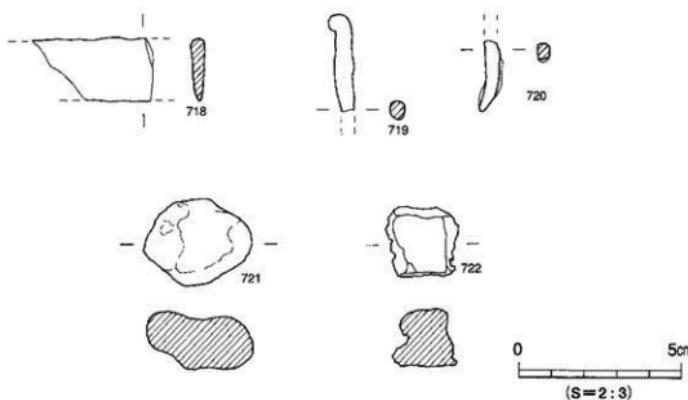


第172図 グリッド出土遺物実測図



第173図 表採遺物実測図（1）

調査の概要



第174図 表採遺物実測図（2）

遺物観察表 一凡例一

(1) 以下の表は、本調査区の遺物の計測値及び観察一覧である。

遺物観察表は相原浩二・山之内志郎・佐伯利枝が作成した。

(2) 遺物観察表の各掲載について

法量欄 () : 推定復元値。

調整欄 土器の各部位名を略記。

例) 口→口縁部、拡→拡張部、胴中→胴部中位、胴底→胴部～底部

胎土・焼成欄 胎土欄では混和剤を略記した。

例) 砂→砂粒、長→長石、石→石英、密→精製土、金→金雲母。

() の中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例) 砂・長(1～3)→「1～3mmの砂粒・長石を含む」である。

焼成欄の略記について。○→良好、○→良、△→不良。

表2 挖立柱建物跡一覧

掘立	規模 (間)	方位	桁行		梁行		床面積 (m ²)	時期	備考
			実長(m)	柱間寸法(m)	実長(m)	柱間寸法(m)			
1	2×5	南北	12.4	1.94~2.7	4.6	2.2~2.6	57.04	11世紀	以上の種子塔

表3 自然流路一覧

流路 (SR)	地区	断面形	規模(m) 長さ(表面)×幅(底面)×深さ	方向	埋土	出土遺物	時期	備考
1	A6~E11	皿状	(27.4)×24.8×0.2~1.0	南北	黄灰色シルト (灰色漬)ほか	発生・石器 ほか	弥生時代 中期~後期	

表4 土坑一覧

(1)

土坑 (SK)	地区	平面形	断面形	規模(m) 長さ(表面)×幅(底面)×深さ	埋土	出土遺物	時期	備考
1	E5	隅丸長方形	逆台形状	0.89×0.45×0.29	灰色土	土師・須恵		
2	B5	不整形	逆台形状	1.76×1.40×0.32	灰色砂質土ほか	土師・須恵・鉄		SK3を切る。
3	B5	隅丸方形	舟底状	1.48×1.34×0.12~0.35	灰色砂質土ほか	土師・須恵・鉄	13世紀以降	SK2に切られる。
4	B4・B5	梢円形	皿状	1.19×0.80×0.12	灰色砂質土			
5	E4	隅丸長方形	逆台形状	1.25×0.95×0.30	灰色砂質土			
6	A10	不整形	舟底状	(0.72)×0.68×0.33	青灰色土ほか	煙管		
7	B10	隅丸方形	逆台形状	0.98×0.92×0.44	暗青灰色土 (炭墨じり)ほか	須恵		炭層。
8	B10	梢円形	逆台形状	0.80×0.75×0.36	暗青灰色土ほか	陶器		
9	C5	不整形	逆台形状	1.30×1.23×0.24	灰色土	鉄		
10	A10	不整形	皿状	1.45×(1.10)×0.12	青灰色砂質土			SD2を切る。
11	D7	梢円形	逆台形状	0.70×0.75×0.26	灰色砂質土			SP78を切る。
12	D10	不整形	逆台形状	1.30×0.85×0.25	灰色砂質土			
13	D8	梢円形	皿状	0.80×0.39×0.10	灰色砂質土			
14	A5	隅丸方形	逆台形状	0.90×0.86×0.24	暗灰褐色土 (炭墨じり)ほか	土師・須恵 石器・銅鏡	9世紀後半~ 10世紀前半	炭層。
15	A5	隅丸方形	逆台形状	1.00×0.90×0.30	暗灰褐色土 (炭墨じり)	土師・須恵 石器・銅鏡	9世紀後半~ 10世紀前半	炭層。 SK1-2を切る。
16	B6	隅丸方形	逆台形状	0.78×0.66×0.12	暗灰褐色土 (炭墨じり)	土師・須恵	9世紀後半~ 10世紀前半	土坑底に炭・ 白灰層。

土坑一覧

(2)

土坑 (SK)	地区	平面形	断面形	規模 (m) 長さ(横幅) × 幅(奥行き) × 深さ	埋土	出土遺物	時期	備考
17	C5・C6	隅丸方形	逆台形状	1.30×1.20×0.22	暗灰褐色土 (炭混じり)	土師・須恵	9世紀後半～ 10世紀前半	土坑底に炭層。
18	B6・C6	隅丸方形	逆台形状	(1.18) × 1.06 × 0.43	暗灰褐色土 (炭混じり)	土師・須恵・鉢	9世紀後半～ 10世紀前半	SK26・SP39に切られる。
19	C5・C6	不整形	逆台形状	1.71×1.00×0.18	赤褐色土	土師・須恵器	9世紀後半 以降	SK20を切る。
20	C5	隅丸方形	逆台形状	1.26×1.20×0.26	暗灰褐色土 (炭混じり)	土師・須恵	9世紀後半～ 10世紀前半	SK19・SP61に切られる。
21	C7	隅丸方形	逆台形状	0.88×0.80×0.24	暗灰褐色土 (炭混じり)	土師・須恵・鉢	9世紀後半～ 10世紀前半	
22	C2	楕円形	皿状	0.61×0.46×0.09	灰色土			
23	C2	楕円形	皿状	0.71×0.54×0.16	灰色土			
24	D2	円形	皿状	0.90×0.08	暗灰色土			
25	D3	円形	皿状	0.90×0.16	墨褐色土	発生・石器	弥生時代 後期初頭	
26	B6・C6	隅丸長方形	逆台形状	0.84×0.68×0.19	灰褐色土 (炭混じり)	土師・須恵	9世紀後半～ 10世紀前半	SK18を切る。 SP84に切られる。
27	C5	隅丸方形	逆台形状	1.10×0.98×0.16～0.20	暗灰褐色土 (炭混じり)	土師	9世紀後半～ 10世紀前半	埋土中に焼上有り。
28	B5	隅丸長方形	皿状	0.72×0.52×0.10	黄灰色土			
29	C7	不整形	逆台形状	0.90×0.76×0.20	灰褐色土 (炭混じり)	土師・須恵・鉢	9世紀後半～ 10世紀前半	
30	C7	隅丸方形	逆台形状	1.18×1.17×0.43	暗灰褐色土 (炭混じり)	土師・須恵	9世紀後半～ 10世紀前半	SP80に切られる。
31	B3・C3	隅丸長方形	皿状	1.45×0.76×0.05～0.09	黄灰色土	土師		SP60に切られる。
32	C4・C5	隅丸長方形	皿状	1.17×0.80×0.04	暗灰褐色土 (炭混じり)	発生・土師	9世紀後半～ 10世紀前半	SK33を切る。
33	C5	不整形	皿状	1.10×0.86×0.07	暗灰褐色土 (炭混じり)	土師	9世紀後半～ 10世紀前半	SK32に切られる。
34	C5	隅丸方形	皿状	0.75×0.64×0.04～0.07	暗灰褐色土 (炭混じり) ほか	土師	9世紀後半～ 10世紀前半	土席に瓦・白灰・焼土有り。 SK37を切る。
35	B5・C5	隅丸方形	皿状	(0.90) × 0.86 × 0.03～0.09	暗灰褐色土	土師	9世紀後半～ 10世紀前半	SK37・SP89に切られる。
36	A7	隅丸方形	逆台形状	0.98×0.92×0.13～0.17	暗灰褐色土	土師・骨片	9世紀後半～ 10世紀前半	土坑底に炭・白灰有り。 SK41を切る。
37	B5・C5	隅丸方形	皿状	0.92×(0.80) × 0.08～0.11	暗灰褐色土	土師	9世紀後半～ 10世紀前半	SK35を切る。 SK34に切られる。
38	D7	隅丸方形	逆台形状	1.08×1.01×0.19	暗灰褐色土 (炭混じり)	発牛・土師	9世紀後半～ 10世紀前半	SK44・45を切る。
39	D7	隅丸方形	皿状	0.85×0.66×0.06	暗灰褐色土 (炭混じり)	土師	9世紀後半～ 10世紀前半	土坑底に1～2cmの炭・白灰・ 焼土有り。SK43を切る。

土坑一覧

土坑 (SK)	地区	平面形	断面形	規模 (m) 長さ(長径)×幅(短径)×深さ	埋土	出土遺物	時期	備考
40	D7	隅丸方形	逆台形状	0.70×0.68×0.21	暗灰褐色土 (炭混じり)	須恵	9世紀後半～ 10世紀前半	土坑底に1~2cmの炭・白灰層、 焼土を層あり。SK46・51を切る。
41	A7	隅丸方形	逆台形状	(1.06) × 0.92 × 0.16～0.20	暗灰褐色土 (炭・焼上混じり)	土師	9世紀後半～ 10世紀前半	土坑附近に炭・白灰層あり。 SK36に切られる。
42	B4・C4	円形	逆台形状	0.56×0.22	暗褐色土			
43	D7	隅丸方形	逆台形状	1.07×1.00×0.19	暗灰褐色土 (炭混じり)	須恵	9世紀後半～ 10世紀前半	SK44を切る。 SK39に切られる。
44	D7	隅丸方形	逆台形状	(1.25) × (0.90) × 0.20	暗灰褐色土 (炭混じり)	土師・須恵	9世紀後半～ 10世紀前半	土坑底に炭・白灰・焼土を層あり。 SK46・47、SK39・40に切られる。
45	D7	隅丸長方形	逆台形状	(1.36) × 1.18 × 0.17	暗灰褐色土 (炭混じり)	土師	9世紀後半～ 10世紀前半	SK38・44に切られる。
46	C7・D7	隅丸方形	逆台形状	(0.85) × (0.83) × 0.26	暗灰褐色土 (炭混じり)	土師	9世紀後半～ 10世紀前半	土坑底に炭・焼土を層あり。 SK40・47・51に切られる。
47	C7	隅丸方形	逆台形状	(1.12) × (0.56) × 0.24	暗灰褐色土 (炭混じり)	土師・須恵	9世紀後半～ 10世紀前半	土坑底に炭・焼土を層あり。 SK46・51を切る。
48	B10	隅丸方形	逆台形状	0.62×0.54×0.26	暗灰色粘質土 (砂混じり)	弥生	弥生時代 後期後半	SR1⑥層を切る。
49	E8	隅丸方形	舟底状	1.00×(0.86)×0.60	黒灰色粘質土ほか	弥生	弥生時代 中期後半以降	
50	B10	楕円形	舟底状	0.82×0.74×0.30	黒色粘質土ほか	弥生	弥生時代 中期後半	SD4を切る。 SR1に切られる。
51	C7・D7	隅丸方形	逆台形状	(0.50) × 0.50 × 0.12	暗灰褐色土 (炭混じり)	土師	9世紀後半～ 10世紀前半	SK46の上坑底で検出。 SK40・47に切られる。 SK46を切る。
52	E11	隅丸方形	逆台形状	0.68×0.62×0.18～0.22	黒色粘質土ほか	弥生	弥生時代 中期後半以降	直徑2~10cmの石が散在する。 SR1に切られる。
53	C10・C11	楕円形	皿状	0.72×0.54×0.04～0.06	暗褐色土		弥生時代 中期後半以降	SR1に切られる。 SD3の溝底で検出。
54	D9	楕円形	逆台形状	0.32×0.25×0.11	灰褐色土 (砂混じり)	弥生	弥生時代 後期後半	SR1に切られる。
55	C8・C9	不整形	逆台形状	1.44×0.72×0.21～0.44	黑色粘質土ほか	弥生	弥生時代 後期後半	SR1に切られる。
56	C9	不整形	逆台形状	1.00×0.50×0.15～0.37	褐色粘質土	弥生	弥生時代 後期後半	SR1に切られる。
57	B8	隅丸長方形	逆台形状	1.00×0.50×0.21	暗灰色粘質土ほか	石器	弥生時代 後期後半	SK58を切る。 SR1に切られる。
58	B8	隅丸長方形	舟底状	0.96×(0.78)×0.40	黑色粘質土		弥生時代 中期後半	SK57・SR1に切られる。
59	B9	楕円形	逆台形状	0.35×0.28×0.20～0.27	黑色粘質土 (灰色粗粒)ほか	弥生・石器	弥生時代 後期後半	SR1に切られる。
60	B9	楕円形	逆台形状	0.66×0.45×0.26	灰褐色砂	弥生	弥生時代 後期後半	
61	A10	楕円形	逆台形状	0.56×0.48×0.17	灰色微砂質土		弥生時代 後期後半	SR1に切られる。
62	C4	楕円形	逆台形状	0.60×0.50×0.20	暗灰褐色土			

調査の概要

土坑一覧

(4)

土坑 (SK)	地区	平面形	断面形	規模 (m) 長さ(奥行き) × 幅(横幅) × 高さ	埋土	出土遺物	時期	備考
63	B4	楕円形	逆台形状	0.75×0.70×0.20	暗灰褐色土			

表5 溝一覧

溝 (SD)	地区	断面形	規模 (m) 長さ(奥行き) × 幅(横幅) × 高さ	方向	埋土	出土遺物	時期	備考
1	A5～E6	逆台形状	(21.50) × 0.15～1.18 × 0.18～2.24	南北	灰色土			SP6に切られる。
2	A10～C10	逆台形状	(12.10) × 0.30～0.80 × 0.21～0.24	南北	灰色土	鏡		SK10に切られる。
3	C10～E6	逆台形状	(24.20) × 1.04～1.98 × 0.40～0.72	東西	灰褐色土ほか	弦・上顎・匙	～11世紀	SD4・SG9・SK3を切る。 掘立柱に切られる。
4	B9～E11	逆台形状	(17.80) × 0.60～2.50 × 0.20～0.27	南北	黑色粘質土ほか	弥生・石器	弥生時代後期後半	SD4を切り、SD8・SK8に切られる。
5	B8～E8	皿状	(13.70) × 0.18～0.40 × 0.10～0.18	南北	黑色粘質土		弥生時代後期後半	

表6 性格不明遺構一覧

不明遺構 (SX)	地区	平面形	断面形	規模 (m) 長さ(奥行き) × 幅(横幅) × 高さ	埋土	出土遺物	時期	備考
1	B3・B4	不整形	逆台形状	3.50×3.05×0.76	暗灰褐色土ほか	弥生	弥生時代後期後半	
1-1	B4～C3	不整形	逆台形状	(3.50) × 0.70～1.10 × 0.43	暗灰褐色土ほか	弥生・石器	弥生時代後期後半	
1-2	A6～B4	不整形	皿状	(12.0) × 0.60～2.80 × 0.05～0.24	灰色粗砂質土	弥生・石器・鐵	弥生時代後期後半	SK15に切られる。
1-3	A4・A5	不整形	皿状	(2.4) × 1.8～2.8 × 0.25	灰色粗砂質土	弥生	弥生時代後期後半	
2	D3	円形	逆台形状	2.20×2.00×0.12～0.21	暗褐色土	弥生	弥生時代後期初頭	内径1.40m 溝幅0.33m～0.45m
3	E4・E5	不整形	皿状	1.50×0.38×0.11～0.18	暗褐色土	弥生	弥生時代後期後半	
4	D4・E4	不整形	逆台形状	2.66×0.45×0.19～0.28	暗褐色土	弥生	弥生時代後期後半	
5	D4	不整形	逆台形状	2.97×0.45～0.72×0.08～0.20	暗褐色土	弥生	弥生時代後期後半	
6	D3・D4	不整形	逆台形状	L31×0.21～0.36×0.07～0.30	暗褐色土	弥生	弥生時代後期後半	
7	E10・E11	不整形	皿状	1.77×0.22～0.25×0.03～0.04	褐色土		弥生時代後期	
8	D6・E6	T字形	逆台形状	計32.7m×1.12m×0.3m～0.6m×0.2m	暗褐色土	弥生	弥生時代後期後半	
9	D10～E9	不整形	皿状	南北3.04×東西3.29×0.12～0.20	黑色粘質土 (粗砂混じり)	弥生	弥生時代中期後半～後期初頭	SD3・SD4に切られる。
10	B8	Y字形	皿状	計3.12(東西2.40) × 0.20～0.60×0.19	黑色粘質土ほか	弥生	弥生時代中期後半～後期初頭	

表7 SRI⑥層出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調査		色調(外面)	胎土	備考	図版
				外 面	内 面				
1	甕	口径 底高 5.2	口縁部に4条の回線文。頭部に刻目 突帯を施す。	[1:1倍]ヨコナデ ナデ	ナデ(剥離痕あり)	灰青褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~5) 薄白色		23
2	甕	口径 底高 9.6	ゆるやかに外反する口縁部。口縁部 に2条の回線文。	[1:1倍]ヨコナデ ナデ	[口]ヨコナデ ナデ	褐色・褐灰色 褐色	石・長(1~2) ○		23
3	甕	口径 底高 3.4	口縁部に1条の回線文。頭部に焼成 前円孔を施す。	ナデ	ナデ	褐色 にぶい褐色	石・長(1~3) ○		23
4	甕	口径 底高 6.6	腰をもつて外反し口縁付近で内溝し て上方に立ち上がる口縁。口縁部は 丸く上げる。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~2) ○		
5	壺	H径 底高 15.0 6.1	1枚端部に墨をもつ。頭部に2条以上 の突帯をもつ。	マツメ [頭部]ヨコナデ ナデ	[口上]マツメ [口下]ナデ(剥離 痕あり)	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~2) 薄白色 ○		
6	壺	H径 底高 18.2 6.2	1枚端部に3条の回線文。開脚に幅広 の刻目火捺文を施す。	[口上]ナデ [頭部]ヨコナデ ナデ	[口上]ナデ [頭部]ヨコナデ ナデ	にぶい黄褐色 浅黃褐色	石・長(1~4) ○		
7	壺	口径 底高 15.1 7.6	口縁部に幅広の凹線文。肩部に「ノ」 の字状の木口押圧を施す。	[口]ナデ [頭部]ヨコナデ ナデ(木口押 圧あり)	[口]ナデ [頭部]ヨコナデ ナデ(木口押 圧あり)	明褐色 にぶい褐色	石・長(1~3) 金 ○		
8	甕	口径 底高 15.0 5.4	口縁部に3条の回線文。	ヨコナデ	ヨコナデ	明褐色 褐色	石(1~4)少 金 ○		
9	壺	底高 23.0	肩部に「ノ」の字状の木口押圧を3列施 す。	[頭部]ヨコナデ ナデ(木口押 圧あり) [頭部]ヨコナデ ナデ(木口押 圧あり)	[頭部]ヨコナデ ナデ(木口押 圧あり) [頭部]ヨコナデ ナデ(木口押 圧あり)	褐色 明褐色	石・長(1~2) ○		23
10	甕	底高 9.2	肩部に羽状文状の押圧を施す。	ハケ(4本/cm) ナデ	ハケ(4本/cm) ナデ	褐色 褐色	石・長(1~4) ○		23
11	甕	口径 底高 23.1 6.3	複合口縁。操作部は「く」の字状。端 部に斜格子目文を施す。	[1:1]ナデ [口下]マツメ	[1:1]ナデ [口下]マツメ [頭部]ヨコナデ ナデ	赤褐色 褐色	石・長(1~4) ○		23
12	壺	底高 8.3	頭部に斜格子目文の刻目突帯を施す。	ハケ(4本/cm) ミガキ [頭部]ナデ	ハケ(4本/cm) ミガキ [頭部]ナデ	褐色 浅黃褐色	石・長(1~3) 褐色 ○		
13	甕	底高 11.0	くびれの上げ底。	ミガキ [頭部]ナデ	マツメ	にぶい褐色 褐色	石・長(1~4) 多 ○		
14	甕	底高 4.0	平底。	ミガキ [頭部]ナデ	ナデ	にぶい褐色 褐色	柔軟 ○		
15	壺	底高 6.2	底部に黒度あり。	[頭部]ヨコミガキ ナデ(木口押 圧あり) ミガキ	[頭部]ハケ(8本/ cm)→ナデ ナデ	褐色・黒色 にぶい黃褐色	石・長(1~2) 褐色 ○	黒度	
16	壺	底高 7.1	半底。器壁が薄い。	ミガキ [頭部]ナデ	ナデ	にぶい褐色 赤褐色	石・長(1~3) ○		
17	壺	底高 9.4	わずかに上げ底。	マツメ [頭部]ナデ(木口押 圧あり)	マツメ [頭部]ナデ(木口押 圧あり)	にぶい褐色 にぶい黃褐色	石・長(1~3) 金 ○		
18	壺	底高 4.6	半底。	ナデ	(工具による)ナデ	にぶい黃褐色 にぶい黃褐色	石・長(1~6) ○		
19	鉢	H径 底高 22.6 6.8	腰をもつて外反する口縁部。端部を ナデませ上方に強張る。胴部に 「ノ」の字状の押圧を施す。	[口]ヨコナデ [頭部]ハケ(4本/cm) ミガキ	[口]ヨコナデ [頭部]ハケ(4本/cm) ナデ	褐色 褐色	石・長(1~5) ○		
20	鉢	底高 2.7	底岸はわざかに突出する。やや上げ 底。	ミガキ [頭部]ナデ	ハケ→ミガキ	明褐色 褐色	石・長(1~3) ○		23
21	高杯	H径 底高 16.0 7.4	大きく述べる口縁部。端部は面を もつ。口縁部に簡練直線文、木 口押圧を施す。	ヨコナデ [頭部]ヨコミガキ ナデ(木口押 圧あり) ミガキ	ナデ(木口押 圧あり) [頭部]ミガキ	明褐色・ 褐色 にぶい黃褐色 にぶい黃褐色	石・長(1~2) ○	赤色顔 23	
22	高杯	H径 底高 25.8 6.5	口縁部はほぼ直立し端部は面をなす。 [1:1倍]ヨコナデ ナデ(木口押 圧あり) ミガキ	[1:1倍]ヨコナデ ナデ ミガキ	[1:1倍]ヨコナデ ナデ ミガキ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~4) ○		
23	高杯	底高 11.1	三角錐の脚柱跡。	ハケ(7本/cm)→ ミガキ	脚上ナデ(木口押 圧あり) [頭部]ヨコナデ ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~3) 金 ○		
24	甕	H径 底高 19.3 6.0	折り曲げ口縁。口縁部に刻目あり。 頭部下に3条のへら括き沈縫。	マツメ(木口押 圧あり)	[口]ヨコナデ ナデ	淡褐色・灰白色 灰褐色・にぶい 黃褐色	石・長(1~3) ○		
25	壺	底高 8.5	胴部に沈縫文4条が巡る。	ミガキ	ナデ	にぶい黃褐色 灰白色	石・長(1~3) 金 ○		
26	壺	底高 5.9	胴部上位に3条の沈縫と木葉文と思わ れる沈縫を施す。	ミガキ	ナデ	灰白色 淡黃褐色	石・長(1~2) ○		
27	壺	底高 9.1	胴部片。動物と見われる絵画上器。	ナデ	ケズリ	褐色 黑色	石・長(1~3) ○		
28	甕	底高 4.3	胴部片。内面に剪跡。	ハケ→ミガキ	ナデ	褐色 灰白色	石・長(1~2) 金 ○		23

調査の概要

SR1(6)層出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) 色調(内面)	胎 土 燒 成	備考	図版
				外 面	内 面				
29	深鉢	徑高 5.4	圓文土器。劍目尖底。	ナデ	マツツ	に赤い黃褐色 に赤い黃褐色	石・長(1~3) ○		
30	浅鉢	口径 (20.0) 径高 3.1	繩文土器。波状口縁。	ナデ	[口]ナデ [腹]ミカキ	に赤い褐色 に赤い褐色	石・長(-1) 石・長(-1)		

表8 SR1(6)層出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法 量			備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
31	石斧	欠損	結晶片岩	8.1	4.2	0.75	40.51	
32	石斧	欠損	結晶片岩	(7.3)	(3.8)	(1.2)	60.65	

表9 SR1(1)層出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) 色調(内面)	胎 土 燒 成	備考	図版
				外 面	内 面				
33	甕	口径 (35.6) 径高 6.8	口縁部に刻目あり。頸部に指彌押 圧の刻目突帯を施す。	マツツ	[口] ヨコナデ マツツ	暗灰黄色 板状色	石・長(1~5) ○	AJ0 B10K	
34	甕	口径 (32.3) 径高 8.4	口縁部に刻目あり。頸部直下に指 彌押圧の刻目突帯を施す。	ナデ	マツツ	褐灰色 褐灰色	石・長(1~3) 多○	B10K	
35	甕	口径 (26.8) 径高 7.2	口縁部に2条の凹線。頸部に指彌 押圧の刻目突帯を施す。	ナデ	ナデ	暗灰黄色 板状色	石・長(1~3) 金○	C10K	
36	甕	口径 (23.7) 径高 7.7	口縁部に2条の凹線と刻目を施す。 頸部に幅広の刻目突帯を施す。	[口] ヨコナデ マツツ	[口] ヨコナデ マツツ	暗色 に赤い褐色	石・長(1~3) 多○	B10K	24
37	甕	口径 (16.8) 径高 4.2	外反する口縁部。端部に2条の凹線。 肩部に木の押圧を施す。	[口] ヨコナデ [肩] ハサク(4本/cm) ナデ	[口] ヨコナデ [肩] ヨコナデ [口] ヨコナデ ナデ	に赤い黃褐色 に赤い黃褐色	石・長(1~4) ○	AJ0K	
38	甕	口径 (18.0) 径高 4.5	短く外反する口縁部。端部は直をもつ ち凹線を施す。肩部に羽状紋 の刻線を施す。	[口] ヨコナデ [肩] ヨコナデ ナデ	[口] ヨコナデ [肩] ヨコナデ [口] ヨコナデ ナデ	に赤い褐色 に赤い褐色・ 灰褐色	灰(-1) ○	B10K	24
39	甕	口径 (16.2) 径高 8.25	口縁部は直方に膨張し端部は直く 上に上げる。肩部に2列の「ノ」字状の 突起を施す。	[口] ヨコナデ ナデ	[口] ヨコナデ ナデ	に赤い褐色 に赤い褐色	石・長(1) ○	C10K	
40	甕	口径 (24.1) 径高 6.0	L型端部は直をもつ。頸部直下に例 点文が記述する。	[口] ヨコナデ ナデ	[口] ヨコナデ ナデ	暗色 板状色	石・長(1~4) ○	B10K	24
41	甕	口径 (15.8) 径高 2.5	口縁部に焼成前円孔を施す。	[口] ヨコナデ ナデ	ナデ	暗色 板状色	石・長(1~2) ○	E8K	24
42	甕	口径 (6.6) 径高 3.0	底部に焼成前円孔を施す。	[口] ヨコナデ ナデ	ナデ	暗色 板状色	石・長(1~4) ○	E8K	24
43	甕	口径 (16.2) 径高 18.0	大きく外反する口縁部。端部は直をもつ り、肩部に不規則な5~6所の押圧痕を つぼす。凹形の突起を斜めに付ける。	[口] ヨコナデ ナデ	[口] ヨコナデ ナデ	に赤い褐色 淡黄褐色	石・長(1~4) 金○	H10K	24
44	甕	口径 (16.0) 径高 4.5	大きく外反する口縁部。端部は直をもつ り、肩部に指彌押圧の刻目突帯を施す。	ナデ	ナデ	灰褐色 に赤い黃褐色	石・長(1~3) 金○	B10K	
45	甕	口径 (24.0) 径高 6.5	口縁端部は上方に肥厚する。端部に 3条の凹線文を施す。	ナデ	ナデ	暗白色 灰白色	石・長(1~4) ○	C10K	
46	甕	口径 (21.0) 径高 7.7	口縁部に3条の凹線文を施す。頸部に指彌 押圧の刻目突帯が記述する。	[口] ハサク(4本/cm) ナデ	ナデ	に赤い褐色 板状色	石・長(1~6) ○	B10K	
47	甕	口径 (22.2) 径高 (19.9) 径高 7.9	L型端部は下方に拡張され3条の凹線 文を施す。肩部に指彌押圧による突 起を施す。	ナデ	マツツ	に赤い黃褐色 淡黄褐色	石・長(1~5) ○	B10K	
48	甕	口径 (14.1) 径高 5.7	大きく外反する口縁部。端部は上下に 肥厚し端部に3条の凹線文を施す。	ナデ	ナデ	に赤い褐色 に赤い褐色	石・長(1~3) ○	B10K	
49	甕	口径 (13.1) 径高 16.0	大きく外反する口縁部。端部は直上に 肥厚し3条の凹線文。肩部に「ノ」 字状の凸出端部を施す。	ナデ	ナデ	暗色 明神褐色	石・長(1~5) 金○	C10K	
50	甕	口径 (15.0) 径高 5.6	口縁端部は拡張し2条の凹線を施す。 肩部に3条以上の凹線文がある。	ナデ	ナデ	に赤い黃褐色 淡黄褐色	石・長(1~2) 金○	C10K	24
51	甕	口径 4.5 径高 4.5	頸部片。貼り付け突帯4条以上あり。	ナデ	ナデ	暗色 に赤い黃褐色	石・長(1~2) 金○	B10K	
52	甕	口径 (11.4) 径高 7.3	短く外縁気味に立ち上がる口縁部。 端部はナデにより面をもつ。	ナデ	ナデ	に赤い黃褐色 灰褐色	石・長(1~3) ○	B10K	
53	甕	口径 (12.3) 径高 5.1	短く外縁気味に立ち上がる口縁部。 端部は面をもち3条の凹線文がある。	[口] ヨコナデ ハサク(5木/cm)	[口] ヨコナデ ナデ	灰褐色 に赤い黃褐色	西移動 金○	B10K	
54	甕	口径 (17.9) 径高 7.7	外反する口縁部。端部に1条の凹線文 を施す。	[口] ヨコナデ ナデ	[口] ヨコナデ ナデ	明褐色 に赤い黃褐色	石・長(1) 金○	B10K	

SR1①層出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面)(内面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
55	甕	口径 残高 17.5 7.3	外反する口縁部。端部は丸く仕上げる。	[口]ヨコナダ マツツ	ミガキ	にぶい褐色 灰褐色	石・長(1~2) ○	B10区	
56	甕	口径 (14.4) 残高 4.1	外反する口縁部。端部は面をもつ。	[口]横ナデ [口]ケ (12~13本/cm)	ハケ (12~13本/cm)	にぶい黄褐色 黒色	石・長(1~1.5) ○	B10区	
57	壺	口径 (29.0) 残高 12.4	同一個体と考えられる口部・一部頭と底盤。口縁部に山形文、頭部に指彌押正の財文が施る。平底の底盤。	[口]ヨコナダ マツツ [頭]ヨコナダ マツツ [底]ヨコナダ マツツ	[口]ナデ [頭]ナデ [底]ナデ	灰褐色 にぶい黃褐色	石・長(1~3) ○	A10区	24
58	壺	口径 (13.3) 残高 8.4	短く外反する口縁部。端部は面をもつ。	[口]ヨコナダ ハケ(10.6cm) マツツ	[口]ヨコナダ ハケ(10.6cm) マツツ	褐色 黒色	石・長(1~2) 金 ○	A10区	
59	壺	口径 (15.4) 残高 7.7	複合口縁。抵張部は短く内側に彎曲し端部は面をもつ。頭部に断面三角形の奥帶を貼り付ける。無文。	[頭]ナデ [口]ヨコナダ マツツ	[頭]ナデ [口]ヨコナダ マツツ	浅黃褐色 灰褐色	石・長(1~2) 多 ○	D10区	
60	壺	口径 (12.6) 残高 6.1	複合口縁。抵張部に5条の撚縮波状文を施す。	[頭]ナデ [口]ヨコナダ マツツ	[頭]ナデ [口]ケ(7~8本 /cm)→ハケ (7~8.4cm)	褐色 にぶい褐色	石・長(1~4) 金 ○	黒斑 B10区	
61	壺	口径 (21.4) 残高 7.6	複合口縁。抵張部は面をもつ。抵張部に施す直波状文を施す。	ナデ ヨコナダ	[頭]ヨコナダ [頭]ヨコナダ マツツ	褐色 黒色 黑色	石・長(1~4) ○	C10区	
62	壺	残高 7.2	頭部に断面三角形の穴帯が温る。	マツツ	マツツ	褐色 褐色	石・長(1~3) ○	C10区	
63	壺	残高 4.0	頭部部。外面に突審を貼り付ける。	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	長(1~2) 黒 ○	B10区	24
64	壺	口径 (11.6) 残高 3.1	直口口縁。外面に3条の細線文、2列の半纏竹管文、3条以上の細線文を施す。	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 淡黃褐色	石・長(1~2) ○	D10区	
65	壺	残高 5.4	頭部部。貝殻による押圧を施す。	ナデ	ナデ (壓り痕あり)	褐色 黒色	石・長(1~3) ○	B10区	
66	壺	残高 7.0	頭部部。貝殻による羽状文或以上を施す。	ナデ	ナデ	褐色 灰色	石・長(1~3) ○	C10区	24
67	甕	底径 12.4	平底。	ハケ(10.6cm)→ ナデ [底]ナデ	[底]ナデ (削痕痕あり)	にぶい黄褐色 暗褐色 にぶい褐色	石・長(1~3) ○	D10区	
68	甕	底径 18.3	くびれの上げ底。	[底]ミガキ 底 ヨコナダ ナデ	[底]ミガキ 底下(10cm)ナデ	褐色 精赤褐色 にぶい褐色	石・長(1~3) ○	黒斑 B10区	
69	甕	底径 7.0	くびれの上げ底。	ナデ (削痕痕あり)	ナデ (削痕痕あり)	褐色 褐灰色	石・長(1~2) ○	B10区	
70	甕	底径 4.5	くびれの上げ底。	ナデ (削痕痕あり)	ナデ (削痕痕あり)	淡黃褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~4) ○	黒斑 B10区	
71	甕	底径 4.9	くびれの上げ底。	マツツ [底]ナデ	マツツ	褐色 明褐灰色	石・長(1~3) 多 ○	B10区	
72	甕	底径 4.8	やや厚手のくびれの上げ底。	ナデ (削痕痕あり)	ナデ (削痕痕あり)	淡黃褐色 にぶい褐色	石・長(1~3) 金 ○	B10区	
73	甕	底径 22.7	平底。底盤より内窓気味に立ち上がる。	[削下]ミガキ マツツ	ナデ	褐色 一級栗色 栗灰色 にぶい褐色	石・長(1~5) 褐色 金 ○	A10・ B10区	
74	甕	底径 15.5	平底。	ハケ(11~12本/cm) →ミガキ [底]ナデ	[削下]ハケ(7.6cm) [底]ナデ	褐色 にぶい黄褐色 明赤褐色	石・長(1~4) ○	C10区	
75	甕	底径 10.0	わずかに上げ底。	ミガキ [底]ナデ	ナデ	にぶい褐色 黑	石・長(1~4) ○	A10区	
76	甕	底径 12.1	わずかに上げ底。	マツツ	ナデ	褐色 褐色	石・長(1~5) 多 金 ○	A10・ B10区	
77	甕	底径 8.0	小さく突出する平底。	ミガキ [底]ナデ	ナデ (削痕痕あり)	にぶい褐色 一級栗色	石・長(1~6) ○	D10区	
78	甕	底径 5.8	丸みを帯びた平底。	ハケ(5本/cm) →ナデ	ハケ(5本/cm) ナデ (削痕痕あり)	にぶい褐色 黒褐色	石・長(1~4) 多 ○	B10区	
79	甕	底径 9.4	小さく突出する底盤。	ハケ(5本/cm) [底]ナデ	ナデ (削痕痕あり)	褐色 灰褐色	石・長(1~4) 金 ○	黒斑 B10区	
80	甕	底径 4.4	小さく突出する底盤。	ハケ→ミガキ	ナデ	淡黃褐色 淡黃褐色	石・長(1~4) 金 ○	黒斑 B10区	
81	瓶	底径 3.0	瓶部・焼成前穿孔。	[口]ハケ(3本/cm)	ナデ	褐色 にぶい褐色	石・長(1~2) 金 ○	D9区	
82	鉢	口径 5.3	腹をもって大きく外反する口縁部。	[口]ナデ ハケ(8本/cm)	ハケ→ミガキ	にぶい褐色 黒色	楕円形 ○	B10区	

調査の概要

SB1①層出土遺物觀察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	箇 所		色調(外側) (内面)	胎 土	成 形	備考	図版
				外 面	内 面					
83	鉢	口径 残高 7.0 7.9	直口縁。端部は丸い。	ナデ	ナデ	褐色 浅黄褐色	石・長(1-6) ○	黒陶 B10区		
84	鉢	口径 残高 10.0 4.9	直口縁。端部は丸い。	[口縁] 残下ナデ 底、ハケ (7~8cm/cm)	ハケ(8cm/cm)	褐色 浅褐色	石・長(1-2) ○	D10区		
85	高杯	L型 残高 21.7 1.8	漏先状口縁。端部に凹彫文と刻目を施す。口縁部中央に内か口円。	ナデ	ナデ	褐色 にぶい褐色	右・長(1-4) ○	A10区		
86	高杯	口径 残高 22.2 3.2	1.端部は直立して立ち上がる。端部は面をもつ。	ナデ	ナデ	褐色 黄褐色	石・長(1) 褐色	A10区		
87	高杯	底径 残高 17.5 8.8	脚部より4条以上の弦紋・矢羽根模様を施し、8条の足跡・矢羽根模様を施す。4条の脚部・脚部間に1条の脚部。	ヨコナデ [脚部]ヨコナデ [脚部]ヨコナデ	[脚上]ナデ [脚底]ヨコナデ [脚下]ヨコナデ	褐色 にぶい褐色	石・長(1-2) ○	黒陶 C10区	25	
88	高杯	口径 残高 13.6 7.3	脚部より5条以上の弦紋・矢羽根模様を施し、3条の脚部。脚部間に1条の脚部。	ナハケ	[脚上]ナデ [脚下]ヨコナデ	褐色 褐色	石・長(-1) ○	C10区	25	
89	高杯	口径 残高 12.0 7.7	脚部より5条以上の弦紋・矢羽根模様を施し、3条の脚部。脚部間に1条の脚部。	ハケ(8cm/cm) ミガキ ナデ	褐色 にぶい褐色	石・長(1-3) ○	B10区			
90	高杯	口径 残高 13.9 6.0	脚部片。円孔(深5.5mm)3個残存。脚部端部に3条の脚部が施される。	ナデ [脚上]ヨコナデ	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい褐色	長(-1) 褐色	C10区	25	
91	高杯	残高 8.5	脚部から柱部に大きく広がる腹部。	[脚上]ヨコナデ [脚下]ヨコナデ [脚底]ヨコナデ	[脚上]ナデ [脚下]ヨコナデ [脚底]ヨコナデ	褐色 褐色	石・長(1-3) 多 ○	B10区	25	
92	巣台	口径 底径 30.4 23.5	脚部に深く彫られた斜面・横割れの斜面。底盤は浅く斜めに傾いており、底盤の周囲には内側に凹み出た脚部がある。	ナハケ ヨコナデ [脚上]ヨコナデ [脚下]ヨコナデ [脚底]ヨコナデ	[脚上]ナデ [脚下]ヨコナデ [脚底]ヨコナデ	褐色 浅黄褐色	右・長(1-6) ○	B10区	25	
93	支脚	底径 2.0-10.2 残高 12.2	中空。角部の突起をもつ2脚部。	ナデ(脚頭模様あり)	ナデ	にぶい黄褐色 褐色	石・長(1-2) ○	B10区	25	
94	ミニチュア	口径 底径 4.1 7.9	前部の円形品。窓で外に対する口縁部。直立して立ち上がる脚部。底部はや上げ底。	[口] ヨコナデ [底] ミガキ	[口] ヨコナデ [底] ミガキ	褐灰色 にぶい褐色	石・長(1-2) ○	A10区	25	
95	ミニチュア	底径 4.0 4.8	くびれの上げ底。筒形。	ハケ(8cm/cm) ナデ(脚頭模様あり) [底] ヨコナデ	ハケ(7~8cm/cm) ナデ	褐色 にぶい黄褐色	石・長(1-3) ○	A10区	25	
96	ミニチュア	底径 4.1 4.1	くびれの上げ底。筒形。	ナデ(脚頭模様あり)	ナデ	褐灰色 明褐色	長(1) ○	C10区	25	
97	壺	残高 6.3	剥離部。2条の直線縦刻文。	ナデ	ハケ(8cm/cm) ナデ	褐色 浅黄褐色	石・長(1-1.5) ○	A10区	26	
98	壺	残高 3.3	脚部片。2条の曲線縦刻文。	ハケ→ナデ	ミガキ	褐色 褐色	石・長(1) ○	A10区	26	
99	分割形 土製品	底大厚 1.2	下不透灰陶。形状が円形で耳は突堤で單と一体。目・口は縦縦裂。耳は側側に各一孔。赤褐色感なし。			暗灰褐色	砂質 ○	B10区	25 2-1 26	
100	深鉢	口径 残高 2.0 2.5	圓底土器。刻目付突堤。	ナデ	ナデ	青褐色 にぶい黄褐色	石・長(1-2) ○	C10区	25	
101	壺	口径 残高 12.7 2.3	内高する口縁部。端部は丸い。体部内面に附着跡状文。内外に赤褐色感付。	ヨコナデ	ミガキ	浅黄褐色 明褐色	長(1) ○	C10区	25	
102	壺	口径 残高 12.7 2.3	内高する口縁部。端部は丸い。体部内面に附着跡状文。内外に赤褐色感付。	ナデ	ナデ	明褐色 金	角閃石 金	B10区	25	

表10 SB1①層出土遺物調查表 石製品

番号	器種	残存	材質	法 重				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
103	石 鐸	完 形	サヌカイト	1.5	1.1	0.25	0.34	B10区	
104	石 斧	1/2	結晶片岩	7.1	2.2	1.1	30.45	A10区	
105	石 斧 丁	欠 捨	結晶片岩	5.4	4.1	0.4	12.40	B10区	
106	磨 石 宝 形		砂岩	11.5	10.5	4.9	927.83	E10区	

表11 SB1(1)層出土遺物觀察表
土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	国版
				外面	内面				
108	甕	口径 (15.1) 底高 6.7	種をもって外反する口沿部。端面は上方に肥厚する。端面に1条の凹線を施す。	□ナデ △ナデ ×ナデ	□ナデ △ナデ ×ナデ	に赤い銀色 灰白色	右・長(1~2) 金合		26
109	甕	口径 (21.2) 底高 9.0	ゆるやかに外反する口沿部。端面に1条の凹線を施す。器壁は厚い。	ナデ △ナデ ×ナデ	□ナデ △ナデ ×ナデ	銀色 に赤い銀色	右・長(1~4) 金合		26
110	甕	口径 (18.0) 底高 7.1	ゆるやかに外反する口沿。口縁端部は曲をもつ。	□△ナデ △ナデ ×ナデ △ケアリ	□△ナデ △ナデ ×ナデ △ケアリ	に赤い銀色 に赤い銀色	右・昇(1~3) 茶褐色		26

遺構と遺物

SRI①層出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調査		色調(外面) (内面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
111	甕	底径 残高 3.5 21.6	平底。内汚気味に立ち上がる割部。	マツツ [底]ナデ	ナデ (指腹痕あり)	にぶい褐色、 明赤褐色 褐色	石・長(1~6) ○		26
112	甕	底径 残高 9.3 6.0	平底。	マツツ	指ナデ	褐色、黑色 褐色	石・長(1~3) ○		
113	甕	底径 残高 (6.4) 19.0	わずかに上げ底。	[底]ナデ [底]マツツ [底]ナデ(指痕あり)	ナデ	褐色 灰褐色	石・長(1~4) ○		
114	甕	底径 残高 7.1 13.2	くびれの上げ底。底部より直線的に立ち上がる。	[底]ミガキ [底]ロコナデ [底]ナデ	ナデ	褐色 灰褐色	石・長(1~3) ○		
115	甕	底径 残高 7.3 11.3	くびれの上げ底。底部より直線的に立ち上がる。	[底]ミガキ [底]ロコナデ [底]ナデ	ナデ [刷上]マツツ	にぶい褐色、 (一部暗色) 灰褐色	石・長(1~5) ○		
116	甕	底径 残高 (9.0) 4.6	くびれの上げ底。全体にマツツが書きしい。	マツツ	マツツ	無彩色 黄褐色	石・長(1~4) ○		
117	蓋	つまみ孔(2.6) 口径 5.6	貫通する円孔がつまみ部に2か所・体部に1か所残存。つまみ部上面は歪む。	ナデ(一部ハケ)	ナデ	明赤褐色 明赤褐色	石・真(1~3) ○		27
118	蓋	つまみ孔 3.3~3.7 残高 5.0	貫通する円孔がつまみ部に4か所残存。つまみ部上面は歪む。	[つまみ]ナデ (工具痕あり)	ナデ	にぶい褐色 (一部灰褐色) にぶい褐色	石・長(1~2) ○		27
119	壺	口径 残高 13.0 6.4	外反する口縁部。端面はナデにより面部を持つ。頸部に断面三角形状の次帯を貼り付ける。	[口内]ナデ マツツ	マツツ	浅黄褐色 浅黄褐色	石・長(1~3) 多 ○		
120	壺	口径 残高 7.3 17.9	大きく述べる外反する口縁部。端面に刻文。端面に2条の突起を貼り付ける。	[口内]ナデ [口内]ヨコナデ ハケ(2本/cm)→ ナデ	ナデ	暗灰色、 褐色 褐色	石・長(1~4) ○		
121	壺	口径 残高 (27.9) 5.3	外反する口縁部。端面は面をもぢらや下方向に傾す。端面に斜削した目字を施す。	[口内]ナデ マツツ・ハクリ	マツツ・ハクリ	にぶい褐色 褐色	石・真(1~5) 褐色		
122	壺	口径 底径 残高 (10.2) 18.0 17.7	外反する口縁部。端面は上にトに下にトに開口する口縁部。端面は上に3条の凹痕を施す。上げ底の底部。肩部はかなり張る。	[口内]ナデ [口内]ヨコナデ ハケ(2本/cm)→ ナデ	ナデ	褐色 にぶい褐色	石・真(1~4) ○	黒帯	27
123	壺	口径 残高 (14.6) 6.5	外反する口縁部。端面に3本の凹痕が施す。頸部に面に格子のしりおり。	[口内]ナデ [口内]ヨコナデ ハケ(2本/cm)→ ナデ	[口内]ヨコナデ ナデ(指痕有り) ナデ	赤色 赤褐色	微妙粒 ○		
124	壺	口径 残高 (11.6) 6.2	粗く外反する口縁部。端面に3条の凹痕を施す。肩部にノの字状の本口凹槽を施す。	[口内]ナデ [口内]ヨコナデ ハケ(2本/cm)→ ナデ	[口内]ヨコナデ ナデ	褐色 明赤褐色	石・真(1~6) ○		
125	壺	口径 残高 (8.8) 10.0	外反する口縁部。端面に3条の凹痕を施す。小型品。	[口内]ナデ ヨコナデ ハケ(2本/cm)→ ナデ	ヨコナデ	褐色 褐色	石・長(1~2) ○		
126	壺	口径 底径 残高 (14.3) 17.2 9.6	外反する口縁部。端面に3条の凹痕が施す。頸部下位に3条の凹槽が施す。	ナデ	ナデ (指痕痕あり)	褐色 褐色	石・長(1~4) ○		27
127	壺	残高 12.9	胸部分。頸部に「住居？」の刻記。	ハケ(マツツの跡 單位不明)→ナデ	マツツ (指痕痕あり)	浅黄褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~4) ○		27
128	壺	口径 残高 (7.8) 8.3	無窓蓋。内傾する口縁部。端部は丸みを帯びる。	ナデ	ナデ	浅黄褐色 褐色	微妙粒 ○		27
129	壺	口径 残高 (12.2) 6.0	内傾して立ち上がる口縁部。口縁部は丸みを帯びる。	ナデ	ハケ(10.4/cm)→ ナデ (指痕痕あり)	にぶい褐色 無色	石・長(1~4) 金 ○		27
130	壺	口径 底径 残高 10.0 10.4 2.2	真口。同個体と見られる1号壺と肩部と底部。口縁部は丸け気味。小さなボタン状の底座。	[口内]ナデ マツツ ミカキ	[口内]ナデ マツツ ミカキ	褐色 明赤褐色	石・長(1~2) ○		27
131	壺	残高 11.6	細長壺蓋。	細いヘラミガキ	マツツ	明赤褐色 灰色	石・真(1) 全 ○		27
132	壺	口径 残高 (10.0) 21.2	直口。内側で立ち上がる口縁部。端部は丸みを帯びる。小さく穴が開く平底。	[口内]ナデ ハケ(6本/cm) ミカキ	ハケ(6本/cm)→ ナデ	にぶい褐色 褐色	石・長(1~3) ○		
133	壺	口径 残高 (13.7) 9.4	直筒的で外傾して立ち上がる口縁部。端部は丸い。肩部に貼り付け竹箸文を施す。	[口内]ヨコナデ [口内]ヨコナデ [口内]ヨコナデ ミカキ	ナデ ナデ	褐色 灰色	石・長(1~3) ○		28
134	壺	口径 残高 (11.6) 6.6	ゆるやかに外反する口縁部。端部には面をもつ。	[口内]ヨコナデ [口内]ヨコナデ [口内]ヨコナデ ミカキ	ハケ(5本/cm)→ ミカキ [指痕痕]ナデ	にぶい黄褐色 褐色	石・長(1~2) ○		
135	壺	残高 12.75	直筒的で立ち上がりゆるやかに外反する口縁部が施す。	[口内]ヨコナデ [口内]ナデ	ナデ	にぶい褐色 にぶい黄褐色 褐色	長(1~2) ○		
136	壺	残高 15.3	頸部に断面三角形の突帯が施す。	[口内]ヨコナデ [口内]ナデ	ナデ	にぶい褐色 にぶい黄褐色 褐色	石・長(1~6) ○		28
137	壺	口径 残高 (13.8) 5.8	複合口縁。被部間に輪飾波状文7条。端部に斜面波状文の刻印文帯を施す。	[口内]ナデ マツツ ハケ(5本/cm) ミカキ	[口内]ナデ マツツ ハケ(5本/cm) ミカキ [指痕痕]ナデ	浅黄褐色 灰白色	石・長(1~4) 全 ○	赤色調節	28
138	壺	口径 残高 (16.2) 5.8	複合口縁。被部間に斜面波状文の刻印文帯を施す。	[口内]ナデ マツツ	ナデ マツツ	褐色 明赤褐色	石・長(1~6) ○		28

調査の概要

SR1①層出土遺物観察表 土製品

(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調査		色調(外面)	胎土成	備考	図版
				外 面	内 面				
139	壺	残高 9.3	複合1種。抵張部端面に1条の凹線を有す。	[底] マツツ ハケ(7本/cm)→ ナデ	[底] マツツ ハケ(7本/cm)→ ナデ	褐色・黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~4) ○		
140	壺	(16.1) 7.4	複合1種。抵張部は短く内傾し端部には面をもつ。無文。	[底] ヨコナデ [口] ハケ(12~13本/cm)→ ナデ	[底] ヨコナデ [口] ハケ(12~13本/cm)→ ナデ	にぶい褐色 灰褐色	石・長(1~3) ○		
141	壺	(24.0) 9.4	複合1種。抵張部は外反し端部に山形の押文を施す。	[底] ナデ [口] ハケ(5本/cm)→ ナデ	[底] ナデ [口] ハケ(5本/cm)→ ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1~4) ○		28
142	壺	底径 残高 11.8	(14.8) わずかに上げ底。底部より外傾して立ち上がる。衝撃が厚い。	マツツ		にぶい黄褐色 淡黄色	石・長(1~4) ○		28
143	壺	(9.0) 残高 10.1	平底。	ミガキ [底] ナデ	[底上] マツツ ナデ	灰褐色 灰褐色	石・長(1~5) 多 ○	加藤	
144	壺	底径 残高 8.0	平底。	[底上] マツツ [底] ミガキ [底] ナデ	ナデ	浅黄褐色 灰白色	石・長(1~4) 多 ○	黒斑	
145	壺	底径 残高 6.9	平底。	マツツ	マツツ・ハクリ	淡黄褐色 灰白色	石・長(1~6) 多 ○		
146	壺	底径 残高 10.3	平底。	ハケ(7~9本/cm) ナデ [底] ナデ	[底] ハケ(7~9本/cm) ナデ [底下] ナデ	褐色・褐色 灰褐色・褐色	石・長(1~5) 金 ○		
147	壺	底径 残高 11.7	丸みをもつ不安定な平底の底部。	ハケ(7本/cm) ナデ [底] ナデ	ナデ [底] ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~5) ○		
148	壺	底径 残高 4.4 9.1	小さく突出する底部。	ナデ	ハケ(7~8本/cm) ナデ [底] ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 (指油痕あり)	石・長(1~4) ○		
149	壺	底径 残高 2.6 6.9	小さく突出する底部。	ハケ(1本/cm)→ ナデ [底] ナデ	ハケ(12本/cm)→ ナデ (指油痕あり)	褐色・ 淡黄褐色 褐色	微妙 ○		
150	鉢	(38.8) 残高 18.6	大型品。種をもつ外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	[底] ヨコナデ [口] ヨコナデ [底] ナデ	[口] ヨコナデ [底] ヨコナデ [底] ナデ	褐色 褐色	石・長(1~2) ○		
151	鉢	(15.3) 残高 14.7	短く外反する口縁部。端部は下方に膨らむ。脚部をもつ。脚部に焼成前円孔を有す。	ナデ [底] ハケ(5~8本/cm) ナデ [底] ナデ	[底] ハケ(5~8本/cm) ナデ [底] ナデ	明褐色 明褐色	石・長(1~5) 金 ○		28
152	鉢	底径 残高 10.0	短く外反する口縁部。口縁端部は尖り気味で上に突き上げる。	[底] ヨコナデ ハケ(4~6本/cm)→ ナデ→施文 [脚] ヨコナデ ミガキ	[底] ヨコナデ ハケ(4~6本/cm)→ ナデ→施文 [脚] ヨコナデ ミガキ	にぶい黄褐色 淡黄色	石・長(1~2) 金 ○		
153	高环	底径 残高 11.1 11.6	柱上部に2条の沈線。下に矢刺状沈線を施す。	ハケ(4~5本/cm) ナデ [底] ヨコナデ ハケ(4~5本/cm)→ ナデ→施文 [脚] ヨコナデ ミガキ	ヨコナデ ハケ(4~5本/cm)→ ナデ→施文 [脚] ヨコナデ ミガキ	褐色 褐色	石・長(1~4) ○		28
154	高环	底径 残高 11.3	脚部は「ハ」の字状に外反する。	ナデ	[底] ヨコナデ ナデ [脚] ヨコナデ (指油痕あり)	淡褐色 褐色	石・長(1~4) 海色粒 ○		
155	高环	(14.8) 残高 8.0	脚部は「ハ」の字状に大きく外反する。足部に焼成前円孔を有す。	[底] [脚] ヨコナデ ミガキ ナデ [底] ナデ	[底] ヨコナデ ミガキ ナデ [脚] ヨコナデ ナデ	褐色 褐色	石・長(1~2) ○	黒斑	
156	高环	底径 残高 8.8 9.3	円柱状の柱部。脚部付近で「ハ」の字状に突き出る。	[底] ヨコナデ ミガキ [脚] ヨコナデ ナデ	[底] ヨコナデ ミガキ [脚] ヨコナデ ナデ	淡黄褐色 にぶい黄褐色 淡黄色 淡黄色	石・長(1~2) 褐色 ○		
157	高环	底径 残高 11.2 7.2	円柱状の柱部。脚部端面に2条の凹線を施す。	[脚] ヨコナデ ナデ [脚] ヨコナデ ナデ	ナデ	褐色 褐色	石・長(1~3) ○		
158	高环	受部径 (4.9) 残高 4.8	脚部に縫割が2か所・円孔が2か所残す。	ナデ	[底底] ナデ [脚] ナデ [脚] ナデ	赤褐色 赤褐色	角閃石 金 ○		28
159	器台	口径 (25.0) 残高 12.5	口縁端部はナデ凹む。柱部上位に円孔が2か所残す。	[口] ヨコナデ ナデ	[口] ヨコナデ ナデ	褐色 褐色	石・長(1~5) ○		28
160	ミニチュア	(7.0) (2.6) 4.8	直口口縁。端部は尖り気味。鉢形。	マツツ (指油痕あり)	マツツ	褐色 褐色・褐色	石・長(1~3) ○		
161	支脚	底径 (7.0) 残高 3.5	上部を丸く仕上げる。中央に穿孔があり。	マツツ	マツツ	にぶい黄褐色	石・長(1~7) ○		
162	壺	底径 残高 6.9	長脚窓。表面に自然釉が付着している。	ナデ	ナデ	オリーブ色 灰色	微妙 ○	自然釉	
163	軽鍾車	長さ 5.4 幅 5.2 最大幅 1.45	土製品。	マツツ・ハクリ	マツツ・ハクリ	褐色・黑色	石・長(1~5) 0.7cm 幅3.0cm ○	長(1) 褐色ウンモ ○	28
164	不明品	長さ 5.3 幅 2.8 最大幅 2.8	ラダビーポール状の土製品。	ナデ	ナデ	明赤褐色 灰褐色			28

表12 SR1①層出土遺物観察表 石製品

(1)

番号	器種	残存	材質	法量			備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
165	石 鍋	欠 損	サスカイト	1.6	1.6	0.3	0.83	
166	石 鍋	3/4	サスカイト	(2.8)	2.1	0.3	2.76	

遺構と遺物

SR1①層出土遺物観察表 石製品

(2)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
167	石 勉 丁	一部欠損	不明	(11.7)	4.3	0.8	47.38		29
168	石 勉 丁	1/2弱	結晶片岩	6.9	4.5	0.5	27.86		29
169	石 勉 丁	1/2弱	不明	(6.1)	(3.1)	0.6	15.82		
170	石 勉 丁	ほぼ完形	サスカイト	9.8	5.2	0.9	66.74		29
171	石 勉 丁未製品	欠 損	結晶片岩	11.8	4.3	1.2	101.51		29
172	石 斧	欠 損	結晶片岩	10.2	5.6	1.7	138.18	扁平片刃	29
173	石斧木製品	欠 損	結晶片岩	8.4	5.1	1.3	92.09		
174	砥 石	欠 損	砂 岩	(4.6)	(1.6)	3.4	34.51		
175	砥 石	ほぼ完形	砂 岩	32.6	10.9	9.5	6700.00		29
176	磨 石	欠 損	不 明	(21.9)	(13.7)	6.0	2673.53		
177	磨 石	欠 損	安山岩	28.7	20.5	8.9	8050.00		
178	磨 石	4/5	砂 岩	(22.4)	(21.7)	7.5	6600.00		

表13 SR1⑥層出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
179	壺	口径 扶高 4.3	口縁部を下方に拡張する。端部に 「ハ」の字状文を施す。	ナデ	ナデ	に赤い褐色 に赤い褐色	石・長(1~3) 金(○)		
180	壺	口径 扶高 7.2	大きく外反する口縁部。端部は曲を もつ。	ナデ (折縫目あり)	ナデ	に赤い褐色 褐色	石・長(1~4) 金(○)		
181	甕	底径 扶高 9.9 6.7	くびれの上げ底。	貝(底)ミガキ (折縫目あり)	ナデ	に赤い褐色 褐色	石・長(1~4) 金(○)		
182	甕	底径 扶高 4.1 18.0	平底の底部。	ハケ(12cm/cm)→ ナデ 藍(ナデ)	ナデ	赤褐色・灰褐色 明る褐色	石・長(1~4) 金(○)		
183	甕	底径 扶高 3.7 9.7	平底の底部。	ハケ(9.5cm/cm)→ ナデ 藍(ナデ)	ハケ(8cm/cm)→ ナデ (折縫目あり)	灰褐色 褐色	石・長(1~4) 石敷(5) 金(○)	黒斑	
184	甕	底径 扶高 (2.3) 13.3	小さく突出する底部。工具痕あり。	ハケ(9.5cm/cm)→ ナデ(工具痕あり)	ハケ(7.5cm/cm)→ (工具痕あり)	に赤い褐色 赤褐色	石・長(1~3) 茶褐色(○)		
185	甕	底径 扶高 (5.0) 10.6	平底。器壁が厚い。	ハケ(9.5cm/cm)→ ナデ(工具痕あり)	ハケ(7cm/cm)→ (工具痕あり)	淡青褐色 灰褐色	石・長(1~6) 金(○)		
186	甕	底径 扶高 5.8 7.4	平底。	[貝]ミガキ 藍(ナデ)	[貝]ミガキ 藍(ナデ)	淡青褐色 灰褐色	石・長(1~4) 金(○)	黒斑	
187	鉢	口径 扶高 21.5 5.1	口縁部は棱をもって大きく外反する。 口縁部は面をもつ。	[貝]ミガキナデ 口(内)扶高(外)ナデ	[口](内)ハケ (扶高)(外)ナデ 貝(ミガキ)	褐色 褐色	石・長(1~7) 金(○)		
188	鉢	口径 扶高 17.0 4.2~4.4 9.7	口縁部は外反してくびれる。底部 は小さく突出する。	[貝]ミガキナデ ハケ(16cm/cm)→ ナデ	ハケ(9~16.4cm/cm)→ ナデ	楕円・褐色 褐色	長(1~1) ○	黒斑	
189	鉢	口径 扶高 1.8 1.3 0.9	I II部は直口し短く立ち上がる。	[貝]ミガキナデ ハケ(8cm/cm)→ ナデ	[貝]ミガキナデ ハケ(16cm/cm)→ ナデ	に赤い褐色 明る褐色	石・長(1~4) 金(○)	黒斑	
190	高杯	口径 扶高 (24.0) 3.9	环球部。I II部は大きく広がり高部 は丸みを帯びている。	[貝]ミガキナデ 貝(ミガキ)	ミガキ	褐色 褐色	石・長(1~2) ○		
191	高杯	13.0	脚部。ゆるやかに広がる脚部。	[貝]ミガキナデ 貝(ミガキ)	[貝]ミガキ (脚上)付(貝)(外)11cm /cm)→ミガキ	に赤い褐色 赤褐色	石・長(1~2)多 (○)		
192	支脚	受部径 (10.0) 扶高 (11.0) 12.8	底部が受部径をやや凌ぐ。口縁端部 は曲をなす。	ハケ(7cm/cm)→ ナデ (底面凹)	ハケ(7cm/cm)→ ナデ	に赤い褐色 褐色	石・長(1~4) 金(○)		
193	ミニチュア	4.4 4.1 7.6	壺形のほぼ光形壺。長く直立する口 縁部。底部は平底。	ナデ(一部脚部欠 け)(工具痕あり)	ケズリ	褐色 黑色	石・長(1~2) 金(○)	黒斑	29
194	劫錐車	長さ 幅 大厚 0.9	土器の軸用品。	ナデ		褐色	石・長(1~2) 品重 8.4kg 重量 15.6kg	29	
195	匙形 土製品	残高 3.5	体部は皿状、持部分は断面円形を呈す。 る。	ハケ(10cm/cm)→ ナデ	ナデ	に赤い褐色 赤褐色	石・長(1) ○		29

表14 SR1⑥層出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
196	石 勉 丁	1/4	結晶片岩	(4.2)	4.7	0.6	18.60		29
197	石器素材	欠 損	結晶片岩	5.2	1.1	1.0	11.05		

調査の概要

表15 SR1出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 燒	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
198	壺	口径(17.1) 残高 6.7	口縁端部に4条の凹線文。	[口]ナデ [口]ミガキ	ナデ	に赤い褐色 に赤い黄褐色	石・長(1~3) ○			
199	壺	口径(14.4) 残高 7.8	口縁端部に4条の凹線文。	ヨコナデ	ヨコナデ	褐色 褐色	長(1~2) ○			
200	壺	残高 3.8	颈部に3条のヘラ括沈線文を施す。 内面に粒底。	ナデ	ナデ	明褐色 に赤い褐色	石・長(1~2) ○		30	
201	壺	口径(12.8) 残高 8.8	肩部に溝唇に3条の沈線文。その間に 山形文を施す。	[口]ナデ ミガキ	[口]ナデ ミガキ	暗褐色 暗褐色	石・長(1~3) 金 ○		30	
202	壺	残高 8.5	肩部にヘラ括沈線文が3条ある。	ミガキ	[肩]ヨコナデ [肩]ナデ	に赤い黄褐色 に赤い黄褐色	石・長(1~3) ○			
203	深鉢	残高 2.95	漢文上唇。網目突帶。	ナデ	ナデ	に赤い黄褐色 灰褐色	石・長(1~2) ○			

表16 SR1出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法 量			備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
204	石 横	欠 横	結晶片岩	(3.9)	6.8	3.3	157.01	30
205	スクリューパー	完 形	安山岩	9.3	4.8	0.9	49.74	30

表17 SR1出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 燒	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
206	壺	口径(14.1) 残高 12.4	口縁端部に4条の凹線文。肩部に「ノ」 字の状の木口押圧を施す。	[口]ナデ ミガキ	ナデ	灰黃褐色 に赤い黄褐色	石・長(1~2) ○			
207	壺	口径(15.3) 残高 8.9	口縁端部は上下に肥厚し3条の凹線文 を施す。肩部に「ノ」の字の木口押 圧を施す。	ヨコナデ [肩]ハケ(6.6 cm/cu)ナデ	ヨコナデ [肩]ハケ(6.6 cm/cu)ナデ(肩 部開きあり)	に赤い白色 に赤い黄褐色	長(1) 海貝殻 ○			
208	壺	口径(14.0) 残高 6.2	11横端部に4条の凹線文。	[口]ヨコナデ [肩]ヨコナデ ナデ	[口]ヨコナデ [肩]ヨコナデ ナデ	赤褐色 赤褐色	石・長(1~2) ○			
209	壺	口径 11.2 残高 28.6	大型品。底部は平底。	ミガキ [底]ナデ	マツツ	に赤い橙色 褐色	石・長(1~4) ○			
210	鉢	口径(14.9) 残高 9.0 底径 10.0	わずかに上げ底。底部より内湾気味 に立ち上がる。	ナデ(底) ハケ(7.4cm) ナデ	ナデ	淡黄色 淡黄色	石・長(1~2) ○			
211	壺	口径 7.8 残高 2.7	底部底。焼成後に円孔を穿つ。	ナデ [底]マツツ	マツツ	に赤い橙色 灰白色	石・長(1~3) ○			
212	高坏	残高 16.2	脚部分。ゆるやかに広がる裙部。	マツツ [脚]一部にミガキ	ナデ [脚]一部にケズリ	淡黄褐色 に赤い黄褐色	石・長(1~5) 金 ○			
213	高坏	口径 12.8 残高 12.6	脚部分。柱部より4条の沈線・4条の 斜線・矢張鉄透かし・3条の凹線。脚 端部に4条の凹線を施す。	マツツ [脚]ナデ	ナデ	特褐色 灰褐色	石・長(1~3) ○		30	
214	高坏	口径 12.5 残高 7.5	脚部分。柱部より4条以上の沈線・矢 張鉄透かし・3条の凹線。	[脚]ハケ(半筋不 規)→ミガキ [脚]ナデ	ナデ	に赤い橙色 に赤い白褐色	石・長(1~3) ○			
215	高坏	口径 7.9	脚部分。底部に直径4.5センチの穿孔3 ヶ所を焼成前に施す。	マツツ [穿孔部]ナデ マツツ	[穿孔]ナデ マツツ	浅黄褐色 浅黄褐色	石・長(1~3)多 ○		30	
216	高坏	口径(8.4) 残高 3.5	脚部分。裙部は曲面をもつ。	[脚]ハケ(8cm/cu) ナデ [脚]ヨコナデ ヨコナデ	[脚]ナデ [脚]ヨコナデ ヨコナデ	に赤い黄褐色 灰褐色	石・長(1~5) ○			
217	支脚	口径(9.0) 残高 12.8	[U]字状の受部をもつ。脚部分は細く 丸く。	指ナデ [指屈食あり]	指ナデ [指屈食あり]	明黄褐色	石・長(1~4) ○		30	
218	上盤	口径 4.1 最大径 2.3	上蓋の縫、貫通孔。	ナデ	ナデ	浅黄褐色 浅黄褐色	石・長(1~2) 金 ○	直径 0.5cm 厚さ 3.5mm 黒帯		

表18 SR1出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法 量			備考	図版
				高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
219	石斧	1/4	安山岩	11.4	6.6	1.3	147.31	扁平打製

表19 SR1出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 燒	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
220	壺	口径(31.0) 残高 8.1	口縁端部に4条の凹線文。腹部に細かな 刻印で火災変形が認める。底部下に押圧 痕。	ナデ(一部工具に よる押圧あり)	ナデ	淡黄褐色 褐色	石・長(5) ○			
221	壺	口径 10.4 残高 5.4	直進的に立ち上がり外傾する口縁。 口縁端部は丸みをもつ。	マツツ	マツツ	明黄褐色 明赤褐色	石・長(1~5) ○	黒帯		

遺構と遺物

SR1出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土成 塊	備考	図版
				外面	内面				
222	壺	口径 残高 9.8 9.5	複合口縁。無文。	マツツ	マツツ	褐色 黄褐色	石・長(1~3) ○	黒磚	
223	壺	口径 残高 7.3 7.3	複合口縁。外反して立ち上がり口縁 部付近で上方に鋸くのがある。	[盆]ヨコナデ ナデ	[盆]ヨコナデ ナデ	に赤い褐色 に赤い褐色	石・長(1~2) ○		
224	壺	口径 残高 10.2 11.7	大型品。平底。	ハケ(6cm/cm)→ ミガキ [盆]ミガキ [盆]ナデ	ハケ(7~6cm/cm)→ ナデ(表面凹 り)	に赤い黃褐色 褐色	石・長(1~5) 金 ○	黒磚	
225	鉢	口径 残高 1.6 2.7	底盤部。底部は小さく突出する。	ハケ(7cm/cm)→ ミガキ [盆]ナデ	ナデ	に赤い褐色 灰褐色	石・長(1~1) ○		
226	高環	口径 残高 10.4	脚部。裾部に向けゆるやかに外反 する。	マツツ	[盆]ミガキ [盆]ナデ	灰褐色 黑色	石・長(1~5)多 ○		

表20 SK25出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土成 塊	備考	図版
				外面	内面				
227	壺	口径 残高 4.6 1.9	上げ底の底盤。	ナデ	ナデ	褐色 褐色	石・長(1) ○		

表21 SK25出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量			備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
228	石 筋	完 形	サスカイト	2.8	1.4	0.4	1.35	

表22 SK48出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土成 塊	備考	図版
				外面	内面				
229	壺	口径 3.0 底盤 24.9	光形崩。内汚氣味に矧く立ち上がる 口縁部。壺部は街をなす。底盤は平 底。	[口]ヨコナデ ナデ [盆]口による ナデ	[口]ヨコナデ ナデ [盆]口による ナデ	に赤い黃褐色 に赤い褐色	石・長(1~7) 薄褐色 ○		31
230	壺	口径 3.5 底盤 4.2	小さい平底。	ハケ(7cm/cm)→ ナデ	ナデ	に赤い褐色 浅褐色	石・長(1~3) 薄褐色 ○		
231	壺	口径 4.2 底盤 4.2	口縁部に2条の凹線を施す。	ナデ	ナデ	褐色 底盤褐色 一部褐色	石・長(1~5) ○		

表23 SK49出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土成 塊	備考	図版
				外面	内面				
232	壺	口径 2.6 底盤 3.9	平底。底部よりやや外反気味に立ち 上がる。	ハケ(6cm/cm)→ ナデ [盆]ナデ	ナデ	に赤い褐色 に赤い褐色 暗褐色	石・長(1)多 ○		
233	壺	口径 3.2 底盤 4.2	平底。底部よりやや外反気味に立ち 上がる。	ミガキ [盆]ナデ	ナデ	に赤い褐色 褐色	石・長(1) ○		
234	鉢	口径 4.1 底盤 4.1	縁をもって外反する口縁部。	ナデ	[口]ナデ 脚 ケズリ	褐色 褐色	石・長(1~2) ○		

表24 SK50出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土成 塊	備考	図版
				外面	内面				
235	壺	口径 3.9 底盤 3.9	ゆるやかに外反する口縁部。壺部は 面をなす。	ナデ	ナデ	褐色 浅褐色 黒色	石・長(1~2) ○		
236	壺	口径 9.2 底盤 22.7	口縁部は下方に強張し2条の凹線を 施す。頭部に幅広の突宍を木口押付 を施す。	ヨコナデ [盆]ナデ ハケ(10cm/cm)→ ナデ	[口]ヨコナデ ナデ [盆]ナデ ハケ(10cm/cm)→ ナデ	褐色 灰褐色 灰褐色 灰褐色	石・長(1~5) 金 ○		31
237	壺	口径 8.5 底盤 7.9	くびれの上げ底。	ナデ	ナデ (一部ハクリ)	明褐色 灰色	石・長(1~4) ○		31
238	壺	口径 4.2 底盤 6.2	くびれの上げ底。	ミガキ [盆]ナデ	ナデ	褐色 に赤い褐色	石・長(1~3) 金 ○		
239	壺	口径 7.2 底盤 25.0	口縁部は上方に強張し3条の凹線を 施す。	ナデ マツツ	[口]ナデ マツツ	灰褐色 灰褐色	石・長(1~4) 金 ○		31
240	壺	口径 1.6 底盤 7.2	口縁部に4条の凹線を施す。	ナデ	ナデ	褐色 褐色	微多粒 ○		
241	高環	口径 8.0 底盤 9.8	脚部片。柱より7条の沈縫、木口押 付を施す。3条の凹線。脚部部 に1条の凹線を施す。	[盆]ナデ ヨコナデ ハク(10cm/cm)→ ナデ	ヨコナデ(取り痕 あり)	褐色 浅褐色	石・長(1~5) 褐色 ○		31
242	鉢	口径 3.7 底盤 11.2	縁をもって外反する口縁部。	ナデ	ナデ	褐色 灰褐色 黒褐色	石・長(1~4) ○		

調査の概要

表25 SK50出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 焼 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
243	ミニチュア 選錠	口徑 (5.2) 高さ (3.2) 4.9	鉢形の充形品。くびれの上部底。直 口縁。端部は丸く仕上げる。	指ナデ	指ナデ	にぬい褐色 黒色	石・長(1~4) 金○		31
244	壺	残高 9.2	胴部に沈線文3条が巡る。	マツツ	マツツ	灰白色 灰褐色 (淡黄系)	石・長(1~3) 石粒・褐色 石粒○		

表26 SK52出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 焼 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
245	鉢	口徑 (11.6) 残高 5.2	ゆるやかに外反する口縁部。口縁部 部は直をなす。	ナデ	ナデ	褐色 灰褐色	石・長(1~3) 金○	無記	31
246	高杯	外径 (25.0) 内径 (15.0) 残高 3.5	鍔先状口縁。長い口縁部内面に小さ い突起部をもつ。	[口縁]ヨコナダ ハケ(半径不明) →ナデ	[内面]ヨコナダ ハケ(半径不明) ハケ(1cm)→1.5cm	にぬい褐色 褐色	石・長(1~2) ○		31
247	壺	残高 4.8	ミガキ 底	ケズリ 底ナデ	ナデ	黄褐色・褐色 褐色	石・長(1~2) ○		
248	壺	残高 (7.1) 底 残高 2.2	平底。 器壁が厚い。	ナデ	ナデ	灰白色 褐色	石・長(1~4) 褐色○	無記	

表27 SK54出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 焼 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
249	壺	口徑 (13.8) 残高 17.0	我々もって外反する口縁部。端部は 丸くなる。	[口]ナデ [底]タタキ	[内]ナデ [底]ハケ(10cm/ cm)〔表面あり〕	褐色 褐色	石・長(1~3) ○		

表28 SK55出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 焼 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
250	壺	底厚 10.0 残高 33.5	大型壺。底部は丸みのある平底。 口縁部に斜格子目文の貼り付 を施すが並ぶ。	ミガキ 底ナデ	[側面]ハケ(8cm/ cm)→ナデ [底]ナデ 〔表面あり〕	黄褐色 灰白色	石・長(1~7) ○	黒塗	
251	壺	口徑 (22.8) 残高 12.5	複合口縁。口縁部外側に斜格子状文 部に斜格子目文の貼り付 を施すが並ぶ。	ミガキ ナデ	ナデ	褐色 褐色	石・長(1~5) 茶褐色 ○		31
252	壺	残高 35.3	大型壺。底部の張りは少ない。 ハケ(12cm/cm)→ ミガキ	ハケ(12cm/cm)→ ナデ	にぬい褐色 褐色	石・長(1~7) 褐色 ○		黒塗	
253	壺	口徑 (22.5) 残高 4.8	棘をもって外反する口縁部。端部は 上方に貼り付して縦線を施す。	[口]ヨコナダ ナデ	ナデ	褐色 褐色	石・長(1~3) 金○		
254	壺	底厚 (6.0) 残高 3.7	平底。器壁が厚い。	タタキ→ナデ [底]ナデ	ナデ	灰褐色 淡褐色	石・長(1~3) 金○		

表29 SK57出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法 量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
255	台 石	完 形	砂 岩	22.3	16.9	7.1	3800.00		31

表30 SK59出土遺物観察表 石製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 焼 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
256	壺	口徑 (23.6) 残高 11.7	I型側外面に斜格子状文、底部 側面に半軸竹管文例、頂部に斜格子 目文と斜刃付付定番が巡る。	ヨコナダ ナデ	ヨコナダ ナデ	褐色 にぬい褐色	石・長(1~5) 褐色 ○		
257	壺	残高 11.3	底部付近より内側して立ち上がる頭 部。	ハケ(7cm/cm)→ ナデ	ケズリ→ナデ	にぬい褐色 褐色	石(1) 長(1~4) 褐色 ○		
258	壺	底厚 (4.6) 残高 9.8	大型壺。底部は丸みのある平底。 ハケ→ミガキ 底ナデ	ハケ (5~15cm/cm)	ナデ	褐色 無褐色	石・長(1~6) 金○		

表31 SK60出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 焼 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
260	壺	口徑 (16.2) 残高 1.8	外反する口縁部。端部は「コ」の字状 を呈する。	[口縁]ナデ ハケ(5cm/cm)	ハケ(6cm/cm)	にぬい褐色 褐色	石・長(1~3) 金○		

遺構と遺物

表32 SD4出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調査		色調(外面) (内面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
261	甕	口径 残高 4.7 4.6	縁をもって外反する口縁部。口縁端部は丸く上げる。	マツ	ハケ (9~10本/cm)→ ナデ	藍色 にぶい青紫色、 赤褐色	石・長(1) ○		
262	甕	口径 残高 16.2 2.7	縁をもって外反する口縁部。口縁端部は直す。	ハケ(5~6本/cm)	ハケ(7本/cm)	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~3) ○		
263	高環 底延 残高 6.7 6.2	脚部付。底部に向けゆるやかに外反する。円孔の痕跡あり。	[脚部]小口体(10cm)↑ [脚部]ナデ(10cm)↑ [底延]ハケ(10cm) [底延]ナデ(2コ)	[脚部]明褐色(脚部端部) [脚部]赤褐色(脚部端部) [底延]白	褐色 褐色	石・長(1~3) ○			
264	壺	底延 残高 3.9 3.6	平底。	ハケ(12本/cm)→ ミガキ	ハクリ	暗色、暗灰色 にぶい黄褐色	石・長(1~3) ○		

表33 SD4出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	重量			備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
265	石磨丁(木製品)	不明	結晶片岩	(6.2)	(2.1)	0.5	9.31	

表34 SX1出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調査		色調(外面) (内面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
266	甕	口径 底延 残高 4.3 29.4	縁をもって外反する口縁部。口縁端部は直す。底部はやや丸みを帯びた平底。	[口]ナデ [底延]ナデ [底延]ナデ(10cm)↑ [底延]ナデ(10cm)↑	ハケ(8本/cm)→ ナデ	にぶい青紫色、 赤褐色 にぶい褐色	石・長(1~3) ○		32
267	甕	口径 底延 残高 14.6 3.9 25.4	縁をもって外反する口縁部。口縁端部は直す。底部はやや丸みを帯びた平底。	[口]ナデ [底延]ナデ [底延]ナデ(10cm)↑ [底延]ナデ(10cm)↑	ハケ(12本/cm)→ ナデ	明褐色 明褐色 にぶい褐色	石・長(1~3) ○	黒底	32
268	甕	口径 底延 残高 13.8 13.1 19.3	縁をもって外反する口縁部。口縁端部は直す。底部はやや丸みを帯びた平底。	[口]ナデ [底延]ナデ [底延]ナデ(10cm)↑ [底延]ナデ(10cm)↑	ハケ(12本/cm)→ ナデ	雨赤褐色、 暗赤褐色、 暗赤褐色 にぶい褐色	石・長(1~4) ○		
269	甕	口径 底延 残高 15.9 3.2 35.2	縁をもって外反する口縁部。口縁端部は直す。底部は丸みをもつ。器壁は厚い。	[口]ナデ [底延]ナデ [底延]ナデ(10cm)↑ [底延]ナデ(10cm)↑	ハケ(12本/cm)→ ナデ	淡赤褐色 にぶい青紫色	石・長(1~4) ○	黒底	32
270	甕	口径 底延 残高 22.6 22.6	縁をもって外反する口縁部。口縁端部は直す。底部は丸みをもつ。器壁は厚い。	[口]ナデ [底延]ナデ [底延]ナデ(10cm)↑ [底延]ナデ(10cm)↑	ハケ(12本/cm)→ ナデ	にぶい褐色、 明赤褐色 にぶい褐色	石・長(1~3) ○		32
271	甕	口径 底延 残高 3.2 21.9	縁をもって外反する口縁部。口縁端部は尖り気味に仕上げる。平底。器壁はやや直す。	[口]ナデ [底延]ナデ [底延]ナデ(10cm)↑ [底延]ナデ(10cm)↑	ハケ(5本/cm)	褐色 褐色	石・長(1~4) ○		
272	甕	口径 底延 残高 19.3 19.5	縁をもって外反する口縁部。口縁端部は尖り気味に仕上げる。	[口]ナデ [底延]ナデ [底延]ナデ(10cm)↑ [底延]ナデ(10cm)↑	ハケ(12本/cm)→ ナデ	暗赤褐色 暗赤褐色	石・長(1~5) ○		32
273	甕	口径 底延 残高 4.0 4.0	外反する口縁部。口縁端部は直す。	[口]ナデ [底延]ナデ [底延]ナデ(10cm)↑ [底延]ナデ(10cm)↑	ハケ(8本/cm)→ ナデ	明赤褐色 明赤褐色	石・長(1~8) ○		
274	壺	口径 底延 残高 6.1 6.1	大きく外反する口縁部。口縁端部は直す。	[口]ナデ [底延]ナデ [底延]ナデ(10cm)↑ [底延]ナデ(10cm)↑	ハケ(12本/cm)	黃褐色 淡赤褐色	石・長(1~3) ○		
275	壺	口径 底延 残高 7.2 7.2	複合口縁。無文。口縁端部は丸く仕上げる。	マツ	ナデ (指痕有り)	淡赤褐色 淡赤褐色	石・長(1~5) ○		
276	甕	口径 底延 残高 10.2 9.4	無頸部。口縁端部は尖り気味に仕上げる。	[口]ナデ [底延]ナデ [底延]ナデ(10cm)↑ [底延]ナデ(10cm)↑	ナデ ナデ	褐色 褐色	石・長(1~4) ○		
277	甕	底延 残高 6.5 28.65	底延より大きく内溝して立ち上る。器壁は直す。半底。	ミガキ [底]ナデ	ナデ (指痕有り)	にぶい青紫色、 黒褐色 灰褐色	石・長(1~2) ○		33
278	鉢	口径 底延 残高 (5.0) 24.6	大型。外反する口縁部。端部はナメでやり面をもつ。	[口]ナデ [底延]ナデ [底延]ナデ(10cm)↑ [底延]ナデ(10cm)↑	ハケ(12本/cm)→ ナデ	褐色 褐色	石・長(1~4) ○	黒底	33
279	鉢	口径 底延 残高 2.0~2.5 8.0	高め付き。底部より内溝して立ち上る。丸みを帯びた底延。	[口]ナデ [底延]ナデ [底延]ナデ(10cm)↑ [底延]ナデ(10cm)↑	マツ・ハクリ マツ・ハクリ	浅褐色 浅褐色	長(1~2) ○		33
280	鉢	口径 底延 残高 5.7 5.7	「ハ」の字状の脚をもつ。端部は「コ」の字状を立てる。	[口]ナデ [底延]ナデ [底延]ナデ(10cm)↑ [底延]ナデ(10cm)↑	マツ マツ	明赤褐色 灰褐色	石・長(1~4) ○		

表35 SX1-1出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調査		色調(外面) (内面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
281	甕	口径 残高 (15.4) 16.9	縁をもって外反する口縁部。口縁端部は直す。	[口]ナデ [底]ナデ [底]ナデ(10cm)↑ [底]ナデ(10cm)↑	[口]ハケ [底]ハケ [底]ハケ [底]ハケ	明褐色 赤褐色	石・長(1~6) ○		
282	甕	底延 残高 4.0 22.6	縁をもって外反する口縁部。平底。	[口]ナデ [底]ナデ [底]ナデ(10cm)↑ [底]ナデ(10cm)↑	[口]ナデ [底]ナデ [底]ナデ [底]ナデ	褐色、赤褐色 明赤褐色、 褐色	石・長(1~5) ○		
283	甕	口径 底延 残高 (18.5) 8.3	縁をもって外反する口縁部。口縁端部は直す。器壁は厚い。	[口]ナデ [底]ナデ [底]ナデ(10cm)↑ [底]ナデ(10cm)↑	[口]ナデ [底]ナデ [底]ナデ [底]ナデ	にぶい青紫色、 赤褐色 淡赤褐色、 赤褐色	長(1~3) ○		
284	甕	口径 底延 残高 (15.0) 21.8	縁をもって外反する口縁部。口縁端部は直す。長脚。	[口]コナデ [底]ナデ [底]ナデ [底]ナデ	[口]コナデ [底]ナデ [底]ナデ [底]ナデ	橙色、灰褐色 褐色	石・長(1~3) ○		

調査の概要

SX1-1出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
285	甕	I口径 (14.4) 残高 19.2	縁をもって外反するI口縁部。II縁端部はやや尖り気味に仕上げる。	[口]ヨコナデ ハケ(7.5本/cm) ナデ	[口]「肩」ヨコナデ (折出端あり) ケズリ	灰褐色 褐色	石・長(1~5) 金○		
286	甕	I口径 (13.5) 残高 17.5	縁をもって外反するI口縁部。II縁端部は直線です。	[口]ヨコナデ ハケ(7.5本/cm) ナデ	[口]「肩」ヨコナデ (折出端あり) ケズリ	灰褐色 褐色	石・長(1~3) ○		
287	甕	底径 2.2 残高 21.5	内沟気味に外反する口縁部。	[口]ヨコナデ ハケ(7.5本/cm) ナデ	[口]「肩」ヨコナデ (折出端あり) ケズリ	灰褐色 褐色	石・長(1~5) ○	黒斑	
288	甕	口径 17.0 残高 16.0	縁をもって大きく外反する長い口縁部。口縁端部はやや外間に肥厚する。	[口]ヨコナデ ハケ(9.5本/cm) ナデ	[口]「肩」ヨコナデ (折出端あり) ケズリ	灰褐色 褐色	石・長(1~4) ○		
289	甕	口径 21.5 残高 6.7	ラッパ状に大きく開く口縁部。口縁端部は直線です。	[口]ハクリ ハケ(5本/cm) ナデ	[口]ハクリ ハケ(5本/cm) ナデ	褐色 浅黄褐色	石・長(1~3) ○		
290	甕	残高 5.8	ラッパ状に開く口縁部。	[ハ]ハクリ ハケ(8-12本/cm) ナデ	[ハ]ハクリ ハケ(8-12本/cm) ナデ	褐色 褐色	石・長(1~4) ○		
291	壺	口径 (14.9) 残高 5.3	複合口縁。無文。口縁端部は丸く仕上げる。	[瓶]「口」ハケ ハケ(7.5本/cm) ナデ	[瓶]「口」ハケ ハケ(7.5本/cm) ナデ	褐色 浅黄褐色・ 褐色	石・長(1) ○		
292	壺	底径 5.0-5.5 残高 6.2	平底。	[ハ]ハケ(7.5本/cm) ナデ	[ハ]ハケ(7.5本/cm) ナデ	褐色 褐色	石・長(1~3) ○		
293	壺	底径 6.0 残高 4.8	平底。厚手の底部。	[ハ]ハケ(5本/cm) ナデ	[ハ]ハケ(5.5本/cm) ナデ	褐色 灰褐色	石・長(1~3) 金○		
294	壺	底径 3.7 残高 6.5	平底。底部外間に板状痕あり。	[ハ]ハケ(5.5本/cm) ナデ	[ハ]ハケ(5.5本/cm) ナデ	灰褐色 灰褐色	石・長(1~3) ○		
295	鉢	I口径 (12.5) 残高 2.7	ゆるやかに外反する口縁部。II縁端部は直線です。	[口]ヨコナデ ミガキ	[口]ヨコナデ ミガキ	淡黄色・暗灰色 淡黄色	石・長(1~3) ○		
296	鉢	I口径 7.0 残高 8.0	底より内溝して立ち上がる丸みを帯びた底部。	ナデ	ミガキ 〔底〕ナデ	暗褐色 褐色	石・長(1~5) ○	33	
297	鉢	I口径 8.0 残高 8.0	直口縁。口縁端部はわずかに直線です。	[ハ]ハケ(7.5本/cm) ナデ	[ハ]ハケ(7.5本/cm) ナデ	褐色 褐色	石・長(1~2) ○		
298	鉢	口径 15.4 底径 7.2 残高 7.2	縁をもって矧く外反するII口縁部。II縁端部は尖り気味に仕上げる。	ナデ	ナデ	明赤褐色 明褐色	石・長(1~5) 金○	黒斑	33
299	鉢	底径 2.2 残高 2.2	小さく突出する底部。	[ハ]ハケ(8.5cm) 〔底〕ナデ	[ハ]ハケ(8.5cm) ナデ	褐色 褐色	微砂粒 金○		

SX1-1出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考	図版
300	石 瓶 底	欠 損	結晶片岩		7.4	2.9	0.6	19.52	33	

SX1-2出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
301	甕	I口径 (31.1) 残高 8.1	大型甕。縁をもって外反するI口縁部。II口縁端部は直線です。	[口]ヨコナデ ハケ(7.5本/cm) ナデ	[口]ヨコナデ マツツ	褐色 褐色	石・長(1~4) ○		
302	甕	I口径 (18.2) 残高 17.0	縁をもって外反するI口縁部。II口縁端部は直線です。	[口]ヨコナデ ハケ(7.5本/cm) ナデ	[口]ヨコナデ ハケ(7.5本/cm) ナデ	褐色 褐色	石・長(1~3) 褐色		
303	甕	I口径 (14.1) 残高 11.6	縁をもって外反するI口縁部。II口縁端部は直線です。厚手の器壁。	[口]ヨコナデ ハケ(7.5本/cm) ナデ	[口]ヨコナデ ハケ(9.5本/cm) ナデ	褐色 褐色	石・長(1~4) 金○		
304	甕	I口径 11.0 残高 11.0	縁をもって外反するI口縁部。II口縁端部は直線です。厚手の器壁。	[口]ヨコナデ ハケ(7.5本/cm) ナデ	[口]ヨコナデ ハケ(7.5本/cm) ナデ	褐色 褐色	石・長(1~6) 金○		
305	甕	I口径 (16.4) 残高 6.8	縁をもって外反するI口縁部。II口縁端部は直線です。	[口]ナデ ハケ(8.5本/cm) ナデ	[口]ナデ ナデ	灰褐色 灰白色	石・長(1~3) ○		
306	甕	I口径 (13.0) 残高 25.0	縁をもって内溝気味に立ち上がるI口縁部。II口縁端部は直線です。長柄。	[口]ヨコナデ ハケ(7.5本/cm) ナデ	[口]ヨコナデ ハケ(7.5本/cm) ナデ	褐色 褐色	石・長(1~6) ○		
307	甕	I口径 (15.4) 残高 18.1	縁をもって外反するI口縁部。II口縁端部は尖り気味に仕上げる。	[口]ヨコナデ ハケ(7.5本/cm) ナデ	[口]ヨコナデ ハケ(7.5本/cm) ナデ	褐色 褐色	石・長(1~3) ○		
308	甕	底径 18.9 残高 16.5	縁をもって外反するI口縁部。II口縁端部は直線です。扁平様の胴部。	[口]ヨコナデ ハケ(7.5本/cm) ナデ	[口]ヨコナデ ハケ(7.5本/cm) ナデ	褐色 褐色	石・長(1~4)多 ○	34	
309	甕	底径 3.0-3.6 残高 16.4	平底。	タキキ+ハケ (5本/cm) 〔底〕ナデ	ナデ	褐色 褐色	石・長(1~5) ○		
310	甕	底径 3.5 残高 14.7	平底。	タキキ+ハケ (5本/cm) 〔底〕ナデ	ナデ(粗面張あり)	褐色 褐色	石・長(1~7) 金○		

SX1-2出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
311	甕	底径 残高 3.2 10.3	半底。	タタキ+ハケ (本/cm) [底]ナデ	ナデ	にぶい褐色 にぶい赤褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~4) ○		
312	甕	底径 残高 (2.9) 7.9	半底。	ハケ(7.8/cm)→ ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~7) ○		
313	壺	口径 残高 (22.3) 9.3	口縁端部は粘土を貼り付け上下方に 斜めにする。瓶口に斜格子文。頸部に 斜格子文の貼り付け突起が温る。	[口]糊ナデ ハケ(7~10本/ cm)ナデ	[口]糊ナデ ハケ(8本/cm)→ ナデ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~3) ○		34
314	壺	口径 残高 (16.8) 4.9	複合口縁。無文。口縁端部は「フ」の 字状を示す。	[口]糊ナデ ハケ(8本/cm)→ ナデ	[口]糊ナデ ハケ(8本/cm)→ ナデ	褐灰色・橙色 褐灰色・橙色	石・長(1~8) ○		
315	壺	口径 残高 (14.5) 23.0	颈部は短く直立し、口縁端部は尖り 気味に仕上げる。	ハケ(4.4/cm) 糊下)ハケ(8本/ cm)ナデ	[口]マツ 糊ナデ 糊(リケ4本/cm)	明黄褐色 灰褐色	石・長(1~7) 金 ○		
316	壺	残高 21.2	柱形の胴部。	[糊]ナデ 糊(リケ4本/cm) →ナデ	[糊]ナデ 糊(リケ4本/cm) →ナデ(指印跡あり)	淡黄褐色 にぶい褐色	石・長(1~4) ○	黒斑	34
317	壺	底径 残高 (8.0) 19.3	平底。球形形の胴部。	ハケ(7.8/cm) 糊(リケ5本/cm) 糊ナデ	ハケ(7.8/cm)→ ナデ(指印跡あり)	淡黄色・灰白 灰黄色・灰白色	石・長(1~3) 灰白色及(1~4) ○		
318	壺	底径 残高 (7.7) 14.0	半底。	ハケ(6~7本/cm) 糊ナデ	ナデ	褐色・桔灰色 褐色・桔灰色	石・長(1~5) 金 ○		
319	壺	底径 残高 (3.2) 11.7	丸みを帯びた半底。	ハケ(7本/cm)→ ナデ 糊ナデ	ハケ(7~8本/cm)→ ナデ(指印跡あり)	明黄褐色・灰白色 にぶい黄褐色・灰白色	石・長(1~1) ○		
320	甕	底径 残高 3.1 11.6	小さい半底。	ハケ(7.8/cm) 糊ナデ	ナデ ハケ(7本/cm)	にぶい褐色 褐色・灰褐色	石・長(1~1) ○		
321	甕	底径 残高 4.6 10.0	わずかに上げ底。	ハケ(8本/cm) 糊ナデ	ハケ(8本/cm) 糊ナデ	褐色・黑色 褐色・黑色	石・長(1~4) ○		
322	鉢	口径 底径 13.8 10.4	直口縁。端部は丸く仕上げる。底 部は平底。	ナデ 糊ナデ(ヘラ 状)糊	ハケ(7.8/cm)→ ナデ	にぶい褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~4) 金 ○		
323	鉢	底径 残高 5.9 5.9	台付。「ハ」の字状の脚台をもつ。	ナデ ココナデ 糊ナデ(指印 跡あり)	ミガキ 糊ナデ	褐色 淡黄褐色	石・長(1~3) ○		
324	鉢	底径 残高 (4.2) 3.6	台付。わずかに上げ底。	ナデ・タタキ (底)ナデ(指印 跡あり)	ナデ	にぶい黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~3) ○		
325	甕	口径 底径 (15.6) 12.1	直口縁。端部はやや丸い。底部中 央に1か所の焼成前穿孔。	[口]糊ナデ 糊(リケ5本/cm) 糊ナデ	ハケ(8本/cm)→ ナデ(指印跡あり)	褐色 褐色	石・長(1~6) 金 ○	黒斑	
326	甕	底径 残高 (3.2) 8.4	底部に大小2か所の焼成前穿孔。	マツ	ナデ	淡紫色 褐色	長(1~3) ○		34
327	甕	底径 残高 (3.1) 4.4	底部中央に1か所の焼成後穿孔。	ハケ(9本/cm)→ ナデ 糊ナデ	ナデ(指印跡あり)	褐色 褐色	石・長(1~1) 金 ○		34

表38 SX1-2出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法 量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
328	スクレイパー	完 形	サスカイト	3.1	1.6	0.6	2.18		

表39 SX1-2出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	遺存状態	材質	法 量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
329	鎌	先端部欠損	鉄	(5.3)	2.0	0.65	5.44	柳葉形有茎鎌	34

表40 SX1-2出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形 態・施 文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
330	甕	口径 4.8	ゆるやかに外反する口縁部。口縁部 は面をなす。	ナデ	ナデ(板状工具痕 あり)	褐色 にぶい褐色	石・長(1~2) 金 ○		
331	甕	(21.6) 3.5	外反する口縁部。口縁端部は面をな す。	[口]糊ナデ 糊(リケ5~8本/cm) 糊ナデ	ハケ(8本/cm)→ ナデ	にぶい褐色 淡黄褐色	石・長(1~5) ○		
332	甕	(21.0) 4.4	外反する口縁部。口縁端部は面をな ず。瓶部に斜格子文の貼り付け突起を なす。	[口]糊・ココナデ 糊(リケ4本/cm)	ハケ(8本/cm)	褐色 褐色	石・長(1~2) 金 ○		
333	鉢	(20.0) 3.9	種をもって外反する口縁部。口縁部 は面をもつ。壁面は薄い。	[口]ココナデ 糊(6.4/cm)	ナデ	褐色 明黄褐色	濃紺 金 ○		
334	甕	(3.0) 3.8	底部に大小2か所の焼成前穿孔。	ハケ(12本/cm) 糊・ハケ→ナデ 糊ナデ	ナデ(指印跡あり)	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~3) 金 ○		
335	甕	底径 2.7	底部中央に1か所の焼成後穿孔。	ハケ(7~8本/cm) ナデ 糊ナデ	ナデ	黒褐色 にぶい褐色	石・長(1~5) 金 ○		

調査の概要

SX1-2出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 燒	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
336	鉢	口径 底高 (3.5) 1.9	平底。	ミガキ 〔底〕ナデ	ミガキ	灰褐色 褐色	石・長(1) 金○			
337	浅鉢	口径 底高 (34.9) 2.6	縁文土器。口縁端部内面がわずかに 肥厚する。	ナデ	〔口縁〕ナデ マメツ	褐色 灰褐色	石・長(1~2) 金○			

表41 SX1-3出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 燒	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
338	甕	口径 底高 7.2	如利利の口縁部分。口縁端部に刻目 突起が返る。	ナデ	ナデ	に赤い褐色 黒褐色	石・吳(1~4) ○			
339	甕	口径 底高 3.4 3.7	半底。	ミガキ 〔底〕ナデ	ケズリ 〔底〕(指顎痕あり)	に赤い褐色 黒褐色	石・吳(1~3) ○			
340	甕	口径 底高 (17.5) 3.5	外反する口縁部分。口縁端部に3条の 凹縫が返る。	ヨコナデ	ナデ	褐色 浅黄褐色	石・吳(1~4) ○			
341	鉢	口径 底高 2.3 1.6	小さく突出する底部。	ハケ(9本/cm) 〔底〕ナデ	ナデ	暗褐色 に赤い褐色	微弱 ○			

表42 SX2出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 燒	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
342	壺	口径 底高 (14.2) 2.8	外反する口縁部分。口縁端部に3条の 凹縫が返る。	〔口縁〕ヨコナデ ナデ	ナデ	褐色 褐色	石・長(1~3) ○			

表43 SX3出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 燒	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
343	甕	口径 底高 (13.8) 10.0	穂をもって外反する口縁部。口縁端 部は斜面。	[上]ナデ [底]ハケ(5本/cm) [側]ハケ(7本/cm)	[下]ナデ [側]ハケ(10本/cm)	淡黄褐色 に赤い褐色	石・長(1~5) ○			
344	甕	口径 底高 2.8 18.6	穂をもって外反する口縁部。口縁端 部は斜面。平底。	[口縁]ナデ [側]タヌカ→ハ [底]ハケ(10本/cm)	ハケ(10本/cm)	褐色 紫色 褐色	石・長(1~2) ○			34
345	鉢	口径 底高 7.4 8.2	直立気味に立ち上がりわざかにくび れる口縁部。	ハケ(9本/cm)	ナデ	褐色 褐色	石・長(1~3) ○			34

表44 SX4出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 燒	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
346	高杯	底径 7.0	脚柱部分。	ミガキ	ナデ	淡黄褐色 淡灰褐色	石・長(1~3) 金○			

表45 SX5出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 燒	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
347	壺	底径 7.0	平底。	ナデ	ナデ	に赤い褐色	石・長(1~3) ○			

表46 SX6出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 燒	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
348	甕	口径 底高 (14.1) 4.6	穂をもって外反する口縁部。口縁端 部は斜面。壁根は薄い。	[口縁]ナデ 〔側〕ナデ 〔底〕ハケ(1本/cm) ナデ	[口縁]ハケ 〔側〕ハケ 〔底〕ハケ(5本/cm) ナデ	褐色 に赤い褐色	石・長(1~5) ○			

表47 SX8出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 燒	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
349	甕	口径 底高 3.5	穂やかに外反する口縁部。口縁端部 は夷り気味に仕上げる。	[口縁]ナデ 〔側〕マメツ 〔底〕マメツ	[口縁]ナデ 〔側〕マメツ 〔底〕マメツ	褐色 褐色	石・長(1~3) 褐色			

表48 SX9出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 燒	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
350	甕	口径 底高 (20.9) 6.8	穂をもって外反する口縁部。口縁端部 は布日押圧による割 目突起が返る。	[口縁]ナデ 〔側〕ミガキ 〔底〕ミガキ	[口縁]ハケ(10本/cm) 〔側〕ミガキ	に赤い褐色 明褐色	石・長(1~3) ○			33
351	甕	口径 底高 (21.1) 9.9	穂をもって外反する口縁部。口縁端部 に凹縫が返る。	[口縁]ヨコナデ 〔側〕ミガキ	[口縁]ヨコナデ 〔側〕ミガキ 〔底〕マメツ	褐色 に赤い褐色	石・長(1~3) ○			33
352	壺	口径 底高 (13.5) 2.9	外反する口縁部。口縁端部は底を もつ。	ヨコナデ	ヨコナデ	に赤い褐色 に赤い褐色	石・長(1~2) 褐色			

遺構と遺物

表S9出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
353	壺	底径 8.1	壺の颈部～肩部付。	ハケ(8本/cm)→ ナデ	ナデ(指痕あり)	褐色 褐色 に赤い褐色	長(1-2) ○		
354	壺	底径 残高 2.9	半底。	マメツ	ハケ(5本/cm) →ナデ	灰褐色 黒色	石・長(1-2) ○	黒度	

表49 挖立出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
355	塊	1.9 残高 4.0	内溝気味に立ち上がり端部附近でわざかに外反する。端部は丸く仕上げる。	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	4・長(1) ○		35
356	臼縁陶	1.1H 残高 1.8	外側する立ち上がり。口縁部は断面V字形の玉縁。	施施の為不明	施施の為不明	灰白色 灰白色	粗砂粒 ○	施積	35
357	塊	底径 残高 1.9	底部部。高台は低く断面三角形。	マメツ ナデ	マメツ	浅黄褐色 灰白色	石・長(1-2) ○		
358	壺	底径 残高 2.2	半底の底部。	ナデ	ナデ	に赤い黃褐色 灰白色	長(1-2) 粗砂粒 ○		

表50 挖立出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法 量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
359	ヘラ状石器	完 形	綠色片岩	14.0	3.5	0.7	62.30		35

表51 SP40出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	遺存状態	材質	法 量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
360	不 明	不 明	鉄	2.9	3.1	0.85	10.91		

表52 SP45出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	遺存状態	材質	法 量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
361	釘	先端部のみ	鉄	(2.85)	0.4	0.55	1.99		

表53 SP67出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
362	皿	口径 (13.0) 底径 (10.2) 高さ 2.0	内側にして立ち上がり51.1横幅。II種類 端部は外反して丸くおさめる。	ヨコナデ ヨコナデ →ナデ	ナデ	黄褐色 黄褐色	粗砂粒 ○		

表54 SK14出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
363	杯	口径 (19.2) 底径 (17.0) 高さ 2.5	底部よりやや内湾気味に立ち上がるI種。 I種端部は丸く仕上げる。	ミガキ	ミガキ	褐色 褐色	石・長(1-2) ○		
364	皿	口径 (12.8) 底径 (9.9) 高さ 1.5	上件よりさらに口縁部、塊部は丸い。 塊部には1か所スミ跡を残す。	ヨコナデ ヨコナデ →ナデ	ヨコナデ ヨコナデ →ナデ	褐色 褐色	石・長(1-2) ○	灯明面	35
365	壺	口径 (20.6) 底径 3.3	口縁部外側に段をもつ。口縁端部は丸い。	ナデ	[口端] ナデ [1:1] ヨコナデ	黒褐色 黒褐色	石・長(1-4) ○		
366	壺蓋	口径 (12.4) 底径 2.6	人井部と口縁部の種は不明瞭である。 回転ナデ	回転ナデ		灰白色 灰白色	微砂粒 ○		

表55 SK14出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法 量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
367	砥 石		堆積岩	18.3	23.0	6.4	3350.00		

表56 SK15出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
368	坏	口径 (3.25) 底径 (6.9) 高さ 3.3	武骨よりやや内湾気味に立ち上がる口縁。 底部内面は内湾気味にナデにより凸凹がある。	ヨコナデ ヨコナデ →ナデ	ヨコナデ ヨコナデ →ナデ	褐色 褐色	粗砂粒 ○		
369	坏	(7.0) 底径 1.6	底部平臺台。	[口端] ナデ [底] ヨコナデ →ナデ	[口端] ナデ [底] ヨコナデ →ナデ	褐色 褐色	石・長(1-3) ○		
370	甕	口径 (23.7) 底径 4.3	「く」の字状に折れ曲がり口縁端部は丸い。 壁部は厚い。	ナデ	[口端] ナデ [底] ヨコナデ →ナデ	灰褐色 灰褐色 に赤い褐色	石・長(1-4) ○		

調査の概要

表51 SK15出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 燒 成	備考	図版
				外 面	内 面				
371	坏	底径 (9.4) 残高 2.3	高台の付く底部。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰白色	微砂粒 ○		

表52 SK15出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法 量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
372	剥片		サスカイト	2.9	2.1	0.6	3.78		

表53 SK15出土遺物観察表 銭貨

番号	銭名	初鑄年	銘文	直径 (mm)	孔径 (mm)	外縁厚 (mm)	内側厚 (mm)	重量(g)	備考	図版
373	富壽神寶	昭和年 (昭仁9年)		23.5	6.0	2.0	1.5			各類-3
374	富壽神寶	昭和年 (昭仁9年)		23.5	6.5	2.0	1.0			各類-3
375	富壽神寶	昭和年 (昭仁9年)		23.5	6.5	1.5	1.0			各類-3

表59 SK16出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 燒 成	備考	図版
				外 面	内 面				
376	皿	口徑 (8.8) 底径 (5.6) 厚さ 1.8	平底。内湾して立ち上がる口縁。端部は丸い。	回転ナデ [底]回転へき切り	回転ナデ	褐色 灰白色	微砂粒 ○		
377	坏	底径 (5.3) 残高 1.2	底部片。底縁より外傾して立ち上がる。	回転ナデ [底]回転へき切り	マツツ	褐色 暗褐色	長(1~2) ○		
378	坏	口径 (15.9) 底径 (11.7) 厚さ 3.1	「通」の字状に外反する口縁。端部の内面に凹窓がある。	回転ナデ [底]回転へき切り	回転ナデ	灰黄色 灰黑色	微砂粒 ○		
379	坏	口径 (19.3) 底径 (11.7) 厚さ 4.5	口縁部片。口縁部は丸らかに下がる。口縁端部は丸く上げる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色(オリーブ 系) 灰オリーブ	長(-1) 微砂粒 ○		

表60 SK17出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 燒 成	備考	図版
				外 面	内 面				
380	坏	口徑 12.6 底径 6.7 厚さ 2.7	平底の底部より直線的に立ち上がる。口縁端部は丸い。	回転ナデ [底]回転へき切り	回転ナデ	褐色 淡褐色	微砂粒 ○		35
381	坏	口徑 (13.3) 底径 (7.0) 厚さ 3.5	平底から直線的に立ち上がる口縁。端部は丸い。	回転ナデ [底]回転へき切り	回転ナデ	淡黄褐色 淡褐色	長(1) 金 ○		
382	坏	口徑 (8.1) 底径 2.4	平高台。外傾して立ち上がる。	回転ナデ [底]回転へき切り	回転ナデ	淡黄褐色 淡褐色	長少(-1) 微砂粒 ○		
383	坏	底径 (6.8) 残高 1.6	平高台。	回転ナデ [底]ナデ	回転ナデ	褐色 暗褐色	長(-1) ○		
384	坏	底径 (9.1) 残高 1.8	高台付焼。輪高台の底部。高台断面三角形。	ココナデ(一部ハ クリ)	ナデ	にぼい(黄褐色 系) 淡褐色	石・長(1~4) ○		
385	皿	口徑 12.0 底径 5.0 厚さ 2.2	口縁付近で外反する。口縁端部は丸い。	回転ナデ [底]回転へき切り	回転ナデ	褐色 にぼい 褐色 にぼい 褐色	長(-2) 青(2) 青(1) 金 ○	灯明圖	35
386	坏	LH (16.6) 底径 4.0	像かに外反する口縁。内面に細かいミガキ痕跡。	[口]ミガ キケズリ	ミガキ	黑色 黑色	石・長(1~2) ○		
387	甕	LH (32.0) 底径 4.1	外傾した口縁。口縁端部は丸みをおびた曲面をもつ。	ヨコナデ	ナデ	にぼい 褐色 にぼい 褐色	石・長(1~2) 金 ○		
388	鉢	底径 5.2	I型端部は内側に肥厚する。端部は曲面をもつ。	ハケ (日本/cm) ナデ(同軸あり)	[口端部]ナデ マツツ	にぼい 褐色	石・長(1~3) ○		
389	高坏	底径 7.6	脚柱部。	回転ナデ	[底底]ナデ [脚上]ナデ [脚下]回転ナデ	灰色 灰色	微砂粒 ○		

表61 SK18出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 燒 成	備考	図版
				外 面	内 面				
390	坏	口徑 (16.8) 底径 3.2	口縁部下は内湾し、端部は丸くおさまる。	回転ナデ [底]回転へき切り	回転ナデ	褐色 褐色	微砂粒 金 ○		
391	坏	底径 6.6 底高 2.9	底部から内湾気味に立ち上がる。	回転ナデ [底]回転へき切り	回転ナデ	褐色 褐色	微砂粒 ○		
392	坏	底径 (7.0) 底高 1.4	断面三角形の貼り付け高台。内黒。	ナデ	ミガキ	にぼい 褐色 黑色	石・長(1) 褐色 ○	黒色土番	
393	皿	口徑 (12.3) 底径 (9.5) 底高 1.5	外反する口縁。端部は丸い。	ヨコナデ [底]回転へき切り	ヨコナデ	褐色 褐色	微砂粒 金 ○		36

遺構と遺物

SK18出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面)	胎 灰	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
394	壺	口径 残高 3.0 3.8	外傾する口縁。口縁端部は面をもつ。ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1-4) ○			
395	壺	口径 残高 2.0 2.6	断面四角形の口部が貼り付けられた部分はまっすぐに立ち上がる。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	長(1) ○			
396	甕	口径 残高 4.4 4.4	大きく外反する口縁部。口縁端面は強いナデにより凹面を有する。	[1]幅:ナデ タタキ+回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	長(1-1) 石+板 ○			

表62 SK18出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	遺存状態	材質	法 量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
397	釘	先端部のみ完形	鉄	(7.9)	0.6	0.5	8.34		36
398	刀	欠損	鉄	(3.7)	(2.0)	0.3	4.16		
399	不明	底部と先端部欠損	鉄	(1.9)	0.6	0.15	0.67		

表63 SK26出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面)	胎 灰	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
400	壺	口径 残高 3.7 3.7	やや内湾気味に立ち上がる口縁。口縁端部は丸く仕上げる。内墨。	ナデ→ヘラミガキ	ナデ→ヘラミガキ	淡青色・灰灰色 褐色	長(0.3) 石+板 ○	黑色+墨		
401	壺	底径 残高 1.9 1.9	半底から直線的に立ち上がる胴部。回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	長(1) ○			

表64 SK19出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面)	胎 灰	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
402	壺	口径 残高 3.7 3.7	内湾気味に立ち上がる口縁。端部はやや尖り気味である。	回転ナデ	回転ナデ	明黄色 褐色	微砂粒 ○			
403	壺	底径 残高 1.8 1.8	半底高台。	マメツ	ナデ	白色 浅黃褐色	微砂粒 ○			
404	壺	底径 残高 1.7 1.7	半底高台。	回転ナデ [1]回転ヘア切り	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1-1) ○			

表65 SK20出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面)	胎 灰	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
405	壺	口径 底径 残高 3.9 3.9 3.9	底盤よりやや内湾気味に立ち上がる口縁。底部には強いナデにより器底に凸凹がある。	ヨコナデ [1]回転ヘラカズラ 底盤ヘア切り	ヨコナデ	褐色 褐色	微砂粒 ○			36
406	壺	口径 底径 残高 6.5 6.5 5.4	半底の底部より内湾気味に立ち上がる。口縁はやや尖り気味。	ヨコナデ [1]回転ヘア切り 底盤底面	ヨコナデ	にぶい褐色 浅黃褐色	石・長(1) 金 ○			36
407	壺	口径 底径 残高 5.9 5.9 3.7	外傾する口縁。口縁端部は先細りながら丸く仕上げる。	ヨコナデ [1]マメツ	ミガキ	灰褐色 灰褐色	石粒(1-1) ○			
408	甕	口径 底径 残高 3.8 3.8 3.8	外反する口縁。口縁端部は丸い。	ハケ+ナデ	[口縁]ナデ ハケ(6-6/cm)→ ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1-3) ○			
409	蓋	つまみ径 底径 残高 2.6 2.6 1.0	焼きのあまい須恵器蓋のつまみ部分。	回転ナデ	回転ナデ	褐色 褐色	長(1-1) 短砂粒 ○			
410	壺	底径 残高 1.2 1.2	断面「コ」字状の高台。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	微砂粒 ○			
411	壺	底径 残高 2.4 2.4	底部より内側して立ち上がる胴部。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1) 褐色 ○			

表66 SK21出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面)	胎 灰	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
412	壺	底径 残高 1.5 1.5	外傾して立ち上がる。	ナデ [1]回転ヘア切り	回転ナデ	褐色 褐色	微砂粒 ○			
413	皿	口径 底径 残高 1.3 1.3 1.3	底部より大きく外に立ち上がる「皿」。	回転ナデ [1]回転ヘア切り	ナデ	にぶい黄褐色 一部灰褐色 にぶい黄褐色	微砂粒 ○			
414	壺蓋	口径 底径 残高 1.3 1.3	口縁端部付近に内外面共に凹線がある。口縁端部は尖る。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	青 ○			

調査の概要

表67 SK21出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	遺存状態	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
415	釘	先端部欠損	鉄	(7.3)	0.7	0.5	4.40		

表68 SK27出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面)	胎土成	備考	図版
				外面	内面				
416	坏	底径(5.3) 残高1.4	平底の底部。	ヨコナデ 〔底〕回転へラ切り	ナゲ	緑色・淡黄褐色 淡黄褐色	微砂粒 無(一)		

表69 SK29出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面)	胎土成	備考	図版
				外面	内面				
417	坏	底径6.1 残高2.0	底部より外傾して立ち上がる。底部 は平底。	ヨコナデ 〔底〕回転へラ切り	ヨコナデ	緑色・淡青色 青色	微砂粒 無(二)		
418	壺	底径(7.4) 残高5.35	小型壺の胴部片。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色・オーリップ 灰色	微砂粒 無(一)		

表70 SK29出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	遺存状態	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
419	釘	完形	鉄	9.0	0.8	0.9	14.29		35

表71 SK30出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面)	胎土成	備考	図版
				外面	内面				
420	坏	底径(6.1) 残高1.6	底部は平底	ナデ 〔底〕回転へラ切り	ヨコナデ	灰褐色 にぶい褐色	微砂粒 ○		
421	甕	口徑(23.6) 残高4.2	口縁端部は面をもつ。	マメツ	〔口縁〕ヨコナデ ハサ(4一本/cm)	褐色 にぶい褐色	白・長(1~4) ○		
422	甕	口径(19.7) 残高2.8	口縁端部。端部は丸い。	〔口縁〕ヨコナデ ハサ(5一本/cm) →ナデ	ヨコナデ(回転端部 →ナデ)	褐灰色 灰褐色	白・長(1~4) ○		
423	坏	口径(6.4) 愛部径(10.2) 残高2.9	外側:表面が明確でなく種類不明瞭。	ナデ	〔口縁〕ヨコナデ 回転ナデ	灰褐色 灰色	微砂粒 ○		
424	坏	底径(13.4) 残高1.4	高台付。	回転ナデ	回転ナデ	灰褐色 灰色	長(-1) ○		
425	甕	口径(12.5) 底径(10.2) 残高1.5	底部は平底で口縁端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1~3) ○		

表72 SK32出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面)	胎土成	備考	図版
				外面	内面				
426	甕	L.I.径(22.8) 残高4.8	外反する口縁。L.I.縫端部は面をもつ。	〔口縁〕ヨコナデ ナデ→ガキ →ナデ	〔口縁〕ヨコナデ ハサ(3一本/cm) →ナデ	褐色 粗色	石・長(1~3) ○		

表73 SK34出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面)	胎土成	備考	図版
				外面	内面				
427	坏	口径13.0 底径6.5 残高1.1	体部は外反しながら立ち上がる。端 部は丸く付ける。底部は平底。	回転ナデ 〔底〕回転へラ切り	回転ナデ	淡黄色 灰褐色	石・長(1) ○		36
428	甕	口径(12.8) 底径(12.0) 残高1.3	外反する口縁。端部は丸い。底部は 平底。	回転ナデ 〔底〕ナデ	回転ナデ	にぶい赤褐色 灰褐色	長(1) ○		

表74 SK36出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面)	胎土成	備考	図版
				外面	内面				
429	坏	底径(5.8) 残高2.1	平底からゆるやかに内湾して立ち上 がる。輪郭は丸く付ける。	回転ナデ 〔底〕回転へラ切り	回転ナデ	褐色 明褐色	微砂粒 ○		
430	坏	底径(6.3) 残高1.3	底部より外傾して立ち上がる。輪 郭は丸く付ける。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	長(0.5)南 袋砂粒 ○		

表75 SK41出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面)	胎土成	備考	図版
				外面	内面				
431	坏	底径(9.7) 残高2.0	底部は平底。	回転ナデ 〔底〕回転へラ切り	回転ナデ	褐色 明褐色	微砂粒 ○		

表76 SK38出土遺物観察表 土製品 (1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面)	胎土成	備考	図版
				外面	内面				
432	坏	底径(7.1) 残高1.1	底部は平底。	ナデ 〔底〕回転へラ切り	ナデ	褐色 灰白色	微砂粒 ○		

遺構と遺物

SK38出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
433	坏	底径 残高	6.8 3.0	底部は平底。内墨。	ミオキ [底]ナデ	ミガキ	灰白色 褐色	石・長(1~5) ○	無色土器
434	甕	残高	9.2	胴部に柄付着痕が見られる。	ハケ(6本/cm)	ナデ(凹頭痕あり)	褐色 柱色	石・長(1~4) ○	

表77 SK39出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
435	鍋	口径 残高	(37.7) 4.8	口縁部分。口縁部は外反しながら9.0 ち上がる。底部は丸く仕上げる。	[口]ヨコナデ ハケ(6本/cm)→マメツ ナデ	明褐色 白色	石・長(1~4) ○	煤付器	

表78 SK43出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
436	坏蓋	口径 残高	(17.0) 1.4	天井部よりゆるやかに下がる口縁。 口縁端部はやや斜め下する。	[天]ナデ [口]ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	微砂粒 ○	
437	坏	底径 残高	(13.1) 2.0	断面「コ」の字状の高台。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	長(1) 石数(0.6) ○	

表79 SK44出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
438	坏	底径 残高	(11.6) 1.7	底部より外方に立ち上がる。	ナデ [底]回転ヘタ切り	マメツ	(一部)灰白色 灰白色	微砂粒 ○	
439	坏	口径 残高	(13.2) 3.5	外傾する口縁部分。口縁端部は丸く 仕上げる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	長(0.5) ※ ○	

表80 SK40出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
440	坏蓋	口径 残高	0.9	环善。天井部。	[天]回転ヘタズリ 回転ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長(2) ※ ○	

表81 SK46出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
441	坏	底径 残高	(5.4) 1.2	半底の底部。	回転ナデ [底]回転ヘタ切り	ナデ	褐色 褐色	微砂粒 ○	
442	坏	底径 残高	(6.4) 1.2	丸みをねびた底部。底部より内溝気 味に立ち上がる。	回転ナデ [底]回転ヘタ切り	マメツ	褐色 黄褐色	真(1~2) ○	
443	甕	口径 残高	(21.2) 2.7	口縁端部は丸い。	ナデ	[口縁]ナデ ハケ(8本/cm)	明褐色 褐色	石・真(1~2) ※ ○	

表82 SK47出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
444	坏	底径 残高	(7.0) 2.1	半底の高台。	マメツ [底]ナデ	マメツ	褐色 褐色	微砂粒 ○	
445	坏	底径 残高	(7.2) 1.8	正面三角形の高台。内墨。	ナデ	ミガキ	浅黃褐色 黑色	微砂粒 ○	黑色土器
446	甕	口径 残高	(17.0) 1.6	口縁端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰黄色 にぼい褐色	微砂粒 ○	灰褐色
447	坏	底径 残高	(13.6) 0.6	底部は半底。	ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	微砂粒 ○	
448	坏	底径 残高	(13.1) 2.3	高台の底部。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	微砂粒 ○	

表83 SD3出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
449	壺	口径 残高	(16.9) 4.5	水平に大きく開く口縁部。口縁端部 は下方に拡張する。颈部に3条の浅縫 文を施す。	[上縁]マメツ [口縁]マメツ ナデ	マメツ	浅黃褐色 灰白色	石・長(1~3) 多 ○	
450	壺	口径 残高	(15.5) 4.7	大きく外反する口縁部。口縁端部は 上方に肥厚する。口縁前面に4条の 凹縫文を施す。	[口縁]ヨコナデ ハケ(8本/cm) ナデ	ハケ(8本/cm)	浅黃褐色 にぼい褐色	石・長(1~3) ○	

調査の概要

SD3出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
451	甕	口径 底高 15.6 4.3	頭部より大きく外側する口縁部片。ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	黄(-0.5) 微砂粒 ○		
452	リットル 壺	底高 6.0 6.9	平底の底盤。把手の接合は貼り付けである。	ナデ	ナデ(指觸痕あり)	淡青褐色 淡黄色	石・長(1~4) 微砂粒 ○	黑闇	
453	高环	口径 底高 19.8 5.8	口縁部片。口縁部は上下方に強張する。	[口]ヨコナデ ハケ(8本/cm)→ ミカギ	[口]ヨコナデ ハケ(8本/cm)→ ナデ	褐色 淡青褐色	心・唇(1~2) 多 ○		
454	壺	頭部厚 底高 14.8 10.1	頭部に断面三角形の突帯が巡る。	マメフ	ナデ(指觸痕あり)	橙色 褐色 灰褐色	石・長(1~2) 多 ○		
455	壺	底高 7.0	複合口縁。貼付突窓に脚状工具による斜格子文を施す。	ハケ(8本/cm)	ハケ(8本/cm)→ ナデ 〔腹〕ナデ	褐色 淡青褐色	石・長(1~2) 金 ○		
456	甕	LH 底高 16.6 4.4	丸く外反する口縁部。端部は丸みをもつ。	ナデ	ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~4) 金 ○		
457	甕	口径 底高 12.5 3.6	外反する口縁部。口縁端部は丸みをもつ。	ナデ	ナデ(指觸痕あり)	明赤褐色 明赤褐色	石・長(1~3) 少 ○		
458	甕	口径 底高 12.5 6.1	外反する口縁部。端部は丸く治まる。	[口]ナデ ハケ(8本/cm)→ ナデ	[口]ハケ ハケ(8本/cm)→ ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~3) ○		
459	环	底高 20.2 1.7	内湾して立ち上がる。	ナデ	ナデ	褐色 明赤褐色	石・長(1~2) ○		
460	环	底高 19.1 1.75	底平。底部より内湾して立ち上がる。	[口]ヨコナデ 〔底〕削除へら切り	ナデ	灰青色・灰白色 灰白色	微砂粒 ○		
461	高环	底高 12.0 2.5	1周所のスカシが認められる。底端部は歪んでいる。	回転ヨコナデ 〔底〕削除へら切り	回転ヨコナデ 〔底〕削除へら切り	灰色 灰白色	石・長(1) ○		
462	平底	口径 底高 (6.7) 6.5	直線的に近い「ハ」の字状に開いた歯口縁部は丸くおきめ。	ヨコナデ	ヨコナデ	青灰色 灰白色	石・長(1~2) ○	自然釉 36	
463	納道車	余長 底高 5.7 1.2	焼成前に径0.5センチ大の孔を穿つ。ナデ			にぶい褐色	石・長(1~2) 金 ○	直径0.5cm 底高19.57cm 36	

表84 SP5出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	遺存状態	材質	法 量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
464	釘	欠損	鉄	(4.8~3.1)	0.6	0.6	5.33	木質付着	
465	釘	欠損	鉄	(2.5)	0.5	0.6	1.84	木質付着	
466	釘	欠損	鉄	(2.4)	0.4	0.3	1.61	木質付着	

表85 SP17出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	遺存状態	材質	法 量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
467	釘	ほぼ完形	鉄	10.3	0.5	0.65	8.95		

表86 SP18出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	遺存状態	材質	法 量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
468	津	完形	鉄	2.5	2.5	0.8	7.47		

表87 SP20出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	遺存状態	材質	法 量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
469	釘	完形	鉄	5.4	0.5	0.5	3.61		

表88 SK1出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形 態・施 文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
470	环	底高 3.1	底溝より内湾して立ち上がる副部。ナデ	ナデ	ナデ	褐色 にぶい褐色	微砂粒 ○		
471	环盖	口径 底高 (14.0) 2.95	口縁部は直立気味に下がる。口縁部はやや尖り気味。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 やや薄い灰色	微砂粒 △		

表89 SK2出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形 態・施 文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
472	环	底高 1.1	半底。	マメフ	マメフ	灰白色 褐色	石・長(1~2) ○		

遺構と遺物

SK2出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
473	坏	口径 残高 1.4	口縁部分。端部は丸い。	[口縁]ナデ [口]回転ナデ→ 施加	ナデ→施加	灰オーラー色 オーラー灰白色	無鉛 ○	灰釉	
474	坏蓋	口径 残高 13.1 1.9	坏蓋の口縁部分。口縁端部は内側下 る。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	灰(1-1) 無鉛 ○		

表90 SK2出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	遺存状態	材質	法 量			備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
475	釘	一部欠損	鉄	(2.5)	0.3	0.3	0.91	

表91 SK3出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
476	塊	底径 残高 4.6 1.6	貼り付けの輪高台。	ナデ	マツフ	黒褐色 褐色	石・長(1-3) ○	瓦器	
477	坏	底径 残高 8.0 2.0	平底。底部より外側に立ち上がる。	ナデ	ヨコナデ [底]施加注意あり	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	無鉛 ○		

表92 SK3出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	遺存状態	材質	法 量			備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
478	釘	欠損	鉄	(5.8)	0.6	0.6	4.47	
479	釘	欠損	鉄	(1.8)	0.5	0.3	0.26	

表93 SK6出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	遺存状態	材質	法 量			備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
480	煙管	吸口完形	鉄・竹	4.8	1.1	1.1	5.51	

表94 SK7出土遺物観察表 土製品

番号	器種	遺存状態	材質	法 量			備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
481	坏	底径 残高 7.0 1.8	中央部分がやや盛り上がる平底。底 部から内湾味に立ち上がる胴部。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 淡黄色	石・長(1-2) ○	

表95 SK9出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	遺存状態	材質	法 量			備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
482	小刀	欠損	鉄	(5.3)	2.1	0.5	11.21	

表96 SK13出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整			色調(外面) (内面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
483	坏	底径 残高 7.6 1.5	底部が平底。	ヨコナデ [底]ヘラケズリ	ナデ		淡黃褐色 淡黃褐色	長(1) ○		

表97 SD2出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法 量			備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
484	碗	一部欠損	粘板岩	7.6	4.9	1.1	81.68	

表98 第VII層出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整			色調(外面) (内面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
485	甕	口径 残高 13.4 3.0	口縁端部に2条の凹線文、瓶部に円孔 を施す。	ナデ	ナデ		にぶい黄褐色 明黃褐色	石・長(1-2) ○	D10区	
486	甕	口径 残高 13.2 5.8	口縁部は腹部より外反して広がり直 角に気味に短く立ち上がる。	[口縁]ヨコナデ [口]ハケ(9cm/cm)→ ナデ→ミガキ	ヨコナデ [口]ナデ(施加部 あり)		にぶい褐色 にぶい褐色・ 褐色	石・長(1-2) ○	B10区	
487	甕	口径 残高 13.30 9.9	口縁端部に2条の凹線文、瓶部に2列の 縦筋模様が施される。	ヨコナデ	ヨコナデ		褐色 にぶい褐色	石・長(1-2) 褐色 ○	E10区	37
488	甕	口径 残高 13.1 10.75	複合口縁。瓶部に2条の凹線文と山 形文が施される。	ハケ(4cm/cm) (2.4cm/cm)→ ナデ	[口縁]ヨコナデ [口]ナデ		にぶい褐色 褐色	石・長(1-4) ○	E10区	37
489	甕	口径 残高 16.5 4.8	枝をもって外反する口縁部。口縁部 は複雑な曲面をもつ。	ハケ(10cm/cm)→ ナデ	ハケ(10cm/cm)→ ナデ		褐色 褐色	石・長(1-4) ○	E10区	

調査の概要

第五層出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
490	甕	底径 残高 3.4 19.2	平底の底部から内湾気味に立ち上がる口縁部。	[頂]ヨコナダ(24.0cm) [底]ハケ(4.0cm) [側]ヨコナダ(14.0cm) [底]ヨコナダ(14.0cm)	[頂]ナダ [底]ハケ(4.0cm) [側]ヨコナダ(14.0cm) [底]ヨコナダ(14.0cm)	褐色 黒色	石・長(1~5) ○	E10区	
491	甕	底径 残高 2.6 10.0	小型品。平底の底部から内湾気味に立ち上がる口縁部。	[頂]ヨコナダ(24.0cm) [底]ハケ(4.0cm) [側]ヨコナダ(14.0cm) [底]ヨコナダ(14.0cm)	[頂]ナダ [底]ハケ(4.0cm) [側]ヨコナダ(14.0cm) [底]ヨコナダ(14.0cm)	に赤い黄褐色 灰黄褐色	石・長(1~3) ○	E10区	
492	甕	口径 底径 残高 (16.6) 14.9 36.5	棱をもつて外反する口縁部。口縁部は面をもつ。	[口]マツツ [ハケ]ヨコナダ(6.0cm) [側]ヨコナダ(14.0cm) [底]ヨコナダ(14.0cm)	[口]マツツ [ハケ]ヨコナダ(6.0cm) [側]ヨコナダ(14.0cm) [底]ヨコナダ(14.0cm)	に赤い褐色 褐色	石・長(1~5) ○	E10区	37
493	甕	口径 底径 残高 (15.4) 19.2	「く」の字状に折れ曲がる口縁。口縁部は面をもつ。	[口]ヨコナダ [ハケ]ヨコナダ(6.0cm) [側]ヨコナダ(14.0cm) [底]ヨコナダ(14.0cm)	[口]ハケ(6.0cm) [ハケ]ヨコナダ(6.0cm) [側]ヨコナダ(14.0cm) [底]ヨコナダ(14.0cm)	褐色 灰褐色	石・長(1~4) ○	D10区	
494	甕	口径 底径 残高 20.9 12.7	ラップ法に聞く口縁。口縁端部は下に張り出している。	[口]ヨコナダ [ハケ]ヨコナダ(6.0cm) [側]ヨコナダ(14.0cm) [底]ヨコナダ(14.0cm)	[口]ヨコナダ [ハケ]ヨコナダ(6.0cm) [側]ヨコナダ(14.0cm) [底]ヨコナダ(14.0cm)	褐色 褐色	石・長(1~3) 金 ○	B10区	37
495	甕	口径 底径 残高 (17.0) 15.5	棱をもつて外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	[口]ヨコナダ [ハケ]ヨコナダ(6.0cm) [側]ヨコナダ(14.0cm) [底]ヨコナダ(14.0cm)	[口]ヨコナダ [ハケ]ヨコナダ(6.0cm) [側]ヨコナダ(14.0cm) [底]ヨコナダ(14.0cm)	褐色 褐色	石・長(1~2) ○	E10区	
496	甕	口径 底径 残高 12.3 15.0	直立気味に立ち上がる口縁部。端部は面をもつ。	[口]ヨコナダ [ハケ]ヨコナダ(6.0cm) [側]ヨコナダ(14.0cm) [底]ヨコナダ(14.0cm)	[口]ヨコナダ [ハケ]ヨコナダ(6.0cm) [側]ヨコナダ(14.0cm) [底]ヨコナダ(14.0cm)	浅黃褐色 に赤い褐色	石・長(1~2) ○	黒陶 E10区	37
497	甕	口径 底径 残高 14.2	複合口縁。口縁部張溝に波伏気味。腹部上部に沈線文、底部に斜格子文帶を有す。	[口]ヨコナダ [ハケ]ヨコナダ(6.0cm) [側]ヨコナダ(14.0cm) [底]ヨコナダ(14.0cm)	[口]ヨコナダ [ハケ]ヨコナダ(6.0cm) [側]ヨコナダ(14.0cm) [底]ヨコナダ(14.0cm)	に赤い色 に赤い褐色	石・長(1~6) 金 ○	B10区	37
498	甕	口径 底径 残高 15.3 19.0	複合口縁。無文。	[口]ヨコナダ [ハケ]ヨコナダ(6.0cm) [側]ヨコナダ(14.0cm) [底]ヨコナダ(14.0cm)	[口]ヨコナダ [ハケ]ヨコナダ(6.0cm) [側]ヨコナダ(14.0cm) [底]ヨコナダ(14.0cm)	浅黃褐色 灰白色	石・長(1~4) ○	E10区	
499	甕	口径 底径 残高 (15.2) 7.7	複合口縁。無文。	[口]ヨコナダ [ハケ]ヨコナダ(6.0cm) [側]ヨコナダ(14.0cm) [底]ヨコナダ(14.0cm)	[口]ヨコナダ [ハケ]ヨコナダ(6.0cm) [側]ヨコナダ(14.0cm) [底]ヨコナダ(14.0cm)	褐色 褐色	石・長(1~2) ○	D10区	
500	甕	口径 底径 残高 (19.2) 7.5	複合口縁。無文。口縁部張溝は直立したのち外反する。	[口]ヨコナダ [ハケ]ヨコナダ(6.0cm) [側]ヨコナダ(14.0cm) [底]ヨコナダ(14.0cm)	[口]ヨコナダ [ハケ]ヨコナダ(6.0cm) [側]ヨコナダ(14.0cm) [底]ヨコナダ(14.0cm)	浅黃褐色 に赤い褐色	石・長(1~4) 金 ○	E10区	37
501	甕	口径 底径 残高 (13.4) 16.5	直口縁。口縁部端部は丸く仕上げる。長い底部で頸項部は腹状。	[口]ヨコナダ [ハケ]ヨコナダ(6.0cm) [側]ヨコナダ(14.0cm) [底]ヨコナダ(14.0cm)	[口]ヨコナダ [ハケ]ヨコナダ(6.0cm) [側]ヨコナダ(14.0cm) [底]ヨコナダ(14.0cm)	浅黃褐色 灰白色、灰白色	石・長(1~4) 多 ○	E10区	38
502	甕	口径 底径 残高 (28.1) 5.4	複合口縁。口縁部張溝に1条の弦文。	ナデ	ナデ	褐色 灰白色(淡黄系)	石・長(1~2) ○	E9区	
503	甕	底径 残高 (5.0) 13.2	底盤。	ハケ(6.0cm)	ハケ(6.0cm)	灰褐色 褐色	石・長(1~4) 多 ○	B10区	
504	甕	底径 残高 4.0 12.7	底盤。底部よりやや内湾気味に立ち上がる。	[底]一帯にナデあり	ケズリ	灰褐色、褐色 灰褐色、褐色 褐色	石・長(1~3) ○	E7区	
505	甕	底径 残高 4.1 7.6	やや突出する不安定な底盤。	ナデ(鉛付工具痕 あり)	ナデ	浅黃褐色 に赤い褐色	石・其(1~4) 金 ○	黒陶 E9区	
506	甕	底径 1.6~2.1 残高 10.7	ボタル状の底部。底部より内湾して立ち上がる。	ナデ(鉛付工具痕 あり) [底]ナデ	ナデ(指觸痕あり)	に赤い褐色、褐色 灰褐色、に赤い褐色	石・長(1~3) 黒陶 E9区		
507	甕	底径 9.0 13.4	やや厚子の平底の底盤。	[底]ハケ [側]ヨコナダ [底]ヨコナダ	ハカリ・マツツ ナデ	褐色 褐色	石・長(1~3) ○	D10区	
508	甕	底径 8.0 11.0	平底の底盤。	ハケ(6~7.0cm) →ナデ [底]ナデ	ハケ(6~7.0cm) ナデ	浅黃褐色 に赤い褐色	石・長(1~3) ○	B10区	
509	甕	底径 5.4~6.0 16.8	平底。	ハケ(5~6.0cm) →ナデ [底]ナデ	ハケ(5~6.0cm) ナデ [底]ナデ(指觸痕あり)	褐色、青赤褐色 火褐色、灰白色	石・長(1~3) ○	C10区	
510	甕	底径 4.6 8.9	丸みをおびた平底。	ハケ(5~6.0cm) →ナデ [底]ナデ	ハケ(6~8.0cm) →ナデ	浅黃褐色、墨色 灰褐色	石・長(1~4) ○	黒陶 E10区	
511	甕	底径 11.0 5.4	平底。器壁が厚い。	マツツ	ナデ	浅黃褐色、墨色 灰褐色	石・長(1~5) ○	E9区	
512	甕	底径 1.0 4.8	底盤に焼成前穿孔あり。	ナデ	ケズリ	褐色 褐色	石・長(1~6) ○	C10区	
513	鉢	口径 底径 2.4 10.1	棱をもつて大きく外反する口縁部。底部はナデにより面をもつ。小さく突出する手跡。	[口]ハケ(6.0cm) →ナデ [底]ハケ(6.0cm) →ナデ [底]ヨコナダ →ナデ	[口]ハケ(6.0cm) ナデ [底]ハケ(6.0cm) ナデ [底]ヨコナダ ナデ	褐色 に赤い褐色	石・長(1~3) ○	E10区	38
514	鉢	口径 底径 (22.5) 5.9	なだらかに外反する口縁部。口縁部は面をもつ。	[口]ヨコナダ ナデ	[口]ヨコナダ ナデ	黑色 明赤褐色	長(-1) 褐色の石粉 ○	C7区	
515	鉢	口径 底径 (15.7) 8.7	口縁部はよく屈曲して外反する。端部はマツツの字状。外面に爪跡跡がある。	ナデ	[口]側上ナデ [側]ハケ(6.0cm) ナデ [底]ヨコナダ ナデ	に赤い褐色 褐色	石・長(1~3) ○	黒陶 E10区	38
516	鉢	口径 底径 2.0 13.1	外反する口縁部。端部は面をもつ。表面に爪跡跡がある。	ナデ	[口]側上ナデ [側]ハケ(6.0cm) ナデ [底]ヨコナダ ナデ	褐色 浅黃褐色	石・長(1~3) 金 ○	黒陶 D10区	38
517	鉢	口径 底径 (9.8) 7.6	口縁部は上方に屈曲する。口縁部はナデにより面をもつ。表面は明瞭に屈曲する。	ナデ	ナデ(指觸痕あり)	雨褐色、褐灰色 褐色	石・長(1) 金 ○	D10区	38

第VII層出土遺物観察表 土製品

(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外側) (内面)	胎土成 熟度	備考	図版
				外面	内面				
518	ミニチュア 瓶	6.7 2.8 6.8	ほぼ完全品。鉢形で上げ底の底部である。	[口幅]ナデ [底幅]ナデ [高さ]ナデ	[口幅]ナデ [底幅]ナデ [高さ]ナデ	ナデ(表面面あり) ナデ	明黄褐色 明黄褐色	石・長(1~4) ○	E10区 38
519	鉢	(22.1) 10.9	丸底の底部。	[口幅]ナデ [底幅]ナデ [高さ]ナデ	[口幅]ナデ [底幅]ナデ [高さ]ナデ	ハケ(8本/cm)→ ナデ	褐色 褐色	石・長(1~4) ○	E10区
520	鉢	17.8 2.9 7.35	小さい平底。底部より内凹して立ち上がる。	ハケ(8本/cm)→ ナデ [高さ]ナデ	ナデ	褐色 褐色	石・長(1~3) 褐色多 ○	E10区 38	
521	鉢	(10.0) 2.7 7.2	底面は内凹して外方に立ち上がる。口縁は端部内面に曲をもつ。丸みのある底部。彫形を見する。	ナデ(表面面あり) [底幅]ナデ [高さ]ナデ	[口幅]ナデ [底幅]ナデ [高さ]ナデ	ナデ(表面面・底 面あり)	褐色 褐色	石・長(1~5) 全 ○	底座 E7区 38
522	高杯	(9.4) 9.0	柱状。柱部より6条の浅溝・矢羽根模様を施す。柱部と3条の回線・脚部部に4条の回線を施す。	[底幅]ナデ [高さ]ナデ	[底幅]ナデ [高さ]ナデ	ナデ(表面面・底 面あり)	にぶい褐色 褐色	石・長(1~4) ○	E10区 38
523	高杯	8.1	脚部。脚部上に7条の沈線文・矢羽根透かし。	[底幅]ナデ [高さ]ナデ	[底幅]ナデ [高さ]ナデ	ナデ(底面あり)	褐色 褐色	石・長(1~4) 全 ○	E10区
524	器台	(23.5) 13.6	口縁部はラッパ状に外反する。口縁拡張部は削離している。	[口幅]ナデ [底幅]ナデ	ハケ(10本/cm)→ マツツ	マツツ	にぶい黄褐色 明黄色	E10区 39	
525	器台	9.2	上部と下部にそれぞれ5条の沈線文が走る。その間に斜格子と文定の三角文。	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	4×長(1~2) 全 ○	E10区 39
526	器台	20.6 14.7	脚部は大きく聞く。縦に2段の貫通する内孔を4方向に穿つ。	[底幅]ナデ [高さ]ナデ	[底幅]ナデ [高さ]ナデ	ナデ	褐色 褐色	石・長(1~3) ○	E10・ E11区 38
527	支脚	11.6	角状の火焚が前面に2か所、背面に1か所。	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~3) 全 ○	E11区 39
528	支脚	7.1 12.8	中実。U字状の受部。底部は上げ底。指ナデ	指ナデ	指ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 褐色	石・長(1~4) ○	E10区 39
529	支脚	6.3~6.7 7.3 5.0	白形状の支脚。やや上げ底。受部は中央部がやや凹む。	ナデ(表面面あり) [底幅]ナデ [高さ]ナデ	ナデ(表面面あり) [底幅]ナデ [高さ]ナデ	ナデ	にぶい褐色 褐色	石・長(1~3) 4×(7) 全 ○	B10区 39
530	リヨン形 支脚	(7.5) 5.7	平底。	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい褐色 褐色	石・長(1~4) 全 ○	C7区 40
531	棗	5.0	剥離部。2本の交差した線刻あり。	ハケ(裏紋不明) [底]ナデ	ハケ(S本/cm)→ 施文	ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~4) ○	E10区 39
532	棗	3.3	底部内面に炭化米あり。	ハケ(裏紋不明) [底]ナデ	ナデ	ナデ	にぶい褐色 褐色	石・長(1~2) 全 ○	B10区 39
533	分割形 土製品	最大厚 1.35	下平頂直脚。形状は口輪で唇は唇部と一体。目は斜窓。口は欠損により不明。赤色顔料付着。				にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~5) ○	E10区 39
534	棗	(18.0) 7.4	肩部が大きく膨る。肩部内面に同心円文がある。	マツツ・ハカリ	マツツ	マツツ	褐色 褐色	長(1~2) ○	C10区
535	壺蓋	つまみ紐3.0 1.5	つまみの付く壺蓋、つまみは中央部が凹む。	[つまみ]目錠ナデ [底幅]ナデ	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	微妙 ○	B10区
536	壺	(13.0) (6.2) 3.0	無口壺。体部は直線的で立ち上がり、口縁部は外反する。底部には丸みをもつ。	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	長(1~4) 多 ○	B10区
537	壺	9.6 6.5 3.9 2.7	高白壺。体部は直線的で立ち上がり、口縁部は外反する。底部には丸みをもつ。	回転ナデ [底幅]ナデ	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	長 ○	C10区
538	壺	(13.2) 5.7	高白の付く壺の体部。凸部は体部と底盤の境に付く。高白壺部は上下に肥厚する。	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	綠灰色 灰白色	石・長(1~2) ○	B10区 39

表99 第VII層出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量			備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
539	石底丁	欠損	結晶片岩	(4.6)	(1.7)	0.65	6.32	E10区
540	石底丁	欠損	結晶片岩	(6.2)	(4.1)	0.6	26.09	C7区
541	石錐	一部欠損	結晶片岩	12.1	3.7	1.1	85.23	B10区 40
542	石錐未製品	欠損	結晶片岩	16.6	5.8	2.8	448.52	C10区 40
543	スクレイパー	欠損	不明	8.9	4.8	0.9	85.90	D10区
544	スクレイパー	欠損	不明	4.2	6.4	1.2	36.04	B10区
545	砥石	不明	白色凝灰岩	(6.4)	5.5	(5.2)	219.29	B10区
546	用途不明品	完形	砂岩	5.8	5.8	3.7	215.57	C10区
547	敲石	完形	砂岩	10.2	6.4	4.4	496.74	D10区
548	敲石	不明	砂岩	(5.95)	(5.7)	5.7	252.24	C10区

調査の概要

表100 第V層出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	遺存状態	材質	法 盤			備考	図版
				高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
549	釘	先端部のみ	鉄	(4.0)	0.45	0.4	3.12	E10区
550	鍼	一部欠損	鉄	(4.65)	0.85	0.4	2.82	B10区

表101 第VI層出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形 塗・施文	青 磁		色調(外側) (内面)	胎 土 色	備考	図版
				外 面	内 面				
551	甕	LH型 残高 6.0	桟をもって外反する口縁部。口縁部に刻文帯を施す。	マツツ	マツツ	に赤い黄褐色 淡灰褐色	石・長(1~4) ○		
552	甕	LH型 残高 10.7	桟をもって外反する口縁部。口縁部に刻文帯を施す。	[口]ハケ(6cm) [口]ケズ(6~8cm) [口]カヨ(6cm)	[口]ハケ(6cm) [口]ケズ(6~8cm) [口]カヨ(6cm)→ナデ	淡黄褐色 淡灰褐色	石・長(1~2) ○		
553	甕	LH型 残高 10.6	桟をもって外反する口縁部。端部は曲がり、底部は丸みがある。	[口]ナデ [口]カヨ(6cm) [口]カヨ(6cm)	[口]ナデ [口]カヨ(6cm) [口]カヨ(6cm)→ナデ	明赤褐色 褐色	石・長(1~3) ○		
554	甕	LH型 残高 10.1 2.6	底と口をわずかに外反する口縁部。端部は球形で底部はやや丸みがある小さな平底。	[口]ナデ [口]カヨ(6cm) [口]カヨ(6cm)	[口]ナデ [口]カヨ(6cm) [口]カヨ(6cm)→ナデ	所白色 灰色	石・長(1~3) ○	黒斑	40
555	壺	残高 残高 6.3 残高 7.6	肩の張る底部に焼成後変形あり。平底。	[口]ハケ(6cm) [口]ナデ [口]カヨ(6cm)	[口]ハケ(6cm) [口]ナデ [口]カヨ(6cm)	淡黄褐色・褐色 白色・に赤い 黄褐色	石・長(1~3) ○	黒斑	40
556	壺	7.9 7.6	平底。厚手のつくりで胴部中央が張る。	[口]ハケ(6cm) [口]ナデ [口]カヨ(6cm)	[口]ハケ(6cm) [口]ナデ [口]カヨ(6cm)	に赤い 褐色・に赤い 黄褐色	石・長(1~5) ○		
557	壺	LH型 残高 17.2	直立する底部に外反するLH縁部。LH縁部は筒をもつ。	[口]ナデ [口]カヨ(6cm) [口]カヨ(6cm)	[口]ナデ [口]カヨ(6cm) [口]カヨ(6cm)→ナデ	褐色 に赤い黄褐色	微粒粒 ○		
558	壺	25.5 8.6	LH縁部は上方に向かって張る。底部に赤い黄褐色の刻文帯と斜角子目文の刻目突起。	[口]ナデ [口]ハカ(6cm) [口]ナデ [口]カヨ(6cm)	[口]ナデ [口]ハカ(6cm) [口]ナデ [口]カヨ(6cm)	褐色 褐色	石・長(1~6) ○	赤色顔料	40
559	壺	19.0 15.8	複合口縁。口縁部に墨書き波状文と山形文、底部に斜角子目文の刻目突起。	[口]ナデ [口]カヨ(6cm) [口]カヨ(6cm)	[口]ナデ [口]カヨ(6cm) [口]カヨ(6cm)→ナデ	淡黄褐色 褐色	石・長(1~5) ○	赤色顔料	卷64 40
560	壺	LH型 残高 6.9	複合口縁。底部に墨書き波状文と山形文、底部に斜角子目文の刻目突起。	[口]ナデ [口]カヨ(6cm) [口]カヨ(6cm)	[口]ナデ [口]カヨ(6cm) [口]カヨ(6cm)→ナデ	褐色 に赤い黄褐色	石・長(1~3) ○		
561	壺	14.2 9.8	複合口縁。底部に墨書き波状文8条が2段、底部に斜角子目文の刻目突起。	[口]ナデ [口]カヨ(6cm) [口]カヨ(6cm)	[口]ナデ [口]カヨ(6cm) [口]カヨ(6cm)→ナデ	褐色 に赤い黄褐色	石・長(1~3) ○	赤色顔料	卷64 41
562	壺	11号 残高 14.7	複合口縁。底部に墨書き波状文8条が2段、底部に斜角子目文の刻目突起。	[口]ナデ [口]カヨ(6cm) [口]カヨ(6cm)	[口]ナデ [口]カヨ(6cm) [口]カヨ(6cm)→ナデ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~4) ○		41
563	壺	10.5 8.5	内沟口縁。底部に3条の刻文帯と直線文、底部に斜角子目文の刻目突起。	[口]ナデ [口]カヨ(6cm) [口]カヨ(6cm)	[口]ナデ [口]カヨ(6cm) [口]カヨ(6cm)→ナデ	に赤い 褐色 灰白色	石・長(1~5) ○		41
564	壺	18.2 10.7	複合口縁。底部は内面に面をもつ。底部に斜角子目文の刻目突起。	[口]ナデ [口]カヨ(6cm) [口]カヨ(6cm)	[口]ナデ [口]カヨ(6cm) [口]カヨ(6cm)→ナデ	褐色 褐色	石・長(1~7) ○		
565	壺	18.6 8.5	複合口縁。底部に波状文。底部に斜角子目文の刻目突起。	[口]ナデ [口]カヨ(6cm) [口]カヨ(6cm)	[口]ナデ [口]カヨ(6cm) [口]カヨ(6cm)→ナデ	褐色 褐色	石・長(1~2) ○		
566	壺	LH型 残高 21.9	複合口縁。底部に10条の波状文。底部は面をもつ。	[口]ナデ [口]カヨ(6cm) [口]カヨ(6cm)	[口]ナデ [口]カヨ(6cm) [口]カヨ(6cm)→ナデ	褐色 褐色	石・長(1~5) ○	褐色	
567	壺	13.0 12.1	複合口縁。底部に斜角子目文を施す。	マツツ	マツツ	ナデ(崩壊あり)	褐色 赤褐色		
568	壺	19.6 11.0	複合口縁。底部に3条の波状文が高まる。其の頭部に断面三角形の貼付穴跡が流れる。	マツツ	マツツ		褐色 褐色	石・長(1~4) ○	41
569	壺	14.0 11.2	複合口縁。無文。口縁部底部は内凹する。	マツツ	マツツ	[口]ナデ マツツ	淡黄褐色 灰白色	石・長(1~3) ○	黒斑
570	壺	LH型 残高 17.1	直線的に立ち上がる口縁部に断面三角形の貼付穴跡が盛る。	マツツ	マツツ		褐色 褐色	石・長(1~3) ○	41
571	甕	底 残高 7.2 11.4	底部はくびれの上げ底。	マツツ	マツツ		褐色 淡黄褐色 褐色	石・長(1~6) ○	
572	甕	(5.8) 7.1	底部はくびれの上げ底。	[口]マツツ [口]ナデ	ナデ	に赤い 褐色 赤褐色	石・長(1~2) ○		
573	甕	5.3 6.8	底部はくびれの上げ底。	[口]カヨ(6cm) [口]ナデ [口]ナデ	ナデ(崩壊あり)	赤褐色 褐色	石・長(1~3) ○	黒斑	
574	甕	4.5 9.6	底部はくびれの上げ底。	[口]カヨ(6cm) [口]ナデ [口]ナデ	マツツ	褐色 褐色	石・長(1~5) ○		
575	甕	3.2 6.0	底はわずかに上げ底。底部より内凹味に立ち上がる。	[口]カヨ(6cm) [口]ナデ	ナデ	淡黄褐色 淡黄色	白・長(1~4) ○		
576	壺	12.2 6.0	大きな平底の底部。	ヘラミガキ	ハケ(6cm/cm)→ ナデ(崩壊あり)	褐色 褐色	石・長(1~3) ○	黒斑	

第Ⅴ層出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) にぶい黄褐色 灰褐色	胎 土 成 分 石・貝(1~5)多 ○	備考	図版
				外 面	内 面				
577	壺	底径 残高 12.6	底部の底部、唇壁が厚い。	マメツ	(工具による)ナデ (施顕痕あり)	褐色 にぶい黄褐色 灰褐色	石・貝(1~5)多 ○	黒斑	
578	壺	底径 残高 8.0	底部はやや丸みを帯びる。	[調]ミガキ 底ナデ	ハタリ	浅黄褐色 灰褐色	石・貝(1~6) ○		
579	壺	底径 残高 8.6 9.3	唇壁が厚く底部は突出し丸みを帯びる。	[調]ミガキ 底ナデ [調]ハタリコロナデ	[調中]ハタリ [調下]ハタリ 底ナデ	褐色 にぶい黄褐色 灰褐色	石・貝(1~7) ○		
580	壺	底径 残高 4.8~5.8 7.9	平底。	ハケ(底本/cm)→ ミガキ 底ナデ	ハケ(4本/cm)→ ナデ(1具添あり) [調]施顕痕あり	褐色 にぶい黄褐色 灰褐色	石・貝(1~1) ○		
581	壺	底径 残高 4.7 7.4	平底。	[調]ハケ(2本/cm) →ミガキ 底ナデ	ハケ(2本/cm)→ ミガキ 底ナデ	褐色 にぶい黄褐色 灰褐色	石・貝(1~4) ○	黒斑	
582	壺	底径 残高 6.6~7.8 9.1	底部は突出する平底。	[調]ハケ(2本/cm)→ ミガキ 底ナデ [調]ハタリコロナデ	ハケ(2本/cm)→ ナデ(1具添あり) [調]施顕痕あり	褐色 にぶい黄褐色 灰褐色	石・貝(1~2) 金 ○		
583	壺	底径 残高 3.7 8.0	突出する丸みのある底部。	[調]ハケ(2本/cm)→ ナデ(1具添あり) [調]ハタリコロナデ	ハケ(2本/cm)→ ナデ(1具添あり) [調]施顕痕あり	浅黄褐色 黄褐色	石・貝(1~4) ○	黒斑	
584	壺	底径 残高 4.1 6.6	突出する丸みのある底部。	[調]タタキ→ナデ 底ナデ	[調中]ハケ(7本/cm) [調下]底ナデ	褐色 にぶい褐色	石・貝(1~2) ○		
585	壺	底径 残高 6.8 4.9	厚みのある平底。	ナデ	ナデ(施顕痕あり)	褐色 にぶい褐色	石・貝(1~5) 金 ○		
586	瓶	底径 残高 2.1 8.9	底部に焼成前突孔が1か所あり。	[調]タタキ→ナデ 底ナデ	ナデ(施顕痕あり)	褐色 にぶい黄褐色	石・貝(1~4) 金 ○	黒斑	
587	鉢	口径 (20.6) 6.8	縁をもって外反する口縁部。	[口]ナデ [調]ミガキ	[口]ミガキ→ナデ [調]ミガキ	褐色 にぶい黄褐色	石・貝(1~2) ○		
588	鉢	口径 底径 (15.4) 7.8	ゆるやかに外反する短い口縁部。端部はやや丸い。	[口]ナデ [調]ハタリコロナデ	ハタリコロナデ	浅黄褐色 浅黄褐色	石・貝(1~4) ○	黒斑	
589	鉢	口径 底径 (14.5) 11.1	直口縁。端部は丸い。底部は平底。	[口]ナデ [調]ハタリコロナデ	[口]ナデ ハタリコロナデ	褐色 浅黄褐色	石・貝(1~4) 金 ○		
590	鉢	底径 残高 (4.2) 6.4	半底。底部内面がこぶ状に突出。	マメツ	ハケ(8本/cm)	にぶい褐色 浅黄褐色 灰褐色	石・貝(1~3) ○		41
591	鉢	口径 底径 (3.6) 11.0	I.III縁部はむずかしく外反する。端部は圓をもつ。底部はくびれの上げ底。	[口]ナデ [調]ハタリコロナデ	[口]ナデ ハタリコロナデ	褐色 にぶい褐色	石・貝(1~8) 金 ○	黒斑	41
592	鉢	底径 残高 1.6 7.0	突出する小さい底部。	[ナ]ミタナデ 底ナデ	ハタリコロナデ ナデ	褐色 浅黄褐色	石・貝(1~5) 青色 ○	黒斑	
593	高環	残高 14.7	交互に貫通する円孔が上2段に2方向。	[調]マツナデ ミガキ	[調]ナデ ハタリコロナデ	にぶい黄褐色 褐色	石・貝(1~1) ○		
594	高環	残高 15.4	I.下3段の貫通する円孔が3方向。	[調]ミガキ ハタリコロナデ ミガキ	(工具による)ナデ ハタリコロナデ	褐色 にぶい褐色	石・貝(1~2) ○		
595	支脚	底径 残高 10.2 13.9	前面に角状の突起2か所、背面に1か所。	ナデ(施顕痕あり)	ナデ(施顕痕あり)	にぶい黄褐色 褐色	石・貝(1~5) 金 ○		42
596	支脚	底径 残高 8.8 10.8	前面に角状の突起2か所。	ハナデ(施顕痕あり)	ハナデ(施顕痕あり)	にぶい褐色 にぶい黄褐色	石・貝(1~4) ○		42
597	支脚	底径 残高 11.5	背面に綫長の突起。前面は欠損。	ハナデ(施顕痕あり)	ハナデ(施顕痕あり)	浅黄褐色 浅黄褐色	石・貝(1~2) ○		42
598	支脚	受部径 (9.3) 底径 (14.0)	中空。受部に「U」字状の解剖部をもつ。	ハナデ	ハナデ(施顕痕あり)	褐色 にぶい褐色	石・貝(1~5) ○		42
599	支脚	受部径 (13.4) 残高 15.5	中空。相棒はゆるやかに広がる。受部にはほぼ水平にカットする。	マメツ(施顕痕あり)	マメツ(施顕痕あり)	褐色 にぶい褐色	石・貝(1~3) ○		
600	支脚	底径 6.5 8.4	中空。圓柱状の体部。胴中央でくびれる。	ナデ(施顕痕あり)	ナデ(施顕痕あり)	褐色 にぶい褐色	石・貝(1~3) 明赤色 ○		42
601	支脚	底径 7.0 6.5	中空。圓柱状の体部。胴中央でくびれる。	ナデ(施顕痕あり)	ナデ(施顕痕あり)	褐色 褐色	石・貝(1~4) 金 ○		42
602	支脚	受部径 5.8 5.1	中空。圓柱状の体部。	ハナデ(施顕痕あり)	[口][底]ハナデ	明褐色 明褐色	石・貝(1~2) ○		42
603	支脚	底径 6.8 5.7~4.4	中空。受部はやや僅む。	ハナデ	ハナデ	にぶい褐色 にぶい黄褐色	石・貝(1~4) ○		42
604	ミニチュア	口径 5.4 1.0	鉢状のミニチュア土器。体部は直線的に立ち上がる。	ナデ(施顕痕あり)	ナデ(施顕痕あり)	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	石・貝(1~3) 金 ○		42

調査の概要

表101 第V層出土遺物観察表 土製品

(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面)	胎土	備考	図版
				外 面	内 面				
605	ミニチュア	3.6 2.4	支脚部のみミニチュア土器。中空。受部は斜削しわざかに尖突をもつ。	ナデ	ナデ	淡青紫色 淡黄色	石・灰(1) 褐色 ○		41
606	ミニチュア	4.4 1.3	円形容形土製品。つまみ部に伴4ミリの凹孔が見られる。無文。	ナデ	ナデ	淡青紫色・褐色 淡黄色	石・灰(1-2) 金 ○	つまみ脚 孔径4mm	41
607	环	13.0	平底。底部より内湾気味に立ち上がる。	ヨコナデ [底]ナデ(工具痕 あり)	ヨコナデ [底]ナデ	灰白色 明黄色	灰白色 明黄色	心・長(2-4) ○	赤色顔料 各部
608	环	11.4 6.2	高台性。体部は直線的に立ち上がる。	ヨコナデ [底]ナデ [底]ハラ切り	ヨコナデ [底]ナデ	青灰色 淡黄色	長(1-3) ○		42
609	皿	27.0 21.6	高台付。底部より外傾して立ち上がる。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	石・長(2-4) 多 ○		42
610	高环	9.6 4.2	低底。「ハ」の字状に外反し側面部は下方へ突出し段をなす。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	微細粒 ○		42
611	壺	10.0 8.1	肩付。体部は直線的に立ち上がる。底面には「ハ」の字状の短い高台。	[底]回転ナデ [底]ハラ切り [底]ナデ	回転ナデ [底]ナデ	灰白色 灰白色	微細粒 ○		

表102 第V層出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法 量			備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
612	磨石	欠損	不明	9.9	6.5	3.6	418.97	
613	砥石	欠損	白色凝灰岩	(9.6)	(9.15)	(5.25)	462.26	

表103 第III層出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面)	胎土	備考	図版
				外 面	内 面				
615	碗	15.2 7.0 5.6	高台付。玉縁状口縁。灰白色の釉がかかる。	施釉の為不明 [底]ハラケグリ	施釉の為不明	灰白色 灰白色	密 ○	施釉	43
616	碗	15.9 4.7	玉縁状口縁。灰白色の釉がかかる。	[口] [底]回転ナデ [底]ハラケグリ	施釉の為不明	明オリーブ色 明オリーブ色	密 ○	施釉	43
617	碗	16.0 3.3	玉縁状口縁。灰白色の釉がかかる。	施釉の為不明	施釉の為不明	灰白色 灰白色	密 ○	施釉	
618	碗	7.7 4.7	高台付。灰白色の釉がかかる。	施釉の為不明 [高台] [底]ハラケグリ	施釉の為不明	明オリーブ色 明オリーブ色	微細粒 ○	施釉	43
619	皿	11.1 3.5	高台付。底部より内湾気味に立ち上がる。	施釉の為不明 [底]ハラケグリ	施釉の為不明	灰白色 灰白色	微細粒 ○	施釉	43
620	皿	11.5 3.2	内面込み部に1寸沈溝がある1脚部片。	施釉の為不明	施釉の為不明	淡黄色 淡黄色	微細粒 ○	施釉	43
621	皿	10.2 7.1 1.9	口縁部はやや外反する。	ヨコナデ [底]回転ナデ [底]ハラケグリ	マメツ	におい小暗色 灰褐色	微細粒 ○		
622	环	7.0 2.1	体部は直線的に立ち上がる。	ナデ [底]ハラケグリ	ナデ	水白色 褐色	石・長(1-2) 褐色 ○		
623	环	2.9 2.5	つまみ底の上に2つまみの付く环。扁平な天井	[つまみ]回転ナデ [底]ハラケグリ	ナデ	灰白色 灰白色	長(1-1) ○		
624	环	9.0 2.9	高台付。体部は内湾気味に立ち上がる。高台は体部後よりやや内側に付す「ハ」の字状に開く。	回転ナデ [底]ハラケグリ	回転ナデ [底]ハラケグリ	灰白色 灰白色	長(1) ○		
625	碗	6.5 7.1	外反する1脚。自然釉が内面に付着。	回転ナデ	回転ナデ	明オリーブ色 灰白色 灰色、灰白色	長(1-3) 多 ○	自然釉	
626	甕	6.8	頭部は外傾する。	[底]回転ナデ [底]タスキード	マメツ	灰白色 灰色	長(1-2) ○		
627	甕	13.4 12.9	釉をもって外反する1脚部。壠部は光滑りになる。	[口]回転ナデ [底]タスキード	マメツ	灰黄褐色 灰白色	石・長(1-3) ○	黒斑	
628	甕	12.3 1.6 10.6	器壁が薄く体部は内湾気味に立ち上がる。底面は小さく突出する。	ハサ(6本/cm) [底]ナデ	ハサ(1本/cm)→ マメツ	灰黄褐色 灰白色	石・長(1-6) ○		
629	甕	1.9 10.5	小さい半底の底部。	マメツ(一部ハサ [底]ナデ)	マメツ [底]ナデ	褐灰色 褐灰色	心・長(1-2) ○		
630	支脚	7.3 7.5 7.9	中空。円柱状の体部。	ナデ(強削痕あり)	ナデ	淡青紫色 淡青紫色	石・長(1-1) ○		

遺構と遺物

表104 第Ⅲ層出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
631	丸鉢	1/2	不明	2.75	(2.1+α)	0.63	7.45		春86-2 43
632	砥石	欠損	白色凝灰岩	(18.1)	11.6	9.4	3600.00		43
633	砥石	不明	砂岩	(6.3)	(13.0)	(6.1)	711.84		
634	敲石	完形	砂岩	7.1	7.2	5.2	400.71		

表105 第Ⅲ層出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	遺存状態	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
635	斧	欠損	鉄	11.3	6.7	1.0	106.97		
636	鎌	欠損	鉄	(11.3)	2.6	0.25	12.62		
637	釘	先端部欠損	鉄	(2.9)	0.4	0.5	1.37		

表106 第Ⅳ層出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整				備考	図版
				外 面	内 面	色調(外面)	胎土成		
638	深鉢	残高 3.2	縄文土器。刻目突帯。	ナデ	ナデ	灰褐色 にぶい褐色	石・長(1) ○		43
639	浅鉢	口径 6.0 残高 6.0	縄文土器。逆「く」の字状に粗面する 縁脚。	朱痕→ミガキ	ミガキ	灰褐色 生褐色	微細粒 ○		43
640	深鉢	底径 9.5 残高 2.4	わずかに上げ底の底盤。	マメツ	マメツ	褐灰色 板白色	石・長(1~4) ○		
641	分縫陶土製品	最大厚 1.4	形状は不明。肩は突起、口は縦刻、耳は一孔。赤色顔料不明。	ハクリ	ハクリ	にぶい褐色	石・長(1~4) 金 ○		春86-1 43

表107 第Ⅳ層出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
642	石庖丁	ほぼ完形	結晶片岩	8.0	2.7	0.5	20.12		43

表108 北壁トレンチ出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整				備考	(1) 図版
				外 面	内 面	色調(外面)	胎土成		
643	甕	口径 7.2 残高 7.2	短く外反する口縁部。端部は面をもつ。底部に刻目突帯を張り付ける。	ナデ	[1] ヨコナデ ミガキ	暗赤褐色 褐灰色	右・共(1~4) 金 ○		
644	甕	口径 5.2 残高 5.2	枝をもって外反する口縁部。口縁端部に3条の間隔文が施される。	[1] ヨコナデ ヨコナデ ハケ(12cm/cm)	[1] ヨコナデ ハケ(7本/cm)	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	微細粒 ○		44
645	甕	口径 5.3 残高 5.3	唇壁が厚い。口縁端部に4条の凹痕が3巡ある。	[1] ヨコナデ ナデ	[1] ヨコナデ ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・共(1~6) ○		
646	甕	口径 4.5 残高 4.5	大きく広がる口縁部。口縁端部は上方に強張。端部に3条の間隔文、端部下方に刻目文を施す。	[口縁] ナデ ハケ(6cm/cm)→ マメツ	[1] ヨコナデ マメツ	褐色 褐色	石・長(1~4) 金 ○		
647	甕	口径 6.2 残高 6.2	外反する長い口縁部。口縁端部は面をもつ。	[口縁] ヨコナデ ハケ(5cm/cm)→ ナデ	[口縁] ヨコナデ ハケ(5cm/cm)→ ナデ	褐色 褐色	石・共(1~5) 金 ○		
648	甕	口径 7.8 残高 7.8	ゆるやかに外反する口縁部。端部は丸みをもつ。	[口縁] マツ ナデ(5cm/cm)→ ナデ	[口縁] ハケ→ナデ ナデ(5cm/cm)→ ナデ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・共(1~6) 石(残8) ○		
649	甕	残高 10.9	あまい棱をもって外反する口縁部。	ナケ(5cm/cm)→ ナデ(横幅1cm程あり)	[1] ナデ	にぶい褐色 褐色	石・共(1~7) ○	黒漆	
650	甕	7.1	複合口縁。頭部に刻目突帯あり。	ナケ(5cm/cm)→ ナデ(横幅1cm程あり) [突部] ナデ	[1] ナデ ナデ(横幅1cm程あり) [突部] ナデ	にぶい褐色 にぶい黄褐色	石・共(1~4)多 ○		
651	甕	口径 8.3 残高 8.3	複合口縁。脇張部に上から8条の直線文・6条の波状文・6条の直線文・波状文を施す。	マメツ	マメツ	淡黄褐色 灰褐色	石・共(1~3) ○		
652	甕	口径 5.3 残高 5.3	器壁が厚い。くびれの上げ底。	ナケ(5cm/cm)→ ナデ(直線文あり)	ナデ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・共(1~3) ○		
653	甕	口径 7.2 残高 7.2	小さい平底。	ナケ(11本/cm)→ ナデ(直線文あり)	ナケ(5cm/cm)→ ナデ(直線文あり)	にぶい褐色 褐色	石・共(1~2) ○		
654	甕	口径 7.6 残高 7.6	わずかに突出する厚い平底。	ミガキ	ナデ	褐色 灰褐色	石・共(1~2) ○	黒漆	
655	甕	5.1	やや丸みのある平底。	ナケ(10cm/cm)→ ナデ [底] ナデ	ナケ(10cm/cm)→ ナデ	にぶい褐色 淡黄褐色	石・共(1~5) ○		
656	甕	口径 7.7 残高 7.7	鉢形を呈する。底部に焼成前穿孔1か所あり。	[1] ヨコナデ ナデ [底] ナデ	[1] ヨコナデ ナデ(直線文あり) [底] ナデ	赤褐色 紅褐色	石・共(1~5) 金 ○	黒漆 桂	

調査の概要

北壁トレンチ出土遺物観察表 土製品 (2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 焼	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
657	高环	口径 (26.8) 残高 3.1	錐尖状孔。口縁端部に刻目と1条の凹線を施す。	[口縁]ナデ マツツ	ナデ	明赤褐色 に赤い褐色	G・長(1~4) ○			44
658	高环	口径 (21.4) 残高 5.3	口縁が直立気味に立ち上がる。口縁端部は面をもつ。	ナデ	[口縁]ハケ(5本/cm) ミガキ ミガキ	に赤い黄褐色 に赤い黄褐色	石・長(1~3) ○			44
659	高环	口径 (10.0) 残高 7.9	鋸歯片。	鋸歯片ナデ マツツ 前端面ナデ	指ナデ	に赤い褐色 に赤い黃褐色	石・長(1~4) ○			44
660	支脚	受部径 (13.9) 底径 (12.6) 高さ 16.5	中空。受部に「U」字状の横筋部をもつ。端部は面をもつ。	[口縁]ナデ マツツ 前端面ナデ	(1真による)ナデ ナデ(測定誤り) ナデ(測定誤り)	に赤い褐色 に赤い黃褐色 に赤い黃褐色	石・長(1~5) 赤い褐色 ○			44
661	支脚	底径 残高 5.3 6.6	中実。わずかに上げ底。受部はやや向外する。	鋸ナデ	指ナデ	に赤い褐色	長(1~3) 金 ○	黒複		44
662	蓋	残高 3.9	側部に2条の線刻上器。	ハケ(6本/cm)	ナデ	褐色 褐灰色				44
663	深鉢	残高 2.8	幾文土器。刻目突帯。	ナデ	ナデ	灰青褐色 灰青褐色	石・長(1~6) 金 ○			
664	深鉢	残高 3.3	幾文土器。刻目突帯。	ナデ	ナデ	に赤い褐色 に赤い黃褐色	石・長(1~2) ○			
665	蓋	口径 (23.4) 残高 2.0	I型縫端部は内面にやや肥厚する。	ナデ	ナデ	淡黄色 灰白色	微細粒 赤色顔料	赤色顔料	各図5-1	44
666	皿	口径 15.8 底径 13.5 高さ 2.1	全体は外傾して立ち上がり口縁部はヨコナデ(底)ナデ(底)ナデ	ヨコナデ 底ナデ 底ナデ		灰白色 灰白色	微細粒 ○			44
667	环	口径 (11.2) 底径 5.4 高さ 3.9	I型縫端部は先端に仕上げる。	ヨコナデ 底ナデ	[口]ヨコナデ ナデ	褐色 褐色	微細粒 ○	赤色顔料	各図5-1	44
668	鍋	口径 (27.0) 残高 9.1	「く」の字状口縁。端部は丸く仕上げる。	[口]ヨコナデ ハケ(6本/cm)	[口]ハケ(5本/cm)	褐色 褐色	石・長(1~1) ○			44
669	环	口径 (34.0) 底径 24.6 高さ 3.3	全体は直線的に立ち上がり、I型縫部は丸く仕上げる。	マツツ	マツツ	灰白色 灰白色	石・長(1~2) ○			44
670	环	口径 (16.1) 底径 12.0 高さ 2.6	外傾する口縁部。端部は丸く仕上げる。	マツツ		ヨコナデ 底 底	灰白色 灰白色	微細粒 ○		
671	皿	口径 (15.2) 底径 12.6 高さ 1.8	全体は直線的に立ち上がる。I型縫部はわずかにナデ凹む。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	微細粒 ○			
672	皿	口径 (12.5) 底径 7.7 高さ 1.7	全体は直線的に立ち上がりI型縫部内面は凹凸状の凹みあり。	マツツ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	微細粒 ○			
673	环	口径 (13.0) 底径 8.5 高さ 3.5	高台部。全体は内湾気味に立ち上がり口縁部は丸い。両台は全体縫端部より内側に付く。	回転ナデ 回転ハケ(2枚)	回転ナデ 回転ハケ(2枚)	灰白色 灰白色	長(1) ○			44
674	甕	口径 (40.0) 残高 6.9	外反する口縁部。端部は下方に肥厚する。頭部外面に波状文を施す。	ヨコナデ	ヨコナデ	褐色 褐色	長(1~2) ○			44

表109 北壁トレンチ出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法 量			備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
675	砥石	不明	不明	7.2	6.1	3.8	289.03	

表110 北壁トレンチ出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	遺存状態	材質	法 量			備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
676	刀子	刃先欠損	鉄	(10.4)	1.3	0.45	9.99	
677	釘	上部欠損	鉄	3.4	0.6	0.5	2.25	
678	釘	欠損	鉄	(2.9)	0.4	0.4	0.83	

表111 南壁トレンチ出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 焼	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
679	甕	口径 (16.3) 底径 (6.5) 高さ 32.5	縁をもって外反する口縁部。口縁端部に1条の凹線文がある。底部は平底。	[口縁]ナデ マツツ [底]ナデ マツツ	ナデ	暗褐色 に赤い褐色	石・長(1~2) ○			44
680	甕	口径 (14.8) 底径 4.4 高さ 25.3	縁をもって外反する口縁部。口縁端部に1条の凹線文がある。底部は平底。	[口縁]ナデ マツツ [底]ナデ マツツ	(口)ヨコナデ マツツ(底)ナデ マツツ	に赤い褐色 に赤い褐色	石・長(1~5) 赤い褐色 ○			44
681	甕	口径 (8.5) 底径 12.0	縁をもって外反する口縁部。口縁端部に1条の凹線文。肩部に「ノ」の字状の木口割れ。	[口縁]ナデ マツツ [底]ナデ マツツ	[口]ヨコナデ ナデ ハケ(5本/cm) ミガキ	暗褐色 に赤い褐色	長(1~4) ○			44
682	甕	口径 (17.2) 底径 8.4	縁をもって外反する口縁部。口縁端部に凹線文を施す。	[口縁]ナデ マツツ [底]ナデ マツツ	[口]ヨコナデ ナデ ハケ(11本/cm) ナデ	暗褐色 に赤い褐色	石・長(1~3) ○			44

遺構と遺物

南壁トレンチ出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調査		色調(外面) (内面)	胎土成	備考	図版
				外面	内面				
683	壺	口径 残高 8.5 9.4	外反する口縁部。端部は上下に肥厚し端面に3条の凹線を施す。	[口]ヨコナデ [底]ミヨコナデ [身]ミヨコナデ	[口]ヨコナデ [底]ミヨコナデ [身]ミヨコナデ	にぶい緑色 にぶい緑色	石・長(1~4) ○		
684	壺	口径 残高 7.2 7.2	外反する口縁部。端部は上下に肥厚し端部に3条の凹線を施す。	[口]ヨコナデ [底]ミヨコナデ [身]ミヨコナデ	[口]ヨコナデ [底]ミヨコナデ [身]ミヨコナデ	緑色 にぶい緑色	石・長(1~2) ○		
685	壺	口径 残高 11.8 9.4	外反する口縁部。端部は丸い。	マツツ	マツツ	にぶい黄白色	石・長(1) ○		
686	高环	口径 残高 23.3 4.2	口縁部は直立気味に立ち上がる。口縁部は面をもつ5条の凹線が施される。	[口]ヨコナデ [底]ミヨコナデ	[口]ヨコナデ [底]ミヨコナデ	緑色 にぶい緑色	石・長(1~3) ○		
687	高环	口径 残高 32.0 4.5	脚柱部上方に7~8条、下方に4~5条の凹線が下層づる。	[口]ヨコナデ [底]ミヨコナデ [脚]マツツ	[口]ヨコナデ [底]ミヨコナデ [脚]マツツ	浅黄緑色 淡黄緑色	石・長(1~2) 金 ○		45
688	高环	口径 残高 20.8 4.5	底部にむかって大きめに外反する脚部。内孔を2か所穿つ。	ハケ(8本/cm)[14 本/cm]→2ガキ [脚]ヨコナデ	ハケ(8本/cm)[14 本/cm]→2ガキ [脚]ヨコナデ	緑色 にぶい黄緑色	石・長(4) ○		
689	支脚	口径 残高 13.9 3.2	中実。角状の突起をもつ受部。	脚ナデ	脚ナデ	にぶい緑色	石・長(1~3) ○		
690	坪蓋	口径 残高 15.0 3.2	扁平な天井部からなだらかに下り、口縁端部は丸く仕上げる。	圓転ナデ	圓転ナデ	灰白色 灰色	長(1~4) ○		

表112 西壁トレンチ出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調査		色調(外面) (内面)	胎土成	備考	図版
				外面	内面				
691	壺	口径 残高 20.2 8.4	頸部に幅広い突張り付け、斜位方向と水平方向に頭目を施す。	[口]ヨコナデ [底]ミヨコナデ [身]ミヨコナデ	[口]ハケ(5本/cm)→ ハケ(5本/cm)→ ハケ(5本/cm)→ [脚]マツツ	緑色 緑色・淡黄色	石・長(1~5) ○		45
692	甕	口径 残高 5.4 9.1	突出する丸みを帯びた平底の底盤。	[口]ヨコナデ [底]ヨコナデ	[口]ヨコナデ [底]ヨコナデ	淡青色 にぶい黄緑色	石・長(1~3) ○		
693	高杯	口径 残高 17.7 3.8	口縁部は直立気味に立ち上がる。口縁部は面をもつ5条の凹線が施される。	[口]ナデ [底]ミヨコナデ	[口]ナデ [底]ミヨコナデ	にぶい緑色 緑色	長(1~3) 金 ○		
694	甕	口径 底径 残高 15.3 (12.7) 2.4	体部は外傾して立ち上がり口縁部は丸い。底部は平底。	[口]ヨコナデ [底]ヨコナデ [身]ヨコナデ	[口]ヨコナデ [底]ヨコナデ [身]ヨコナデ	灰白色 灰白色	微砂粒 ○		

表113 西壁トレンチ出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量			備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
695	砥石	欠損	不明	(13.3)	(3.75)	3.2	362.34	
696	砥石	欠損	不明	9.1	7.9	3.0	365.83	
697	磨石	完形	不明	20.5	28.3	9.0	8050.00	

表114 西壁トレンチ出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	遺存状態	材質	法量			備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
698	釘	先端部のみ	鉄	2.1	0.7	0.55	1.62	

表115 グリッド出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調査		色調(外面) (内面)	胎土成	備考	図版
				外面	内面				
699	壺	口径 底径 残高 22.1~22.6 14.8	複合口縁。底面部に複数段状(6条)と、その間に直線状5条がわざかに残る。底部に刻目文字。	[口]ヨコナデ [底]ヨコナデ [身]ヨコナデ	[口]ヨコナデ [底]ヨコナデ [身]ヨコナデ	緑色 緑色	石・長(1~3) 海綿状 ○	里山 A6区	45
700	壺	口径 底径 残高 5.7 3.7	突出した丸みのある底盤。	タタキ→ナデ	ハケ→ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1~8) ○	里山 A6区	
701	鉢	口径 底径 残高 (16.0) (2.2) 5.7	口縁部は面をもつ。底盤はわずかに突出する。	ナデ	ナデ	にぶい黄緑色 にぶい黄緑色	石・長(1) ○	B5区	
702	深鉢	口径 底径 残高 2.9	陶土器。口縁部・突審に刻目を施す。	ナデ	ナデ	灰黃褐色 褐色	石・長(1~2) ○	C4区	
703	壺	口径 底径 残高 (13.6) (1.2)	高台が付く壺の底盤部。高台は比較的高い。	圓転ナデ	圓転ナデ	灰褐色 灰褐色	黒砂粒 ○	A8区	
704	土師	口径 底径 残高 5.2 1.9 1.8	円柱状。	ナデ		浅黃褐色 浅黃褐色	黒砂粒 ○	2段0.55cm 2段0.34cm DSK	45

調査の概要

表116 グリッド出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
705	石鎌	一部欠損	サヌカイト	2.3	1.3	0.29	0.92	E6区	

表117 グリッド出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	遺存状態	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
706	釘	頭部と先端部欠損	鉄	2.4	0.5	0.35	1.39	C9区	

表118 表探遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	構造		色調(外面)	色調(内面)	胎土皮	備考	図版
				外 面	内 面					
707	甕	口径(12.7) 底径(3.1) 高さ(19.1)	縁をもって外反する口縁部。底部はナデにより面をもつ。底部は丸みのある平底。	[口]ナデ [底]ナデ	[口]ハケ ハケ(7本/cm)→ [底]ナデ ケツリ	に赤い褐色 壁色	石・長(1~4) 褐色粒 ○	黒斑		
708	甕	口径(19.5) 底径(8.6)	後合口縁。頭部に斜筋子目文の割目突等を施す。	ハケ(8本/cm)	ハケ(8本/cm)→ ナデ	白色 浅黄褐色	石・長(1~3) ○	黒斑		
709	甕	口径(3.0) 底径(4.4)	平底。底面より内溝しつづ立ち上がる。	ハケ(7本/cm) [底]ナデ	ナデ	薄灰色 に赤い褐色	石・長(1~4) ○			
710	甕	口径(3.8~4.2) 底径(3.3)	小さいやや上げ底の底盤。	ナデ(剥離痕あり)	ナデ	に赤い褐色 壁色	石・長(1~3) ○			
711	支脚	受部径(5.0) 底径(7.6) 高さ(6.3)	受部中央がやや窪む。	ナデ	ナデ	明るい褐色 明るい褐色	石・長(1~4) ○			

表119 表探遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
712	丸柄	1/2	不明	2.8	2.3	0.7	6.77		図版-2 45
713	石鎌	一部欠損	サヌカイト	1.9	1.2	0.25	0.40		
714	石鎌	先端部欠損	サヌカイト	2.2	1.4	0.3	0.81		
715	磨石	欠損	砂岩	(20.4)	(12.9)	5.7	2174.57		
716	砥石	不明	白色凝灰岩	(6.45)	6.8	(5.1)	259.92		
717	研石	不明	砂岩	12.1	4.4	1.65	180.83		

表120 表探遺物観察表 鉄製品

番号	器種	遺存状態	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
718	刀	3cmの破片	鉄	3.6	1.95	0.45	4.40		45
719	釘	頭部のみ	鉄	(3.0)	0.5	0.5	2.26		
720	釘	先端部のみ	鉄	(2.2)	0.4	0.45	0.74		
721	塊	完形	鉄	3.3	2.7	1.65	26.97		
722	漆	完形	鉄	2.2	2.3	1.8	15.82		

第4章 自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

本報告では、松山大学構内遺跡(愛媛県松山市所在)の6次調査で出土した、同時期の炭化穀実の同定を実施する。

1 試料

試料は、6次調査で出土した炭化穀実322点である。

2 分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。現生標本および原色日本植物種子写真図鑑(石川,1994)、日本植物種子図鑑(中山ほか,2000)等との対照から、種実の種類を同定し、個数を数えて結果表に示す。分析後の種実は、種型毎にピンに入れて保管する。

3 結果

結果を表1に示す。炭化種実は、ブナ科コナラ属イチガシ(*Quercus gilva* Blume)の子葉194個、コナラ属(*Quercus*)の子葉125個に同定された。その他に、炭化木材が3個確認された。

イチガシの子葉は、完形個体が99個、子葉の合わせ目に沿って半分に割れた個体が95個確認された。いずれも炭化しており黒色を呈す。長さ1-1.4cm、径7-9mm程度の楕円-広卵形。2枚からなる子葉は極端に不揃いで、合わせ目は球体表面を蛇行して一周する。幼根は頂端からはずれた位置にある。表面には、1本の深い溝が基部から頂部に向かい2/3程度まで発達している。子葉は硬く緻密で、表面は縦方向に走る維管束の圧痕がみられる。合わせ目の表面は平滑で、正中線上は僅かに隆起し、頂部には小さな孔(主根)がある。表面に果実の破片が付着している個体が2個みられる。果実破片は、頂部を欠損し、輪状紋の有無が認められない。果実基部の着点は径5mm程度の凹形で維管束の穴が輪状に並ぶ。果皮表面は平滑で、ごく浅く微細な縱筋がある。

岡本(1979)は、日本産ブナ科植物の子葉について、イチイガシには子葉の離れにくさ、著しい異形性、頂端が尖らず幼根の位置がずれていること、そして中軸の圧痕が確認できることなどの特異性があることから、イチイガシのみが種まで同定できる場合があることを述べている。試料は、上述の特徴を典型的に示していることから、イチイガシに同定されると判断した。なお、イチイガシの特徴が

表121 热害测定结果

科名		属名	分類群	学名	部位	状態	個数	備考
ブナ科	イチイガシ コナラ属	Quercus	gilia Blame	子葉	完形	炭化	99	2個果皮付着
					破片	炭化	95	
	コナラ属	Quercus		子葉	破片	炭化	123	
				果実	破片	炭化	2	
			炭化材		破片	炭化	3	

確認されない子葉の半分未満の破片123個と、果実の破片2個は、コナラ属に同定するにとどめている。ただし、イチイガシ以外の特徴をもつものが検出されない点、イチイガシはコナラ属のなかでは唯一あく抜き不要であるため、他の種類と混在して保管されているとは考えにくい点から、検出された種実は破片も含めすべてイチイガシと思われる。

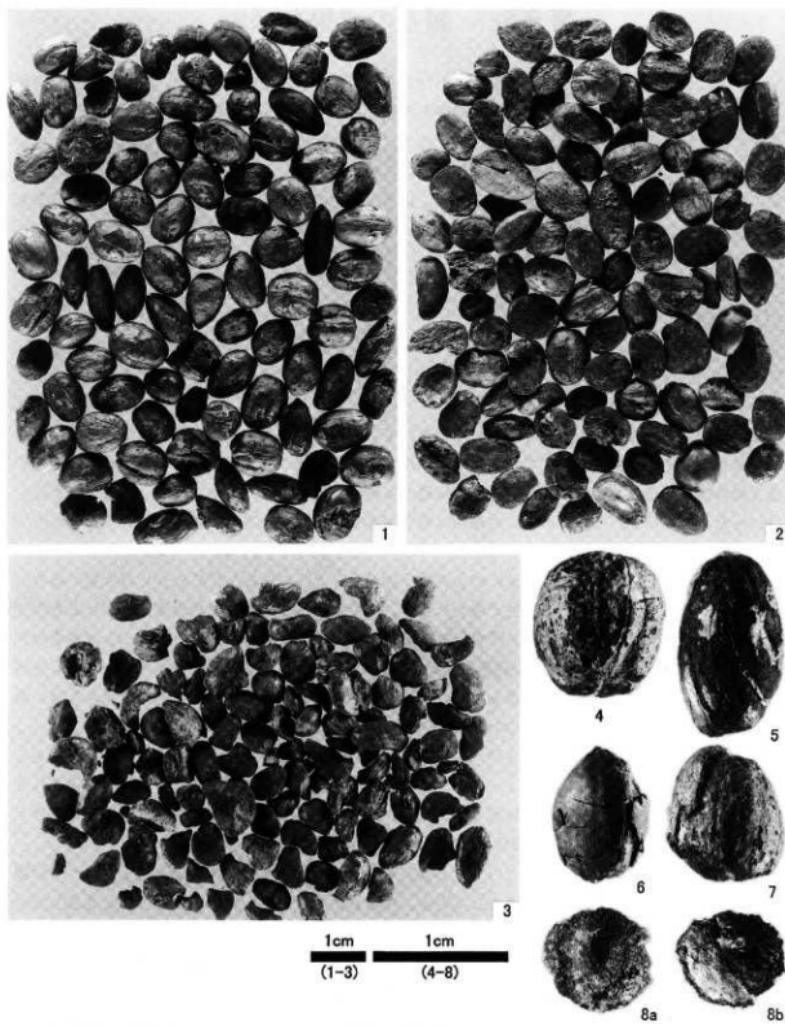
4. 考察

イチイガシは、湿潤、肥沃で深い土壤をもつ内陸平坦地と後傾斜に極柏林として発達する種で、現在は、紀伊半島、四国、九州の山麓地に広く分布する。また、堅果はコナラ属の中でも渋みが少なく、アカ抜きせずに生食可能で収量も多いため、遺跡出土例も多い（渡辺、1975；岡本、1979など）。

今回、多量の炭化子葉が出土したことを考慮すると、当該期の本遺跡周辺の森林からイチイガシの成熟果実を選択的に採取し、植物質食糧として遺構内に貯蔵したことが推定される。そして、何らかの理由で火熱を受け、残存した可能性が考えられる。

引用文献

- 石川茂雄,1994,彩色日本植物種子写真図鑑,石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.
中山至大・井之口希秀・南谷忠志,2000,日本植物種子図鑑,東北大字出版会,642p.
岡本泰治,1979,遺跡から出土するイチイガシ,大阪市立自然史博物館季報,第230号,31-39.
渡辺 誠,1975,绳文時代の植物食,株山閣出版,187p.



- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 1. イチイガシ 子葉(完形) | 2. イチイガシ 子葉(破片) |
| 3. コナラ属 子葉(破片) | 4. イチイガシ 子葉 |
| 5. イチイガシ 子葉 | 6. イチイガシ 果実・子葉 |
| 7. イチイガシ 果実・子葉 | 8. コナラ属 果実(破片・基部着点部分) |

第175図 松山大学構内遺跡 6次調査の種実遺体

第5章 調査の成果と課題

本書では、松山大学構内遺跡6次調査における発掘調査成果の報告を行った。本調査は弥生時代～中世の集落構造の解明を主目的として調査を実施した。その結果、遺構は弥生時代・古代・中世以降の掘立柱建物跡、自然流路、土坑、溝、柱穴、性格不明遺構を検出し、遺物は縄文時代～中世以降の土器、土製品、石製品、鉄製品、青銅製品、錢貨が出土した。また包含層からも弥生時代後期の土器を中心に大量の遺物が出土している。以下、構内での過去の調査（2～5次調査）成果を含めて、時代ごとに本調査の成果と今後の課題を列記し、本書のまとめとする。

1. 各時代の様相

(1) 弥生時代

遺構は自然流路1条、土坑14基、溝2条、柱穴12基、性格不明遺構10基を検出した。本調査地では堅穴式住居址は検出されなかった。それに対して本調査地の西側に位置する3次調査地では、後期後半～末の住居址が8棟（SB1・2・5・8・9・12・15・17）、北側の2次調査地では後期の住居址が4棟（SB2・3・4・7）検出されている。このことから、本調査地が集落地の縁辺部の様相を示すものといえる。また本調査で検出したSR1は、SR1⑥層が堆積した中期後半に調査地西側に出現し、その後SR1①層が堆積する後期後半にかけて徐々に埋没し土地が水平化していくと思われる。そのため、この期間は地形が不安定で調査地東側は居住地としては適していなかったと推定される。

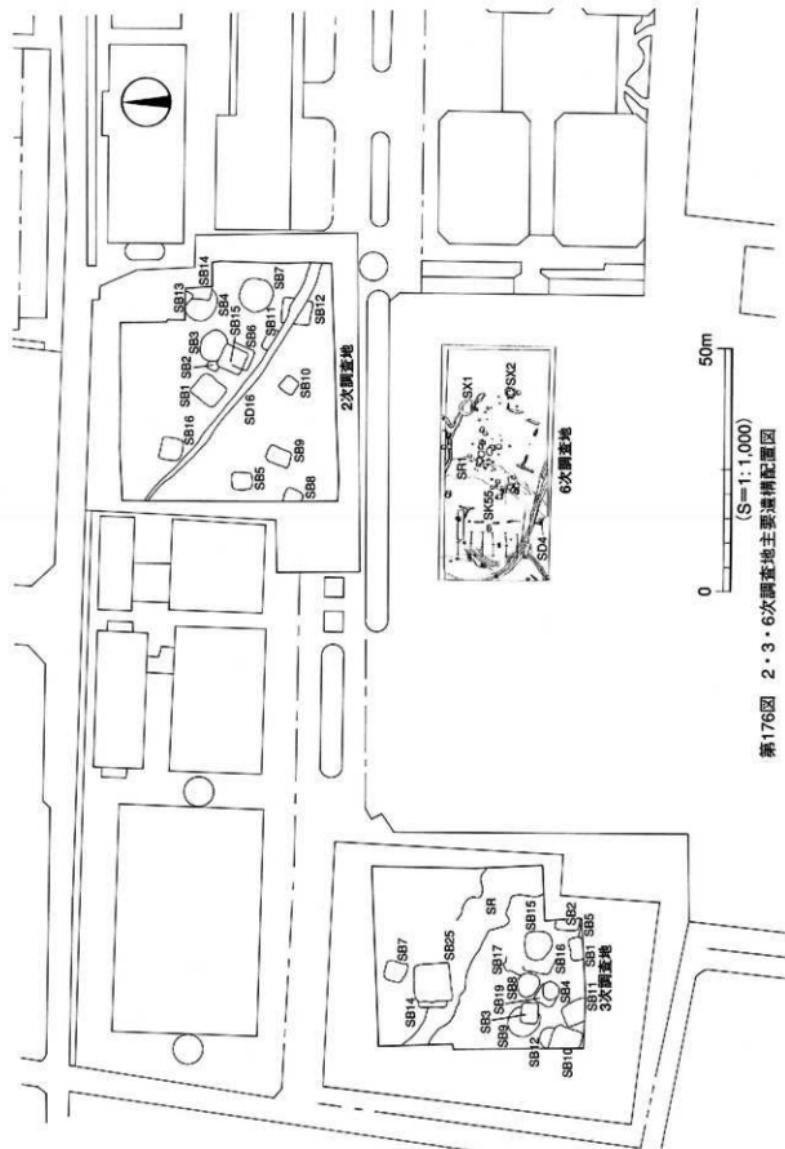
そのほか主な遺構として、土坑SK55と性格不明遺構SX2がある。SK55からは大型の複合口縁壠が出土しており、壠棺の可能性が考えられる。またSX2は円形周溝状遺構と呼ばれるものである。松山大学構内遺跡の東側に位置する文京遺跡でも、2次調査地SX1（円形）、3次調査地SX1（方形）、10次調査地SX14（円形）、以上3基の周溝状遺構が検出されている。いずれも後期前葉に位置づけられるもので、本調査地SX2も同様である。しかし、以上3基とは異なり溝の埋土からは弥生土器片が少量出土したのみであり、性格の解明には至っていない。

遺物では、本調査地SR1で弥生時代中期後半～後期初頭、後期後半～末の遺物が大量に出土している。一方、3次調査地のSR1～3では、弥生時代中期後葉、後期前葉、後期末に比定される遺物が大量に出土しており、遺存状態良好な資料が数多く出土した。それに対して本調査地SR1では完形品資料が少なく、3次調査地とは異なるものである。

また形態や施文・色調・胎土などの点から安芸地方や備後地方などからの搬入品またはその影響を受けたと推定される土器が多数出土している。今後も土器から見た他地域との交流を追求していく必要がある。

そのほか、遺物の出土状況から興味深い知見が得られた。まずSR1①層内では大型の砾石（175）が出土した地点近くで石庖丁や木製品（169～172）が出土している（第27図）。このことは周辺地域で石器製作が行われていたことをうかがわせるものである。さらに第VII層では、ミニチュア土製品（604～606）が近接した地点で出土している（第154図）。このことは周辺で祭祀行為が行われていた可能性を示唆するものである。いずれもSR1西側に位置する地点であり、住居址が西側や北側に分布する点と合致する。

調査の成果と課題



第176図 2・3・6次調査地主要遺跡配置図
(S=1:1,000)

(2) 古代

遺構は掘立柱建物跡1棟、土坑31基、溝1条、柱穴26基を検出した。この時代には、S R 1が埋没して調査地がほぼ平坦な地形をしていたと考えられる。

掘立1は2間×5間の南北棟である。時期は出土遺物より11世紀と考えられる。建物の性格は不明であるが、集落域の一角であった点は間違いない。また掘立1の北西隅の柱穴P 1では炭化種実が322点出土した。樹種同定の結果ブナ科ナラ属イチイガシと同定された。この結果から、採集した種実を柱穴内に埋納したものと推定される。これらを埋納した意味は明確ではないが、祭祀的な意味合いが強いと考えられる。

2・3次調査地で古墳時代～古代の住居址が数多く検出されていることから、居住域は構内西側・北側に集中していることが明らかであったが、本調査では検出することができなかつたため、本調査地までが東限及び南限であると推定される。

また調査地の中央部で見つかった土坑群は、9世紀後半から10世紀前半に時期比定される。その特徴は以下のとおりである。

- ①炭・白灰・焼土が土坑の底で見られるものと、見られないものの2種類が存在する。
- ②2～4基程度の小単位で切り合ったものや隣接するものが多い。
- ③平面形は、隅丸長方形もしくは隅丸方形である。
- ④上師器杯・皿・錢貨が出土している。

特にSK 15からは皇朝十二錢の一つである「富壽神寶」が3点(373～375)出土し、注目される。この土坑の性格については、墓のほか、灰や焼土捨て穴などが考えられるが、性格解明には至っていない。今後の周辺地域での調査の際には留意すべき遺構である。

そのほか注目される遺物では、石帶(丸稱)が第Ⅲ層より下層で1点(631)出土し、さらに1点(712)採集している。本調査地で出土したことは周辺地域に古代の役所や役人の居住施設などが存在した可能性が考えられる。

また貿易陶磁器が7点(掘立1:356、第Ⅲ層:615～620)出土している。5次調査でも2点出土したと報告されており、これらの出土によって当該時期における集落の評価が変わってくることが予測されるものである。これまで集落の存在が希薄な地域であっただけに今後は居住地などの遺構の検出が望まれる。

(3) 中世以降

遺構は土坑18基、溝2条、柱穴51基を検出した。中世以降は、土地の水平化や検出した遺構数などから推測すると、居住地となることなく耕作地として土地利用されていたと考えられる。

2.まとめ

以上、松山大学構内遺跡6次調査における弥生時代・古代・中世以降における集落の動向を考察した。これらの時期の集落分布が明らかになり、多くの知見が得られた反面、古墳時代においては遺構が確認されず遺物もほとんど出土していない点もまた、今後の構内における集落域を推測するうえで重要なポイントとなるであろう。

今後は各時代の道後城北遺跡群内における位置づけ、さらには松山平野全体の中でどのような評価を与えることができるのか、再考していく必要があろう。

写 真 図 版

写 真 図 版 例 言

1、造構は、主な状況については、 4×5 判や 6×7 判の白黒ネガフィルム・カラーリバーサルフィルムで撮影し、 35mm 判で補足している。一部の撮影には高所作業車を使用した。

使用機材：

カメラ	トヨフィールド45A	レンズ	スーパー・アンギュロン90mm他
	アサヒペンタックス67		ペンタックス67 55mm他
	ニコンニューFM2		ズームニッコール28~85mm
フィルム	白 黒 ネオパンSS・アクロス		
	カラー アスティア100F		

2、遺物は、 4×5 判で撮影した。すべて白黒フィルムで撮影しているが、一部はカラーリバーサルフィルムでも撮影している。

使用機材：

カメラ	トヨビューアー45G
レンズ	ジンマーS240mmF5.6他
ストロボ	コメット/CA32・CB2400
スタンド等	トヨ無影撮影台・ウエイトスタンド101
フィルム	白 黒 ネオパンアクロス
	カラー アスティア100F

3、単色図版は、白黒プリントを等倍で使用できるように焼き付けている。

使用機材：

引伸機	ラッキー450MD・90MS
レンズ	エル・ニッコール135mmF5.6A・50mmF2.8N
印画紙	イルフォードマルチグレードIV RCペーパー

4、製 版 写真図版175線

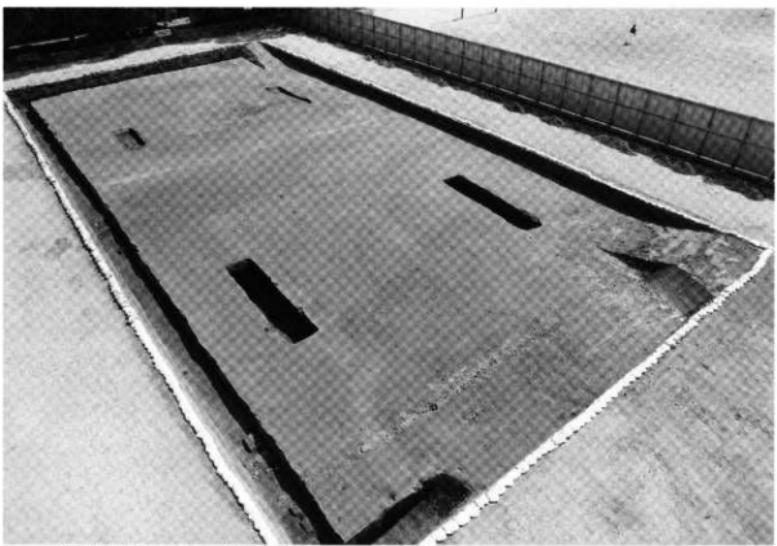
印 刷	オフセット印刷
用 紙	ユトリログロスマット、ニューVマット、MLファイバー、OKミューズコットン
製 本	アジロ綴じ

【参考】『埋文写真研究』vol.1~16 『報告書作成ガイド』

(大西朋子)



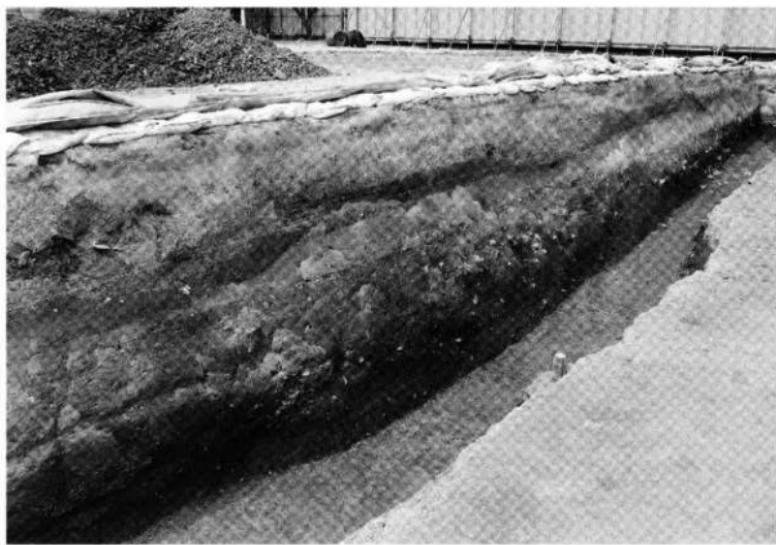
1. 調査地遠景（航空写真・南より）



2. 中世以降遺構検出状況（北西より）



1. 北壁土層（南西より）



2. 西壁土層（南東より）



1. 弥生時代～古代遺構検出状況（西より）



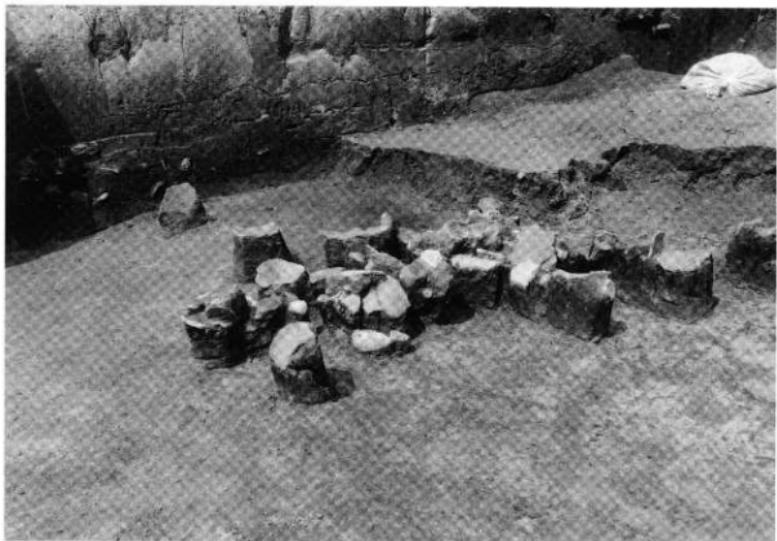
2. SR1完掘状況（北より）



1. SRI遺物出土状況①(南より)



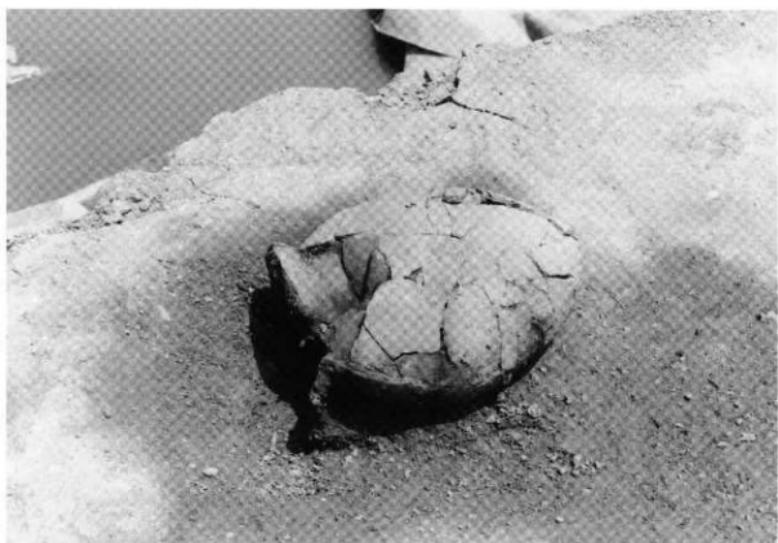
2. SRI遺物出土状況②(北より)



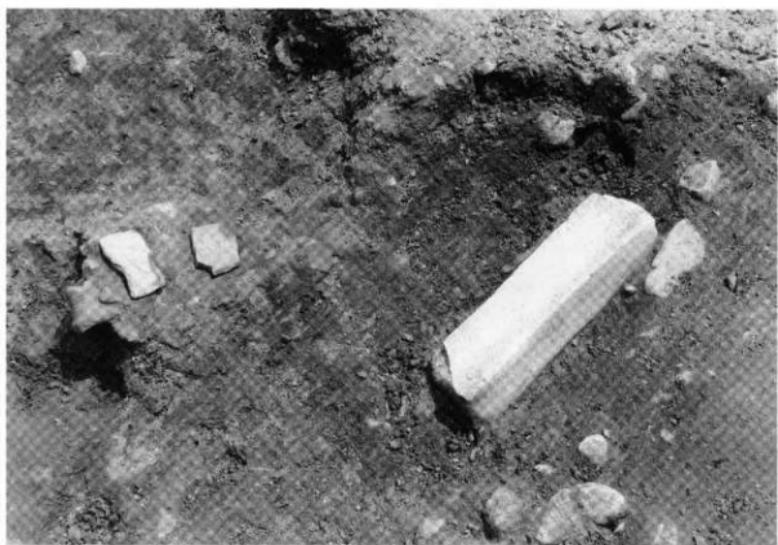
1. SR1遺物出土状況③（南より）



2. SR1絵画土器（27）出土状況（南より）



1. SRI 遺物出土状況①（西より）



2. SRI 遺物出土状況⑤（北東より）



1. SR1 遺物出土状況⑥（北より）



2. SR1 遺物出土状況⑦（北より）



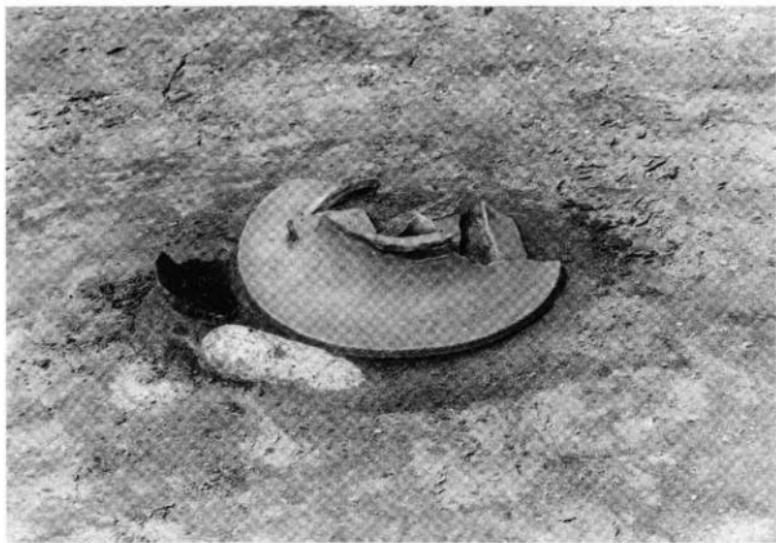
1. SK48 遺物出土状況①（南より）



2. SK48 遺物出土状況②（南より）



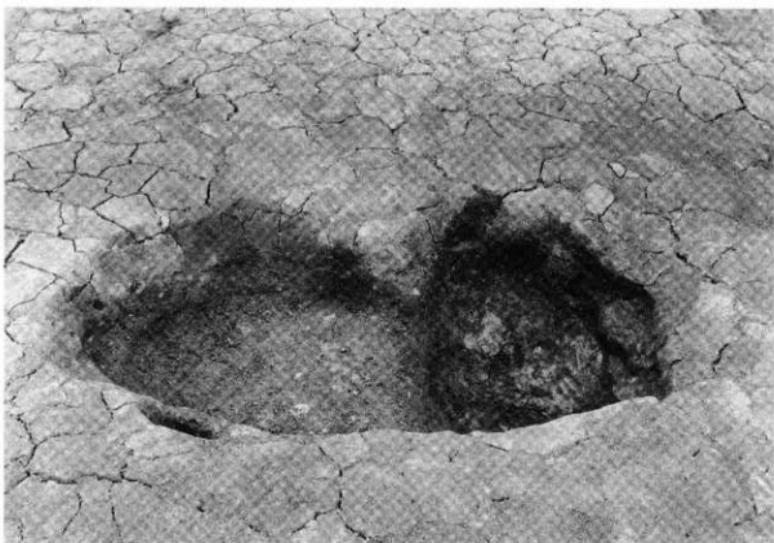
1. SK54遺物出土状況（西より）



2. SK59遺物出土状況（西より）



1. SK55遺物出土状況（北西より）



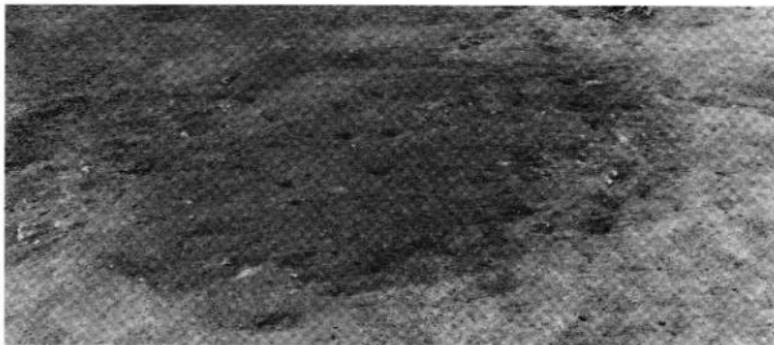
2. SK55完掘状況（南より）



1. SX1・2完掘状況（東より）



2. SX1遺物出土状況（北西より）



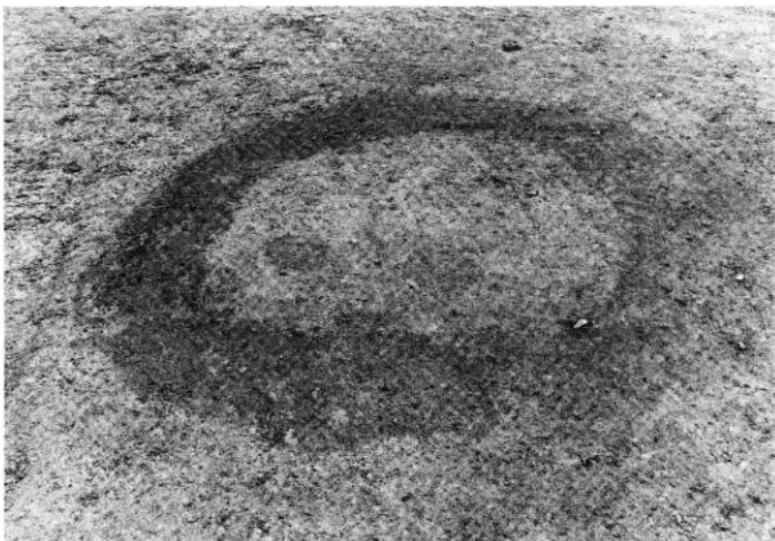
1. SX1検出状況（東より）



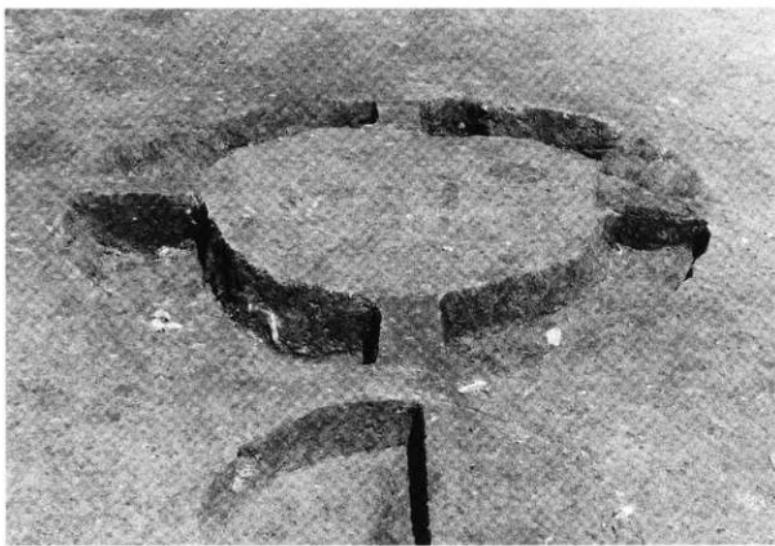
2. SX1土層①（南より）



3. SX1土層②（東より）



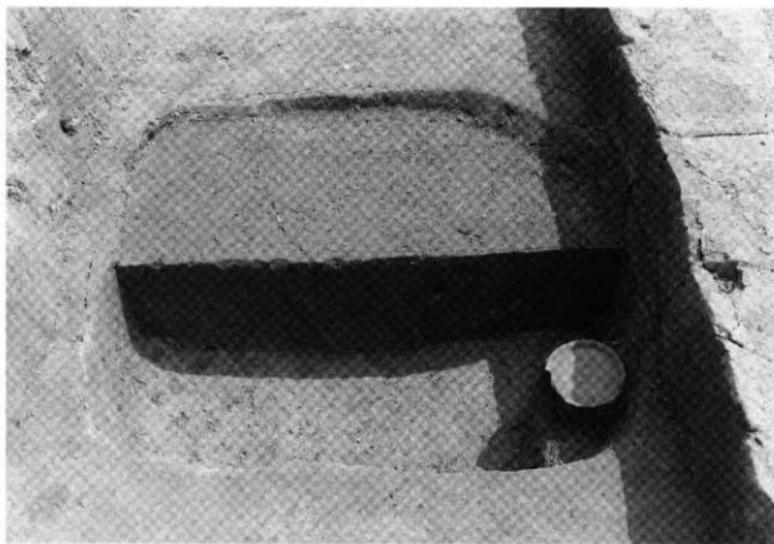
1. SX2検出状況（北より）



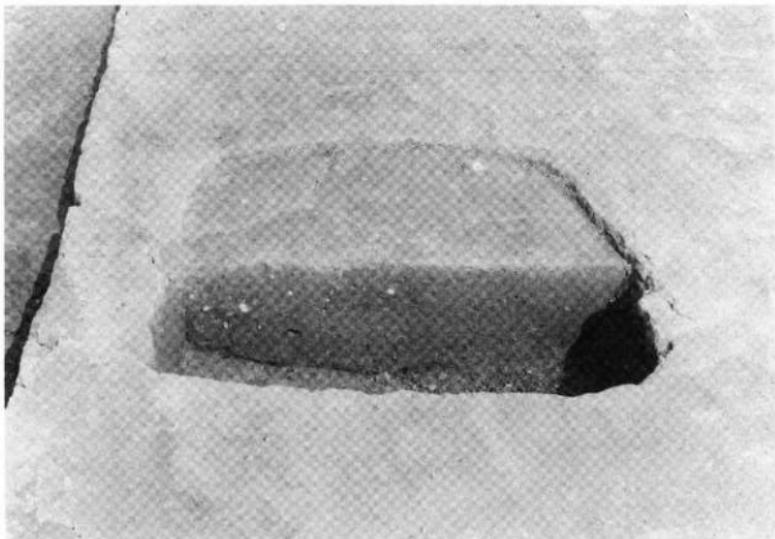
2. SX2完掘状況（南より）



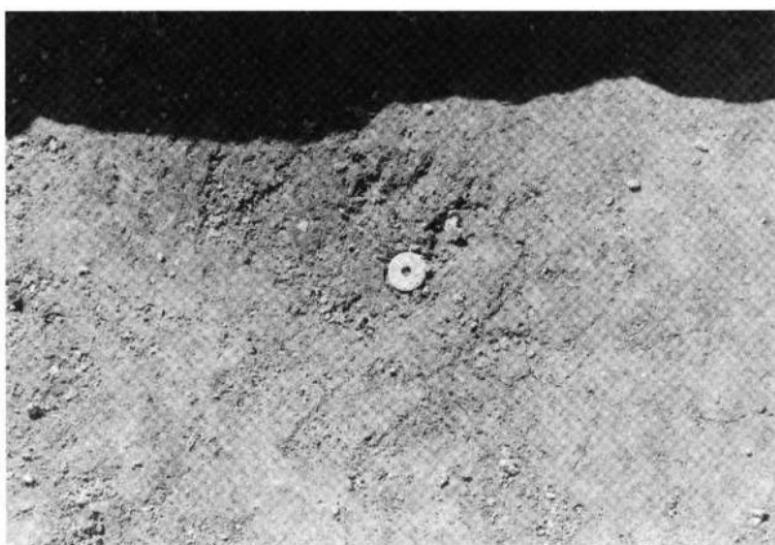
1. 掘立I完掘状況（南より）



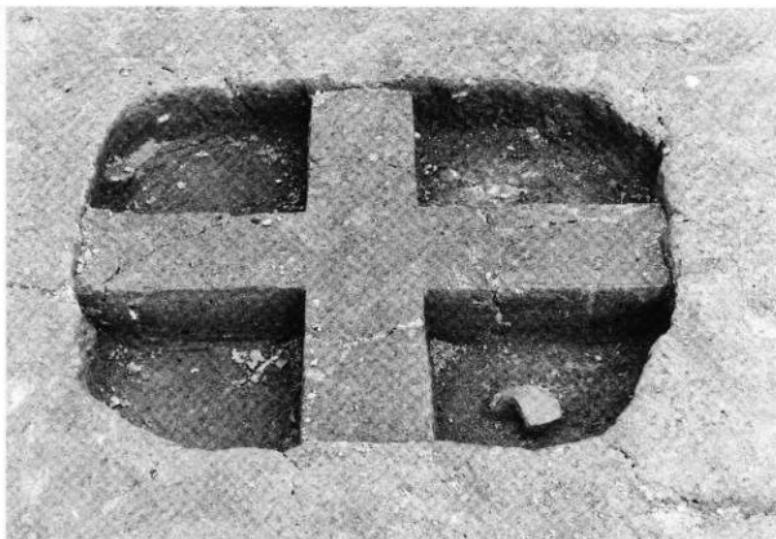
2. SK14土層・遺物出土状況（西より）



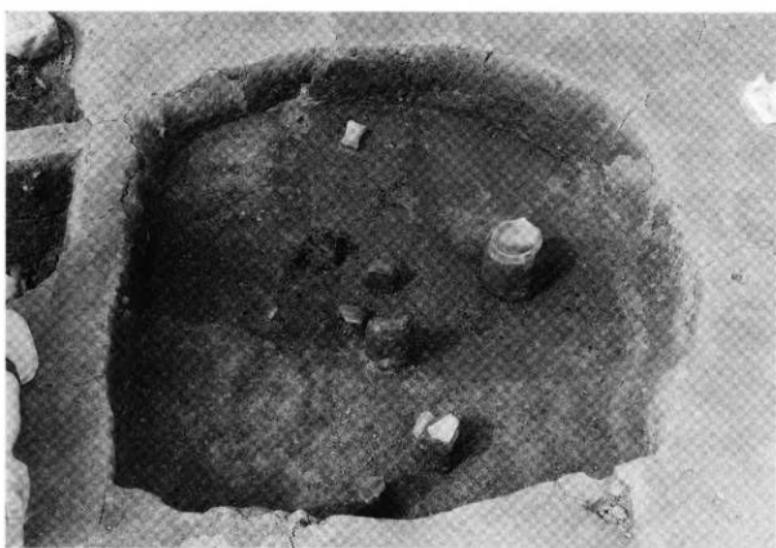
1. SK15土層（西より）



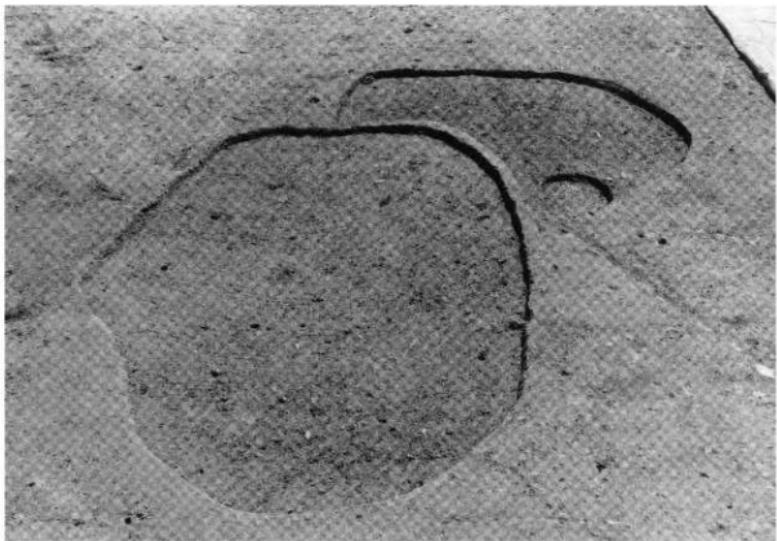
2. SK15遺物出土状況（西より）



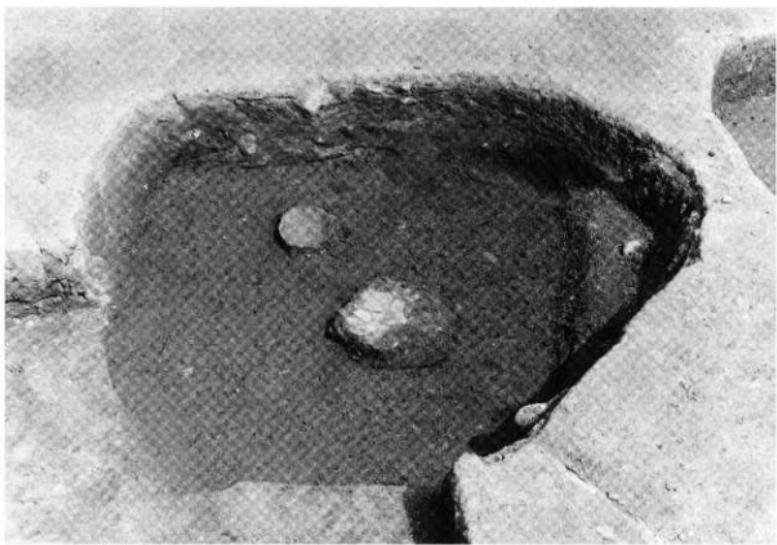
1. SK16検出状況（西より）



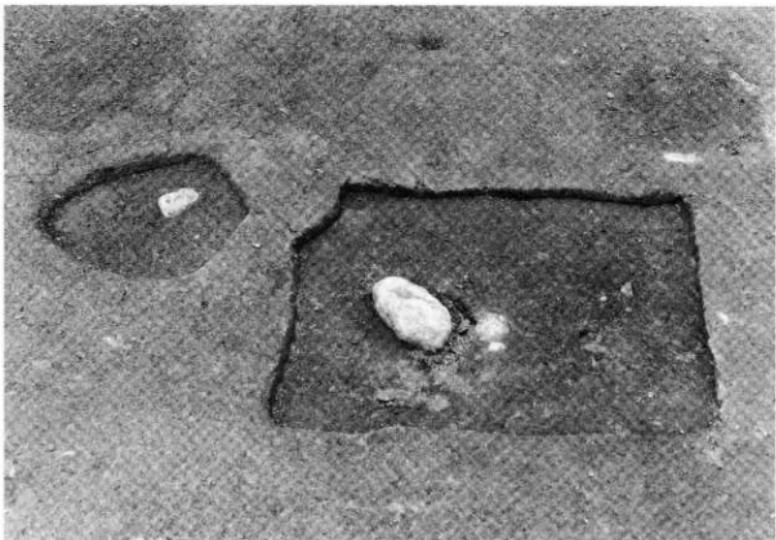
2. SK17遺物出土状況（南より）



1. SK19・20検出状況（西より）



2. SK20遺物出土状況（西より）



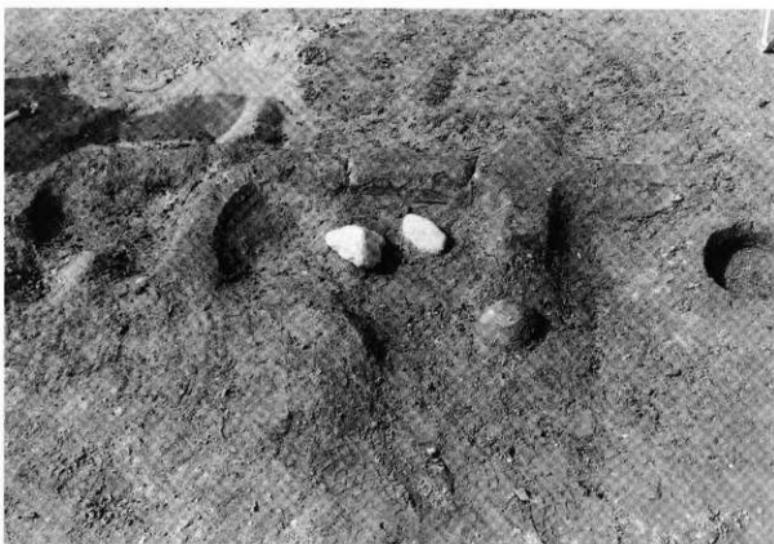
1. SK21検出状況（南より）



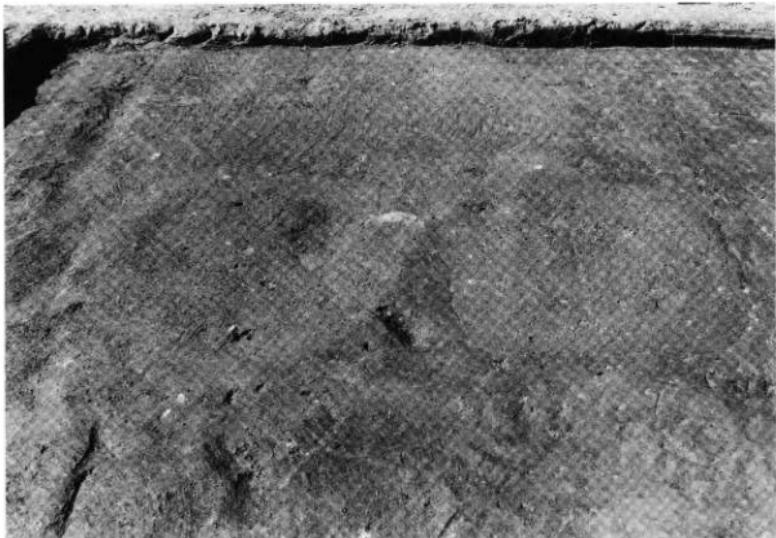
2. SK32・33検出状況（南より）



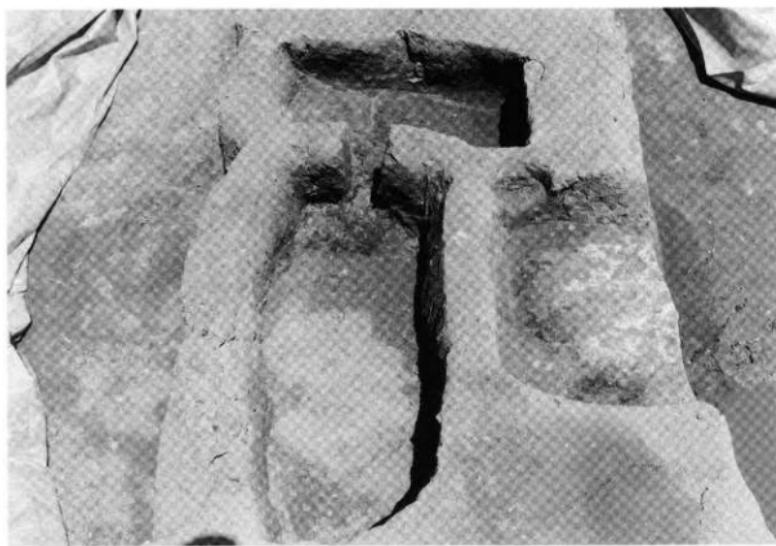
1. SK34・35検出状況（南より）



2. SK34遺物出土状況（南より）



1. SK38・39・43検出状況（南より）



2. SK40・46・47完掘状況（西より）